2024年度版

SYLLABUS

Faculty of Nursing

OMPU

全学年　配当科目

Osaka Medical and Pharmaceutical University

全学年

科目名	ページ
アカデミックスキル	1
情報リテラシー・データサイエンス	3
キャリアマネジメント	5
心理学	7
人間関係論	9
倫理学	11
統計学	13
生物学	15
化学	17
物理学	19
データ処理演習	20
体育Ⅰ	22
体育Ⅱ	24
医工薬連環科学遠隔講座	26
大阪を学ぶ	28
くらしと文学	30
くらしと社会	32
くらしと経済	34
日本国憲法と法律	36
教育学	39
哲学	41
くらしと安全・危機管理	42
異文化論	44
英語Ⅰ（英語を聞く）	46
英語Ⅱ（英語で話す）	48
英語Ⅲ（英語で読む・書く）	50
英語Ⅳ（英語を豊かに）	52
医療英語	53
インタラクティブ・イングリッシュⅠ	56
インタラクティブ・イングリッシュⅡ	58
からだの仕組みと働きⅠ（基礎）	60
からだの仕組みと働きⅡ（発展）	62
感染と免疫	64
からだと栄養	66
こころの仕組みと働き	68
健康科学論	69
病気の成り立ち	71
からだとくすりの働き	74
病気の診断・治療Ⅰ	76
病気の診断・治療Ⅱ	79
リプロダクションと看護	82
セクシュアリティーと看護	85
リハビリテーション医学	87
医学概論	89
多職種連携論1－医療人マインド	91
多職種連携論2－医療と専門職	93
保健医療福祉概論	95
公衆衛生学	97
疫学	100
ヘルスプロモーション論	102
リスクマネジメント	104
看護学概論	105
日常生活援助技術	108
基礎看護学実習Ⅰ	111
フィジカルアセスメント	113
看護展開論	116
治療過程に伴う援助技術	118
基礎看護学実習Ⅱ	120
看護管理	122
看護教育	124

科目名	ページ
成人看護学概論	126
急性期成人看護学援助論	128
急性期成人看護学援助方法	130
急性期成人看護学実習	132
慢性期成人看護学援助論	133
慢性期成人看護学援助方法	135
慢性期成人看護学実習	137
精神看護学概論	138
精神看護学援助論	140
精神看護学援助方法	143
精神看護学実習	145
老年看護学概論	147
老年看護学援助論	149
老年看護学援助方法	151
老年看護学実習Ⅰ	153
老年看護学実習	154
母性看護学概論	155
母性看護学援助論	158
母性看護学援助方法	161
母性看護学実習	164
小児看護学概論	166
小児看護学援助論	168
小児看護学援助方法	170
小児看護学実習	172
地域・在宅看護論	174
地域・在宅ケア実習	176
在宅看護学概論	178
在宅看護学援助論	181
在宅看護学援助方法	184
在宅看護学実習	187
公衆衛生看護学概論	189
公衆衛生看護学活動論Ⅰ	191
看護と生体診断法	193
医療カウンセリング	195
看護実践発展総合演習	197
看護実践発展実習	199
公衆衛生看護学活動論Ⅱ	201
公衆衛生看護学活動方法	203
公衆衛生看護学管理論	205
公衆衛生看護学演習	207
公衆衛生看護学実習Ⅰ	210
公衆衛生看護学実習Ⅱ	212
助産学概論	214
助産診断・技術学Ⅰ	217
助産診断・技術学Ⅱ	220
助産管理	226
助産学実習	228
がん看護学総論	229
家族看護学	231
災害看護論	233
遺伝とカウンセリング	235
多職種連携論3－医療倫理	237
異文化看護入門	238
国際交流演習	240
原著講読	243
看護実践と理論の統合	245
看護研究法（3年生）	249
看護研究法（4年生）	251
卒業演習	252
統合看護学実習	253

三学部合同科目

大阪医科薬科大学では、下記のとおり三学部合同授業を実施しております。

■数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

本学の数理・データサイエンス・AI 教育プログラムは、 「データを正しく評価、活用する基盤となるリテラシーを身に着け、Society5.0 における医療人として必要なデータサイエンスの基礎を修得する」「データサイエンスおよび AI 導入により激動する未来の医療界における自らの在り方を省察し、諸問題を解決する能力涵養」を学修目標としています。本学は、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムの連携校として登録されています。Society5.0 における Sustainable Development Goals: SDGs（持続可能な達成目標）達成のためにデータサイエンス・AI プログラムの実践は必須であり、各学部共に必修科目として導入し、継続的質改善を図りたいと思います。

医学部該当科目

第 1 学年 :「データサイエンス 1」（必修）

第 2 学年 :「データサイエンス 2」（必修）

第 5 学年 :「データサイエンス 3」（必修）

薬学部該当科目

第 1 学年「情報科学」（必修）、「情報科学演習」（必修）

第 2 学年「数理統計学」（必修）

第 3 学年「臨床統計」（必修）

第 4 学年「個別化医療」（必修）

看護学部該当科目

第 1 学年 :「情報リテラシー・データサイエンス」（必修）

第 1 学年 :「統計学」（必修）

※各学部とも入学年度等により各科目の名称や単位の取扱いが異なる場合があります（詳細は各学部のカリキュラムマップ等を参照してください）。

■多職種連携教育

本学では 専 門 職 連 携 教 育 [IPE : Inter Professional Education] の充実に注力しています。 医療人を目指す他学部の学生と合同で学び、 ディスカッションすることで、多様な考え方 に触れ、医療全体を俯瞰できるようになり、 その上で、自身のプロフェッショナリズムを 醸成していくことを大きな目的としています。

該当科目

多職種連携論１―医療人マインド

多職種連携論２―医療と専門職

多職種連携論３―医療倫理

多職種連携論４―医療安全

※学部、入学年度等により各科目の名称や単位の取扱いが異なる場合があります（詳細は各学部のカリキュラムマップ等を参照してください）。

■語学

インタラクティブ・イングリッシュⅠ／Ⅱ

この科目では､少人数のクラスでネイティブスピーカー講師との英語を用いたコミュニケーション をもとに、異文化や多様性を理解することを目的としています｡具体的には､英語を聞くことと話すこと に重点を置き、特に相手と英語で「やりとり（interaction）」 するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指します。また、医・薬・看３学部の学生が同じクラスで受講し、少人数でグループワークを行うことにより、医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識します。

■医工薬連環科学教育研究機構の双方向講義

医工薬連環科学

近年、生命科学分野の各学問領域が拡大し、医学、工学、薬学、看護学の学術交流が、益々、盛んになりつつあります。また、医療現場では、医師、薬剤師、看護師だけでなく、臨床工学技士など新しい資格を持った専門家が活躍の場を広げています。 関西大学と本学は、このような状況に対応すべく、医学、薬学だけでなく看護や福祉に関するテクノロジーにも精通した優れた人材の育成をめざし、両大学がそれぞれの特長を活かし、両大学共通講義科目「医工薬連環科学」を開設しています。独自の 基礎教育科目である本講義は、各学問分野の概略を鳥瞰し、それぞれの分野の特性を理解するとともに、各学問分野の融合によって発展できる学際領域についての知識を修得および醸成することを目的とします。

授業科目	アカデミックスキル	科目ナンバリング	N-10-01-D		
授業科目（英）	Academic skills				
教員名	◎小林道太郎、鈴木久美、大橋尚弘、土井智生、勝山あづさ、土手友太郎、山岡由実、日髙朋美、南口陽子、倉橋理香、堀池諒、杣木佐知子、野瀬珠美				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	大学で学ぶために何が必要かを理解し、そのための基礎的な技法を習得する。またこのことを通じて、自発的に学び考える態度を養う。				
行動目標	1　適切な形式および構成をもったレポートを書くことができる 2　自己学習およびレポート作成に必要な情報収集・整理ができる 3　パラグラフ・ライティングができる 4　生産的なグループディスカッションができる 5　テーマに関して相互に理解を深められるよう活発な発表・質疑応答ができる				
ディプロマポリシーのキーワード	創造力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	グループディスカッション・発表を含む受講態度（30%）および提出物（70%）により評価する。 提出されたアウトライン、レポートはコメントをつけて返却する。発表についてコメントする。				
教科書	佐藤望編著『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門 第3版』慶應義塾大学出版会、2020年				
参考書等	その都度授業内で指示する。				
事前準備 受講要件等	シラバスをよく読んで予習と課題をしっかり行うこと。				
オフィスアワー （曜日／時間）	金曜16-17時（小林）				
SDGsとの関連	4				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	大学で何を学ぶか	大学で学ぶということ、クリティカルに考えること、看護職者に求められること、メールの書き方 予習：教科書第1章・第2章を読んで重要な点をノートにまとめる 復習：授業を振り返ってまとめておく	小林、鈴木
2	論文とレポート	論文・レポートとは何か（感想文との違い）、レポートの構成と形式、レポートを書くステップ 予習：教科書第6章・第8章を読んで重要な点をノートにまとめる 復習：実際にアウトラインを書いて提出する	小林、勝山
3	情報収集	情報収集の方法、情報の整理、引用と出典 予習：教科書第3章・第5章を読んで重要な点をノートにまとめる 復習：レポートを書くための情報を集める	土井
4	文章の要約	文章の構成とパラグラフ・ライティング、要約 予習：教科書第4章を読んで重要な点をノートにまとめる 復習：引き続き情報を集めて整理する、アウトラインを修正する	小林
5	パラグラフ・ライティング	読みやすい文章とは、文章を書く、剽窃の禁止 予習：教科書附録を読み、重要な点をノートにまとめる 復習：レポートを作成する	小林
6	レポートと発表の準備	これまでの復習とレポートのセルフチェック グループディスカッションの目的とポイント、発表準備のポイント 予習：レポートをいったん完成させる、教科書第7章を読んで重要な点をノートにまとめる 復習：レポートを修正して提出する、レポート作成の振り返りを提出する	小林、大橋
7	グループディスカッション	グループに分かれてディスカッション 予習：グループディスカッションの準備をしておく 復習：グループディスカッションの続きと発表準備を行う	全員

8	発表と質疑応答	準備したスライドを用いて発表・質疑応答 予習：発表の準備 復習：発表スライド提出、グループワーク・発表・質疑応答の振り返り提出	全員

授業科目	情報リテラシー・データサイエンス	科目ナンバリング	N-10-02-D		
授業科目（英）	Information Leteracy				
教員名	◎小林道太郎、土手友太郎（医師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 前期～後期	開講曜日			（時間割どおり）
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	本科目では、情報社会の基礎スキルとしてのパソコンとアプリケーションソフトの基本的な操作、およびインターネット等に関わるセキュリティについて学習する。その上で、数理・データサイエンス・AIを日常生活や職場で使いこなすことができる基本的素養を身につけるため、社会の中でのデータ・AIの利活用やその留意事項について教授する。また実際のデータを用いて、データを正しく読むことや扱うことについて学ぶ。 ※本科目は、大阪医科薬科大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム科目に含まれる。				
行動目標	1 パソコンおよび基本的なソフトの利用法を理解し、それらを使うことができる 2 データサイエンスとその周辺領域について概説できる 3 データサイエンスで扱う様々な情報や研究への利用について、個人情報保護を含めた必要な倫理的配慮を身につける 4 AIの概念や利活用の現状、関連する課題について概説できる 5 基礎的なデータ収集・分析を行うことができる 6 データ分析の結果を適切な形で表現し、発表することができる				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究力				
評価並びにフィードバック法	受講態度（20%）、提出物（40%）、発表（40%）で評価する。 フィードバックは、双方向授業の中で行う。				
教科書	1）杉本くみ子・大澤栄子「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2019」実教出版、2019年 2）北川源四郎・竹村彰通 編「教養としてのデータサイエンス」講談社、2021年				
参考書等	授業中随時紹介する				
事前準備 受講要件等	なし。授業の進め方等は初回授業で説明する				
オフィスアワー（曜日／時間）	金曜16:20-17:20（小林）				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	情報検索とファイル操作	情報の検索・入手、授業資料の保存と書き込み、ネット利用時の諸注意 各自のiPadまたは講義室のPCで操作を練習する 予習　教科書1 の p. 4-17 を読み、要点をまとめる 復習　実際にiPad/PCを操作しておく	小林
2	文書作成ソフトの基本操作	Wordの基本操作（iPadまたは講義室のPCを使って練習する） 予習　教科書1 の p. 18-87を読み、操作をイメージしておく 復習　Wordの操作にさらに慣れておく	小林
3	表計算ソフトの基本操作	Excelの基本操作（iPadまたはPCを使って練習する） 予習　教科書1 の p. 88-173を読み、操作をイメージしておく 復習　Excelの操作にさらに慣れておく	小林
4	プレゼンテーションソフトの基本操作	PowerPointの基本操作（iPadまたはPCを使って練習する） ※オンデマンド形式で実施 発表スライド作成とプレゼンテーション実施のポイント 予習　教科書1 の p. 188-231を読み、操作をイメージしておく 復習　PowerPointの操作にさらに慣れておく	小林
5	データサイエンスとは何か	データサイエンスとは、社会で起きている変化、社会で活用されているデータ 予習　教科書2 の 1.1 から 1.3 を読み、興味を持った部分をまとめる 復習　関連する情報を調べてまとめる	小林
6	データ・AI の活用領域	データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用のための技術 予習　教科書2 の 1.4 から 1.6 を読み、興味を持ったところをまとめ	小林

		る 復習　関連情報を調べてまとめる	
7	データ・AI 利用における留意事項	データ・AI 利活用における留意事項、関連法規と倫理 予習　教科書2 の第3章を読み、興味を持った点をまとめる 復習　関連情報を調べてまとめる	小林 土手
8	医療とデータサイエンス・AI	※オンデマンド形式で実施 医療におけるデータサイエンスと AI の利活用と将来 予習　医療における AI 利用について調べてまとめる 復習　関連情報を調べてまとめる	小林
9	データの収集と分析	データの収集・分析の方法 グループワークと発表に関する説明 予習　教科書2 の 2.3 を読み、実際に操作をしてみる 復習　発表に向けたデータ収集の方法を考える	小林
10-12	データ分析と発表準備	グループワーク：データを分析し発表の準備をする 予習　データ収集 復習　グループで発表準備をすすめる	小林 土手
13-15	データ分析の発表	各グループのデータ分析の成果を順に発表する。 予習　発表準備を完成させる 復習　発表と質疑応答を通じて学んだことをまとめる	土手

授業科目	キャリアマネジメント	科目ナンバリング	N-10-03-D		
授業科目（英）	Career　Management				
教員名	◎池西悦子（看護師実務経験者）日髙朋美（看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	キャリアに関する基礎理論と自己理解、自己成長を遂げるためのキャリアマネジメントとその重要性について理解する。また、看護専門職としての成長・発展段階と各段階における課題、キャリア開発のための資源活用を理解し、将来質の高い看護実践を提供するため、看護を学び始めた今からできるキャリアマネジメントについて考察する。				
行動目標	①キャリアに関する基礎理論について説明できる。 ②自己理解、自己成長を遂げるためのキャリアマネジメントとその重要性が説明できる。 ③看護職としての成長・発展段階と各段階における課題が説明できる。 ④看護職のキャリア開発のための資源とその活用について説明できる。 ⑤学生の段階からできるキャリアマネジメントについて考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	自己研鑽力、課題探究力、倫理観				
評価並びにフィードバック法	ミニレポート35%、課題25%、最終レポート40%で評価する。 授業の中でミニレポート、課題についてフィードバックする。				
教科書	なし　資料を配布する				
参考書等	講義中に提示する				
事前準備 受講要件等	予習について：事前にシラバスを確認し、該当箇所を読んでおくこと。				
オフィスアワー （曜日／時間）	木曜16:00-18:00				
SDGsとの関連	3、4、5、8、12				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	キャリアとは	キャリア　キャリアデベロップメント 予習：自分が考える「キャリアとは」をワンセンテンスで記載する。 復習：キャリア、キャリアデベロップメントについてまとめる。	池西
2	ライフサイクルとキャリアマネジメント	ダイバーシティとインクルージョン、ワーク・ライフ・バランス 予習：今のあなたが考える今後の人生設計をシートに記載する。 復習：自分らしい人生の実現に必要なことをまとめる。	池西
3	キャリア発達過程における課題	社会化、トランジッション、プラトー、継承　※オンデマンド形式 予習：上記用語の意味を調べてくる 復習：キャリア発達における課題についてまとめる。	池西
4	看護職のキャリアマネジメント	看護職のキャリア発達と課題、キャリアマネジメントの意義 予習：3章Bを読んでくる。 復習：看護職のキャリアマネジメントについてまとめる。	日髙
5	看護職のキャリアマネジメント	看護職のキャリア発達と生涯学習 ※グループワーク 予習：これまでの授業から看護職のキャリアマネジメントに関する疑問点を挙げてくる。 復習：看護職への質問事項をまとめる。	池西
6	キャリアマネジメントの実際①	看護職のキャリアマネジメントの実際を聞き、質疑応答を行う ※ゲストスピーカーとの質疑応答 予習：キャリアマネジメントに関する質問ができるように準備する。 復習：看護職のキャリアマネジメントについてまとめる。	池西
7	キャリアマネジメントの実際②	質の高い看護実践を提供するためのキャリアマネジメントのあり方 ※グループワーク 予習：前回授業でまとめたことから自分の考えを整理してくる。 復習：グループで話し合った内容を発表できるように整理する。	池西

8	まとめ	質の高い看護実践を提供し続けるためのキャリアマネジメントについて、グループワークの内容を全体で共有する 予習：前回のグループワークの内容を発表できるように準備する。 復習：共有した内容を含めて、最終レポートを作成する。	池西

授業科目	心理学	科目ナンバリング	N-10-04-D		
授業科目（英）	Psychology				
教員名	◎浦田　悠（非常勤講師）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	1. 心理学の基本的な概念、理論、研究方法を理解できる。 2. 心理学の知識に結びつけて自己の心理について考察することができる。 3. 日常生活の中で生じる現象に心理学の観点を適用して考察することができる				
行動目標	1. 心理学の主要な理論の概要と用語の意味を説明できる。 2. 心理学に関する情報を収集・読解し、それに対する自分の意見を文章で表現できる。 3. 心理テストや心理学の模擬実験を実践し、その結果についての考えを述べることができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、倫理観				
評価並びにフィードバック法	①授業への取り組み（50%） ・毎回の授業において、振り返りシートやワークの実施を課題にすることがあります。それらへの取り組み状況を評価します。 ・この授業では、毎回の授業で個人ワークやグループワーク等、「書く」「話す」「発表する」機会があります。これらのワークに積極的に参加することと、授業外学習を含めた計画的な学習が必要となります。 ②試験（50%） ・授業の理解度を確認するための試験と振り返りを行います。				
教科書	系統看護学講座　心理学（デジタル版）　山村豊・高橋一公　（医学書院） ※医学書院eテキスト「系統看護学講座」に収録されています。				
参考書等	・学習の進行に合わせて随時紹介する。 ・参考となる資料（配付資料、参考資料、動画、情報へのリンク等）はUNIPA等で提供します。一部を除き、基本はペーパーレスとしますので、各自で事前にダウンロードや印刷をしておいてください。				
事前準備 受講要件等	・シラバスに記載されている事前学習を行い、講義中に出される次回までの課題を準備した上で、講義にのぞむことが求められます。 ・この授業では、うつやトラウマなど、人によっては、学ぶことや議論することに困難を感じる可能性のある心理学的な概念を取り上げることがあります。そのような概念を取り上げる際には、可能な限り事前に伝えるようにしますが、もし学びに困難を感じることがあれば、まずは教員に相談してください。				
オフィスアワー（曜日／時間）	授業日の15時40分～16時10分				
SDGsとの関連	3、16				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	心理学とは	トピック： ・この授業に関する説明と確認 ・心理学とは何か ・心理学の研究法 予習：教科書第1章をもとに、心理学という学問の方法や目的を理解し、心理学が医療において果たす役割についての自分の考えをまとめる。 復習：授業時に配付するワークシートをもとに学んだ内容を考察する。 授業形態：講義・ICT活用授業（Mentimeter）	浦田　悠
2	感覚と知覚	トピック： ・知覚とは・感覚とは ・感覚のしくみとはたらき ・知覚のしくみとはたらき 予習：教科書第2章をもとに、感覚・知覚の種類や性質についてまとめる。 復習：授業時に配付するワークシートをもとに学んだ内容を考察す	浦田　悠

		る。 授業形態：講義・ディスカッション・ICT活用授業・（Mentimeter）	
3	記憶	トピック： ・記憶のメカニズム ・記憶の種類 ・偽りの記憶 予習：教科書第3章をもとに、記憶のメカニズムや種類についてまとめる。 復習：授業時に配付するワークシートをもとに学んだ内容を考察する。 授業形態：講義・ディスカッション・ICT活用授業・（Mentimeter）	浦田　悠
4	思考・言語・知能	トピック： ・思考のしくみ ・知能とは ・知能検査 予習：教科書第4章をもとに、思考・言語・知能の心理学についてまとめる。 復習：授業時に配付するワークシートをもとに学んだ内容を考察する。 授業形態：講義・ディスカッション・ICT活用授業・（Mentimeter）	浦田　悠
5	学習	トピック： ・学習の定義 ・古典的・オペラント条件づけ ・社会的学習 予習：教科書第5章をもとに、学習の心理学についてまとめる。 復習：授業時に配付するワークシートをもとに学んだ内容を考察する。 授業形態：講義・ディスカッション・ICT活用授業・（Mentimeter）	浦田　悠
6	感情と動機づけ	トピック： ・学習の定義 ・古典的・オペラント条件づけ ・社会的学習 予習：教科書第6章をもとに、学習の心理学についてまとめる。 復習：授業時に配付するワークシートをもとに学んだ内容を考察する。 授業形態：講義・ディスカッション・ICT活用授業・（Mentimeter）	浦田　悠
7	性格とパーソナリティ	トピック： ・性格・パーソナリティの定義 ・類型論と特性論 ・パーソナリティの測定 予習：教科書第7章をもとに、性格とパーソナリティの心理学についてまとめる。 復習：授業時に配付するワークシートをもとに学んだ内容を考察する。 授業形態：講義・ディスカッション・ICT活用授業・（Mentimeter）	浦田　悠
8	振り返り	トピック： リフレクションのためのテスト 予習：これまでの授業で学んだことをまとめる。 復習：リフレクションのためのテストの結果をもとに、学んだ内容を振り返る。 授業形態：講義・テストへの回答	浦田　悠

授業科目	人間関係論	科目ナンバリング	N-10-05-D		
授業科目（英）	Human Relationships				
教員名	◎山岡　由実（看護師実務経験者）、新田 和子（看護師実務経験者）、山内　彩香（看護師実務経験者）、本多　晶子（非常勤講師）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	看護を学ぶ上で重要な観点の一つである人間関係について、様々な角度から理解を深めることができる。				
行動目標	ケアの核となるのは人間関係である。ケアの人間関係とは、 異なる2人の人間が出会い、関係性を築いていくプロセスである。人と人との関係は相互的なもので、互いに影響を与え合って、関係が変化していく。本科目では人間関係の概念を押えた上で、集団の中での人間関係の特徴、対人コミュニケーションに関する基礎知識を学び、更に、対人理解、人間関係のトラブル、人間関係力をつけるための訓練法等の、それぞれのテーマについて検討する。これらを通して人間関係づくりの基本について整理できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	各回講義後のミニレポート(40%)および最終レポート(60%)による。なお、講義を欠席した場合は、ミニレポートは受け付けない。講義時間の中で、レポート課題についての説明を行う。　最終講義時に、レポートについて全体向けにフィードバックを行う。				
教科書	なし				
参考書等	学習の進行に合わせて随時紹介する。				
事前準備 受講要件等	予習をしたうえで講義に臨むこと。授業で適宜ディスカッション、グループワークを行う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜5限				
SDGsとの関連	3,16				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	コミュニケーションのあり方を学ぶ	付き合いを分かち合うのに大切なコミュニケーションに関する基本知識を学ぶとともに、会話における話し方ときき方について検討する。 予習：コミュニケーションについて調べておくこと。 復習：コミュニケーションの仕組みについて、配布資料を用いて整理する。	山岡
2	人を理解することとトラブルの解決法を考える	人の理解がむずかしい理由を知るとともに、さまざまな理解の方法について学ぶ。自分の感情とのつきあい方についても考える。 予習：自分の話し方・聴き方の特徴について、考えておくこと。 復習：よりよい話し方と聴き方について、配布資料を用いて整理する。	新田
3	エゴグラムを通して交流分析を学ぶ	自分自身の自我状態を知るとともに、交流分析の考え方を学ぶ。 予習：エゴグラムと交流分析がどういうものか調べておくこと。 復習：エゴグラムと交流分析について、配布資料を用いて整理する。	新田
4	傾聴の大切さを学ぶ	話を聴くための姿勢と傾聴の技術について学ぶ。 予習：積極的傾聴について、調べておくこと。 復習：積極的傾聴について、配布資料を用いて整理する。	山内
5	自己理解のためのプロセスレコードを学ぶ	プロセスレコードの原理について学ぶとともに、演習形式にて援助場面のロールプレイを行い、再構成法を用いてコミュニケーションの振り返りを行う。 予習：プロセスレコードについて、調べておくこと。 復習：プロセスレコードの記し方、活用の仕方について配布資料を用いて整理する。	山内

6	来談者中心療法を学ぶ	来談者中心療法と臨床場面における実践について学ぶ。 予習：来談者中心療法とは何か、概要を調べておくこと。 復習：来談者中心療法について、配布資料を用いて整理する。	本多
7	エンカウンターグループと学生相談を学ぶ	エンカウンターグループと学生相談の実際を通して、集団・個人を対象としたカウンセリングについて学ぶ。 予習：カウンセリングとはどういうものであるか調べておくこと。 復習：カウンセリングについて、配布資料を用いて整理する。	本多
8	アサーショントレーニングを学ぶ	自分も相手も大切した自己表現であるアサーションの考え方とDESC法（課題解決のためのアサーション）について学ぶ。 予習：アサーショントレーニングについて調べておくこと。 復習：アサーショントレーニングについて、配布資料を用いて整理する。	山岡・新田・山内・本多

授業科目	倫理学	科目ナンバリング	N-10-06-D		
授業科目（英）	Ethics				
教員名	◎小林道太郎				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	医療者には高い倫理性が期待される。また医療倫理や生命倫理の諸問題には、社会的にも大きな関心が寄せられており、医療に関わる者はこれらの諸問題について十分な理解と見識を持つことが求められる。本科目前半では、倫理的問題にアプローチするための方法として倫理学の基本的な考え方を学び、後半では、現代の生命倫理の重要な論点をいくつか取り上げて、関連する法規制等も参照しながら多面的に考えてみる。これらのことを通じて、この先さらに倫理について自分で考えていく力を養う。				
行動目標	1. 倫理学の代表的な諸理論の基本的な考え方を理解し、説明することができる 2. 生命倫理学の重要な諸テーマについて、何が問題であり、どのような議論がなされているか、概要を述べることができる 3. 社会の中で起こるさまざまな倫理的問題に関心を向け、それらについて多面的に考えて意見を述べることができる 4. 生命倫理学の重要な諸テーマについて、議論の現状を踏まえた上で自分の意見を述べることができる 5. 倫理の諸問題について、科目終了後も引き続き関心をもって調べるなど、自分でさらに考え続けていくことができる				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観				
評価並びにフィードバック法	毎回の提出物(50%)と期末レポート(50%)により評価する。 毎回の提出物については次の授業で一部コメントする。				
教科書	宮坂道夫他『系統看護学講座別巻 看護倫理』医学書院、2024年度版（デジタル）				
参考書等	授業中に指示する。				
事前準備 受講要件等	授業前にシラバスを確認する。				
オフィスアワー （曜日／時間）	金曜16:20～17:20				
SDGsとの関連	3, 5, 10, 16				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	倫理的問題へのアプローチ	なぜ倫理について考えることが必要なのか 予習　教科書 p. 2-12 を読んでまとめる 復習　授業で紹介する関連資料を読み、まとめる	小林
2	人間の尊厳と自律	自律と人間の尊厳の考え方 予習　教科書 p. 12-14 を読んでまとめておく 復習　授業で紹介する関連資料を読み、まとめる	小林
3	功利主義と医療	功利主義の考え方とその限界 予習　教科書 p. 14-17 を読んでまとめておく 復習　授業で紹介する関連資料を読み、まとめる	小林
4	ジェンダー論とケア倫理	※オンデマンド形式で実施 ジェンダー論とケア倫理の考え方、ケアすることについて 予習　教科書 p. 106-115 を読んでまとめておく 復習　授業で紹介する関連資料を読み、まとめる	小林
5	四原則とインフォームドコンセント	生命医学倫理の四原則、患者の権利とインフォームドコンセント 予習　教科書 p. 24-40 を読んでまとめておく 復習　授業で紹介する関連資料を読み、まとめる	小林
6	生命の始まり	生殖補助医療、人工妊娠中絶、出生前診断に関する議論 予習　教科書 p. 48-58 を読んでまとめておく 復習　授業で紹介する関連資料を読み、まとめる	小林
7	生命の終わり	※オンデマンド形式で実施 治療停止と安楽死、ACP、施設ケアに関する議論	小林

		予習　教科書 p. 63-72 を読んでまとめておく 復習　授業で紹介する関連資料を読み、まとめる	
8	正義と差別	医療における公正な配分、優生思想と差別 予習　教科書 p. 88-91 を読んでまとめておく 復習　授業で紹介する関連資料を読み、まとめる	小林

授業科目	統計学	科目ナンバリング	N-10-07-D		
授業科目（英）	Statistics				
教員名	◎土手友太郎（医師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	保健医療情報における数理・データサイエンスに関する科目である。特に看護領域における統計学の必要性を認識し、個々のデータの種類と特性、収集および分類の手法、集団における分布の種類と特性を理解する。さらに統計量から母集団の状況を把握し、分析の手法および結果の解釈について習得する。				
行動目標	質的データと量的データの尺度水準、代表値と散布度に関する数値要約およびヒスとフラムや散布図などの図表化などの種類や特徴を列記する。記述統計と推測統計の意味を説明し、目的別に正しく用いる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究力				
評価並びにフィードバック法	評価は受講態度(15%)、同時双方向投票アプリ(respon)を用いた小テスト(85%)による。小テストは授業冒頭と授業中に適宜に実施する。小テストは授業毎に実施し15回分の合計により最終評価とする。また授業の合間に双方向コミュニケーションツールを用いて不定期に質問し、評価に加える場合がある。なお、出席回数が少なく、学習課題の理解が不十分であると推測される場合には、評価を受けることができない。フィードバック法は授業冒頭にて前回のテストの振り返りを適宜行う。				
教科書	下記参考書に基づき関連資料を追加した内容の授業資料を配信します。同参考書が必要と思う場合は各自購入下さい。				
参考書等	基本からわかる看護統計学入門　大木秀一著　（医歯薬出版株式会社）				
事前準備 受講要件等	授業前はシラバスを確認し,予習を30分間行う。授業支援システムおよび双方向コミュニケーションツールを活用した授業を行う。授業支援システムにより小テストを実施する。復習を30分間行う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	水曜日/12：10～13：00				
SDGsとの関連					

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	看護職と統計学	看護職における統計学の必要性を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄｐ4-6に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：統計学とは何かを具体的にまとめる。	土手
2	統計学の歴史と発展	統計学の成り立ちを学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄｐ6-8に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：統計学の発展についてまとめる。	土手
3	基本的な用語とデータ	※オンデマンド形式で実施 統計学で用いる基本的な用語を学ぶ。オンデマンド授業で授業の録音スライドを視聴しながら双方向コミュニケーションアプリ（Respon）を用いてに小テストに回答してもらう。 予習：ﾃｷｽﾄｐ9-10に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：基礎的用語についてまとめる。	土手
4	基本的なデータの種類	ﾃﾞｰﾀの種類の特徴と分類を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄｐ9-11に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：ﾃﾞｰﾀの特徴による分類についてまとめる。	土手
5	質的ﾃﾞｰﾀの分類	※オンデマンド形式で実施 質的変数の尺度水準を学ぶ。オンデマンド授業で授業の録音スライド	土手

		を視聴しながら双方向コミュニケーションアプリ（Respon）を用いてに小テストに回答してもらう。 予習：ﾃｷｽﾄｐ9-13に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：質的変数の尺度水準の意味についてまとめる。	
6	量的ﾃﾞｰﾀの分類	量的データの尺度水準を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄｐ9-14に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：量的データの尺度水準の意味についてまとめる。	土手
7	記述統計と推測統計の区別	記述統計と推測統計の関係と違いを学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄｐ16-23に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：記述統計と推測統計の区別をまとめる。	土手
8	1変数の記述統計	質的変数と量的変数の図表化を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄｐ24-27に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：質的変数と量的変数の図表化の違いについてまとめる。	土手
9	ヒストグラム	※オンデマンド形式で実施 ヒストグラムの作成と意義を学ぶ。オンデマンド授業で授業の録音スライドを視聴しながら双方向コミュニケーションアプリ（Respon）を用いてに小テストに回答してもらう。 予習：ﾃｷｽﾄｐ27-30に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：ヒストグラムの作成の要点と読み方をまとめる。	土手
10	ﾃﾞｰﾀの分布と代表値	分布の特徴と代表値を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄｐ31-36に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：代表値の種類と特徴をまとめる。	土手
11	ﾃﾞｰﾀのばらつきの指標	※オンデマンド形式で実施 散布度の指標の種類と意味を学ぶ。オンデマンド授業で授業の録音スライドを視聴しながら双方向コミュニケーションアプリ（Respon）を用いてに小テストに回答してもらう。 予習：ﾃｷｽﾄｐ36-42に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：散布度の指標の種類と特徴をまとめる。	土手
12	標準偏差および分布の形状	標準偏差および分布に関する統計学的指標を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄｐ40-52に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：標準偏差などの指標が示す意味をまとめる。	土手
13	質的2変数の関係	質的2変数の扱い方と関連を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄｐ53-63に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：クロス集計表の関連指標をまとめる。	土手
14	量的2変数の関係	量的2変数の扱い方と関連を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄｐ64-73に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：散布図の読み方をまとめる。	土手
15	まとめ	※オンデマンド形式で実施 これまでの出席や学習状況を総合的に考慮し、補講が必要と思われる学生に対しｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞで課題を与える。 予習：ﾃｷｽﾄｐ73に記載してある基礎的用語について再度調べる。 復習：理解の不十分な授業項目についてまとめる。	土手

授業科目	生物学	科目ナンバリング	N-11-01-D		
授業科目（英）	Biology				
教員名	◎橋口　康之（兼担）、岩渕　功誠（兼担）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	１．生物学の基礎的な概念と知識を体系的に身に付けることができる。 ２．生物学を学ぶ面白さ、楽しさを知り、生物に関心を持つことができる。 ３．生物・医療分野に関する話題について、生物学の知識を元に理解できる。				
行動目標	１．生物の階層性および細胞について説明できる。 ２．原核生物・真核生物・ウイルスの特徴を説明できる。 ３．動物細胞と植物細胞の構造と機能を説明できる。 ４．DNAの複製・修復および遺伝子の転写・翻訳を説明できる。 ５．遺伝の法則について説明できる。 ６．生物の多様性および進化について説明できる。 ７．細胞増殖の機構および動物の発生と分化について概説できる。 ８．細胞内でATPが作られる過程を概説できる。 ９．植物の光合成について概説できる。 １０．新型コロナウイルスの特徴とその検出方法（PCR法、抗原抗体法）を説明できる。 １１．iPS細胞とその再生医療への利用について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力 自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	評価：受講態度３０％、筆記試験７０％で評価する。 フィードバック：講義中に演習問題を解き、MOODLEでの提出を求める。講義内容に対する質問を対面及びオンラインで受け付ける。次回の講義の最初に演習問題の解答の確認、および質問に対する説明を行う。				
教科書	系統看護学講座　基礎分野「生物学」高畑雅一他著、医学書院（デジタル） また、適宜資料を配布する。				
参考書等	１．カラー図解　アメリカ版　新・大学生物学の教科書（ブルーバックス） 第１巻　細胞生物学、第２巻　分子遺伝学、第３巻　分子生物学　D・サダヴァ他著　講談社 ２．カラー図解　アメリカ版　大学生物学の教科書　（ブルーバックス） 第４巻　進化生物学、第５巻　生態学　D・サダヴァ他著　講談社				
事前準備 受講要件等	授業前にはシラバスを確認する。 入学前までに生物学を学んでいないなど、生物学に関する基礎知識の不足を自覚している学生は受講すること。				
オフィスアワー（曜日／時間）	月曜日16：30−17：30 講義終了後の休み時間に声をかけてもらうか、もしくは橋口（内線2970）、岩渕（内線2963）に連絡し、時間と場所の約束をすること。				
SDGsとの関連	3), 14), 15)				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	生物の階層性、細胞のしくみとはたらき	細胞、細胞小器官、顕微鏡、分解能、組織、器官、器官系、個体、個体群、生態系、原核生物、真核生物 予習：生物の階層性および細胞について調べる。教科書P.8-P.22（第1章A, B）に目を通しておく。 復習：配布資料を見直して、演習問題に全て答える。	橋口
2	遺伝子のしくみとはたらき	DNA複製、DNA修復 予習：DNAの複製について調べる。教科書P.88-95（第4章B,C）に目を通しておく。 復習：配布資料を見直して、演習問題に全て答える。	橋口
3	遺伝の法則	転写、翻訳、遺伝の法則 予習：転写、翻訳、メンデルの法則について調べる。教科書P.76-81, P.95-108（第４章A, D, Eの一部）に目を通しておく。 複数：配布資料を見直して、演習問題に全て答える。	橋口
4	生物の多様性と進化	量的形質の遺伝、生物の多様性、遺伝的多様性、生態系、進化とは何か、系統樹、人類の進化	橋口

		予習：量的形質、ダーウィンの進化論、ネアンデルタール人について調べる。教科書P.267-276、P.276-282（第8章D, E）に目を通しておく。 復習：配布資料を見直して、演習問題に全て答える。	
5	細胞増殖、動物の発生と分化	染色体、細胞周期、体細胞分裂、間期とM期（分裂期）、配偶子形成、減数分裂、受精、卵割、胚葉分化、誘導、オーガナイザー 予習： 細胞周期の間期とM期とは何かを調べる。減数分裂と体細胞分裂の違い、カエルの発生の過程を調べる。教科書 p.60-67、 p.136-157に目を通しておく。 復習：配布資料を見直して、演習問題に全て答える。	岩渕
6	細胞がエネルギ−を得るしくみ	代謝、酵素、異化、同化、ATP、NADH、解糖系、発酵、ミトコンドリア、クエン酸回路、電子伝達系、ATP合成酵素 予習：ATPとは何かを調べる。教科書 p.38-46、p.50-58に目を通しておく。 復習：配布資料を見直して、演習問題に全て答える。	岩渕
7	細胞がエネルギーを得るしくみ２	光合成、葉緑体 予習：光合成について調べる。教科書 p.46-50に目を通しておく。 復習：配布資料を見直して、演習問題に全て答える。	岩渕
8	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、iPS細胞	SARS-CoV-2、PCR、抗原抗体反応、突然変異、iPS細胞、幹細胞、リプログラミング、再生医療 予習： 新型コロナウイルス感染症とiPS細胞について調べる。教科書 p.33-36、 p.112-113、 p.118-121、 p.186-190に目を通しておく。 復習：配布資料を見直して、演習問題に全て答える。	岩渕

授業科目	化学	科目ナンバリング	N-11-02-D		
授業科目（英）	Chemistry of Life Science				
教員名	◎矢野貴人（兼担）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	身体の仕組みと働き、代謝、薬物の働きなどを理解するために必要な、さまざまな化学物質の諸性質に関する知識・理解を深め、説明できるようになることを目的とする。				
行動目標	本科目では、化学の基本的な事項について、高校化学のレベルから看護学学習の前提として必要なレベルまでを習得することを目標とする。 1. 原子と分子について説明できる。 2. 溶液の濃度計算ができる。 3. pHと酸塩基平衡について説明できる。 4. 有機化合物と官能基の性質について説明できる。 5. 水分子の性質と物質の親水性・疎水性について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	受講態度(20%)、筆記試験(80%)による。 試験の終了後に解説を行う。				
教科書	特に指定しない。				
参考書等	高校で使用した教科書、参考書等。				
事前準備 受講要件等	参考書等の当該箇所を読んでおく。				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜日12:00～13:00				
SDGsとの関連	3, 6, 13				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	元素・原子と化学結合	元素の周期律、原子のモデル、電子殻、イオンとイオン結合、共有結合 予習：元素と原子、イオン、分子について調べる。 復習：原子の電子配置図と元素の性質の関連、原子の電子配置図とイオンの関係、共有結合を説明する。	矢野
2	原子量・分子量と物質量(モル)	物質のモル数、溶液のモル濃度、浸透圧 予習：モルと分子量について調べる。 復習：モル濃度を用いて浸透圧を説明する。	矢野
3	化学反応、酸と塩基	化学変化の表し方、水素イオン濃度とpH、中和 予習：化学反応式、酸と塩基について調べる。 復習：簡単な有機化合物の燃焼の反応式を書き、量的な変化について説明する。また、pHと中和について説明する。	矢野
4	化学反応と熱、化学平衡	吸熱反応、発熱反応、可逆反応、酸解離平衡と緩衝作用 予習：吸熱反応と発熱反応、酢酸の解離、可逆反応と化学平衡について調べる。 復習：化学反応について、反応の前後と反応熱、途中経過と反応速度の関係を説明する。また、平衡の移動をもとに、血液の緩衝作用とpHの調節を説明する。	矢野
5	有機化合物	炭化水素、アルコール、アルデヒド、カルボン酸、芳香族化合物 予習：有機化合物、アルコール、カルボン酸について調べる。 復習：代表的な有機化合物、官能基について名称と化学的性質を説明する。	矢野
6	親水性と疎水性	水分子、分子間相互作用、ミセル 予習：水分子と水素結合について調べる。 復習：親水性と疎水性、界面活性剤、生体膜について説明する。	矢野
7	分子模型	有機化合物の分子模型を組み立てる 予習：炭素原子の結合手（単結合、二重結合）、グルコースについて	矢野

		調べる。 復習：ヘキサン、シクロヘキサン、ベンゼン分子のかたちを説明する。	
8	溶液の濃度計算	濃度の単位、濃度や希釈倍率の計算 予習：モルとモル濃度について調べる。 復習：さまざまな溶液の濃度を計算する。	矢野

授業科目	物理学	科目ナンバリング	N-11-03-D		
授業科目（英）	Physics				
教員名	◎吉田秀司（兼担）、牧泰史（兼担）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	自然現象および医療・看護に関係する物理学の基礎知識と考え方を説明することができる。				
行動目標	物理学は自然科学の主要な基盤の一つであり、その成果は医療・看護の現場にも数多く取り入れられている。従って、様々な医療機器を正しく使用するためには単に機器の使用法を習熟するにとどまらず、その基礎となっている物理学の基本的知識が必要である。本講義では、物理学が構築されてきた歴史を知るとともに、自然現象や機器の動作原理を理解するために物理学の基礎的な諸概念を習得し、科学的な思考ができるようになることを目標とする。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探求心、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	受講態度(50%)とレポート(50%)を評価する。 各講義後に疑問点などを「受講記録」に記入して提出し、次回講義時にコメントを返す。				
教科書	随時印刷資料を配付する。				
参考書等	随時紹介する。				
事前準備 受講要件等	各講義の初めに、不思議に思っている自然現象や、前回の講義を思い返して疑問に思ったことを尋ねるので、考えておくこと。				
オフィスアワー （曜日／時間）	総合研究棟11階物理学研究室に常駐 (後期の木曜日、金曜日の午後は医学部物理学実習のため夕方まで不在)				
SDGsとの関連	「７，１３」				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	重さと質量	質量・重さ・重力・重心 予習：質量や万有引力などが関係して私達が感じる力について調べる。 復習：講義を思い返して疑問に思うことを挙げておく。	牧
2	運動の法則	速度・加速度・力・力学的エネルギー 予習：力の働きと物体や身体の運動の様子について調べる。 復習：講義を思い返して疑問に思うことを挙げておく。	牧
3	力のモーメント	力のモーメント・てこ・滑車 予習：てこ、滑車などの運動の様子と身体の構造や動きについて調べる。 復習：講義を思い返して疑問に思うことを挙げておく。	牧
4	様々な力	摩擦力・浮力・圧力 予習：摩擦力や圧力が関係する自然現象や機器について調べる。 復習：講義を思い返して疑問に思うことを挙げておく。	牧
5	波動	音波などの波について 予習：音波などの波が関係する自然現象や機器について調べる。 復習：講義を思い返して疑問に思うことを挙げておく。	吉田
6	光学	電磁波の波長と特徴について 予習：電波や光などの電磁波が関係する自然現象や機器について調べる。 復習：講義を思い返して疑問に思うことを挙げておく。	吉田
7	電磁気	電気・磁気・感電・発電・モーターなどについて 予習：電気や磁気などが関係する自然現象や機器について調べる。 復習：講義を思い返して疑問に思うことを挙げておく。	吉田
8	原子・放射線	原子の構成成分や放射線の種類などについて 予習：放射線が関係する自然現象や機器について調べる。 復習：全ての講義を思い返して疑問に思うことがあれば質問に来る。 (オフィスアワー参照)	吉田

授業科目	データ処理演習	科目ナンバリング	N-11-04-D		
授業科目（英）	Computer Data Processing				
教員名	◎小野　淳（非常勤講師）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	本科目では，コンピュータを用いたデータ処理の実践演習を行う。「データ」とは単なる数値や現象といった事実の集積であり、これが一定の基準にもとづき整理・分類された「情報」に変換されてはじめて、理解可能な意味をもつものになる。ここでの「データ処理」とは、データをコンピュータに取り込み、抽出・数値化・比較等あらゆる種類の加工・解析をほどこし、その結果を正しく読み取り、より効果的に提示（作表・作図）するまでの過程について理解する。また，データ処理に伴う統計処理の概念について理解する。				
行動目標	統計学の知識を深め、一般的なデータ処理に必要な汎用性の高いソフトウェアに習熟し、看護学習・研究に利用することができるようになることを目標とする。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究力、専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	受講態度40%　課題60% 課題は原則，次の授業時に採点して返却し，解説を行う。				
教科書	（特に指定しない）				
参考書等	大木秀一著「基本からわかる 看護統計学入門 第2版」　医歯薬出版株式会社				
事前準備 受講要件等	「情報リテラシー・データサイエンス」と「統計学」を受講していることが望ましい。				
オフィスアワー（曜日／時間）	授業前後				
SDGsとの関連					

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	統計学の基礎的事項の理解１	授業のオリエンテーション（授業内容，評価等） 基本統計量について、保健師国家試験の問題を参考に理解を深める。 予習：統計とはどのようなものか調べる。 復習：統計学についてまとめる。看護に向いている調査を調べる。	小野
2	データ処理の基本	実際のデータを利用して、個人の演習活動を行う。Excel関数を利用した基本統計量の算出する。 予習：Excelの基本操作・関数について、振り返り説明できるようにする。 復習：授業で取り扱った各種データを使い，基本統計量を算出する。	小野
3	統計学の基礎的事項の理解２	保健師国家試験の問題を参考に、正規分布、相関、回帰について理解を深める。 予習：高校数学による、相関・回帰について振り返り、説明できるようにする。 復習：正規分布，相関，回帰についてまとめる。	小野
4	実際のデータを利用して統計処理１	データを使用して、Excelを使い個々で演習を行う。データ入力、ワークシートの計算 予習：Excelの基本機能を振り返る。データ分析ツールについて確認する。 復習：授業で行った練習問題の残部分について演習を行う。	小野
5	統計学の基礎的事項の理解３	統計的仮説検定，帰無仮説について、保健師国家試験問題を参考に理解を深める。 予習：検定・帰無仮説とはどのようなものか調べ、説明できるようにする。 復習：仮説を立て，統計的仮説検定を行う計画を立てる。 （帰無仮説の設定など）	小野

6	検定について１	保健師国家試験問題を参考に、ｔ検定，有意差，有意水準等について理解を深める。 予習：ｔ検定の流れについて調べる。3種類ほど区別ができるようにする。 復習：ｔ検定とは何かまとめる。	小野
7	検定について２	保健師国家試験問題を参考に、ｔ検定，対応のあるデータ，対応のないデータについて理解を深める。 予習：検定の際，対応のあるデータ，対応のないデータについて調べ、理解する。 復習：対応のある・対応のないデータについて例をあげてまとめる。	小野
8	検定について３	実際のデータを参考に、分散分析について理解を深める。一要因，二要因についてExcelを使った個人ワークを行う。 予習：分散分析、多重比較について理解する。 復習：ｔ検定と分散分析の違いについてまとめる。	小野
9	検定について４	実際のデータを用いて、分散分析，対応のあるデータ，繰り返しのあるデータ（ないデータ）について個人ワークを行う。 予習：統計処理するデータについて，一要因・二要因，繰り返しのある・ないの違いについて調べ、理解する。 復習：対応のある・ないデータ，繰り返しのある・ないデータについて違いを比較しまとめる。	小野
10	実際のデータを利用して統計処理２	データをもとに，ｔ検定や分散分析等のデータ処理方法を検討する。Excelを使って、個人での演習活動となる。 予習：授業で配布するｔ検定，分散分析の違いについて調べる。 復習：授業の際に扱った練習問題の残りについて取り組む。	小野
11	データ解析より表の作成・分析手法	研究内容に関するアンケートの作成 ピボットテーブル等を使ったデータの集計やデータ入力について検討する。 予習：看護に関する簡単なアンケート項目を検討しておく。 復習：授業の際に扱った練習問題の残りについて取り組む。	小野
12	検定について５	集計されたデータを基に、個人の演習活動として、分割表，カイ２乗検定を行う。 予習：カイ2乗検定について調べ、説明できるようにする。ｔ検定・分散分析との違いを理解する。 復習：分割表，カイ2乗検定・フィッシャー検定についてまとめる。	小野
13	アンケート集計・分析	※オンデマンド形式で実施 分布，検定，相関，回帰に関するデータ処理の手法について，過去の例から学ぶ 予習：保健師国家試験の３年分の過去問を見て，統計的手法についての問題を解く。 復習：保健師国家試験の過去10年分の過去問を見て，統計的手法についての問題を解き理解する。	小野
14	まとめ，小テスト	今までの授業を振り返り，実データを活用して総合課題を行う。 また，最後に知識が定着しているか小テストを行う。 予習：総務省統計局，SSDSE（教育用標準データセット），NDBオープンデータ等のオープンデータより，分析対象となるデータを探す。 復習：授業中利用したデータをもとに統計処理を行い，その中で得られた知見についてまとめる。	小野
15	課題の返却，振り返り	課題の返却を行い，間違いに対する指導を行う。 また，小テストについて解説を行い理解の定着を図る。 予習：小テスト内容について，教科書・プリント等から確認を行う。 復習：小テストの解説を元に，間違い・不明部分をまとめてレポートする。	小野

授業科目	体育Ⅰ	科目ナンバリング	N-11-05-D		
授業科目（英）	Sports and Health Science Ⅰ				
教員名	◎山口　寛基（非常勤講師）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	日常的な身体活動についての理解を深め、楽しく安全に運動・スポーツができる企画能力とグループで協力し企画を実践していく能力を養うと共に、日常生活での健康・体力について自己管理能力を養うことができる。				
行動目標	自身の身体を正しく理解し、健康・安全を確保して運動・スポーツプログラムを実践的に学ぶ。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探求力、専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	受講態度 50%、企画・運営（実習）30%、課題 20%として判定する。 課題に関しては授業において説明する。 授業内活動に対するフィードバックは、集計プラットフォームを用いて個人ごとに行う。また、グループ活動に対する評価では、個人へのフィードバックに加え、グループに対しても適宜行う。				
教科書	実習中に資料を配布する。				
参考書等	なし				
事前準備 受講要件等	運動・スポーツのできる服装で参加のこと（普段着を除く） 本授業では、授業内で企画型グループワークを実施します。 企画運営を担当する際は、グループ内で企画内容について十分検討し、事前（1週間前）に企画内容について担当教員と打ち合わせをすること。				
オフィスアワー（曜日／時間）	授業時間の前後にて対応いたします。				
SDGsとの関連	3, 4, 5, 10				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	オリエンテーション	実習のオリエンテーション（企画型グループワークについて） 予習：体験したいスポーツ・運動を考えておく。 復習：企画するスポーツ・運動をグループで検討する。	山口
2	スポーツ活動の実施	コミュニケーションをとりながらスポーツ活動を行う。 予習：実施するスポーツのルールを調べる。 復習：スポーツ活動を実施して得られた感覚・感想をまとめる。	山口
3	運動における種目特性の理解	運動の種目特性を理解し、運動プログラムを企画・運営する。 予習：経験のある運動種目について種目特性を調べる。 復習：運動の種目特性について説明する。	山口
4	運動プログラムにおける安全管理	運動プログラムを実施する上での安全管理について理解を深める。 予習：運動を実施する際の安全管理について調べる。 復習：運動プログラムの企画に必要な安全管理について説明する。	山口
5	ゴール型プログラムの種目特性と実践	ゴール型プログラムについて実践を通して理解を深める。 予習：事前にゴール型種目について調べ、ルールを理解しておく。 復習：ゴール型プログラムの種目特性について説明する。	山口
6	ゴール型プログラムの立案と運営	ゴール型プログラムの企画・運営を通じて実践力を養う。 予習：種目特性と安全管理について、グループで十分に検討する。 復習：ゴール型プログラムの特性とよりよい運営方法について考える。	山口
7	ネット型プログラムの種目特性と実践	ネット型プログラムについて実践を通して理解を深める。 予習：事前にネット型種目について調べ、ルールを理解しておく。 復習：ネット型プログラムの種目特性について説明する。	山口
8	ネット型プログラムの立案と運営	ネット型プログラムの企画・運営を通じて実践力を養う。 予習：種目特性と安全管理について、グループで十分に検討する。 復習：ネット型プログラムの特性とよりよい運営方法について考える。	山口
9	ベースボール型プログラムの種目特性と実践	※オンデマンド形式で実施 ベースボール型プログラムについて実践を通して理解を深める。	山口

		予習：事前にベースボール型種目について調べ、ルールを理解しておく。 復習：ベースボール型プログラムの種目特性について説明する。	
10	ベースボール型プログラム立案と運営	※オンデマンド形式で実施 ベースボール型プログラムの企画・運営を通じて実践力を養う。 予習：種目特性と安全管理について、グループで十分に検討する。 復習：ベースボール型プログラムの種目特性とよりよい運営方法について考える。	山口
11	ニュースポーツの実践	※オンデマンド形式で実施 ニュースポーツの理解を深めるとともに、実践力を養う。 予習：ニュースポーツについて調べ、種目について理解する 復習：ニュースポーツの定義について説明する。	山口
12	ニュースポーツのプログラム立案と運営	アダプテッドスポーツの理解を深めるとともに、実践力を養う。 予習：アダプテッドスポーツの始まりや種目などについて調べる。 復習：アダプテッドスポーツの定義について説明する。	山口
13	アダプテッドスポーツの実践	※オンデマンド形式で実施 企画した運動プログラムを実践・企画評価-11 予習：楽しく安全に運動・スポーツが実践できるようグループで十分検討する。 復習：企画（プログラム）内容の評価とコメントからよりよい企画を考える。	山口
14	アダプテッドスポーツのプログラム立案と運営	アダプテッドスポーツの立案と運営を通して、実践力を養う。 予習：アダプテッドスポーツを運営する上で必要な準備について、グループで相談する。 復習：アダプテッドスポーツの発展について考える。	山口
15	まとめ	運動・スポーツプログラムについて考える 予習：それぞれのプログラム企画内容と評価を振り返り、良い点・改善点を考えておく。 復習：運動・スポーツの良い企画について整理し、スポーツ・運動の楽しみ方、安全に実施するための方策について説明できるようにする。	山口

授業科目	体育Ⅱ	科目ナンバリング	N-11-06-D		
授業科目（英）	Sports and Health Science Ⅱ				
教員名	◎山口　寛基（非常勤講師）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	身体活動についての理解を深め、楽しく安全に運動・スポーツができる企画能力とグループで協力し企画を実践していく能力を養うと共に、日常生活での健康・体力について自己管理能力を養うことができる。また、講義を通して健康・体力を維持するためのトレーニング科学・スポーツ医学的な基礎的理論の理解を深めることができる。				
行動目標	健康・安全を確保する運動・スポーツプログラムを実践できる能力を養うとともに、健康・体力の維持増進に寄与するトレーニング科学やスポーツ医学の基礎的知見についての学びを深める。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探求力、専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	受講態度 50%、企画・運営（実習）30%、課題 20%として判定する。 課題に関しては授業において説明する。 授業内活動に対するフィードバックは、集計プラットフォームを用いて個人ごとに行う。また、グループ活動に対する評価では、個人フィードバックに加え、グループに対しても適宜行う。				
教科書	実習中に資料を配布する。				
参考書等	なし				
事前準備 受講要件等	運動・スポーツのできる服装で参加のこと（普段着を除く） 本授業では、授業内で企画型グループワークを実施します。 企画運営を担当する際は、グループ内で企画内容について十分検討し、事前（1週間前）に企画内容について担当教員と打ち合わせをすること。				
オフィスアワー（曜日／時間）	授業時間の前後にて対応いたします。				
SDGsとの関連	3, 4, 5, 10				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	オリエンテーション	実習のオリエンテーション（運動企画について） 予習：体験したいスポーツ・運動を考えておく。 復習：企画するスポーツ・運動をグループで検討する。	山口
2	スポーツ活動の実施	コミュニケーションをとりながらスポーツ活動を行う。 予習：実施するスポーツのルールを調べる。 復習：スポーツ活動を実施して得られた感覚・感想をまとめる。	山口
3	体力特性の評価とその意義	実際に自身の体力特性を評価し、体力特性を評価する意義と運動プログラムへの応用について理解を深める。 予習：体力特性とその評価方法について調べる。 復習：体力特性とその評価方法について説明する。	山口
4	運動プログラムにおける安全管理	運動プログラムを実施する上での安全管理について理解を深める。 予習：運動を実施する際の安全管理について調べる。 復習：運動プログラムの企画に必要な安全管理について説明する。	山口
5	ゴール型プログラムの種目特性と実践	ゴール型プログラムについて実践を通して理解を深める。 予習：事前にゴール型種目について調べ、ルールを理解しておく。 復習：ゴール型プログラムの種目特性について説明する。	山口
6	ゴール型プログラムの立案と運営	ゴール型プログラムの企画・運営を通じて実践力を養う。 予習：種目特性と安全管理について、グループで十分に検討する。 復習：ゴール型プログラムの特性とよりよい運営方法について考える。	山口
7	ネット型プログラムの種目特性と実践	※オンデマンド形式で実施 ネット型プログラムについて実践を通して理解を深める。 予習：事前にネット型種目について調べ、ルールを理解しておく。 復習：ネット型プログラムの種目特性について説明する。	山口
8	ネット型プログラムの立案と運営	※オンデマンド形式で実施 ネット型プログラムの企画・運営を通じて実践力を養う。	山口

		予習：種目特性と安全管理について、グループで十分に検討する。 復習：ネット型プログラムの特性とよりよい運営方法について考える。	
9	ベースボール型プログラムの種目特性と実践	ベースボール型プログラムについて実践を通して理解を深める。 予習：事前にベースボール型種目について調べ、ルールを理解しておく。 復習：ベースボール型プログラムの種目特性について説明する。	山口
10	ベースボール型プログラム立案と運営	ベースボール型プログラムの企画・運営を通じて実践力を養う。 予習：種目特性と安全管理について、グループで十分に検討する。 復習：ベースボール型プログラムの種目特性とよりよい運営方法について考える。	山口
11	ニュースポーツの実践	ニュースポーツの理解を深めるとともに、実践力を養う。 予習：ニュースポーツについて調べ、種目について理解する 復習：ニュースポーツの定義について説明する。	山口
12	アダプテッドスポーツの実践	アダプテッドスポーツの理解を深めるとともに、実践力を養う。 予習：アダプテッドスポーツの始まりや種目などについて調べる。 復習：アダプテッドスポーツの定義について説明する。	山口
13	講義：健康とは？運動・身体活動の意義	健康についての基礎的な知識や課題について学ぶとともに、その解決策を検討する。 予習：健康と運動・身体活動について調べる。 復習：健康に寄与する運動処方、健康・体力に関する基礎的知識を説明できるようにまとめる。	山口
14	講義：運動・スポーツ科学とは？ヒトの運動をはかる意義と効果	運動・スポーツを科学する意義とその効果について学ぶ。 予習：自身の体力特性の評価を振り返り、ヒトの運動をはかる意義について考える。 復習：運動・スポーツを科学する意義とその効果について説明できるようにまとめる。	山口
15	まとめ	運動処方と継続方法について考える 予習：これまでの学習内容（実践・企画・講義）を振り返り、適切な運動処方とその継続方法について議論するための準備をする。 復習：学習内容をもとに、幅広い年齢層や身体的特徴を持つ方への運動処方と運動・スポーツを継続するための方策について考える。	山口

授業科目	医工薬連環科学遠隔講座	科目ナンバリング	N-11-07-D		
授業科目（英）	Medical,Pharmaceutical and Engineering Sciences				
教員名	関西大学担当教員：倉田純一、山本健、池田勝彦、福永健治、住吉孝明、平野義明 医学部担当教員：中野隆史、梶本宜永、森龍彦 看護学部担当教員：久保田正和、二宮早苗、堀池諒 薬学部担当教員：◎永井純也、芝野真喜雄、宮本勝城、田和正志、内山博雅				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1~4
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	医療を医学・工学・薬学・看護学のそれぞれの立場から理解するために、これらの学問分野の融合によって発展しうる新しい学際領域に関する基本的知識を修得します。				
行動目標	医療人として看護学のみならず、医学、薬学および工学の分野をも理解できる幅広い社会性を身に付けることができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	レポート（80%）と受講態度（20%）によって総合的に評価します。 レポートに評価者の感想を記載し、課題に対するフィードバックを行います。				
教科書	特に指定しない				
参考書等	「医工薬連環科学が果たす役割と可能性　高槻家の成長に寄り添う医療」関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学　三大学医工薬連環科学教育研究機構　編著、ライフサイエンス出版 ※購入不要です。				
事前準備 受講要件等	授業前は必ずシラバスを確認しておくこと。※4月29日（月）と7月15日（水）はオンデマンド授業 各大学の講義担当者を中心に作成された資料集とパワーポイントを用いて、遠隔講義またはDVDによる講義で行います。今後の講義の参考にするため、毎回アンケートを実施します。				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜日16:00～17:30(他、随時メールにて時間予約して下さい)				
SDGsとの関連	3，4，8，9，11，12，17				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1 4/8	医工薬連環科学」の概要と学習目標・生きる意欲を支える「生活支援機器」	医工薬連環科学分野の必要性を理解し、「分子から社会までの人間理解」が示す学習目標について、医工薬のそれぞれの分野において説明できる。QOL改善の目的に使用される生活支援機器と、従来の工業製品の設計指針の違いを説明できる。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	倉田純一（関西大学）））
2 4/15	人間の仕様書と病気	20万年前にホモ・サピエンスが誕生し、石器時代に適応する形で人間は進化してきた。多くの現代病は、石器時代の人間の仕様書とは異なる生活を送ることで発症する。このことを知ることで、予防医学や疾患のメカニズムについて深く理解する。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	梶本宜永（医学部）
3 4/22	現代社会と睡眠障害	私達の人生の1/3の時間は寝ている。これまで睡眠はあまり重要ではなく，人生の無駄な時間と考えられた時代もあった。しかし医学の進歩により，睡眠は脳の発達や健康維持に不可欠なものであることが明らかになった。現代社会では，時間に追われる生活やスマートフォンの出現などにより，ますます睡眠不足の人が増えている。本項では，自分，家族や患者さんのために，睡眠と医学，薬学，工学との関わりについて考えてみよう。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	梶本宜永（医学部）
4 4/29	非侵襲を目指す「超音波技術」	※オンデマンド形式で実施 超音波の基礎的性質から診断装置や治療機器等の医療機器の原理を紹介する。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	山本健（関西大学）

5 5/13	健やかな毎日をサポートするために	生活習慣病、慢性腎臓病など、患者さんや家族が遭遇する可能性のある病気を題材として、その状況において医学・看護学からだけでなく、工学、薬学の立場から出来るサポートについても考えてみましょう。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	森龍彦（医学部）
6 5/20	生活の質を高める医療・看護と看取り	患者、家族が遭遇する病気や様々な困難を題材として、特に老年期をテーマに医学・看護学の立場から考察する。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	久保田正和（看護学部）
7 5/27	医薬品シードの探索	構造―活性相関の考え方と前臨床試験、臨床試験について説明できる。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	芝野真喜雄（薬学部）
8 6/3	ゲノム創薬	遺伝子を標的とするテーラーメード医薬品の開発について説明できる。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	宮本勝城（薬学部）
9 6/10	薬の効き方、効く仕組み 薬理学入門	幾つかの治療薬を例にあげ、「薬の効き方、効く仕組み」について説明できる。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	田和正志（薬学部）
10 6/17	製剤技術（１）	製剤から医薬品がどのように吸収され、分布されると同時に薬理効果・治療効果を発揮し、さらに代謝を経て、排泄されるか説明できる。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	永井純也（薬学部）
11 6/24	製剤技術（２）	種々の剤形（錠剤、散剤、顆粒剤、丸剤、カプセル剤、軟膏剤、注射剤、点眼剤、液剤など）からDDSまでを説明できる。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	内山博雅（薬学部）
12 7/1	金属系バイオマテリアル	医療に用いられる金属材料（鉄系、コバルト-クロム系、チタン系など）の特性と使用例について紹介する。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	池田勝彦（関西大学）
13 7/8	健康食品の実態と利用	本講義では、健康食品、保健機能食品について正確に理解することを目標とし、利用の現状を踏まえ、制度、問題点などを解説する。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	福永健治（関西大学）
14 7/15	創薬バイオテクノロジー	※オンデマンド形式で実施 微生物代謝産物由来の天然物医薬品、遺伝子組換え技術や細胞培養技術によるバイオ医薬品、新薬の芽となるリード化合物探索の為の創薬ターゲットの発見やそれに作用する化合物の探索など創薬に関わるバイオテクノロジーの役割について解説する。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	住吉孝明（関西大学）
15 7/22	高分子を用いたバイオマテリアル	身の回りの高分子（ゴム・プラスチック・繊維）がバイオマテリアルとして多数利用されている。高分子を用いたバイオマテリアルの構造と機能について概説する。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	平野義明（関西大学）

授業科目	医工薬連環科学遠隔講座	科目ナンバリング	N-11-07-D		
授業科目（英）	Medical,Pharmaceutical and Engineering Sciences				
教員名	関西大学担当教員：倉田純一、山本健、池田勝彦、福永健治、住吉孝明、平野義明 医学部担当教員：中野隆史、梶本宜永、森龍彦 看護学部担当教員：久保田正和、二宮早苗、堀池諒 薬学部担当教員：◎永井純也、芝野真喜雄、宮本勝城、田和正志、内山博雅				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1~4
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	医療を医学・工学・薬学・看護学のそれぞれの立場から理解するために、これらの学問分野の融合によって発展しうる新しい学際領域に関する基本的知識を修得します。				
行動目標	医療人として看護学のみならず、医学、薬学および工学の分野をも理解できる幅広い社会性を身に付けることができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	レポート（80%）と受講態度（20%）によって総合的に評価します。 レポートに評価者の感想を記載し、課題に対するフィードバックを行います。				
教科書	「医工薬連環科学が果たす役割と可能性　高槻家の成長に寄り添う医療」関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学　三大学医工薬連環科学教育研究機構　編著、ライフサイエンス出版				
参考書等	特に指定しない				
事前準備 受講要件等	授業前は必ずシラバスを確認しておくこと。※5月23日（月）と7月24日（水）はオンデマンド授業 各大学の講義担当者を中心に作成された資料集とパワーポイントを用いて、遠隔講義またはDVDによる講義で行います。今後の講義の参考にするため、毎回アンケートを実施します。				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜日16:00～17:30(他、随時メールにて時間予約して下さい)				
SDGsとの関連	3，4，8，9，11，12，17				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1 4/8	医工薬連環科学」の概要と学習目標・生きる意欲を支える「生活支援機器」	医工薬連環科学分野の必要性を理解し、「分子から社会までの人間理解」が示す学習目標について、医工薬のそれぞれの分野において説明できる。QOL改善の目的に使用される生活支援機器と、従来の工業製品の設計指針の違いを説明できる。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	倉田純一（関西大学））
2 4/15	人間の仕様書と病気	20万年前にホモ・サピエンスが誕生し、石器時代に適応する形で人間は進化してきた。多くの現代病は、石器時代の人間の仕様書とは異なる生活を送ることで発症する。このことを知ることで、予防医学や疾患のメカニズムについて深く理解する。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	梶本宜永（医学部）
3 4/22	現代社会と睡眠障害	私達の人生の1/3の時間は寝ている。これまで睡眠はあまり重要ではなく，人生の無駄な時間と考えられた時代もあった。しかし医学の進歩により，睡眠は脳の発達や健康維持に不可欠なものであることが明らかになった。現代社会では，時間に追われる生活やスマートフォンの出現などにより，ますます睡眠不足の人が増えている。本項では，自分，家族や患者さんのために，睡眠と医学，薬学，工学との関わりについて考えてみよう。 予習；教科書の該当箇所を下読みしておくこと(1時間)・復習；授業をふり返り、ノートにまとめておくこと(1時間)	梶本宜永（医学部）
4 4/29	非侵襲を目指す「超音波技術」	※オンデマンド形式で実施 超音波の基礎的性質から診断装置や治療機器等の医療機器の原理を紹介する。	山本健（関西大学）

授業科目	大阪を学ぶ	科目ナンバリング	N-12-01-D		
授業科目（英）	Learning Osaka				
教員名	◎土手　友太郎				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	地元である大阪についての様々な社会現象を数理・データサイエンスの観点から捉え、諸般の事象における特性をディープ・アクティブラーニングする。				
行動目標	大阪に関連する文化、芸術、演芸、歴史、経済などの社会現象について興味ある視点から調査できる。それらの事柄を系統的に整理し理解できる。得られた知見をわかりやすく簡略に発表できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究力				
評価並びにフィードバック法	評価は受講態度(15%)、同時双方向投票アプリ(respon)を用いた発表課題と小テスト(85%)とよる。また授業の合間に双方向コミュニケーションツールを用いて不定期に質問し、評価に加える場合がある。なお、出席回数が少なく、学習課題の理解が不十分であると推測される場合には、評価を受けることができない。フィードバック法は授業冒頭にて前回のテストの振り返りを適宜行う。				
教科書	なし				
参考書等	学習の進行に合わせて随時紹介する。				
事前準備 受講要件等	授業前はシラバスを確認し,予習をしておく。授業支援システムおよび双方向コミュニケーションツールを活用した授業を行う。授業支援システムにより小テストを実施する。間違えら問題について復習しておく。				
オフィスアワー（曜日／時間）	後期火曜日昼休み				
SDGsとの関連					

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	学生の出身地について	各自の出身地について発表し内容に関するクイズをパワーポイントで作成する。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：各自の出身地の特徴について調べる。 復習：他の受講者の発表内容をまとめる。	土手
2	大阪の歴史について	大阪の歴史的変遷や現状について発表する。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：歴史的な事項などを調べておく。 復習：講義の内容をまとめる。	土手
3	大阪の文化について	大阪の文化について発表する。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：大阪の文化の特徴について調べておく。 復習：講義の内容をまとめる。	土手
4	各自の出身地および大阪の歴史と文化について再確認	オンデマンド形式で実施、1～３回の発表録画を参照しながら、各自が作成した問題について回答する。 予習：1～３回において発表された内容を再確認する。 復習：不正解の回答について再確認する。	土手
5	大阪の名所について	大阪の名所について発表する。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：大阪の産業や経済について調べておく。 復習：講義の内容をまとめる。	土手
6	大阪の産業や経済について	大阪の産業や経済について発表する。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テス	土手

		トを授業毎に実施する。ついて調べておく。 復習：講義の内容をまとめる。	
7	大阪の未来について	大阪の未来について発表する。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：保健、医療および福祉の分野の活動状況について調べる。 復習：講義の内容をまとめる。	土手
8	大阪の名所、経済と産業および未来について再確認	オンデマンド形式で実施、5～7回の発表録画を参照しながら、各自が作成した問題について回答する。 予習：1～３回において発表された内容を再確認する。 復習：不正解の回答について再確認する。	土手

授業科目	くらしと文学	科目ナンバリング	N-12-02-D		
授業科目（英）	Life and Literature				
教員名	◎鈴木穂波（非常勤講師）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	海外の絵本、日本の絵本の歴史を概観した後、その社会的背景や作家の生き方等を鑑みながら、１冊の絵本を読み解いていく。また、乳幼児の心身の発達と絵本の関わりや、子どもから大人まで絵本を読み合うことの意義について解説し、受講生とともに考察する。				
行動目標	毎回絵本をプロジェクターでスクリーンに映して読み、その絵本の分析、作家や時代背景、読者の反応などついて講義する。受講生は、講義の最後に振り返りレポートに取り組む。多様な絵本に触れ、考察する力をつけることを目標とする。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究力				
評価並びにフィードバック法	毎回の小レポートと受講態度60%、最終レポート40%。				
教科書	適宜レジュメを配布するので、購入する必要はない。				
参考書等	『絵本をよむこと―絵本学入門』（香曽我部秀幸・鈴木穂波編著、翰林書房）				
事前準備 受講要件等	地域の図書館や書店でどのような絵本があるかを知り、興味をもったものを手にしてみる。また、絵本と人とを結ぶ活動がどのように行われているかに注目しておく。				
オフィスアワー（曜日／時間）	月曜4限授業時の前後				
SDGsとの関連	4,5,11,16				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	イントロダクション	絵本について学ぶとはどのようなことかを考える。 予習：地域の図書館や書店の絵本コーナーで興味のある絵本を手にしておく。 復習：子どもの頃好きだった絵本を思い出したり、周りの人に聞いてみたりする。	鈴木
2	海外の絵本の歴史	※オンデマンド形式で実施 海外の絵本の歴史について、理解を深める。 予習：絵本から生まれたキャラクターにどのようなものがあるか探す。 復習：紹介した絵本の中から、興味を持ったものを見つけて読んだり調べたりする。	鈴木
3	海外翻訳絵本と絵本作家⑴	ビアトリクス・ポター『ピーターラビットのおはなし』について、その作者を中心に学び、海外翻訳絵本への理解を深める。 予習：ビアトリクス・ポターについての配布資料を読んで、注目したい点をチェックする。 復習：ビアトリクス・ポターについての配布資料の年表と、今回学んだことを照らし合わせて整理する。	鈴木
4	海外翻訳絵本と絵本作家⑵	ビアトリクス・ポター『ピーターラビットのおはなし』について、その作品を中心に学び、海外翻訳絵本への理解を深める。 予習：配布資料から、ピーターラビットの絵本シリーズの中から気になる作品を１作見つけておく。 復習：ピーターラビットのシリーズが長く読まれている理由についての自身の考えをまとめる。	鈴木
5	海外翻訳絵本と絵本作家⑶	ディック・ブルーナ『ちいさなうさこちゃん』について学び、海外翻訳絵本への理解を深める。 予習：うさこちゃん（ミッフィー）について、どのような魅力があるのかを考える。 復習：「うさこちゃん」シリーズの中で最も興味をもった１冊を見つけ、その理由をまとめる。	鈴木

6	海外翻訳絵本と絵本作家⑷	エリック・カール『はらぺこあおむし』について学び、海外翻訳絵本への理解を深める。 予習：エリック・カールや『はらぺこあおむし』について調べる。 復習： エリック・カールの作品の中から興味をもったものについてまとめる。	鈴木
7	近年の海外翻訳絵本	近年の海外翻訳絵本について知り、どのようなテーマが取り上げられ、どのように表現されているのかを考察する。 予習：書店や図書館等で、新しい海外翻訳絵本にどのようなものがあるか調べる。 復習：興味をもった海外の作家について、インターネット等で調べる。	鈴木
8	日本の絵本の歴史	※オンデマンド形式で実施 日本の絵本の歴史を学ぶ 予習：書店や図書館などで、日本の絵本に注目してどのような絵本があるか気を付けて探してみる。 復習：授業で触れた絵本の中で、気になった絵本を手に取って読んだり、調べたりする。	鈴木
9	日本の絵本と絵本作家⑴	中川李枝子文・大村百合子絵『ぐりとぐら』について学び、日本の絵本への理解を深める。 予習：『ぐりとぐら』がどのような絵本かを思い出したり、調べたりする。 復習：『ぐりとぐら』の絵本やシリーズ作品を探して読む。	鈴木
10	日本の絵本と絵本作家⑵	かこさとし『からすのパンやさん』について学び、日本の絵本への理解を深める。 予習：『からすのパンやさん』を読んだり、どのような絵本か調べたりする。 復習：かこさとしの作品を探して読んだり、調べたりする。	鈴木
11	日本の絵本と絵本作家⑶	佐野洋子『100万回生きたねこ』について学び、日本の絵本への理解を深める。 予習：『100万回生きたねこ』を読んだり、どのような絵本か調べたりする。 復習：佐野洋子の絵本やエッセイを読んだり、調べたりする。	鈴木
12	日本の絵本と絵本作家⑷	荒井良二『たいようオルガン』について学び、赤ちゃん絵本についての理解を深める。 予習： 荒井良二について調べたり、作品を手にしたりする。 復習：荒井良二の作品について、調べてみたり、手にして読んでみたりする。	鈴木
13	近年の日本の絵本	近年の日本の絵本について知り、どのようなテーマが取り上げられ、どのように表現されているのかを考察する。 予習：書店や図書館等で、最近刊行された日本の絵本にどのようなものがあるか調べる。 復習：興味をもった作家について、インターネット等で調べる。	鈴木
14	あかちゃん絵本とブックスタート	「ブックスタート」という活動を通して、あかちゃん絵本について考えを深める。 予習：ブックスタートという活動を知っているか、周りの人に尋ねてみる。 復習：自分の住む地域でのブックスタート活動等について調べる。	鈴木
15	まとめ	※オンデマンド形式で実施 絵本について学んだことは、自分にとってどのような意味を持っているかを考える。 予習：授業で紹介された絵本について、どの絵本が好きか、理由はなぜなのかを考え、まとめる。 復習：レポート提出に向けての一冊を選ぶ。	鈴木

授業科目	くらしと社会	科目ナンバリング	N-12-03-D		
授業科目（英）	Life and Social				
教員名	◎栃澤健史（兼担）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	普段の暮らしのなかで、社会の存在を意識することは少ないかもしれない。しかし、大規模な災害や事故、あるいは世界規模での疫病に直面したとき、私たちは個人を越えた社会の存在が必要であることを思い知ることになる。本講義では、日々の暮らしのなかで個人が抱える問題、あるいは自分と関係しているとは認識され難い問題について、社会学の知見を用いつつ、グローバルかつローカルな視点により社会的なものとして考察する。				
行動目標	①近代における個人と社会の関係を説明できる。 ②現代の社会問題について社会学の概念を用いて分析することができる。 ③日常生活において自分が直面する課題や問題に対して身につけた社会学的知識と方法を応用することができる。 ④他者が直面している問題に対しても社会的問題と認識し関与することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究心、創造力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	評価：ディスカッション等の受講態度10%、小テスト・レポート20%、期末試験70% フィードバック法：適宜、全体に対してコメントを行う。				
教科書	なし				
参考書等	適宜、紹介する。				
事前準備 受講要件等	自分の日常生活のなかで周囲をよく観察し、また日々のニュースから世の中の動きに関心を払う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	授業終了後、および木曜日12:00～13:00				
SDGsとの関連	①④⑤⑧⑩⑯				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	オリエンテーション	授業方針の説明と社会学への招待 予習：気になる社会事象を見つけておく 復習：その事象を社会問題として認識する	栃澤
2	近代における社会	近代における社会の原理を説明 予習：社会の概念を調べておく 復習：近代社会の原理を整理する	栃澤
3	個人と社会	個人の誕生について考察する 予習：職業選択の自由について調べておく 復習：近代の個人の概念を整理する	栃澤
4	社会的なものの意味	個人は生まれながら社会的存在であることを考察する 予習：格差について調べておく 復習：社会問題として格差を整理する	栃澤
5	子どもの誕生	社会が子どもを育てる意味を考察する 予習：「赤ちゃんポスト」について調べておく 復習：個人を越える社会的なものを理解する	栃澤
6	教育と格差	学校教育と格差の問題を考察する 予習：教育と格差の問題を調べておく 復習：個人の競争以前の格差問題について整理する	栃澤
7	居住地と機会	生まれ落ちた場所による機会の違いを考察する 予習：地域格差の問題を調べておく 復習：機会の平等について地域の観点で整理する	栃澤
8	中間のまとめ	これまで成人するまでの個人のライフコースに沿って考察した社会問題についてより理解を深める	栃澤

		予習：これまでの授業内容を確認してくる 復習：議論により得られた知見を整理する	
9	職業選択とジェンダーの問題	職業選択の自由とジェンダーの関係を考察する 予習：ジェンダー概念について調べておく 復習：職業選択とジェンダーについて整理する	栃澤
10	非正規雇用の問題	非正規雇用増加の本質的問題について考察する 予習：非正規雇用の問題を調べておく 復習：社会問題として非正規雇用を理解する	栃澤
11	社会的紐帯の変容	個人の職業生活とライフコースの変化による社会的紐帯の変容について考察する 予習：コミュニティとアソシエーションの概念を調べておく 復習：コミュニティとアソシエーションの関係性の違いを理解する	栃澤
12	メリトクラシー再考	現代社会で共有されている価値であるメリトクラシーについて再考する 予習：メリトクラシーの概念について調べておく 復習：メリトクラシーの現代的課題について整理する	栃澤
13	機会の平等と結果の不平等	個人における機会の問題を社会の諸制度との関係で考察する 予習：社会保険制度について調べておく 復習：社会保障ならびに人間の安全保障を理解する	栃澤
14	生命と医療	生命と医療のあり方を社会的格差の問題から考察する 予習：医療の抱える問題について調べておく 復習：自由と平等の原理から生命と医療の問題を整理する	栃澤
15	総まとめ	これまでの個人のライフコース全体を通じて社会的なものがいかに関わっているのかを振り返って考える 予習：これまでの授業内容を確認しておく 復習：これからの自分の人生においてこの授業で得た知見を活かす	栃澤

授業科目	くらしと経済	科目ナンバリング	N-12-04-D		
授業科目（英）	Basic Economics				
教員名	◎塚谷　文武（非常勤講師）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	21世紀初頭における日本の経済社会が直面する諸課題（超少子高齢化と社会保障の持続可能性、財政危機、貧困問題等）について、その背景と現状を踏まえた意見を述べることができる。				
行動目標	日常生活において行われている経済行動を経済社会全体の中に位置づけて、その意味を理解するために必要となる経済学の基礎知識を身につける。				
ディプロマポリシーのキーワード	創造力、課題探求力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	【評価】受講態度（20%）、講義内の発表内容・提出物（50%）、期末レポート（30%）について総合的に評価する。 【フィードバック方法】講義内の発表内容や提出物について、講義内において随時行います。				
教科書	テキストは使用しません。				
参考書等	講義内容の理解を深めるために参考となる文献を提示することがあります。				
事前準備 受講要件等	講義内で取り上げるトピックは我々の日常生活に関係するものばかりです。日頃から新聞やニュースなどを通じて関連する情報を集めるように心がけてください。 講義形式は、アクティブラーニング及びICTを積極的に活用したグループワークを基本とした形式になります。				
オフィスアワー（曜日／時間）	講義終了時に、随時、相談・質問等を受け付けます。				
SDGsとの関連	1,3,10				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	講義の主旨説明	講義計画についての説明 予習：講義計画について確認する（45分） 復習：講義内容について整理する（45分）	塚谷
2	少子高齢化（1）	少子化の現状と課題について学ぶ 予習：前回講義の内容について整理する（45分） 復習：講義内容について整理する（45分）	塚谷
3	少子高齢化（2）	高齢化の現状と課題について学ぶ 予習：前回講義の内容について整理する（45分） 復習：講義内容について整理する（45分）	塚谷
4	少子高齢化（3）	少子高齢化対策について学ぶ 予習：前回講義の内容について整理する（45分） 復習：講義内容について整理する（45分）	塚谷
5	社会保障（１）	社会保障制度の現状と課題について学ぶ 予習：前回講義の内容について整理する（45分） 復習：講義内容について整理する（45分）	塚谷
6	社会保障（2）	社会保障制度の現状と課題について学ぶ 予習：前回講義の内容について整理する（45分） 復習：講義内容について整理する（45分）	塚谷
7	社会保障（3）	社会保障制度の持続可能性について学ぶ 予習：前回講義の内容について整理する（45分） 復習：講義内容について整理する（45分）	塚谷
8	財政危機（1）	財政危機の現状と課題について学ぶ 予習：前回講義の内容について整理する（45分） 復習：講義内容について整理する（45分）	塚谷
9	財政危機（2）	財政危機の現状と課題について学ぶ 予習：前回講義の内容について整理する（45分） 復習：講義内容について整理する（45分）	塚谷

10	財政危機（３）	財政再建のプロセスについて学ぶ 予習：前回講義の内容について整理する（45分） 復習：講義内容について整理する（45分）	塚谷
11	現代社会における貧困（1）	現代社会における貧困の現状と課題について学ぶ 予習：前回講義の内容について整理する（45分） 復習：講義内容について整理する（45分）	塚谷
12	現代社会における貧困（2）	子どもの貧困の現状と課題について学ぶ 予習：前回講義の内容について整理する（45分） 復習：講義内容について整理する（45分）	塚谷
13	人工知能と経済（1）	人工知能と経済の関係性について学ぶ 予習：前回講義の内容について整理する（45分） 復習：講義内容について整理する（45分）	塚谷
14	人工知能と経済（2）	人工知能と経済の関係性について学ぶ 予習：前回講義の内容について整理する（45分） 復習：講義内容について整理する（45分）	塚谷
15	講義の総括と展望	講義全体の総括を行い、今後の展望を示す。 予習：講義全体の内容を整理する（45分） 復習：今後の課題について整理する（45分）	塚谷

授業科目	日本国憲法と法律	科目ナンバリング	N-12-05-D		
授業科目（英）	Japanese Constitution and Laws				
教員名	◎笹山将弘（非常勤講師）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	本講義は，憲法を初めて学ぶ受講生が，細かな条文の知識ではない「憲法の大枠」，すなわち，何条にどのようなことが書いてあるのかということではなく，憲法上の人権の価値の根源や考え方，そのような人権を保護するために構築された統治機構に対する大局的な理解を獲得し，その理解を基にして，日々報道等される現代的な課題や議論，今後生じる新たな課題や議論に対して，憲法学的視点からの考察を加えられるようになることを目標としている。 また，特に今後の日常生活上関わりが多いと思料される基本的な法律の基礎的な内容，考え方及び倫理観等に対する理解，そして憲法を最高法規とする日本法体系の基本的な理解を基にして，日常生活上の様々な問題や課題に対して，法律学的視点からの検討を行えるようになることをも目標としている。				
行動目標	憲法及び基本的な法律に対する理解を，日々報道等される現代的な課題や議論等において適用してみようと試み，自分なりの答えを導き出す。 仮にその答えと（必ずしも憲法及び基本的な法律に対する理解を有しない）他者の答えとが食い違う場合には，なぜその食い違いが生じるのかを考察し，その対立を解消するよう試みる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力				
評価並びにフィードバック法	受講態度を30%，講義後に実施する小テスト（選択式が中心で、1回当たり3問が原則、合計11回を実施予定，解答に際してはレジュメ等の資料を参照してもよい）を55%，受講態度等の平常点を15%とし，それらを総合して評価する。定期試験は実施しない。 評価の内容等の解説を希望する者に対しては，オフィスアワー等を利用して個別に解説を行う。				
教科書	毎回配布するレジュメに基づき講義を行うため，教科書の指定はない。				
参考書等	講義の内容が多岐に渡るため，教科書同様に参考書等の指定もない。 なお，憲法及び各法律の基本的な書籍等について関心のある受講生は個別に質問されたい。				
事前準備 受講要件等	事前準備として，各講義日に取り扱う内容について文献やニュース記事等を自ら検索等して読了しておくこと。				
オフィスアワー （曜日／時間）	金曜12:30-13:00（事前予約の上）				
SDGsとの関連	4，5，10，16				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	憲法とは何か	憲法の成り立ちに言及した上で，その成り立ちから考えると憲法上の自由や権利とはどのようなものとなるのか，逆に自由や権利に限界はないのか等について，総論的な講義を行う。 予習：シラバスの読了 復習：講義内容をまとめる	笹山
2	基本的人権	憲法の成り立ちから考えると，人権は誰に保障されることになるのかという人権享有主体性の問題，私人間において憲法はどのような方法等で拘束力を有するかという私人間効力の問題を講義する。なお，その際，私人間の法律関係を規制する民法についての総論的な解説も行う。 予習：本講義日に取り扱う内容について文献やニュース記事等を自ら検索等して読了しておく 復習：講義内容をまとめる	笹山
3	民法	私人間の法律関係に関する民法の規律，とりわけ基本的な契約法及び不法行為法についての解説を行う。なお，その中で，医療過誤事件についても取り扱う。 予習：本講義日に取り扱う内容について文献やニュース記事等を自ら検索等して読了しておく 復習：講義内容をまとめる	笹山
4	刑法	私人が行う犯罪に関する刑法の規律，とりわけ人の自由や権利を制約し，国家が処罰することに対する考え方や姿勢，そこから導かれる諸	笹山

		原則について解説する。その中で，比較的典型的と思われる犯罪行為に関する解説も行う。	
5	幸福追求権／平等権	「個人の尊重」から導かれる幸福追求権の意味や内容，そこから導き出される新しい人権について講義する。また，「個人の尊重」から導かれる平等の意味や内容，14条1項後段列挙事由の意味等を講義する。 予習：本講義日に取り扱う内容について文献やニュース記事等を自ら検索等して読了しておく 復習：講義内容をまとめる	笹山
6	内心の自由	内心の自由，具体的には思想良心の自由，信教の自由（政教分離規定も含む。），学問の自由について解説し，その限界をどう考えるべきかについて講義する。 予習：本講義日に取り扱う内容について文献やニュース記事等を自ら検索等して読了しておく 復習：講義内容をまとめる	笹山
7	表現の自由	内心の外界への発露である表現の自由の価値に触れた上で，表現の自由の内容，そこから派生する権利や自由について解説し，その優越的地位ゆえに導かれる表現の自由規制立法に対する審査態度について講義する。 予習：本講義日に取り扱う内容について文献やニュース記事等を自ら検索等して読了しておく 復習：講義内容をまとめる	笹山
8	経済的自由／財産権	経済的自由権，すなわち職業選択の自由，営業の自由，財産権を主に取り上げ，それらの規制立法に対してどのような審査態度をとるべきかについて講義する。なお，職業選択の自由に対する制約でもある，看護師として稼働する上での基本的な業法の内容等についても言及する。 予習：本講義日に取り扱う内容について文献やニュース記事等を自ら検索等して読了しておく 復習：講義内容をまとめる	笹山
9	社会権	社会権の成り立ちや性質，社会権たる生存権，教育を受ける権利，労働基本権の内容，社会権規制立法に対する審査態度について講義する。 予習：本講義日に取り扱う内容について文献やニュース記事等を自ら検索等して読了しておく 復習：講義内容をまとめる	笹山
10	刑事手続きに関する権利	憲法がどのような刑事手続きを要求しているのかを解説した上で，刑事訴訟法に規定される刑事手続きの流れについて解説する。 予習：本講義日に取り扱う内容について文献やニュース記事等を自ら検索等して読了しておく 復習：講義内容をまとめる	笹山
11	参政権	主権が国民にあるということの意味，そこから導かれる参政権（選挙権）の内容に触れた上で，現在の選挙制度の内容，投票価値の平等について講義する。 予習：本講義日に取り扱う内容について文献やニュース記事等を自ら検索等して読了しておく 復習：講義内容をまとめる	笹山
12	統治機構総論／国会（立法権）	憲法の統治機構の構造，とりわけ三権分立の意義及び内容を講義する。また，当該統治構造の中で立法権を担う国会の地位，国会議員が全国民の代表とされる意味，二院制の意義を講義する。 予習：本講義日に取り扱う内容について文献やニュース記事等を自ら検索等して読了しておく 復習：講義内容をまとめる	笹山
13	行政権（内閣）／司法権（裁判所）	行政権の内容，それを担う内閣の構造等に触れ，国会と内閣の関係（議院内閣制）等について講義する。また，司法権の内容等についても，総論的な講義を行う。 予習：本講義日に取り扱う内容について文献やニュース記事等を自ら検索等して読了しておく 復習：講義内容をまとめる	笹山
14	司法権（裁判所）／地方自治	司法権が担う違憲審査権の内容，司法権及び違憲審査権の限界について講義する。また，地方自治制度等について講義する。	笹山

		予習：本講義日に取り扱う内容について文献やニュース記事等を自ら検索等して読了しておく 復習：講義内容をまとめる	
15	天皇制／平和主義／憲法改正	三権分立から導かれる象徴天皇制の意義等について講義する。また，平和主義を定める憲法9条の意味や読み方，憲法上いわゆる集団的自衛権行使が認められるか否かについても講義する。さらに，憲法改正とは何か，憲法改正に限界はあるのか等についても講義する。 予習：本講義日に取り扱う内容について文献やニュース記事等を自ら検索等して読了しておく 復習：講義内容をまとめる	笹山

授業科目	教育学	科目ナンバリング	N-12-06-D		
授業科目（英）	Pedagogy				
教員名	◎鈴木　伸尚（非常勤講師）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	「教育」という営みについての基本的な理念、歴史、実践について理解することで、現代の日本の教育を理解する基礎となる認識枠組みを習得することを目指す。				
行動目標	到達目標は、主に下記の三点である。 ① 教育を考える上でその土台となる社会・歴史的背景や基本的な概念を理解する ② 教育実践の今日的動向を把握する ③ ①、②を踏まえて、それぞれの被教育・学校経験から想定される教育的営みを改めて問い直す視点を身につける				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力				
評価並びにフィードバック法	評価：レポートによる。ただし授業に対するコミットメントの度合い（質問、感想等）を考慮する。 フィードバック法：各レポートを解説する。				
教科書	なし				
参考書等	木村元編『系統看護学講座基礎分野　教育学（第8版）』（医学書院、2021年）ほか、授業中に指示する。				
事前準備 受講要件等	授業前にはシラバスを確認する。				
オフィスアワー（曜日／時間）	授業終了後				
SDGsとの関連	1,4,5,10,11,16				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	社会の中の看護と教育	講義全体のイントロダクションとして、教育と看護との関係について、社会の中での役割や働きかけの意味を考える。 予習：中等教育（高校）までと高等教育（大学）の違いに関する自身の考えをノートにまとめる。 復習：配布資料をもとに、機能化された社会の特徴と課題を整理する。	鈴木
2	教育とはなにか−「教育」の概念	「教育」という言葉の意味について考える。日常的な使い方から歴史的な背景まで含めて基本的な特徴をおさえる。 予習：「教育」に関する用語の辞書的意味をノートにまとめる。 復習：配布資料をもとに、「こどもの発見」および「自発的隷従」についてまとめる。	鈴木
3	教育の対象−子ども観と発達	教育の主たる対象となる子どもについて、子どもとは何か（子ども観）、子どもから大人になる過程（発達）という観点から考えていく。 予習：「子どもらしさ」と「大人になること」に関する自身の考えをノートにまとめる。 復習：配布資料をもとに、子どもの権利とその特徴、現代的な課題についてまとめる。	鈴木
4	社会変動と教育	教育は社会の動きのなかに組み込まれている。現代の日本社会が形作られる過程を見ながら、教育にかかわる、その特徴と課題を整理する。 予習：現代の日本社会における「自立」について自身の考えをノートにまとめる。 復習：配布資料をもとに、日本の大衆教育社会の特徴について整理する。	鈴木
5	教育の組織化−学校	教育が組織的に営まれる場としての学校。その起源から日本へ導入され定着する歴史をおさえ、現代の学校が抱える課題を概観する。	鈴木

		予習：日本の「学校」の特徴と思われることをノートにまとめる。 復習：配布資料をもとに、近代学校の制度について特徴を整理する。	
6	教授−人を教えるということ	人を教えること（教授）について、コミュニーケーション、学ぶことの関係、振りかえり（省察）といった観点から考えていく。 予習：「教えること」で大事だと思われることをノートにまとめる。 復習：配布資料をもとに、反省的実践家について事例をあげて検討する。	鈴木
7	訓育−他者とのかかわりを導く	他者とのかかわりを導くこと（訓育）について考える。とくに今日的なかかわりの困難さをふまえて、かかわりを導く技法を見ていく。 予習：他者と人間関係を築くうえで大事だと思われる点をノートにまとめる。 復習：配布資料をもとに、「かかわり合うことの困難」について事例をあげて検討する。	鈴木
8	養護−教育の受け手を見まもる	教育の受け手を見まもること（養護）について考える。看護との違い、ケアという考え方、養護教諭や保健室について取り上げる。 予習：「ケア」に関する自分の考えをノートにまとめる。 復習：配布資料をもとに、養護教諭の今日的な役割について整理する。	鈴木
9	発達−教育を受けて成長する	「発達」という見方について検討する。発達の段階、教育による発達に加えて、病児の教育や高齢者の看護、発達理解まで含めて考える。 予習：「発達」に関する自分の考えをノートにまとめる。 復習：配布資料をもとに、院内学級の諸実践について事例をあげて検討する。	鈴木
10	学びの場−学校と家庭	教育という営みを考えるために、教育を行う場としての学校と家庭、それぞれの役割とその変遷について両者の関係を軸に見ていく。 予習：学校教育と家庭教育の違いについて自分の考えをノートにまとめる。 復習：配布資料をもとに、「学校に行かない子ども」に関しての論点を整理する。	鈴木
11	教育の目標と評価	教育を行う者が目標を立て対象に働きかけ、その行為を点検してより良い働きかけを試みる。そうした教育の目標と評価の活動を見る。 予習：教育の「評価」について自分の考えをノートにまとめる。 復習：配布資料をもとに、パフォーマンス評価についてその動向と課題をまとめる。	鈴木
12	教育のメディア−教育をデザインする	学び手に影響を与えるもの（メディア）について考える。教え手と学び手、学び手同士だけでなく、それを支える物や空間まで考慮する。 予習：教室にある「メディア」について数え上げてノートにまとめる。 復習：配布資料をもとに、教育をデザインするという観点から「教育のメディア」について事例をあげて検討する。	鈴木
13	教育の担い手−専門性と専門職性	専門職としての教師を考える。教師が専門的な知識や技能の保有のみならず、社会的に認められた制度としてあることに視野を広げていく。 予習：「専門職とは何か」について自分の考えをノートにまとめる。 復習：配布資料をもとに、養護教諭の専門性と専門職性についてまとめる。	鈴木
14	教育の場をつくるしくみ	公教育を担う場について考える。公教育とは何か、どのような場でいかに定められているか、学校内外の人々の関与などを取り上げる。 予習：「公教育」に関する自分の考えをノートにまとめる。 復習：配布資料をもとに、教育委員会制度あるいは地域運営学校の特徴について整理する。	鈴木
15	授業全体のまとめ	これまでの授業のまとめとして、教育学の基本的な考え方、教育を成り立たせている関わりや視点、実践や制度の知識を整理する。 予習：第1-14回の授業資料を振り返り、自分なりの疑問点を整理してくる。 復習：グループ討論の内容をふまえて、「教育」という営みについて考えをまとめる。	鈴木

授業科目	哲学	科目ナンバリング	N-12-07-D		
授業科目（英）	Philosophy				
教員名	◎小林道太郎				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	哲学は、真理や世界や人間など、普遍的なことがらに関するさまざまな問いを原理的な水準で探求する学問である。本科目の目的は、(1)現代の社会や諸学の前提をなす教養として、哲学の考え方の基本を知ってもらうこと、また(2)哲学を通じて、これまでとは違った見方や考え方を見出す、あるいはそれらについて自ら考えるという態度を養うこと、の2つである。そのために本科目では、現代に生きる私たちに関わる哲学的諸問題と、それらに関する考え方について講義する。				
行動目標	・哲学的思考の基本的な部分について理解することができる ・現代社会や自分の生き方について、哲学の道具立てを用いて考え・論じることができる				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観				
評価並びにフィードバック法	毎回の提出物(40%)と期末レポート(60%)による。 毎回の提出物については次回授業でコメントする。				
教科書	毎回資料を配布する。				
参考書等	授業でその都度指示する。				
事前準備 受講要件等	授業前にシラバスを確認する				
オフィスアワー （曜日／時間）	金曜16:20～17:20				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	哲学のはじまり	古代ギリシアにおける探求と「無知の知」 予習：シラバスを読み何を学ぶか確認する 復習：授業で紹介する関連文献を読み、まとめる	小林
2	論理と理性	論理的に考えるとはどういうことか 予習：上の問いについて各自考えて書いてくる 復習：授業で紹介する関連文献を読み、まとめる	小林
3	古代ギリシアの幸福論	古代哲学の幸福論について 予習：古代ギリシアの社会について調べ、まとめておく 復習：授業で紹介する関連文献を読み、まとめる	小林
4	科学の方法と世界観	※オンデマンド形式で実施 近代科学の成立によって何が変わったのか 予習：17世紀科学革命について調べ、まとめておく 復習：授業で紹介する関連文献を読み、まとめる	小林
5	生命と精神	生命と精神に関する哲学的諸問題 予習：心身問題について調べ、まとめておく 復習：授業で紹介する関連文献を読み、まとめる	小林
6	現象学と生活世界	現象学の考え方と生活世界の問い 予習：現象学について調べ、まとめておく 復習：授業で紹介する関連文献を読み、まとめる	小林
7	人生の物語	※オンデマンド形式で実施 他者を理解するということ、人生の物語的理解 予習：他者問題について調べ、まとめておく 復習：授業で紹介する関連文献を読み、まとめる	小林
8	生と死	生老病死をどう考えるか 予習：自分が死についてどう思っているのか振り返って書いておく 復習：授業で紹介する関連文献を読み、まとめる	小林

授業科目	くらしと安全・危機管理	科目ナンバリング	N-12-08-D		
授業科目（英）	Safety and Risk Management in Daily Life				
教員名	◎亀井克之（非常勤講師）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	生活にはさまざまなリスクがあります。これらのリスクについて、本講義では、①リスクについての知識の習得、②リスクコントロール(リスクの予防法・リスクへの対処法)③リスクファイナンス(保険などの活用)を取り扱い、生活のリスクマネジメント(危機管理)について学習します。題材として教科書に基づき、映画、特に一般に馴染みのないフランスの映画を題材に用います。				
行動目標	学生生活を取り巻くリスクについて気づき、具体的な知識や対処方法を習得する。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探求力、専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	受講態度40点・定期試験60点(定期試験は、教科書参照可とする。)				
教科書	亀井克之「フランス映画に学ぶリスクマネジメント　　ー人生の岐路における決断ー」ミネルヴァ書房 2022年				
参考書等	なし				
事前準備 受講要件等	くらしにはどのようなリスクがあるか。どのように対処すればよいかについての意識があること。				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜日　2限目				
SDGsとの関連					

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	ガイダンス 学生の生活にはどんなリスクがあるか	リスクとリスクマネジメントの枠組みの学習 予習：身の回りのリスクについて考えてくること。 復習：授業で取り扱った部分のワークを行うこと。 教科書:序章「なぜ映画で危機管理　『水を撒かれた散水夫』」	亀井
2	カルト商法・カルト宗教　-リスクの分類・要素-	カルト商法やカルト宗教についての知識と対処方法の学習 予習：教科書指定箇所の通読すること。 復習：教科書の授業で取り扱った部分のワークを行うこと。 教科書：第１章「リスク　『天井桟敷の人々』」	亀井
3	学生生活のリスクにどう対応するか　-リスクマネジメントとは何か-	様々なリスクと対処 予習：教科書指定箇所の通読すること。 復習：教科書の授業で取り扱った部分のワークを行うこと。 教科書：第２章「リスクマネジメント　『恐怖の報酬』	亀井
4	犯罪・ハラスメント・ストーカーのリスク　-いかに身を守るか-	犯罪やハラスメントのリスクと対処 予習：教科書指定箇所の通読すること。 復習：教科書の授業で取り扱った部分のワークを行うこと。 教科書：第3章「クライシス（危機）　『死刑台のエレベーター』」	亀井
5	グローバル化社会のリスク -いかにリスクに向かい合うか	危機管理とリーダーシップ 予習：教科書指定箇所の通読すること。 復習：教科書の授業で取り扱った部分のワークを行うこと。 教科書：第4章「リーダーシップ　『フレンチ・カンカン』」	亀井
6	いかにリスクをとって新しいことに挑戦するか -リスク感性-	リスクテーキングについて学習する 予習：教科書指定箇所の通読すること。 復習：教科書の授業で取り扱った部分のワークを行うこと。 教科書：第５章 「リスクテーキング　『冒険者たち』	亀井
7	就職活動のリスク　-いかにレジリエンスを発揮するか-	レジリエンスについての学習 予習：教科書指定箇所の通読すること。	亀井

		復習：教科書の授業で取り扱った部分のワークを行うこと。 教科書：第６章 「レジリエンス　『ポンヌフの恋人』」	
8	感染症とリスク　-ソフトコントロール の重要性-	感染症に関する知識と備えに関する学習 予習：教科書指定箇所の通読すること。 復習：教科書の授業で取り扱った部分のワークを行うこと。 教科書：第７章「パンデミック　『プロヴァンスの恋』」	亀井
9	ビジネスとリスク	ビジネスにおける危機突破に学ぶ 予習：教科書指定箇所の通読すること。 復習：教科書の授業で取り扱った部分のワークを行うこと。 教科書：第８章「ブレイクスルー（危機突破）　『最強のふたり』」	亀井
10	リスクとコミュニケーション	リスクコミュニケーションについて学ぶ 予習：教科書指定箇所の通読すること。 復習：教科書の授業で取り扱った部分のワークを行うこと。 教科書：第９章「コミュニケーション　『永遠のパリ』」	亀井
11	リスクコミュニケーションのゲーム　ークロスロードー	クロスロードの演習 予習：教科書指定箇所の通読すること。 復習：教科書の授業で取り扱った部分のワークを行うこと。	亀井
12	SNSのリスク -ひとつの投稿がいかなる結果を招くか-	インターネットやSNSに関するリスクについて 予習：教科書指定箇所の通読すること。 復習：教科書の授業で取り扱った部分のワークを行うこと。 教科書：第10章「ジレンマ　『男と女』『男と女　人生最良の日々』」	亀井
13	リスクとコーディネーション	予習：教科書指定箇所の通読すること。 復習：教科書の授業で取り扱った部分のワークを行うこと。 教科書：第11章　コーディネーション「『映画に愛をこめて　アメリカの夜』」	亀井
14	総演習	授業で習ったことを日常の学生生活のリスクマネジメントに応用することを考えてみる。　「リスク」「リスクマネジメント」「クライシス」「クライシスマネジメント」「リーダーシップ」「リスクテーキング 」「レジリエンス」「ソフトコントロール」「危機突破」「リスクコミュニケーション」「ジレンマに直面しての決断」「コーディネーション 」	亀井
15	まとめ-リスク感性向上法-	全体的なまとめ -どのようにリスク感性を向上すればよいか- 予習：教科書指定箇所の通読すること。 復習：どのように自分は感性を磨いているかを考えてみる。	亀井

授業科目	異文化論	科目ナンバリング	N-12-09-D		
授業科目（英）	Cross-cultural understanding				
教員名	◎小林道太郎				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	人の理解のためには、その文化的背景を知ることが必要である。海外はもちろん国内でも、医療者が自分（たち）と違うさまざまな文化をもつ人と接する機会は、これからさらに増えていくだろう。本科目では、受講生が各自の文化的能力を高められるよう、異文化の理解や異文化コミュニケーションに関わる基本的な知識を学び、ともに考える。またそれを通じて、多様な文化をもつ人々の生き方や価値観を尊重する態度を養う。				
行動目標	1. 人々の生活や社会の中で文化の果たすさまざまな役割について述べることができる 2. 文化の違いを背景とした人々の行動の違いに気付き、それらを述べることができる 3. 異なる文化を持つ人とのコミュニケーションについて基本的な考え方を述べることができる 4. 異なる文化を持つ人との間で生じる摩擦について考え、意見を述べることができる 5. 人のアイデンティティを形成したりそれに影響したりするさまざまな文化的歴史的背景について述べることができる 6. 差別やステレオタイプからくる偏見に気付き、それらを述べることができる				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	毎回の提出物(50%)および期末レポート(50%)により評価する。 毎回の提出物については次の授業で一部コメントする。				
教科書	なし。毎回資料を配布する				
参考書等	授業で指示する。				
事前準備 受講要件等	授業前にシラバスを確認する。				
オフィスアワー （曜日／時間）	金曜16:20～17:20				
SDGsとの関連	3, 10, 17				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	異文化とは	イントロダクション、国内外のさまざまな文化の違いについて 予習：文化の定義を調べてまとめる 復習：授業で紹介した関連資料読んでをまとめる	小林
2	エスニシティと多文化主義	国民国家とエスニシティ、多文化主義について 予習：多文化主義について調べてまとめる 復習：授業で示した関連資料を読んでまとめる	小林
3	宗教と文化	※オンデマンド形式で実施 人々の暮らしの中の宗教的信念や習慣について 予習：自分や周囲の人の宗教的行事とのかかわりを振り返ってまとめる 復習：授業で示した関連資料を読んでまとめる	小林
4	文化とバイアス	自文化中心主義とさまざまなバイアスの可能性について 予習：認知バイアスについて調べてまとめる 復習：授業で示した関連資料を読んでまとめる	小林
5	文化とコミュニケーション	コミュニケーションに関する文化の違い、異文化コミュニケーションについて 予習：異文化コミュニケーションについて調べてまとめる 復習：授業で示した関連資料を読んでまとめる	小林
6	グローバリゼーション	※オンデマンド形式で実施 私たちは世界の人々とどのようにつながっているか？　グローバリゼーションについて 予習：グローバリゼーションについて調べてまとめる 復習：授業で示した関連資料を読んでまとめる	小林

7	組織の文化	組織の文化や医療に関連する職種の文化について 予習：組織文化について調べてまとめる 復習：授業で示した関連資料を読んでまとめる	小林
8	異文化経験	異文化経験の実際について 予習：日本の国際協力について調べてまとめる 復習：授業で示した関連資料を読んでまとめる	小林

授業科目	英語Ⅰ（英語を聞く）	科目ナンバリング	N-13-01-D		
授業科目（英）	English Ⅰ				
教員名	◎西　美都子（非常勤講師）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	テキストの各ユニットの基本的な語彙・文法を理解し、速読能力の基礎を身に付けながら、様々なジャンルの英文の内容を正確に把握し、英語を理解することができる。音読を通じて英語の自然なリズム・イントネーションを意識することができる。				
行動目標	英語の基本語彙を増やし、文法の基礎を確認しながら、リーディングの基本的なスキルの習得を目的とする。実社会で英語が必要とされる場において、自分の意思を伝え、状況を把握できるコミュニケーション能力を養う。身近な興味深いリーディングトピックに親しみ、それに対して論理的に自分の考えをまとめられるようになる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探求心、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	期末試験50%　ユニット試験50%　試験の模範解答は授業時間内、あるいはUNIVERSAL PASSPORT経由で発表します。				
教科書	[ISBN]9780357116272 Reading Explorer 3 Third Edition Student Book (Paul MacIntyre / David Bohlke Cengage Learning: 2020)				
参考書等	一般英和辞典、和英辞典（電子辞書可、スマホ不可）				
事前準備 受講要件等	授業で読むユニットの英文を読み、わからない単語は調べ、Exerciseを解答しておくこと。				
オフィスアワー （曜日／時間）	金曜日。授業の前後。				
SDGsとの関連	3,4,5				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	Unit1 Sports and Fitness	シラバスを確認し、どう授業を進めていくか、予習の仕方を説明する。Unit 1では、スポーツの役割、一流選手の特性について学習する。 ［予習］Unit 1の英単語を確認し、本文を読み、練習問題に答えておく。 ［復習］学習した単語や表現を確認しておく。	西
2	Unit2 Skin Deep	Unit 2では、美の定義と皮膚の文化的役割について学習する。 ［予習］Unit 2の英単語を確認し、本文を読み、練習問題に答えておく。 ［復習］学習した単語や表現を確認しておく。	西
3	Unit3 Animals in Danger	Unit 3では、絶滅危惧種について学習する。 ［予習］Unit 3の英単語を確認し、本文を読み、練習問題に答えておく。 ［復習］学習した単語や表現を確認しておく。	西
4	mid term review	今まで学習したユニットのまとめ。単語や表現をマスターできたか、内容を理解したかの確認。	西
5	Unit4 Violent Earth	Unit 4では、自然災害とどのように対峙していくのかを学習する。 ［予習］Unit 4の英単語を確認し、本文を読み、練習問題に答えておく。 ［復習］学習した単語や表現を確認しておく。	西
6	Unit5 Islands and Beaches	Unit 5では、世界の様々な観光地について学習する。 ［予習］Unit 5の英単語を確認し、本文を読み、練習問題に答えておく。 ［復習］学習した単語や表現を確認しておく。	西
7	Unit6 Global Addictions	Unit 6では、カフェイン中毒、マルチタスクの危険性について学習する。 ［予習］Unit 6の英単語を確認し、本文を読み、練習問題に答えておく。 ［復習］学習した単語や表現を確認しておく。	西

8	final review	今まで学習したユニットのまとめ。単語や表現をマスターできたか、内容を理解したかの確認。	西

授業科目	英語Ⅱ（英語で話す）	科目ナンバリング	N-13-02-D		
授業科目（英）	EnglishⅡ				
教員名	◎西　美都子（非常勤講師）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	テキストの各ユニットの基本的な語彙・文法を理解し、速読能力の基礎を身に付けながら、様々なジャンルの英文の内容を正確に把握し、英語を理解することができる。音読を通じて英語の自然なリズム・イントネーションを意識することができる。				
行動目標	英語の基本語彙を増やし、文法の基礎を確認しながら、リーディングの基本的なスキルの習得を目的とする。実社会で英語が必要とされる場において、自分の意思を伝え、状況を把握できるコミュニケーション能力を養う。身近な興味深いリーディングトピックに親しみ、それに対して論理的に自分の考えをまとめられるようになる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探求心、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	期末試験50%　ユニット試験50%　試験の模範解答は授業時間内、あるいはUNIVERSAL PASSPORT経由で発表します。				
教科書	[ISBN]9780357116272 Reading Explorer 3 Third Edition Student Book (Paul MacIntyre / David Bohlke Cengage Learning: 2020)				
参考書等	一般英和辞典、和英辞典（電子辞書可、スマホ不可）				
事前準備 受講要件等	授業で読むユニットの英文を読み、わからない単語は調べ、Exerciseを解答しておくこと。				
オフィスアワー （曜日／時間）	金曜日。授業の前後。				
SDGsとの関連	3,4,5				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	Unit7 Energy Solutions	シラバスを確認し、どう授業を進めていくか、予習の仕方を説明する。Unit 7では、再生可能エネルギーについて学習する。 ［予習］Unit 7の英単語を確認し、本文を読み、練習問題に答えておく。 ［復習］学習した単語や表現を確認しておく。	西
2	Unit8 Epic Engineering	Unit 8では、歴史上の偉大なエンジニアリングについて学習する。 ［予習］Unit 8の英単語を確認し、本文を読み、練習問題に答えておく。 ［復習］学習した単語や表現を確認しておく。	西
3	Unit9 High-Tech Solutions	Unit 9では、最先端技術がどのように私たちの生活に影響を及ぼすかについて学習する。 ［予習］Unit 9の英単語を確認し、本文を読み、練習問題に答えておく。 ［復習］学習した単語や表現を確認しておく。	西
4	mid term review	今まで学習したユニットのまとめ。単語や表現をマスターできたか、内容を理解したかの確認。	西
5	Unit10 All in the Mind	Unit 10では、脳の働きについて学習する。 ［予習］Unit 10の英単語を確認し、本文を読み、練習問題に答えておく。 ［復習］学習した単語や表現を確認しておく。	西
6	Unit11 Visual Pioneers	Unit 11では、世界的に影響を与えた芸術家について学習する。 ［予習］Unit 11の英単語を確認し、本文を読み、練習問題に答えておく。 ［復習］学習した単語や表現を確認しておく。	西
7	Unit12 Far Out	Unit 12では、宇宙旅行について学習する。 ［予習］Unit 12の英単語を確認し、本文を読み、練習問題に答えておく。 ［復習］学習した単語や表現を確認しておく。	西

8	final review	今まで学習したユニットのまとめ。単語や表現をマスターできたか、 内容を理解したかの確認。	西

授業科目	英語Ⅲ（英語で読む・書く）	科目ナンバリング	N-13-03-D		
授業科目（英）	EnglishⅢ				
教員名	◎家村雅子（非常勤講師）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	2
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	「医療現場で必要な英語の基礎学力を身に付ける」ことを学修します。本科目では、将来看護師として役に立つ英語のリスニングとスピーキングの実践演習に焦点を絞り、英語の聞き取りと発話に慣れることを目指します。様々なアクティビティやロールプレイによって積極的な英語コミュニケーション能力の向上に有用な学修となります。				
行動目標	① 基礎的な医学・医療の英語表現が使われる聞き取りと発話に慣れる。 ② 看護系学生にとって有益な英単語とテクニカルタームを習得できる。 ③ 将来医療現場で役立つ英語表現と、それを使った英会話能力が身に付く。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究心、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	受講態度…20%、小テスト…20%、音声録音課題…20%、最終試験…40% 最終講義時に全体向けにフィードバックを行う。				
教科書	なし（プリント配布）				
参考書等	『Talking with Your Patients in English アニメで学ぶ看護英語』Mitsuko Hirano他著（SEIBIDO）				
事前準備 受講要件等	参加状況を重視するため、全授業に（遅刻・早退なく）出席努力をすること。英語（紙・電子）辞書必携。毎回の授業冒頭に小テストを行うので準備すること。				
オフィスアワー（曜日／時間）	授業時間の前後				
SDGsとの関連	17				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	Introduction	ガイダンス 授業内容の説明、自己紹介、他	家村
2	Welcoming a Patient（患者を迎える）	Focus Topic:：位置を示す表現／病院内施設 Medical Vocabulary：病院内備品 予習：Focus TopicとMedical Vocabularyの単語と表現チェック 復習：Senario（患者と看護師のやりとり）を声に出して読む	家村
3	Pain Assessment（痛みのアセスメント）	Focus Topic:：痛みを表す表現／痛みの問診術 Medical Vocabulary：体の部位名 予習：Focus TopicとMedical Vocabularyの単語と表現チェック 復習：Senario（患者と看護師のやりとり）を声に出して読む	家村
4	Transferring a Patient（体位変換／移乗）	Focus Topic:：体位／動きの表現 Medical Vocabulary：歩行補助機器 予習：Focus TopicとMedical Vocabularyの単語と表現チェック 復習：Senario（患者と看護師のやりとり）を声に出して読む	家村
5	Giving Medication to a Patient（与薬）	Focus Topic:：薬剤の種類／投薬指示関連の表現 Medical Vocabulary：薬の効能 予習：Focus TopicとMedical Vocabularyの単語と表現チェック 復習：Senario（患者と看護師のやりとり）を声に出して読む	家村
6	Chronic Diseases（慢性疾患）	Focus Topic:：患者情報収集／慢性病とは？ Medical Vocabulary：慢性疾患 予習：Focus TopicとMedical Vocabularyの単語と表現チェック 復習：Senario（患者と看護師のやりとり）を声に出して読む	家村
7	Pregnancy Check-up（妊婦検診）	Focus Topic:：妊娠初期・中期／陣痛と出産 Medical Vocabulary：産科用語 予習：Focus TopicとMedical Vocabularyの単語と表現チェック 復習：Senario（患者と看護師のやりとり）を声に出して読む	家村
8	Review	総括復習（まとめと振り返り）	家村

授業科目	英語Ⅲ（英語で読む・書く）	科目ナンバリング	N-13-03-D		
授業科目（英）	EnglishⅢ				
教員名	◎家村雅子（非常勤講師）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	2
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	「医療現場で必要な英語の基礎学力を身に付ける」ことを学修します。本科目では、将来看護師として役に立つ英語のリスニングとスピーキングの実践演習に焦点を絞り、英語の聞き取りと発話に慣れることを目指します。様々なアクティビティやロールプレイによって積極的な英語コミュニケーション能力の向上に有用な学修となります。				
行動目標	① 基礎的な医学・医療の英語表現が使われる聞き取りと発話に慣れる。 ② 看護系学生にとって有益な英単語とテクニカルタームを習得できる。 ③ 将来医療現場で役立つ英語表現と、それを使った英会話能力が身に付く。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究心、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	受講態度…20%、小テスト…20%、音声録音課題…20%、最終試験…40% 最終講義時に全体向けにフィードバックを行う。				
教科書	なし（プリント配布）				
参考書等	『Talking with Your Patients in English アニメで学ぶ看護英語』Mitsuko Hirano他著（SEIBIDO）				
事前準備 受講要件等	参加状況を重視するため、全授業に（遅刻・早退なく）出席努力をすること。英語（紙・電子）辞書必携。毎回の授業冒頭に小テストを行うので準備すること。				
オフィスアワー（曜日／時間）	授業時間の前後				
SDGsとの関連	17				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	Introduction	ガイダンス 授業内容の説明、自己紹介、他	家村
2	Taking Vital Signs（バイタルサイン測定）	Focus Topic:：バイタルを測る機器類／看護物品 Medical Vocabulary：脈拍測定部位 予習：Focus TopicとMedical Vocabularyの単語と表現チェック 復習：Senario（患者と看護師のやりとり）を声に出して読む	家村
3	Feeling So Sick!（症状）	Focus Topic:：症状チェック表／様々な症状 Medical Vocabulary：検査項目 予習：Focus TopicとMedical Vocabularyの単語と表現チェック 復習：Senario（患者と看護師のやりとり）を声に出して読む	家村
4	Medical Departments（診療科目）	Focus Topic:：診療科と専門医／検査のための表現 Medical Vocabulary：人体器官系 予習：Focus TopicとMedical Vocabularyの単語と表現チェック 復習：Senario（患者と看護師のやりとり）を声に出して読む	家村
5	Personal Care（日常生活援助）	Focus Topic:：身だしなみ用具／日常生活援助表現 Medical Vocabulary：専門家との連携 予習：Focus TopicとMedical Vocabularyの単語と表現チェック 復習：Senario（患者と看護師のやりとり）を声に出して読む	家村
6	Elimination (Bowel movement / Urination)（排泄）	Focus Topic:：排泄の表現／排尿の仕組み Medical Vocabulary：排便、排尿にかかわる語彙 予習：Focus TopicとMedical Vocabularyの単語と表現チェック 復習：Senario（患者と看護師のやりとり）を声に出して読む	家村
7	Critical Care / Operating Room（急性期／手術室）	Focus Topic:：救急室で／周手術期看護 Medical Vocabulary：集中治療室用語 予習：Focus TopicとMedical Vocabularyの単語と表現チェック 復習：Senario（患者と看護師のやりとり）を声に出して読む	家村
8	Review	総括復習（まとめと振り返り）	家村

授業科目	英語Ⅳ（英語を豊かに）	科目ナンバリング	N-13-04-D		
授業科目（英）	EnglishⅣ				
教員名	◎家村雅子（非常勤講師）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	本科目では、英語ドラマを通して医療の世界と異文化を英語で楽しみながら学ぶことを目標とします。臨場感のある医療現場を疑似体験しながら生きた英語に触れることで、英語学修へのモティベーション（動機づけ）を高めることが期待できます。				
行動目標	米国医療現場を忠実に描いた人気ドラマ『ER緊急救命室』を題材として、実際のドラマエピソードを視聴しながら、医療の世界で使用される英語の用語や表現を身に付けることができます。また、映像を通して現在の米国が抱える社会問題や、特に医療を取り巻く異文化を興味深く学んでいきます。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究心、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	授業内活動…10%、受講態度…20%、予習テスト…30%、最終試験…40% フィードバック：予習テストは授業内でチェックする。最終試験は授業内で内容を説明する。				
教科書	なし（プリント配布）				
参考書等	『医療ドラマERで学ぶ英語』田中芳文（朝日出版社）				
事前準備 受講要件等	授業参加状況を重視するため、全授業に（遅刻・早退なく）出席努力をすること。英語（紙・電子）辞書必携。毎回の授業冒頭に予習テストを行うので準備すること。				
オフィスアワー（曜日／時間）	授業時間の前後				
SDGsとの関連	17				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	Introduction	Orientation 授業内容の説明、他	家村
2	Episode (1)	DVD視聴、Reading、Exercise、他 予習：Comprehension、Vocabulary、Translationのチェック 復習：EpisodeのReading Partを再読、内容確認をする	家村
3	Episode (2)	DVD視聴、Reading、Exercise、他 予習：Comprehension、Vocabulary、Translationのチェック 復習：EpisodeのReading Partを再読、内容確認をする	家村
4	Episode (3)	DVD視聴、Reading、Exercise、他 予習：Comprehension、Vocabulary、Translationのチェック 復習：EpisodeのReading Partを再読、内容確認をする	家村
5	Episode (4)	DVD視聴、Reading、Exercise、他 予習：Comprehension、Vocabulary、Translationのチェック 復習：EpisodeのReading Partを再読、内容確認をする	家村
6	Episode (5)	DVD視聴、Reading、Exercise、他 予習：Comprehension、Vocabulary、Translationのチェック 復習：EpisodeのReading Partを再読、内容確認をする	家村
7	Episode (6)	DVD視聴、Reading、Exercise、他 予習：Comprehension、Vocabulary、Translationのチェック 復習：EpisodeのReading Partを再読、内容確認をする	家村
8	Review	総括復習（まとめと振り返り）	家村

授業科目	医療英語	科目ナンバリング	N-13-05-D		
授業科目（英）	Medical English				
教員名	◎鶴 真一（非常勤講師）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	今まで学んできた英文法や単語を再確認し整理したうえで、それを活用して医療分野の英文を読めるようにする。				
行動目標	１）構造に着目し英文を読解できるようになる。 ２）医療英語の表現に慣れる。 ３）医療英語の単語を増やす。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	小テスト（50%）：ほぼ毎回単語テストを行う 期末試験（50%）：学期末に実施する フィードバック法：必要に応じて授業の前後またはメールにて個別に行う				
教科書	学生のための カレントメディカルイングリッシュ（第4版）、飯田 恭子 / マーシャル スミス、（医学書院）				
参考書等	英和辞典として『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）を推奨				
事前準備 受講要件等	１）Moodleに掲載されている資料を確認しておく。 ２）授業範囲の英文を一通り読み、和訳を作成しておく。 ３）各章末の「Vocabulary」の単語を確認しておく。				
オフィスアワー（曜日／時間）	水曜日（授業前後）				
SDGsとの関連	3,4,5				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	Allergy	□ ガイダンスおよび英文読解の方法の概説 １）学習課題「Case Study 1」の解説 ２）単語テスト 〔予習〕 １）「Case Study 1」を一通り読み、和訳を作成しておく。 ２）　章末の「Vocabulary」の単語を確認しておく。 〔復習〕 授業を参考に予習で作成した和訳を修正する。	鶴
2	Respiratory System	１）学習課題「Case Study 1」の解説 ２）単語テスト 〔予習〕 １）「Case Study 1」を一通り読み、和訳を作成しておく。 ２）　章末の「Vocabulary」の単語を確認しておく。 〔復習〕 授業を参考に予習で作成した和訳を修正する。	鶴
3	Gastrointestinal System	１）学習課題「Case Study 1」の解説 ２）単語テスト 〔予習〕 １）「Case Study 1」を一通り読み、和訳を作成しておく。 ２）　章末の「Vocabulary」の単語を確認しておく。 〔復習〕 授業を参考に予習で作成した和訳を修正する。	鶴
4	Urinary System	１）学習課題「Case Study 1」の解説 ２）単語テスト【お休み】 〔予習〕 １）「Case Study 1」を一通り読み、和訳を作成しておく。 ２）　章末の「Vocabulary」の単語を確認しておく。【お休み】	鶴

		〔復習〕 授業を参考に予習で作成した和訳を修正する。	
5	Life-style Related Disease	１）学習課題「Case Study 1」の解説 ２）単語テスト 〔予習〕 １）「Case Study 1」を一通り読み、和訳を作成しておく。 ２）　章末の「Vocabulary」の単語を確認しておく。 〔復習〕 授業を参考に予習で作成した和訳を修正する。	鶴
6	Psychiatry	１）学習課題「Case Study 1」の解説 ２）単語テスト 〔予習〕 １）「Case Study 1」を一通り読み、和訳を作成しておく。 ２）　章末の「Vocabulary」の単語を確認しておく。 〔復習〕 授業を参考に予習で作成した和訳を修正する。	鶴
7	Infections	１）学習課題「Case Study 2」の解説 ２）単語テスト 〔予習〕 １）「Case Study 2」を一通り読み、和訳を作成しておく。 ２）　章末の「Vocabulary」の単語を確認しておく。 〔復習〕 授業を参考に予習で作成した和訳を修正する。	鶴
8	Endocrine System	１）学習課題「Case Study 1」の解説 ２）単語テスト 〔予習〕 １）「Case Study 1」を一通り読み、和訳を作成しておく。 ２）　章末の「Vocabulary」の単語を確認しておく。 〔復習〕 授業を参考に予習で作成した和訳を修正する。	鶴
9	Reproductive System	１）学習課題「Case Study 1」の解説 ２）単語テスト 〔予習〕 １）「Case Study 1」を一通り読み、和訳を作成しておく。 ２）　章末の「Vocabulary」の単語を確認しておく。 〔復習〕 授業を参考に予習で作成した和訳を修正する。	鶴
10	Cardiovascular System	１）学習課題「Case Study 1」の解説 ２）単語テスト 〔予習〕 １）「Case Study 1」を一通り読み、和訳を作成しておく。 ２）　章末の「Vocabulary」の単語を確認しておく。 〔復習〕 授業を参考に予習で作成した和訳を修正する。	鶴
11	Cranial Nerve	１）学習課題「Case Study 1」の解説 ２）単語テスト 〔予習〕 １）「Case Study 1」を一通り読み、和訳を作成しておく。 ２）　章末の「Vocabulary」の単語を確認しておく。 〔復習〕 授業を参考に予習で作成した和訳を修正する。	鶴
12	Musculoskeletal System	１）学習課題「Case Study 1」の解説 ２）単語テスト 〔予習〕 １）「Case Study 1」を一通り読み、和訳を作成しておく。 ２）　章末の「Vocabulary」の単語を確認しておく。 〔復習〕 授業を参考に予習で作成した和訳を修正する。	鶴
13	Abuse	１）学習課題「Reading Comprehension」の解説 ２）単語テスト 〔予習〕	鶴

		１）「Reading Comprehension」を一通り読み、和訳を作成しておく。 ２） 章末の「Vocabulary」の単語を確認しておく。 〔復習〕 授業を参考に予習で作成した和訳を修正する。	
14	Advances of Medical Science	１）学習課題「Case Study 1」の解説 ２）単語テスト 〔予習〕 １）「Case Study 1」を一通り読み、和訳を作成しておく。 ２） 章末の「Vocabulary」の単語を確認しておく。 〔復習〕 授業を参考に予習で作成した和訳を修正する。	鶴
15	Radiotherapy	１）学習課題「Case Study 1」の解説 ２）単語テスト【お休み】 〔予習〕 １）「Case Study 1」を一通り読み、和訳を作成しておく。 ２） 章末の「Vocabulary」の単語を確認しておく。【お休み】 〔復習〕 授業を参考に予習で作成した和訳を修正する。	鶴

授業科目	インタラクティブ・イングリッシュⅠ	科目ナンバリング	N-13-06-D,N-13-07-D		
授業科目（英）	Interactive English Ⅰ				
教員名	◎スミス朋子（兼担）、藤枝美穂（兼担）、小林道太郎				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1-4
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	自由	授業形態	講義		
一般目標	この科目では，少人数のクラスでネイティブスピーカー講師との英語を用いたコミュニケーションをもとに、異文化や多様性を理解することを目的とする。具体的には、英語を聞くことと話すことに重点を置き，特に相手と英語で「やりとり（interaction）」するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。また，医・薬・看３学部の学生が同じクラスで受講し，少人数でグループワークを行うことにより，医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識する。				
行動目標	１．我が国における多文化共生について説明できる。 ２．英語でのコミュニケーションの基礎となる interaction の基本的な姿勢を獲得できる。 ３．聞き取れない場合の対処やあいづちなど，必要に応じて会話を継続するための方略を適切に使うことができる。 ４．身近なトピック（学生生活，趣味，など）について，簡単な英語を使って意見を表明し，情報を交換することができる。 ５．医療従事者にとって必要なチームワークを認識することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探求心、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	事前課題（30%）、授業内課題（40%）、レポート（30%） 課題のフィードバック等は、原則授業内に行う。レポート評価に関しては希望者に開示する。				
教科書	クラスごとに所定のテキストを使用して授業を行うため、クラスごとに授業計画等は多少異なる。詳細はガイダンスで示すが、Class1の授業計画を参考として記載する。 Viewpoints: Intermediate Book 1, ALC Press Inc. World Voices 3, ABAX ELT Publishing				
参考書等	学習の進行に合わせて随時紹介する				
事前準備 受講要件等	ネイティブスピーカー講師による少人数授業で、Zoomを使ったリアルタイムのオンライン授業とする。 ペアワークなどのアクティブラーニング活動を行う。 1）少人数授業のため、多数の受講希望者があった場合は抽選により受講者を決定する。 2）受講生をレベル分けしてクラスを編成するため、受講前に英語スピーキングテスト（TSST: Telephone Standard Speaking Test）を実施する。 3）各講義前に提示された課題を行ってから講義に臨むこと。				
オフィスアワー（曜日／時間）	担当教員　Email 看護学部：小林道太郎　micihtaro.kobayashi@ompu.ac.jp				
SDGsとの関連	3, 4, 10				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
5/18	インタラクティブ・イングリッシュ：自己紹介（Unit 1)	アクティブ・コミュニケーションの意義とアクティブ・リスニングに焦点を当てたテクニックを理解する。 予習：テキストP. 4を用いて、他の受講生に自分のことを英語で紹介できるように準備する。（目安学習時間：1時間） 復習：テキストP. 73を用いて、講義内の講師からのフィードバックをもとに英語学習の目標をクラスメートに共有できるようにまとめる。（目安学習時間：1時間）	スミス、藤枝、小林
5/18	比較と対照：日本の文化（Unit 2）	日本の文化や日常生活というトピックで、英語を用いて簡単に分かりやすく説明することができる。効果的に比較・対照に用いる言い回しを学ぶ。 予習：テキストP. 10を用いて、他の受講生に英語で日本について説明するために質問リストを準備する。（目安学習時間：1時間） 復習：テキストP. 74のトピックを選び、Unit2で学んだ方法を使って日本についての説明をまとめる。（目安学習時間：1時間）	スミス、藤枝、小林
5/25	賛成と反対：自由時間の過ごし方（Unit 3）	自由時間の過ごし方というトピックで、英語を用いて自分について説明したり、賛成意見や反対意見、その理由を述べるのに必要なスキル	スミス、藤枝、小林

		を習得する。 予習：テキストP. 16を用いて、自分の趣味について他の受講生に英語で紹介できるように準備する。（目安学習時間：1時間） 復習：テキストP. 75を用いて、講義内の講師からのフィードバックをもとに、Unit3で学んだ言い回しを用いて意見をまとめる。（目安学習時間：1時間）	
5/25	アクティブリスニング：音楽（Unit 6)	音楽というトピックで、話題に興味を示し、関連する質問をするなどアクティブリスニング に必要なスキルを習得する。 予習：テキストP. 34を用いて、アクティブリスニングの方法を考える。（目安学習時間：1時間） 復習：テキストP. 78を用いて、講義内の講師からのフィードバックをもとに、一番好きな外国のミュージシャンやバンドを紹介できるようにまとめる。（目安学習時間：1時間）	スミス、藤枝、小林
6/22	説得力のある説明：旅行（Unit 7）	旅行というトピックで、説得力のある明確なアイデアで相手を納得させ、自分のアイデアを裏付けるためにさまざまな種類の証拠を用いるスキルを習得する。 予習：テキストP. 40を用いて、他の受講生に最適な旅行先について英語で紹介できるように準備する。（目安学習時間：1時間） 復習：テキストP. 79を用いて、講義内の講師からのフィードバックをもとに、お勧めの旅行先もしくはお勧めしない旅行先についての発表準備をする。（目安学習時間：1時間）	スミス、藤枝、小林
6/22	相談：学習習慣（Unit 8）	学習習慣というトピックで、自分の学習習慣や課題を他の人に話して、問題を克服するためのアドバイスを得る時に必要なスキルを習得する。 予習：テキストP. 46を用いて、他の受講生に自分が受講している授業の一つの問題点を英語で説明できるように準備する。（目安学習時間：1時間） 復習：テキストP. 80を用いて、講義内の講師からのフィードバックをもとに、上述の問題点を克服するための方法について発表できるようにまとめる。（目安学習時間：1時間）	スミス、藤枝、小林
6/29	討論：ソーシャルメディア（Unit 9）	ソーシャルメディアのトピックで、その使われ方、メリットやデメリット、潜在的なリスクについて討論を行うのに必要なスキルを習得する。 予習：テキストP. 52を用いて、他の受講生と自分のソーシャルメディアでの習慣や、自分の状況について英語で討論できるように準備する。（目安学習時間：1時間） 復習：テキストP. 81を用いて、講義内の講師からのフィードバックをもとに、ソーシャルメディアが世の中を良くしたか、悪くしたかについて発表できるようにまとめる。（目安学習時間：1時間）	スミス、藤枝、小林
6/29	ブレーンストーミング：大学生活（Unit 10）	大学生活というトピックで、グループで問題を紹介し、解決策を英語でブレーンストーミングするスキルを習得する。 予習：テキストP. 58を用いて、自分の大学の良い点と悪い点について他の受講生に英語で説明できるように準備する。（目安学習時間：1時間） 復習：テキストP. 82を用いて、講義内の講師からのフィードバックをもとに、大学生活の一番の問題点について英語で発表できるようにまとめる。（目安学習時間：1時間） 8回の学習の振り返りをレポートにまとめて提出する。提出方法や期限については別途通知する。	スミス、藤枝、小林

授業科目	インタラクティブ・イングリッシュⅡ	科目ナンバリング	N-13-07-D,N-13-08-D		
授業科目（英）	Interactive English Ⅱ				
教員名	◎スミス朋子（兼担）、藤枝美穂（兼担）、小林道太郎				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1-4
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	自由	授業形態	講義		
一般目標	この科目では，少人数のクラスでネイティブスピーカー講師との英語を用いたコミュニケーションをもとに、異文化や多様性を理解することを目的とする。具体的には、英語を聞くことと話すことに重点を置き，特に相手と英語で「やりとり（interaction）」するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。また，医・薬・看３学部の学生が同じクラスで受講し，少人数でグループワークを行うことにより，医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識する。				
行動目標	１．我が国における多文化共生について説明できる。 ２．英語でのコミュニケーションの基礎となる interaction の基本的な姿勢を獲得できる。 ３．聞き取れない場合の対処やあいづちなど，必要に応じて会話を継続するための方略を適切に使うことができる。 ４．医療場面において，英語を使って意見を表明し，情報を交換することができる。 ５．医療従事者にとって必要なチームワークを認識することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探求心、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	事前課題（30%）、授業内課題（40%）、レポート（30%） 課題のフィードバック等は、原則授業内に行う。レポート評価に関しては希望者に開示する。				
教科書	Medical English Clinic，西原俊明，西原真弓，Tony Brown，センゲージ ラーニング株式会社				
参考書等	学習の進行に合わせて随時紹介する				
事前準備 受講要件等	ネイティブスピーカー講師による少人数授業で、Zoomを使ったリアルタイムのオンライン授業とする。 ペアワークなどのアクティブラーニング活動を行う。 1）少人数授業のため、多数の受講希望者があった場合は抽選により受講者を決定する。 2）受講生をレベル分けしてクラスを編成するため、受講前に英語スピーキングテスト（TSST: Telephone Standard Speaking Test）を実施する。 3）各講義前に提示された課題を行ってから講義に臨むこと。				
オフィスアワー （曜日／時間）	担当教員　Email 看護学部：小林道太郎　michitaro.kobayashi@ompu.ac.jp				
SDGsとの関連	3, 4, 10				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
10/5	インタラクティブ・イングリッシュとは（オンラインワークシート）	医療場面におけるアクティブ・コミュニケーションの意義とアクティブ・リスニングに焦点を当てたテクニックを理解する。 予習：オンラインワークシートを用いて、他の受講生に自分のことを英語で紹介できるように準備する。（目安学習時間：１時間） 復習：オンラインワークシートを用いて、講義内の講師からのフィードバックをもとに、自分自身に最近起こった変化について英語で説明できるようにまとめる。（目安学習時間：１時間）	スミス、藤枝、小林
10/5	説明と情報収集：初診と問診表（Unit 1)	初診と問診表というトピックで、英語を用いて初診時の説明と情報収集ができるようにする。 予習：テキストP. 10-11のReading Activityを用いて、英語での問診票の質問内容について理解する。（目安学習時間：１時間） 復習：テキストP. 10のListening Activityを用いて、初診時の問診について英語で行えるようにまとめる。（目安学習時間：１時間）	スミス、藤枝、小林
10/12	質問と応答：診察室でのコミュニケーション（Unit 2)	診察室というトピックで、診察に関わる基本的な質問や応答を英語で表現、理解できるようにする。 予習：テキストP. 14の1Reading Activityを用いて、ノロウィルスについて理解し英語で話ができるように準備する。（目安学習時間：１時間） 復習：テキストP. 14のListening Activityを用いて、診察に関わる基本的な質問や応答を英語で表現、理解できるようにまとめる。（目安学習時間：１時間）	スミス、藤枝、小林

10/12	的確な説明Ⅰ：疾患の症状と処置（Unit 3）	感染症というトピックで、感染症の症状や処置、薬の副作用について英語で説明、理解できるようにする。 予習：テキストP. 18の1Reading Activityを用いて、タミフルについて理解し、期待される治療効果と潜在的な合併症・リスクについて英語で話せるよう準備する。（目安学習時間：１時間） 復習：テキストP. 18のListening Activityを用いて、感染症の症状や処置、薬の副作用について英語で説明できるようにまとめる。（目安学習時間：１時間）	スミス、藤枝、小林
10/26	的確な説明Ⅱ：薬局にいく（オンラインワークシート）	薬局というトピックで、薬局で処方薬を買う際に必要な症状の説明や応答を英語でやりとりできる。 予習：オンラインワークシートの処方箋を用いて、薬局でのやりとりを英語でできるように準備する。（目安学習時間：１時間） 復習：オンラインワークシートを用いて、講義中の講師のフィードバックをもとに、他の治療についての説明できるようにまとめる。（目安学習時間：１時間）	スミス、藤枝、小林
10/26	的確な説明Ⅲ：怪我の状態と処置（Unit 10）	怪我というトピックで、怪我の処置、薬の服用について英語で説明、理解できるようにする。 予習：テキストP. 46の1Reading Activityを用いて、ウォーキングの効果について理解し英語で話ができるように準備する。（目安学習時間：１時間） 復習：テキストP. 46のListening Activityを用いて、怪我の状態や処置、薬の服用に関わる基本的な質問や応答を英語で表現、理解できるようにまとめる。（目安学習時間：１時間）	スミス、藤枝、小林
11/16	プレゼンテーション：日本の医療（オンラインワークシート）	日本の医療の現状と課題について英語で議論できるようになる。 予習：オンラインワークシートを用いて、日本の医療の現状と課題について英語で議論できるように準備する。（目安学習時間：１時間） 復習：オンラインワークシートを用いて、講義中の講師のフィードバックをもとに、日本の医療の現状と課題について問題に対処できると思われる政策変更について英語で説明できるようにまとめる。（目安学習時間：１時間）	スミス、藤枝、小林
11/16	まとめ（オンラインワークシート）	これまでの講義をもとに、コミュニケーション力、多文化共生、多様性理解について学ぶ。 予習：オンラインワークシートを用いて、このコースで身につけたスキルを他の学生に説明する準備をする。（目安学習時間：１時間） 復習：講師からのフィードバックをもとに、インタラクティブコミュニケーションに必要なスキルを確認する。（目安学習時間：１時間） 8回の学習の振り返りをレポートにまとめて提出する。提出方法や期限については別途通知する。	スミス、藤枝、小林

授業科目	からだの仕組みと働きⅠ（基礎）	科目ナンバリング	N-21-01-C		
授業科目（英）	Human Anatomy and Physiology Ⅰ				
教員名	◎小野　富三人（兼担）、近藤　洋一（兼担）、平田 あずみ（兼担）、杉山　紀之（兼担）、二木 杉子（兼担）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	からだの仕組みと働き（解剖生理学）を学ぶ目的は看護の対象である病的状態におちいった人々を理解するために、人体の正常な状態を学ぶことである。				
行動目標	本科目(基礎)では、人体解剖実習見学を行い、主な内臓の位置関係・構造、筋肉の構造などを学ぶと同時に、ご遺体を通して生命の尊さを学び、医療者としての責任を自覚する。器官系の概要と、解剖学的基礎知識の習得、さらに各器官系の機能を理解して生理学的知識を習得できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究力、専門職としての実践力、自己研鑽力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	受講態度(10%)および試験(90%)で評価する。　試験については点数および正解を公表する。				
教科書	「系統看護学講座」専門基礎分野　解剖生理学　医学書院（デジタル）				
参考書等	図解ワンポイントシリーズ　生理学　（医学芸術社）、からだの地図帳　（講談社） その他授業中随時紹介する。				
事前準備 受講要件等	解剖生理学の内容は生物学と重複する部分がある。生物学に自信がない場合は、選択科目である生物学を履修すること。また、全ての科目に共通することであるが、看護に必要な全てを授業で説明することは不可能であり自学自習が必須であり、試験には授業外の内容も出題する場合がある。				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜日午後５時ー６時　（生理学教室） 火曜日午後５時ー６時　（解剖学教室）				
SDGsとの関連	4				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1. 4月10日	解剖学総論、組織学総論	解剖生理学のための基礎知識（教科書第1章 A, B, C1, C5, C6） 予習：教科書P. 9の図1-1「人体の階層性」が何を意味するのか調べる。（目安予習時間：45分） 復習：器官系および組織の種類について説明できる。（目安予習時間：45分）	近藤 洋一
2. 4月17日	生理学総論	細胞内小器官、電解質、pH、体温、睡眠 予習：教科書第1章C、第8章K、第9章C　生命と恒常性の意味を考える。(目安予習時間：４５分) 復習：電解質と膜電位の関係について説明できる。(目安復習時間：４５分)	小野 富三人
3. 4月24日	循環器系Ⅰ	循環器系の概要 予習：教科書第4章 A 循環器系の構成、B 心臓の構造 について調べる。（目安予習時間：45分） 復習：体循環と肺循環、およびそれに関わる心臓の各部位について説明できる。（目安予習時間：45分）	二木 杉子
4. 5月1日	循環器系Ⅱ	心臓のはたらきと血管系の概要 予習：教科書第4章 C 心臓の拍出機能、D 末梢循環系の構造 について調べる。（目安予習時間：45分） 復習：心臓の拍動の仕組みと心電図の意味、主な血液循環の経路と動脈と静脈の違いを説明できる。（目安予習時間：45分）	二木 杉子
5. 5月8日	循環器系Ⅲ	血液循環の仕組みとリンパ系 予習：教科書第4章 E 血液の循環の調節、F リンパとリンパ管 について調べる。（目安予習時間：45分） 復習：血液循環の調節の仕組み、血圧の意味、リンパ系の役割を説明できる。（目安予習時間：45分）	二木 杉子
6. 5月15	解剖実習にむけて	実習見学で学ぶこと（臓器の構造・位置関係） 予習：教科書全般の図譜を参照して主な臓器の名称およびそれらの位	平田 あずみ

日		置を覚える。教科書第11章について調べる。（目安予習時間：45分） 復習：図譜をみて各臓器の名称および位置関係が説明できる。体表から触知できる骨格部分・筋・動脈・静脈について説明できる。（目安復習時間：45分） 解剖実習日：5/20（月）9:00-12:10	
7. 5月22日	呼吸器系I	気道および肺胞の構造と機能。胸腔内の圧力と、吸気、呼気について。 予習：教科書第3章　A,B 呼吸器の意味を調べる。(目安予習時間：４５分) 復習：吸気、呼気時に起こることが説明できる。(目安復習時間：４５分)	小野 富三人
8. 5月29日	呼吸器系Ⅱ	肺胞でのガス交換。体内での酸素、二酸化炭素の運搬。 予習：教科書第3章　Bガス交換、酸素・二酸化炭素の運搬の意味を調べる。(目安予習時間：４５分) 復習：気道、肺胞、血液のガスの分圧と移動が説明できる。(目安復習時間：４５分)	小野 富三人
9. 6月5日	呼吸器系Ⅲ	人体はどのように酸素、二酸化炭素の状態を感知するか。またそれに基づき呼吸の調節をどのように行うか。 予習：教科書第3章　B呼吸調節の意味を調べる。(目安予習時間：４５分) 復習：異常な呼吸パターンがどのように起こるか説明できる。(目安復習時間：４５分)	小野 富三人
10. 6月12日	血液系Ⅰ	血液中の成分。赤血球と酸素の運搬。 予習：教科書第3章　C血液の成分と機能、血液型の意味を調べる。(目安予習時間：４５分) 復習：血球と血漿成分の機能が説明できる。(目安復習時間：４５分)	小野 富三人
11. 6月19日	血液系Ⅱ	白血球と免疫の仕組み。自然免疫と獲得免疫。 予習：教科書第３章　C,生体の防御機構の意味を調べる。(目安予習時間：４５分) 復習：人体がどのように異物を認識して排除するかが説明できる。(目安復習時間：４５分)	小野 富三人
12. 6月26日	血液系Ⅲ	血液を凝固させる仕組み 予習：教科書第3章C 止血機構の意味を調べる。（目安予習時間45分） 復習：血小板と凝固因子の作用が説明できる。（目安予習時間45分）	小野 富三人
13. 7月3日	消化器系Ⅰ	食欲、咀嚼、嚥下 教科書第２章Ａ口・咽頭・食道の構造と機能（p 56～p 67） 予習：咀嚼と嚥下の意味を調べる。（目安予習時間：45分） 復習：食物が胃に移動するまでに通過する構造と機構について説明できる。（目安復習時間：45分）	杉山　紀之
14. 7月10日	消化器系Ⅱ	消化と吸収 教科書第２章Ｂ腹部消化管の構造と機能（p 67～p 84） 予習：消化と吸収の意味を調べる。（目安予習時間：45分） 復習：胃・小腸・大腸の構造と機能について説明できる。（目安復習時間：45分）	杉山　紀之
15. 7月17日	消化器Ⅲ	消化と吸収 教科書第２章Ｃ膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能（p84～p 90） 教科書第２章Ｄ腹膜（p90～p 93） 予習：膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能を調べる。（目安予習時間：45分） 復習：膵液・胆汁の流路と働き、肝臓の機能について説明できる。（目安復習時間：45分）	杉山　紀之

授業科目	からだの仕組みと働きⅡ（発展）	科目ナンバリング	N-21-02-C		
授業科目（英）	Human Anatomy and Physiology II				
教員名	◎安田稔人（医師実務経験者）、津田泰宏（医師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	「からだの仕組みと働き1(基礎)」で学んだ各器官系が正常に機能するために、さらに別の器官系がはたらいている。泌尿器系は水分や老廃物を排出するだけでなく体液中の電解質濃度を調節する。神経系・内分泌系・免疫系は各器官系を調節して個体の生命を維持している。運動器の役割は体幹や四肢の機能を健全に保ち、日常生活動作や生活の質を維持する。生殖器系は種を維持するために妊娠・出産を担う。この科目(発展)では,これらの器官系の解剖生理学的知識を習得し、さらに生殖器系から発展して発生学的知識を習得することを目的とする。				
行動目標	各器官系相互の連携と、その異常が病的状態や死を引き起しうることを理解することを目標とする。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	予習として記入してきた事前資料の正解を伝え解説する。 授業評価は授業中の質問への回答状況を含む受講態度(20%)および試験(80%)による。				
教科書	系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能１「解剖生理学」、坂井建雄他、医学書院（デジタル）				
参考書等	医療・福祉系学生のための専門基礎科目改訂二版　河野公一・他　（金芳堂）				
事前準備 受講要件等	第一回目の授業で冊子を配布する。授業は講義形式であるが、配布した冊子に講義中に示す重要語句を記入していく形で進行するため、配布冊子と教科書で予習をしておくことが望ましい。また授業支援システムやクリッカーなどを用いて随時問題を出し、理解状況を把握する（双方向授業）。試験は基本的に授業を行った範囲から出題するが、関連する「からだの仕組みと働き1」や授業外の内容も出題する場合がある。				
オフィスアワー（曜日／時間）	授業の前後に質問して下さい。				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	体液	体液について学び、前期に学習した人体の構造全般、循環系・呼吸器系・消化器系の機能と後期に学ぶ神経系などとの関連性を理解する。 授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：「からだの仕組みと働きⅠ」の学習項目を確認して復習しておく。 復習：教科書（系統看護学講座　専門基礎　解剖生理学　以後の教科書はこれを指します）のp16-27, 230-237を読んで知識を再確認する。	津田、安田
2	泌尿器系1	泌尿器系を構成する器官について学び、尿が生成される仕組みを理解する。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：配付資料「泌尿器系」前半の空欄をわかる範囲で記入する。 復習：教科書p210-221を読んで知識を再確認する。	津田
3	泌尿器系2	尿生成と排尿の仕組みを学び、ホルモンと神経系による調節について理解する。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：配付資料「泌尿器系」後半の空欄をわかる範囲で記入する。 復習：教科書p222-230, 258-259を読んで知識を再確認する。	津田
4	内分泌系1	内分泌器官の構造と、それぞれから分泌されるホルモンを学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：配付資料「内分泌系」前半の空欄をわかる範囲で記入する。 復習：教科書p249-273を読んで知識を再確認する。	津田
5	内分泌系2	ホルモンが、基礎代謝・体液の量・体液中の電解質濃度などを調節する仕組みを理解する。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：配付資料「内分泌系」後半の空欄をわかる範囲で記入する。 復習：教科書p273-280を再読して知識を再確認する。	津田

6	生殖器系	女性生殖器・男性生殖器の構造と機能を学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：配付資料「生殖器系系」前半の空欄をわかる範囲で記入する。 復習：教科書p461-475を読んで知識を再確認する。	津田
7	女性の性周期	ホルモンによる卵巣・子宮の周期的変化を学び,受精・妊娠・出産との関係を理解する。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：配付資料「生殖器系系」後半の空欄をわかる範囲で記入する。 復習：教科書p475-489を読んで知識を再確認する。	津田
8	発生と加齢、老化	受精卵が胎児へ成長する過程と分娩・産褥、加齢に伴って人体に生じる変化を学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：配付資料「発生と成長・加齢と老化」の空欄をわかる範囲で記入する。 　　また、神経系のところにも少し入る予定である。 復習：教科書p489-499を読んで知識を再確認する。	津田
9	神経系1	神経を構成する細胞、中枢神経と末梢神経、脳脊髄液の循環など神経系の概要を学ぶ。脳および脳神経の名称と機能を学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：配付資料「神経系：概要」「中枢神経（脳）」の空欄をわかる範囲で記入する。復習：教科書p359-383を読んで知識を再確認する。	津田
10	神経系2	脊髄および末梢神経の名称と機能を学ぶ。 末梢神経には体性神経系と自律神経系があり、体性神経系には感覚神経と運動神経が、自律神経系には交感神経系と副交感神経系がある。神経系の分類とそれぞれと役割を学ぶ。授業資料に沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：配付資料「中枢神経（脊髄）」、「末梢神経」の空欄をわかる範囲で記入する。 復習：教科書p383-397を読んで知識を再確認する。	安田
11	運動器系1	運動器系の概要、主要な骨の名称と機能、関節の構造と機能、関節運動の名称、関節可動域を学ぶ。授業資料に沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：配付資料「骨格」「関節」の空欄をわかる範囲で記入する。 復習：教科書p282-355を読んで知識を再確認する。	安田
12	運動器系2	主要な筋肉の名称と機能解剖学、筋収縮の機序を学ぶ。筋肉が収縮すると体はどのように動くのかを考えながら学ぶ。授業資料に沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：配付資料「筋肉」の空欄をわかる範囲で記入する。 復習：教科書p282-355を読んで知識を再確認する。	安田
13	感覚器系	眼球・耳・鼻などの感覚器の構造を学び、感覚神経を介して情報を認識する仕組みを理解する。授業資料に沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：配付資料「感覚器系」の空欄をわかる範囲で記入する。 復習：教科書p397-432を読んで知識を再確認する。	安田
14	生体防御機構	皮膚・粘膜の構造と機能、骨髄・リンパ節・脾臓・胸腺など造血器系にかかわる器官の構造と機能学び、血液型を理解する。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：配付資料「感覚器系」のH．皮膚・粘膜の構造と機能の空欄、「造血器系」の空欄をわかる範囲で記入する。 復習：教科書p435-450を読んで知識を再確認する。	津田
15	まとめ	今までの内容を、今後学ぶ「病気の成り立ち」、「病気の診断・治療」につなげられるようにまとめと復習を行う。 予習：今までの配付資料に目を通しておく。 復習：重要ポイントについて整理してまとめておく。	安田、津田

授業科目	感染と免疫	科目ナンバリング	N-21-03-C		
授業科目（英）	Infection and Immunity				
教員名	◎中野隆史（兼担）（医師，社会医学系指導医・専門医，抗菌化学療法認定医，インフェクション・コントロール・ドクター（ICD）） 鈴木陽一（兼担）（インフェクション・コントロール・ドクター（ICD））				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	感染症は病原微生物が増殖して細胞・個体・集団や環境へと伝染する点で、他の疾患とはとくに区別される。看護職にあるものはこれら疾患をもつ患者をケアするとともに、その伝播を予防しなければならない。本科目では原虫・真菌・細菌・ウイルス等の病原微生物の種類と一般的性質について学び、感染症の治療・予防の概略を示すとともに、宿主の感染防御機構について理解し，説明するとともに，実践できることを目標とする。				
行動目標	疾病の予防及び患者のケアに必要な感染症・病原微生物と免疫に関し，説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	受講態度10%、授業中の小テスト10%、終講時試験80%を原則とし，これら評価項目を総合的に勘案して評価する。尚，感染症アウトブレイクの影響などにより，評価配分に変更がある場合もある。 フィードバック：授業中実施する小テストは，採点し各自に返却するとともに，次回の講義で解説する。予習項目については，学生をランダムに当てて授業中に発表させ，その内容についてフィードバックすることにより，アクティブラーニングを行う。				
教科書	看護学テキストNiCE　微生物学・感染症学　中野隆史編　（南江堂）				
参考書等	病気が見える６　免疫・膠原病・感染症　中野隆史・他　監修　（メディックメディア） 薬が見える３　中野隆史・他　監修　（メディックメディア） ジーサプリ・イメージできる臨床微生物・医動物　中野隆史編著　（メディカ出版）				
事前準備 受講要件等	事前準備：各授業コマ開始前に必ずシラバスの予習項目について確認しておくこと。 受講要件：なし				
オフィスアワー（曜日／時間）	講義の前後(教室)ならびに開講日である水曜の午後(原則15:00～17:00，総合研究棟６階・微生物学教室)。質問や追加資料等は、ホームページ及び電子メールを適宜利用する(URL、メールアドレスは初回講義時に伝達する)。				
SDGsとの関連	３、４				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	導入・微生物学総論	感染症・微生物と看護、宿主・病原体関係 予習：原核細胞と真核細胞の違いについて，事前に調べておくこと。 復習：スライド内容を配付するのでその内容について復習すること。	中野
2	微生物の種類と一般的性質	原虫・真菌・細菌・ウイルスの一般的性質 予習：前回のスライド内容について国立感染症研究所等のホームページで調べること（課題を与える）。 復習：配付するプリントの内容を復習すること。	中野
3	免疫の基礎	自然免疫と獲得免疫、液性免疫と細胞性免疫 予習：生物履修者は免疫について，非履修者は血液に含まれる細胞，とくに白血球の種類について調べてくること。 復習：プリントを配付するのでその内容について復習すること。	鈴木
4	免疫の応用	能動免疫と受動免疫、ワクチンと血清療法 予習：前回配付したプリントのつづきを調べておくこと。 復習：プリントに印刷された課題について自分で調べること。	鈴木
5	感染免疫	微生物に対する免疫 予習：教科書の該当ページを授業中に伝達するのでその内容をまとめておくこと。 復習：プリントに印刷された課題について自分で調べること。	鈴木
6	感染症総論	感染症の定義、病原微生物の病原メカニズム、感染の三要素、感染経路・侵入門戸と感染症	中野

		予習：教科書の該当ページを事前に連絡するのでその内容をまとめておくこと。 復習：スライド配付資料を配付するので，その内容を復習すること。	
7	感染症の診断・治療	感染症の診断、感染症の治療 予習：教科書該当ページを前回講義で伝達するので，その内容をまとめておくこと。 復習：スライド配付資料を配付するので，内容についてまとめておくこと。	中野
8	感染症の予防・感染制御、まとめ	感染の三要素からみた感染対策、感染制御(infectioncontrol)という考え方、総括 予習：教科書の該当ページを前回講義で伝達するのでその内容についてまとめておくこと。 復習：スライド配付資料を配付するので，その内容をまとめる。	中野 鈴木

授業科目	からだと栄養	科目ナンバリング	N-21-04-C		
授業科目（英）	Biochemistry				
教員名	◎矢野貴人（兼担）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	人間のあらゆる生命現象を理解するための基礎をなす、人体を構成する化学物質の諸性質・機能と物質代謝について理解し、説明できるようになることを目的とする。				
行動目標	本科目では、基本的な生体構成物質について、その体内で果たす役割や分解・生合成の過程を理解し、さまざまな生理現象や健康・病態との関わりについて説明できるようになることを目標とする。 1. 糖質の生体内での機能と代謝について説明できる。 2. 脂質の生体内での機能と代謝について説明できる。 3. アミノ酸とタンパク質の生体内での機能と代謝について説明できる。 4. 核酸の生体内での機能と代謝について説明できる。 5. ビタミンの生体内での機能について説明できる。 6. ホルモンの生体内での機能と代謝について説明できる。 7. 物質代謝と様々な疾患との関連について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	筆記試験による（100%）。 試験の終了後に解説を行う。				
教科書	系統看護学講座・専門基礎分野・人体の構造と機能[2]「生化学」　畠山　鎮次　医学書院（デジタル）				
参考書等	随時紹介する。				
事前準備 受講要件等	「化学」、「生物学」を修得していることが望ましい。事前に教科書の該当箇所を読んでおく。				
オフィスアワー（曜日／時間）	月曜日12:00～13:00				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	生化学の成り立ち、糖質	生化学の成り立ちと医療との関連、糖質の種類・性質・機能 予習：代表的な糖質について調べておく。 復習：代表的な単糖、二糖、多糖を説明できる。	矢野
2	脂質	脂質の種類・性質・機能 予習：代表的な脂質について調べておく。 復習：脂肪酸、脂肪、リン脂質、コレステロール、リポタンパク質を説明できる。	矢野
3	タンパク質とアミノ酸	タンパク質とアミノ酸の種類・性質・機能 予習：20種類のアミノ酸と代表的なタンパク質について調べておく。 復習：タンパク質の立体構造と変性を説明できる。	矢野
4	無機質、血液凝固と線溶	種々の無機質(ミネラル)の機能、血液凝固系と線溶系 予習：代表的なミネラルと血液凝固系について調べておく。 復習：代表的なミネラルの体内での働きと止血の仕組みを説明できる。	矢野
5	ホルモン	ホルモンの種類・作用機序 予習：ホルモンについて調べておく。 復習：ホルモンの受容体と細胞内情報伝達を説明できる。	矢野
6	酵素	酵素の機能・性質・反応様式 予習：酵素とは何かについて調べておく。 復習：酵素の働きの仕組みと逸脱酵素を説明できる。	矢野
7	ビタミン	ビタミンの種類・性質・機能、ビタミン欠乏症 予習：ビタミンとは何かについて調べておく。	矢野

		復習：水溶性ビタミンと脂溶性ビタミン、補酵素、代表的なビタミンの体内での働きと欠乏症を説明できる。	
8	糖質代謝	糖質の消化・吸収、エネルギー源としての利用、グリコーゲンの合成・分解、糖新生、ペントースリン酸経路 予習：糖質の代謝について調べておく。 復習：代表的な糖質代謝の生理的意義を説明できる。	矢野
9	脂質代謝	脂質の消化・吸収、脂肪酸の合成・分解、ケトアシドーシス、コレステロール、リポタンパク質 予習：脂質の代謝について調べておく。 復習：代表的な脂質代謝経路の生理的意義を説明できる。	矢野
10	タンパク質・アミノ酸代謝	タンパク質の消化・吸収、アミノ酸代謝、尿素サイクル 予習：アミノ酸の代謝について調べておく。 復習：代表的なアミノ酸代謝経路の生理的意義を説明できる。	矢野
11	核酸、核酸代謝、ポルフィリン代謝	DNAとRNA、ヌクレオチドの合成・分解、痛風、ヘムの合成・分解、黄疸 予習：ヌクレオチドとヘムについて調べておく。 復習：核酸の分解経路と痛風、ヘムの分解と黄疸の関係を説明できる。	矢野
12	遺伝情報の発現	ゲノム・遺伝子、複製・転写・翻訳、転写因子と発現調節、遺伝子修復 予習：遺伝子の転写・翻訳について調べておく。 復習：遺伝情報の発現とその調節の意義について説明できる。	矢野
13	疾患の生化学	骨粗しょう症、糖尿病、脂質異常症 予習：骨の構造、糖代謝、リポタンパク質について調べておく。 復習：本講義で学修したことをもとに、代表的な疾患の病態を説明できる。	矢野
14	総復習	用意した「学習項目」に沿って、各自総復習を行う 予習：講義資料と教科書を参考に学習項目について調べておく。 復習：学習項目の内容を説明できる。	矢野
15	まとめ	からだと栄養についてのまとめ 予習：本講義で学修したことを各自まとめておく。 復習：本講義で学修したことが今後の看護学習にどのように役立つか説明できる。	矢野

授業科目	こころの仕組みと働き	科目ナンバリング	N-21-05-C		
授業科目（英）	Clinical Psychology				
教員名	◎澤村律子（兼担）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	臨床心理学的な視点から「こころ」へのアプローチについて学習する。				
行動目標	本科目では臨床心理学的な視点から「こころ」へのアプローチについて学習する。臨床心理学の基本的理論を学ぶとともに、心理アセスメントや面接、行動変容など看護現場で必要となる臨床心理学的な知識や技法の理解・習得を目標とする。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	受講態度(20%)、および試験(80%) フィードバックは、講義中に解説を行う。				
教科書	授業ごとに資料をMoodle上に提示します。				
参考書等	学習の進行に合わせて随時紹介する				
事前準備 受講要件等	授業前にシラバスを確認し、予習課題を行う				
オフィスアワー （曜日／時間）	金曜日　16時30分～17時30分				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	臨床心理学とは	臨床心理学で何を学ぶか 予習：人を理解する時に注意することについて考えておく 復習：人を理解するための情報源についてまとめる	澤村
2	心理アセスメント	心理アセスメントの基本的知識を学ぶ 予習：心理テストについて調べる 復習：心理テストの分類、長所、短所について確認する	澤村
3	行動変容	行動変容の基本的知識を学ぶ 予習：学習理論について調べる 復習：行動変容についてまとめる	澤村
4	面接の技法1	非言語的コミュニケーションについて学ぶ 予習：非言語的コミュニケーションについて見直す 復習：非言語的コミュニケーションの重要性、特徴についてまとめる	澤村
5	面接の技法2	傾聴の技法、質問方法など言語的コミュニケーション技法について学ぶ 予習：傾聴について調べる 復習：傾聴の重要性、技法をまとめる	澤村
6	医療領域における臨床心理学1	患者の心理について学ぶ 予習：病気になった時の気持ちについて考える 復習：患者の心理についてまとめる	澤村
7	医療領域における臨床心理学2	患者のストレスとその対応について学ぶ 予習：患者のストレスについて考える 復習：患者のストレスについてまとめる	澤村
8	まとめ	1回～7回のまとめ 予習：1回～7回までの内容を確認する 復習：1回～7回までの内容をノートにまとめる	澤村

授業科目	健康科学論	科目ナンバリング	N-21-06-C		
授業科目（英）	Introduction to Health Science				
教員名	◎津田泰宏（医師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	健康レベルに応じた看護を提供する看護職として、看護学の重要な概念である「健康」を考えるために必要な基本的知識を身に付ける。				
行動目標	1. 健康な生き方について自分の考えを述べることができる。 2. 健康を促進する要因や健康に害を及ぼす要因を説明できる。 3. 健康に関連する様々な要因のつながりを説明できる。 4. グループ討議で積極的に自分の意見を述べることができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究心、多職種と連携する力、自己研鑽力、専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	学習課題についてグループ討議し、結果に対してフィードバックを行う。 評価は受講態度（グループ討議の参加度など）と学習課題のまとめ(60%）、健康マップの作成（40%）で行う。				
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　医療概論、康永秀生、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 別巻 総合医療論　医学書院（デジタル）				
参考書等	山崎喜比古・朝倉隆司 編： 新・生き方としての健康科学、有信堂				
事前準備 受講要件等	学習課題を確認し、事前学習をして授業に臨むこと。授業は前半45分は前回のグループワークのフィードバックとその回のテーマに関する講義を行い、後半は講義の最後に出すテーマに対してグループ討議を行う。授業支援システムも活用する。感染対策が必要な状況の場合にはZoom等を用いてオンラインで講義とグループワークを行う場合もある。				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜日：13：00～14：00				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	生涯発達と健康・社会・生き方	健康とは何か、健康な社会とは何か。授業は前半45分は講義を行い、後半は講義の最後に出すテーマに対してグループディスカッションを行う。 予習：シラバスを読んでくる。そして教科書（系統看護学講座　医学概論）の p12-17を読み、健康についての自分の考えをノートなどにまとめて記載しておく。 復習：グループで討議した内容をふまえて、健康について自分の考えをまとめる。	津田
2	ストレスと健康、こころの健康と病気	心と健康との関係について。授業は前半45分は前回のグループディスカッションのフィードバックと今回のテーマに関する講義を行い、後半は講義の最後に出すテーマに対してグループディスカッションを行う。 予習：デジタル教科書 系統看護学講座 別巻 総合医療論のp93-98を読み、心の健康についてノートなどに自分の考えをまとめて記載しておく。 復習：心と健康の関係について、グループ討議の結果もふまえてまとめる。	津田
3	食生活、身体活動と健康	食事、運動と健康との関係について。授業は前半45分は前回のグループディスカッションのフィードバックと今回のテーマに関する講義を行い、後半は講義の最後に出すテーマに対してグループディスカッションを行う。 予習：教科書（系統看護学講座　医学概論）の p90-101-17を読み、生活習慣病についての自分の考えをノートなどにまとめて記載しておく。 復習：グループで討議した内容をふまえて、生活習慣病や予防医学について自分の考えをまとめる。	津田

4	薬品、薬物と健康 生活の場と健康	薬品、嗜好品と健康との関係、生活の場と健康の関係について。授業は前半45分は前回のグループディスカッションのフィードバックと今回のテーマに関する講義を行い、後半は講義の最後に出すテーマに対してグループディスカッションを行う。 予習：教科書（系統看護学講座　医学概論）の p155-165を読み、薬害についての自分の考えをノートなどにまとめて記載しておく。 復習：グループで討議した内容をふまえて、医薬品や薬害について自分の考えをまとめる。	津田
5	病、障害の体験 老いること、死にゆくこと	色々な病や患者に対する考え方、接し方、生きることと死ぬことのつながりなどについて。 授業は前半45分は前回のグループディスカッションのフィードバックと今回のテーマに関する講義を行い、後半は講義の最後に出すテーマに対してグループディスカッションを行う。 予習：教科書（系統看護学講座　医学概論）の p18-39を読み、老いること、死ぬことについての自分の考えをノートなどにまとめて記載しておく。 復習：グループで討議した内容をふまえて自分の考えをまとめる。	津田
6	人の移動と健康 環境・災害と健康	国境を超える人の移動と健康、災害時や環境と健康の関係について。 授業は前半45分は前回のグループディスカッションのフィードバックと今回のテーマに関する講義を行い、後半は講義の最後に出すテーマに対してグループディスカッションを行う。 予習：系統看護学講座 別巻 総合医療論の p177-182を読み、国境を越える人の動きが増加することにおける健康への影響に対する自分の考えをノートなどにまとめて記載しておく。 復習：グループで討議した内容をふまえて、健康について自分の考えをまとめる。	津田
7	先端医療、ヘルスケアシステム	移植医療、再生医療、生殖医療、遺伝子診断などとそれに関わる社会のルール 健康、医療、福祉を支える社会のしくみ 授業は前半45分は前回のグループディスカッションのフィードバックと今回のテーマに関する講義を行い、後半は講義の最後に出すテーマに対してグループディスカッションを行う。 予習：教科書（系統看護学講座　医学概論）の p166-174を読み、健康についての自分の考えをノートなどにまとめて記載しておく。 復習：グループで討議した内容をふまえて、先端医療と社会のルール、健康に関する社会の仕組みに関して整理してまとめる。	津田
8	まとめ	学習してきた知識を用いて、健康マップの作成。前回のグループディスカッションのフィードバックを行なったのちに、今回行う健康マップ作成の説明を行う。その後は各グループでグループワークとして健康マップの作成を行う。 予習：健康マップ作成のため、今までの内容に関して健康と関連付けて復習しておく。 復習：作成した健康マップを振り返り、健康に関連した様々な要因のつながりを復習し自分の知識となるようにまとめておく。	津田

授業科目	病気の成り立ち	科目ナンバリング	N-21-07-C		
授業科目（英）	Pathology				
教員名	◎津田泰宏（医師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	病気の成り立ちを理解するために病理学を中心に種々の疾患を学ぶ。「からだの仕組みと働き」で学んだ健康な人体がどのように変化することによって疾病を引き起こすのか、何故死に至るのかを理解することが本科目の目的である。				
行動目標	学習課題にあげた項目の特徴を説明でき、その知識が看護の現場において必要となる理由を考察できることを目標とする。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	受講態度(20%)および試験(80%)による。 また試験後解説を行う。				
教科書	系統看護学講座　専門基礎　疾病のなりたちと回復の促進Ⅰ「病理学」、大橋建一他、医学書院（デジタル）				
参考書等	コアテキスト１ 人体の構造と機能　第２版 編集 下正宗・他 （医学書院） コアテキスト２　疾病の成り立ちと回復の促進１　総論　下正宗・他 （医学書院）				
事前準備 受講要件等	第一回目の授業で冊子を配布する。授業は講義形式であるが、配布した冊子に講義中に示す重要語句を記入していく形で進行するため、配布冊子と教科書で予習をしておくことが望ましい。また授業支援システムやクリッカーなどを用いて随時問題を出し、理解状況を把握する（双方向授業）。試験では授業で説明した内容以外からの出題もありうるので、教科書・参考書を参考に関連する事項について広く学ぶ姿勢を持つこと。				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜日 12時10分～13時				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	概論 細胞に生じる変化	病理学と、臨床の現場で行われる病理診断について学び、本科目で習得する内容を理解する。細胞や組織に生じる変化の基本である萎縮・変性・壊死・肥大・再生などについて学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：デジタル教科書の専門基礎分野の中の系統看護学講座 解剖生理学のp22-30を読み細胞の構成要素について復習しまとめる。 復習：教科書１（系統看護学講座　病理学）p15-22と配布冊子を用いて、萎縮・変性・壊死・肥大・再生の違いを表などにしてまとめる。	津田
2	炎症１	肺炎や脳炎など重要な疾患を理解する基本となる炎症が起こる原因とその経過について学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：デジタル教科書の専門基礎分野の中の系統看護学講座 解剖生理学のp136-139, 442-444を読み血球系の種類や働きを復習しておく。 復習：教科書（系統看護学講座　病理学）p24-28と配布冊子p6, 7を用いて炎症について復習しておく。	津田
3	炎症２	炎症の分類とそれぞれの炎症によって生じる身体の異常について学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：デジタル教科書の専門基礎分野の中の系統看護学講座 解剖生理学のp97-108, 67-90を読み肺、胃、大腸、肝臓の構造を復習しておく。 復習：授業内容を振り返り、配布冊子のp８（様々な炎症性疾患）に挙げている疾患に関して、どのような炎症が生じているかを次のページの余白にまとめておく。	津田
4	腫瘍1	腫瘍とは何か、腫瘍が発生する機序、その分類、腫瘍が人体にもたらす影響などを学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：デジタル教科書の専門基礎分野の中の系統看護学講座 解剖生理	津田

		学のp45-54を読み、正常の組織分類を理解しておく。 復習：教科書（系統看護学講座　病理学）p136-142と配布冊子p15,16を用いて悪性腫瘍の特徴や分類についてまとめる。	
5	腫瘍2	胃癌や肺癌など全身の諸臓器に生じる主な腫瘍の種類と、それぞれの特徴について学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：前回授業の復習として教科書p136-143を再読し、知識をまとめておく。デジタル教科書の専門基礎分野の中の系統看護学講座 解剖生理学のp97-108, 67-90を読み肺、胃、大腸、肝臓の構造を再度復習しておく 復習：授業内容を振り返り、教科書（系統看護学講座　病理学）p143-151, 161と配布冊子p17,18を参考に授業で紹介した代表的な腫瘍に関してそれらの進展様式を調べてまとめる。	津田
6	循環障害1	体液の循環の異常によって局所に生じる現象(虚血、充血、うっ血など)について学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：デジタル教科書の専門基礎分野の中の系統看護学講座 解剖生理学のp150-186を読み循環器系の構造、体循環の動脈、静脈を再度復習しておく 復習：授業内容を振り返り、教科書（系統看護学講座　病理学）p79-82と配布冊子p11,12を参考に虚血と充血とうっ血について、血栓と塞栓について、それぞれの違いをはっきり理解しておく。	津田
7	循環障害2	全身的な循環障害(高血圧、ショック、DICなど)の原因と人体に及ぼす影響を学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：デジタル教科書の専門基礎分野の中の系統看護学講座 解剖生理学のp150-205を読み心臓の冠動脈についてや体循環について、心不全についてを復習しておく復習：授業内容を振り返り、教科書（系統看護学講座　病理学）p80-92と配布冊子p13,14を参考に、梗塞、浮腫、ショックについて病態を理解する。 配布冊子にも記載されている代表疾患として心筋梗塞、脳梗塞についてどのような疾患なのかを復習しておく。	津田
8	中間のまとめ	今までの授業は病気の成り立ちの中でも特に基本部分であり、整理して後半や病気の診断・治療の授業に結びつけられるようにまとめと復習を行う。 予習：教科書（系統看護学講座　病理学）の第2章、第5章、第9章を再読して今までの授業内容を復習しておく。 復習：細胞に生じる変化と炎症、腫瘍、循環障害について知識を再確認する。授業で代表的な疾患が出てくるので、それらについてどのような疾患なのかを各自で調べて知識を深めておく（病気の診断と治療で学ぶ際に理解しやすくなる）。	津田
9	先天異常	生下時にすでに存在している異常(遺伝子病、染色体異常、胎芽病、胎児病)を学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：からだの仕組みと働き１で使用した配布冊子やデジタル教科書の専門基礎分野の中の系統看護学講座 解剖生理学のp475-488を参考に生殖・発生や胎盤の機能の復習をしておく。 復習：授業内容を振り返り、教科書（系統看護学講座　病理学）の第8章と配布冊子p23,24を参考に遺伝子病、胎芽病、胎児病の違いについて理解をしておく。	津田
10	免疫の異常１	免疫不全およびアレルギーが生じる原因とその種類、それぞれの特徴について学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：からだの仕組みと働き１で使用した配布冊子やデジタル教科書の専門基礎分野の中の系統看護学講座 解剖生理学のp442-446を参考に免疫機構の復習をしておく。 復習：授業内容を振り返り、教科書（系統看護学講座　病理学）のp34-46と配布冊子p19を参考に免疫不全症、アレルギーのタイプについて整理してまとめる。	津田
11	免疫の異常２	アレルギーの特殊な型である、自己免疫疾患が人体に引き起こす病変について学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：教科書（系統看護学講座　病理学）のp47-49を読み、自己免疫性疾患とはどのようなものか自分なりにまとめておく。 復習：デジタル教科書 系統看護学講座 専門分野 アレルギー 膠原病 感	津田

		染症のp150−166を読み、代表的な自己免疫性疾患とについて知識を整理する。	
12	感染症	病原微生物が原因である疾患および関連する病態(日和見感染症、敗血症など)を学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：デジタル教科書の専門基礎分野の中の系統看護学講座 微生物学の第2, 3, 4章に目を通し、細菌、ウィルス、真菌、原虫の違いをまとめておく。 復習：教科書（系統看護学講座　病理学）のp56-70、デジタル教科書系統看護学講座 専門分野 アレルギー 膠原病 感染症の第5章および授業冊子p21-22を参考に、代表的な感染症の特徴（起因病原体の種類や症状など）を整理する。感染症に関するキーワードを覚えておく。	津田
13	代謝異常1	三大栄養素の代謝異常の原因と、引き起こされる人体の変化を学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：デジタル教科書の専門基礎分野の中の系統看護学講座 病態生理学のp209-217を読み糖代謝、脂質代謝、尿酸代謝の仕組みを理解しておく。 復習：授業内容を振り返り、教科書（系統看護学講座　病理学）p94-100と配布冊子p25,26を参考に代謝異常で生じる疾患についてまとめる。特に、糖尿病に関しては各自でさらに調べて配布冊子のp25の空欄を埋めておく。	津田
14	代謝異常2	核酸・ビリルビン・鉄などの代謝異常の原因と、引き起こされる人体の変化を学ぶ。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：デジタル教科書の専門基礎分野の中の系統看護学講座 病態生理学のp167-168を読みビリルビン代謝の仕組みを、p65-70を読みアシドーシスとアルカローシスを理解しておく。 復習：授業内容を振り返り、教科書（系統看護学講座　病理学）p100-102と配布冊子p27,28を参考にビリルビン・鉄などの代謝異常で生じる疾患についてまとめる。特にビリルビン代謝と原因による黄疸の分類やアシドーシス、アルカローシスに関しては必ず復習して理解しておくこと。	津田
15	まとめ	今まで学んだことを病気の診断・治療・看護に結びつけられるようにまとめと復習を行う。 予習：教科書（系統看護学講座　病理学）の第4, 8, 8章を読み、後半で学んだ内容を復習しておく。 復習：病気の成り立ちの前半部分で学んだことと、後半部分を関連づけて一連の知識となるように復習する。	津田

授業科目	からだとくすりの働き	科目ナンバリング	N-21-08-C		
授業科目（英）	Pharmacology				
教員名	◎髙井　真司（兼担）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	主要な疾病治療のひとつである薬物療法の基本を学ぶ				
行動目標	薬物療法は主要な疾病治療法のひとつである。さまざまな薬物の分類や作用機序を理解しておくことは、服薬指導や副作用の早期発見といった看護の実践における重要な能力の基礎をなすものである。本科目では、おもな治療薬の作用・作用機序・副作用を理解し、その服用や他の治療法との併用の意義、投薬上の注意点などについて理解し説明できるようになることを目標とする。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	筆記試験による（100%）。 フィードバック法：毎回、講義の途中で講義内容について質問を受ける。また、講義内容に対する問題を出してその解説を行う。				
教科書	系統看護学講座・専門基礎・疾病のなりたちと回復の促進［3］薬理学、吉岡充弘 他、医学書院（デジタル）				
参考書等	随時紹介する。				
事前準備 受講要件等	「からだの仕組みと働き1(基礎)」、「感染と免疫」、「からだと栄養」を修得していること。				
オフィスアワー （曜日／時間）	曜日：火・木・金 時間：9時～12時 場所：総合研究棟4F（415）　薬理学教室				
SDGsとの関連	4				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	第1章　薬理学を学ぶにあたって 第2章　薬理学の基礎知識	薬理学と薬物動態の基本 予習；テキスト第1章および第2章を読み、内容を整理してまとめる。 復習；授業内容に基づき、薬物療法におけるチーム医療を整理する。 薬の体における作用様式と薬物動態について整理する。	髙井
2	第3章　抗感染症薬	感染症に対する薬物療法 予習；テキスト第3章を読み、内容を整理してまとめる。 復習；授業内容に基づき、感染症に対する基礎知識と抗生物質、抗ウイルス薬の作用機序、耐性菌による院内感染について整理する。	髙井
3	第4章　抗がん薬	がんに対する薬物療法 予習；テキスト第4章を読み、内容を整理してまとめる。 復習；授業内容に基づき、細胞傷害性抗がん薬、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬について整理する。	髙井
4	第5章　免疫治療薬	免疫の基礎、能動免疫、受動免疫、免疫抑制薬 予習；テキスト第5章を読み、内容を整理してまとめる。 復習；授業内容に基づき、免疫のしくみ、免疫を増強する機序、免疫を抑制する機序とそれらの応用について整理する。	髙井
5	第6章　抗アレルギー薬 抗炎症薬	アレルギーおよび炎症に対する薬 予習；テキスト第6章を読み、内容を整理してまとめる。 復習；授業内容に基づき、アレルギーの発症機序および炎症に関連する因子とそれらを抑制する薬についてまとめる。	髙井
6	第7章　末梢での神経活動に作用する薬物-1	神経系の伝達、自律神経（交感神経、副交感神経） 予習；テキスト第7章を読み、内容を整理してまとめる。	髙井

		復習；授業内容に基づき、交感神経、副交感神経の働きとそれらに影響する機序、交感神経、副交感神経の作用を亢進する薬について整理する。	
7	第7章　末梢での神経活動に作用する薬物-2	自律神経（交感神経および副交感神経）、筋弛緩薬、局所麻酔薬 予習；テキスト第7章を読み、内容を整理してまとめる。 復習；授業内容に基づき、交感神経、副交感神経の作用を抑制する薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬について整理する。	髙井
8	第8章　中枢神経系に作用すする薬物-1	中枢神経の伝達物質、全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬 予習；テキスト第8章を読み、内容を整理してまとめる。 復習；授業内容に基づき、中枢神経のはたらき、伝達物質、全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬の機序を整理する。	髙井
9	第8章　中枢神経系に作用すする薬物-2	抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、パーキンソン治療薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬 予習；テキスト第8章を読み、内容を整理してまとめる。 復習；授業内容に基づき、抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、パーキンソン治療薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬を整理する。	髙井
10	第9章　循環器系に作用する薬物-1	高血圧治療の目的、降圧薬 予習；テキスト第8章（P.198～P.205）を読み、内容を整理してまとめる。 復習；授業内容に基づき、高血圧治療の目的、降圧薬の作用機序と副作用について整理する。	髙井
11	第9章　循環器系に作用する薬物-2	狭心症治療薬、心不全治療薬、利尿薬 予習；テキスト第8章（P.205～P.221）を読み、内容を整理してまとめる。 復習；授業内容に基づき、狭心症治療薬、心不全治療薬、利尿薬の作用機序を整理する。	髙井
12	第9章　循環器系に作用する薬物-3	脂質異常症治療薬、抗血栓・抗凝固薬、貧血治療薬 予習；テキスト第8章（P.221～P.235）を読み、内容を整理してまとめる。 復習；授業内容に基づき、脂質異常症治療薬、抗血栓・抗凝固薬、貧血治療薬の作用機序を整理する。	髙井
13	第10章　呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器に作用する薬物	呼吸器、消化器、生殖器、泌尿器系に作用する薬 予習；テキスト第10章を読み、内容を整理してまとめる。 復習；授業内容に基づき、呼吸器、消化器、生殖器、泌尿器系に作用する薬を整理する。	髙井
14	第11章　物質代謝に作用する薬物	糖尿謬治療薬・ホルモン製剤、骨粗鬆症治療薬 予習；テキスト第11章を読み、内容を整理してまとめる。 復習；授業内容に基づき、糖尿謬治療薬・ホルモン製剤、骨粗鬆症治療薬の作用機序の作用機序を整理する。	髙井
15	まとめ	講義1-14回の内容について、特に重要な部分を復習して理解度を確認する。	髙井

授業科目	病気の診断・治療Ⅰ	科目ナンバリング	N-21-09-C		
授業科目（英）	Diagnosis and Therapeutics of Diseases I				
教員名	◎津田泰宏（医師実務経験者）、医学部兼担教員：木下真也、中野祥子、富山英紀				
単位数	2.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	看護職者として知っておくべき病気の診断・治療に関する知識を習得する。				
行動目標	医療の高度化に伴い、ナースが看護計画を立案する上で、主要な疾患の病態、診断、治療法を知っておくことが必須とされる。主要な疾患について、診断だけでなく治療も解説して、その概略を理解することを目的とする。前期においては、消化器疾患(消化管および肝胆膵疾患)、循環器疾患、呼吸器疾患、代謝内分泌疾患、精神疾患を対象として、代表的疾患の病態、特徴的な症状、診断基準、検査所見、治療法(薬物治療、他)について解説して理解を深める。また麻酔、手術療法についても概略を学習する。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	学ぶ内容が多いため、中間と最後にまとめの授業を行う。試験も中間試験と期末試験に分けて二回行う予定（感染症の対策状況によっては期末試験のみになる可能性あり）としている。試験後は解説を行う。受講態度(20%)、試験結果(中間40%, 期末40%、期末のみになった場合は試験80%)を総合して評価する。				
教科書	看護学テキストNiCE、病態・治療論［4］、消化器疾患　編集　津田泰宏、鈴木久美　南江堂 系統看護学講座 専門分野　成人看護学［5］消化器、南川雅子他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門分野　成人看護学［3］循環器、吉田俊子他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門分野　成人看護学［2］呼吸器、川村雅文他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門分野　成人看護学［6］内分泌・代謝、吉岡成人他、医学書院（デジタル）				
参考書等	看護学テキストNiCE、病態・治療論［1］、病態・治療総論　編集　石松伸一、林　直子　南江堂 看護学テキストNiCE、病態・治療論［2］、呼吸器疾患　編集　石原英樹、竹川幸恵　南江堂 看護学テキストNiCE、病態・治療論［3］、循環器疾患　編集　八尾厚史、落合亮太　南江堂 看護学テキストNiCE、病態・治療論［4］、消化器疾患　編集　津田泰宏、鈴木久美　南江堂 看護学テキストNiCE、病態・治療論［5］、内分泌・代謝疾患　編集　能登　洋、林　直子　南江堂				
事前準備 受講要件等	学ぶべき内容が多いため事前には予習をしておくことが望ましい。授業はオムニバス形式であるが中間と最後にまとめの授業を行う。まとめの授業では授業支援システムを用いて知識の定着を促す。試験は中間試験と期末試験の２回行う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜日　12：10～13：00				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	病気の診断・治療、総論 消化器疾患①	診断学、治療学の総論と代表的な上部消化管疾患の概要、診断、治療を学ぶ。 教科書とそれを補足する授業資料を配布しスライドを使用して講義する。 授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：NiCE、病態・治療論［４］、消化器疾患のp126-166に目を通し、どのような上部消化管疾患があるかを書き出しておく。 復習：配布プリントに再度目を通し、重要点を整理しておく。	津田
2	消化器疾患②	上部消化管疾患の残りと下部消化管疾患の概要、診断、治療を学ぶ。 教科書とそれを補足する授業資料を配布しスライドを使用して講義する。 授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：NiCE、病態・治療論［４］、消化器疾患のp168-210に目を通し、どのような下部消化管疾患があるかを書き出しておく。 復習：配布プリントに目を通し、重要点を整理してまとめておく。	津田
3	消化器疾患③	胆膵疾患の概要、診断、治療を学ぶ。 教科書とそれを補足する授業資料を配布しスライドを使用して講義する。 授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。	津田

		予習：NiCE、病態・治療論［４］、消化器疾患のp268-306に目を通し、どのような胆膵疾患があるかを書き出しておく。 復習：配布プリントに目を通し、重要点を整理してまとめておく。	
4	循環器疾患①	代表的な循環器疾患の概要、診断、治療を学ぶ（その１） 授業資料を配布しスライドを使用して講義する。適宜電子教科書も使用する。 授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：系統看護学講座 専門分野　成人看護学［3］循環器のp122-161, 223-229に目を通し、虚血性心疾患、心不全、大動脈疾患についてどのようなものがあるかを書き出しておく。 復習：配布プリントに目を通し、重要点に関して整理してまとめる。	津田
5	循環器疾患②	代表的な循環器疾患の概要、診断、治療を学ぶ（その２） 授業資料を配布しスライドを使用して講義する。適宜電子教科書も使用する。 授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：系統看護学講座 専門分野　成人看護学［3］循環器のp175-212, 230-231に目を通し、不整脈、弁膜疾患、心筋疾患、肺静脈系疾患についてどのようなものがあるかを書き出しておく。 復習：配布プリントに目を通し、重要点を整理してまとめる。	津田
6	呼吸器疾患①	代表的な呼吸器疾患の概要、診断、治療を学ぶ（その１） 授業資料を配布しスライドを使用して講義する。適宜電子教科書も使用する。 授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：系統看護学講座 専門分野　成人看護学［2］呼吸器のp142-162, 164-169に目を通し、肺炎、肺結核、間質性肺炎についてどのようなものがあるかを書き出しておく。 復習：配布プリントに目を通して重要点を整理してまとめる。	津田
7	呼吸器疾患②	代表的な呼吸器疾患の概要、診断、治療を学ぶ（その２） 授業資料を配布しスライドを使用して講義する。適宜電子教科書も使用する。 授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：系統看護学講座 専門分野　成人看護学［2］呼吸器のp176-186, 200-206に目を通し、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺腫瘍についてどのようなものがあるかを書き出しておく。 復習：配布プリントに目を通し、重要点を整理してまとめる。	津田
8	中間のまとめ	中間で今まで学習した部分のまとめを行う。今までの配布資料を振り返り、要点や重要部分の復習を行う。授業支援システムを用いたり、まとめのスライドを用いて授業を行う。中間テストの説明も行う。 予習：今までの配布プリント、教科書を参考にしながら重要点に関して復習すると共に、疑問点を書き出しておく。 復習：今までの配布プリントより重要点を整理して、主要な疾患に関して診断と治療を概説できるようにする。	津田
9	肝疾患	肝疾患の概要、診断、治療を学ぶ。 教科書とそれを補足する授業資料を配布しスライドを使用して講義する。 授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：NiCE、病態・治療論［4］、消化器疾患のp211-267に目を通し、どのような肝疾患があるかを書き出しておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	津田
10	代謝内分泌疾患①	代表的な代謝内分泌疾患（特に代謝）の概要、診断、治療を学ぶ。 授業資料を配布しスライドを使用して講義する。適宜電子教科書も使用する。 授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：系統看護学講座 専門分野　成人看護学［6］内分泌・代謝のp132-181に目を通し、どのような疾患があるか書き出しておく。１年生後期の病気の成り立ちの配布冊子の代謝異常のところを復習し、糖尿病の特徴について予習しておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	津田
11	代謝内分泌疾患②	代表的な代謝内分泌疾患（特に内分泌疾患）の概要、診断、治療を学ぶ。	津田

		授業資料を配布しスライドを使用して講義する。適宜電子教科書も使用する。 授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：系統看護学講座 専門分野　成人看護学［6］内分泌・代謝のp82-88, 94-124に目を通し、どのような内分泌疾患があるか書き出しておく。１年生後期のからだの仕組みと働き2の配布冊子の内分泌系1、２のところを復習し、ホルモンの種類と働きについて復習しておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	
12	精神疾患	代表的な精神疾患の概要、診断、治療を学ぶ。 原則として授業資料を配布しそれに沿ってスライドを使用して講義する。 予習： 統合失調症とうつ病に関して、系統看護学講座 専門分野　精神看護学［1］精神看護の基礎 p165-191などを読みどのような疾患であるのか事前に予習しておくとよい。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	木下（精神神経科）
13	麻酔、集中治療	麻酔の基礎、ショック、心肺蘇生、ICUでの患者管理などを学ぶ。 原則として資料を配布してそれに沿ってスライドを使用して講義する。 予習：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 p78-101を読み、麻酔の原理やどのような麻酔があるか、使用される麻酔薬などに関してまとめておく。 復習：配布プリントに目を通し、重要点を整理してまとめる。	中野（麻酔科）
14	手術療法	外科的手技の基本、手術侵襲に対する生体反応、術前術後管理などを学ぶ。 原則として授業資料を配布してそれに沿ってスライドを使用して講義する。 予習：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論のp14-23, 56-63を読み、手術療法の目的や適応などをまとめておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	富山（一般・消化器外科）
15	まとめ	後半で学習した部分のまとめを行う。今までの配布資料を振り返り、要点や重要部分の復習を行う。授業支援システムを用いたり、まとめのスライドを用いて授業を行う。期末テストの説明も行う。 予習：今までの配布プリントに目を通し、整理した重要点をまとめて疑問があれば書き出しておく。 復習：今回出てきた疾患の中で特に重要なものに関して、その診断と治療を概説できるようにまとめる。	津田

授業科目	病気の診断・治療Ⅱ	科目ナンバリング	N-21-10-C		
授業科目（英）	Diagnosis and Therapeutics of DiseasesⅡ				
教員名	◎津田泰宏（医師実務経験者）、安田稔人（医師実務経験者）、医学部兼担教員：秋岡寿一、能見勇人、萩森伸一、小林崇俊、恒遠啓示、森脇真一、荒若繁樹、武内徹、非常勤講師：上杉康夫				
単位数	2.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	看護職者として知っておくべき病気の診断・治療に関する知識を習得する。				
行動目標	医療の高度化に伴い、ナースが看護計画を立案する上でも、主要な疾患の病態、診断、治療法を知っておくことが必須とされる。主要な疾患について診断とともに治療を解説して、その概略を理解することを目標とする。後期においては、血液疾患、腎泌尿器疾患、整形外科疾患、神経疾患、アレルギー性疾患・膠原病、感染症、眼科疾患、耳鼻咽喉科疾患、皮膚科疾患、婦人科疾患を対象として、代表的疾患の病態、特徴的な症状、診断基準、検査所見、治療法(薬物療法、他)について解説して理解を深める。また、がん化学療法、放射線療法、リハビリテーション療法などの治療法についても解説する。それぞれの専門領域の医師によるオムニバス形式が主体となる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	受講態度(20%)、試験結果(中間40%, 期末40%)を総合して評価する。感染対策の状況においては期末試験のみとなる可能性があり、その場合は受講態度20%、試験結果80%となる。 試験の解説は試験終了後にその場で行う予定である。				
教科書	授業の際に資料を配布する。デジタル教科書を参考にすると望ましい。（参考書の欄に記載）				
参考書等	系統看護学講座 専門分野　成人看護学［4］血液・造血器、飯野京子他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門分野　成人看護学［8］腎・泌尿器、大東貴志他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門分野　成人看護学［14］耳鼻咽喉、小松浩子他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 別巻　臨床放射線医学、尾尻博也他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門分野　成人看護学［13］眼、大鹿哲郎他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門分野　成人看護学［11］アレルギー膠原病感染症、岩田健太郎他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門分野　成人看護学［9］女性生殖器、末岡浩他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門分野　成人看護学［12］皮膚、渡辺晋一他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門分野　成人看護学［10］運動器、田中栄他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門分野　成人看護学［7］脳・神経、井出隆文他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 別巻　栄養食事療法、中村丁次他、医学書院（デジタル）				
事前準備 受講要件等	学ぶべき内容が多いため事前に予習をしておくことが望ましい。授業はオムニバス形式であるが中間と最後にまとめの授業を行う。まとめの授業では適宜授業支援システムを用いて知識の定着を促す。試験は中間試験と期末試験の２回行う予定とするが感染対策の状況次第では期末試験のみとなる可能性がある。				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜日　12：10～13：00				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	がん化学療法	消化器癌を中心とした癌化学療法の適応と実際を学ぶ。 授業資料を配布してそれに沿ってスライドを用いて授業を行う。 レスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習： 病気の診断と治療Ⅰで配布した資料や教科書を用いて食道がん、胃がん、肝臓がん、大腸がん、膵がんの病態や診断を復習し、どのような化学療法が行われているかを調べておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	津田
2	血液疾患	代表的な血液疾患の概要、診断、治療を学ぶ。 授業資料を配布してそれに沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：「からだの仕組みと働きⅡ」の授業で使用した冊子を用いて造血器系のところを復習しておく。系統看護学講座 専門分野　成人看護学［4］血液・造血器（デジタル教科書）のp54-74を読み、貧血の種類と造血器腫瘍についてまとめておく。また、同じ教科書のp184-198	秋岡（血液内科）

		を読み造血幹細胞移植に関しても知識を深めておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	
3	腎泌尿器疾患	代表的な腎泌尿器疾患の概要、診断、治療を学ぶ。 授業資料を配布してそれに沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：１年後期のからだの仕組みと働きⅡの配布冊子にて泌尿器系のところの復習をしておく。系統看護学講座 専門分野　成人看護学［8］腎・泌尿器（デジタル教科書）のp115-121,152-154, 170-174, 175-181を読み、腎不全、尿路感染症、尿路結石、腎細胞がん、腎盂及び尿管がん、前立腺がんなどについてまとめておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	能見（腎泌尿器科）
4	耳鼻咽喉科疾患	代表的な耳鼻咽喉科疾患の概要、診断、治療を学ぶ。 授業資料を配布してそれに沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：「からだの仕組みと働きⅡ」の授業で使用した冊子を用いて感覚器系のところを復習しておく。系統看護学講座 専門分野　成人看護学［14］耳鼻咽喉（デジタル教科書）のp106-143を読み、中耳疾患や副鼻腔炎についてまとめておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	萩森（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
5	放射線療法（放射線科）	放射線治療の適応と実際を学ぶ。 授業資料を配布してそれに沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：系統看護学講座 専門分野　別巻　臨床放射線医学（デジタル教科書）の放射線治療のp182-208ところを読み、放射線治療の原理、照射方法の種類、急性期と晩期の有害反応についてまとめておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	上杉（放射線治療科）
6	眼科疾患	代表的な眼科疾患の概要、診断、治療を学ぶ。 授業資料を配布してそれに沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：「からだの仕組みと働きⅡ」の授業で使用した冊子を用いて感覚器系のところを復習しておく。系統看護学講座 専門分野　成人看護学［13］眼（デジタル教科書）のp98-103, 107-109, 112-114を見て糖尿病性網膜症、網膜剥離、白内障、緑内障などについてまとめておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	小林（眼科）
7	婦人科疾患	代表的な婦人科疾患の概要、診断、治療を学ぶ。 原則として授業資料を配布してそれに沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：「からだの仕組みと働きⅡ」の授業で使用した冊子を用いて生殖器系のところを復習しておく。系統看護学講座 専門分野　成人看護学［9］女性生殖器（デジタル教科書）のp112-133を読み、子宮内膜症、子宮筋腫、子宮頸癌、子宮体癌について、またp138-142を読み卵巣腫瘍についてまとめておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	恒遠（産婦人科）
8	皮膚科疾患	代表的な皮膚科疾患の概要、診断、治療を学ぶ。 授業資料を配布してそれに沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：系統看護学講座 専門分野　成人看護学［12］皮膚（デジタル教科書）のp36-48, 169-177を見て発疹についてと老人性の皮膚掻痒とそのスキンケアについてまとめておく。また同じ教科書のp249-273を読み褥瘡についても理解しておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	森脇（皮膚科）
9	感染症	代表的な感染症の概要、診断、治療を学ぶ。 授業資料を配布してそれに沿ってスライドを用いて授業を行う。レスポンを用いて学生の理解度を確認する。 また、後半は今までの授業内容のまとめを行う。今までの配布冊子から重要部分をピックアップし振り返る。中間試験の説明も行う。 予習：「病気の成り立ち」の授業で使用した冊子を用いて感染症のところを復習しておく。系統看護学講座 専門分野　成人看護学［11］アレルギー膠原病感染症（デジタル教科書）のp234-243を読み感染の種類や経路についてまとめておく。また、同じ教科書のp289-290, 294-295, 319-321などを読み、肺炎、消化管感染症、麻疹、風疹、水痘などについてまとめておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	津田
10	神経疾患	代表的な神経疾患の概要、診断、治療を学ぶ。 原則として授業資料を配布してそれに沿ってスライドを用いて授業を行う。	荒若（神経内科）

		予習：「からだの仕組みと働きⅡ」の授業で使用した冊子の神経系のところを復習しておく。系統看護学講座 専門分野　成人看護学［7］脳・神経（デジタル教科書）のp122-133, 192-197, 226-231を見て脳血管障害、パーキンソン病、アルツハイマー病などについてまとめておく。復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	
11	整形外科疾患	代表的な整形外科疾患の概要、診断、治療を学ぶ。 授業資料を配布してそれに沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：「からだの仕組みと働きⅡ」の授業で使用した冊子を用いて運動器系のところを復習しておく。系統看護学講座 専門分野　成人看護学［10］運動器（デジタル教科書）を見てどの様な疾患があるかまとめておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	安田
12	リハビリテーション療法	リハビリテーション医療について概要を学ぶ。 授業資料を配布してそれに沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護のp6-16, 114-143を読み、リハビリテーションの種類やADLの評価などについてまとめておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	安田
13	アレルギー性疾患・膠原病	代表的なアレルギー性疾患・膠原病の概要、診断、治療を学ぶ。 原則として授業資料を配布してそれに沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習:「病気の成り立ち」の授業で使用した冊子などで免疫異常１、２のところを復習しておく。系統看護学講座 専門分野　成人看護学［11］アレルギー膠原病感染症（デジタル教科書）のp150-181, 164-167を見てどの様な疾患があるかまとめておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	武内（膠原病内科）
14	輸液・栄養療法	輸液療法、栄養療法の適応と実際について学ぶ。 原則として授業資料を配布してそれに沿ってスライドを用いて授業を行う。 レスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論 p110-121を読み、体液管理、輸液法、栄養管理についてまとめておく。 復習：配布プリントに目を通して、重要点を整理してまとめる。	津田
15	まとめ	後半部分のまとめを行う。今までの授業資料を振り返り、重要部分をピックアップして再度復習する。また期末テストの説明も行う。 予習：今までの配布プリントに再度目を通し、整理した重要点をまとめて疑問点があれば書き出しておく。 復習：今回出てきた疾患の中で特に重要なものに関して、その診断と治療を概説できるようにまとめる。	津田

授業科目	リプロダクションと看護	科目ナンバリング	N-21-11-C		
授業科目（英）	Reproduction and Nursing				
教員名	◎近澤幸（助産師実務経験者）、間中麻衣子（助産師実務経験者）、松枝加奈子（助産師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	ヒトの一生（受精から死まで）における生殖能力・機能の発達と健康に関する基礎的知識として、性の分化、第二次性徴、加齢と生殖能力・機能の生理的変化・生殖補助医療について学ぶことができる。さらに、人間の生殖を心理・社会的側面から検討し、人間の生殖の健康と看護について総合的に考えることができる。				
行動目標	性の分化、第二次性徴、加齢と生殖能力・機能の生理的変化・生殖補助医療について説明できる。 人間の生殖を心理・社会的側面から検討し、人間の生殖の健康と看護について総合的に考えることができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	①予習復習課題・授業中の提出物・確認問題（10%）、試験（中間＜5月末頃＞：45%、期末：45%）により評価する。 ②紙面提出の提出物について名前がない場合は0点となる。 ③提出時間に遅れた場合は提出として取り扱うが、採点の対象とならない。 ④全予習課題（□のしるし）の提出者を試験受験資格者とする。 ⑤中間試験を欠席した場合は、病気その他特別の理由により、やむを得ず試験を受験できなかった学生に対してのみ、その願い出により対応する。 フィードバック：試験後に記載例配布・解説を行う。				
教科書	ナーシンググラフィカ　母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護　中込さと子他編（メディカ出版）※1年前期「母性看護学概論」で購入済 母性看護学Ⅱマタニティサイクル　大平光子編　（南江堂）※2年後期「母性看護学援助論」と同じ				
参考書等	病気が見える　10産科　医療情報科学研究所編（メディックメディア）				
事前準備 受講要件等	授業前はシラバスを確認しておく。 助産師国家試験受験資格希望者は必ず選択する。 授業は、学生発表、ディスカッションなどアクティブラーニングを取り入れる。 要提出の予習課題は、講義の場合、講義日前週の金曜日13時までに提出する。ただし、他に指示がある場合は指示に従う。提出方法、内容はMoodle内の指示に従う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	月曜日12：10～13：00、ただしメールで事前にアポイントをとること				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	オリエンテーション 生殖器の特徴	オリエンテーション 生殖器の解剖学的特徴について学ぶ。 予習：シラバスを熟読し（特に強調文字）、マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容に到達できているか、確認する。	間中
2	女性の性周期	女性の性周期の機序について学ぶ。 予習（提出不要）：1年次履修科目の「母性看護学概論」「からだの仕組みと働き」の女性生殖器の解剖、第二次性徴、性周期について学習した内容を復習する。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容に到達できているか、確認する。	間中
3	ヒトの生殖　受精と着床	ヒトの生殖の特徴、受精・着床とヒトの遺伝、発生、染色体異常について学ぶ。 学生発表 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、ヒトの生殖、受精と着床に	近澤

		関連した事前問題に回答する。教科書の該当箇所を熟読（特に強調文字、模式図）する。 復習：配布資料の【学習到達目標】を到達できているか、確認する。	
4	胎児の成長と発達	胎児の成長と発達、催奇形性について学ぶ。 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、胎児の成長と発達に関連した事前問題に回答する。教科書の該当箇所を熟読（特に強調文字、模式図）する。 復習：配布資料の【学習到達目標】を到達できているか、確認する。	近澤
5	性の分化、染色体異常	生物学的性の分化、染色体異常について学ぶ。 学生発表 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、性の分化、染色体に関する事前問題に回答する。教科書の該当箇所を熟読（特に強調文字、模式図）する。 復習：配布資料の【学習到達目標】を到達できているか、確認する。	近澤
6	正常妊娠の経過	正常妊娠の経過について学ぶ 。 予習（要提出）：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：演習問題を解き、確実に理解する。	松枝
7	異常妊娠の経過	異常妊娠の経過について学ぶ 。 学生発表 予習（要提出）：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：演習問題を解き、確実に理解する。	松枝
8	正常分娩の経過	正常分娩の経過について学ぶ 。 予習（要提出）：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：演習問題を解き、確実に理解する。	松枝
9	異常分娩の経過	異常分娩の経過について学ぶ 。 学生発表 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：演習問題を解き、確実に理解する。	松枝
10	新生児の特徴	新生児の特徴について学ぶ。 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】に到達できているか、確認する。	近澤
11	正常産褥の経過	正常産褥の経過について学ぶ。 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、正常産褥の経過に関連した事前問題に回答する。教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】に到達できているか、確認する。	近澤
12	異常産褥の経過	異常産褥の経過について学ぶ。 学生発表 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、産褥の経過に関連した事前問題に回答する。教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】に到達できているか、確認する。	近澤
13	性と生殖に関連した疾患	婦人科疾患（子宮頸がん、子宮体がん、乳がん、卵巣がん、子宮筋腫、子宮内膜症）などについて学ぶ。 学生発表	間中

		予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、婦人科疾患に関連した事前問題に回答する。教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】に到達できているか、確認する。	
14	加齢による生殖機能の変化	加齢によるヒトの生殖機能の変化について学ぶ。 予習：1．教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 2．既習の内容に関しては、今までの復習をする。 復習：配布資料の【学習到達目標】に到達できているか、確認する。	松枝
15	生殖補助医療の現状と課題	人間だけが行う生殖補助医療の現状と課題について学ぶ。 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、生殖補助医療についてのレポートを提出する。教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：教科書、資料を再読し確実に理解する。	間中

授業科目	セクシュアリティーと看護	科目ナンバリング	N-21-12-C		
授業科目（英）	Sexuality and Nursing				
教員名	◎間中麻衣子（助産師実務経験者）、近澤幸（助産師実務経験者）、松枝加奈子（助産師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	2
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	本科目は人間理解のための看護学専門基礎科目であり、母性看護学・助産学を学ぶ上での基礎的科目として位置付けられる。 性的存在である人間を対象とした看護を提供するために、人間のセクシュアリティに関する基礎知識を習得する。 なお、本科目は助産学を学ぶ上でも重要な基礎科目である。				
行動目標	セクシュアリティの概念とセクシュアリティの発達について説明できる。 セクシュアリティの健康と看護について述べられる。 多様なセクシュアリティをもつ人々への援助の必要性と支援の方法を述べられる。 人間の性について考察し自身の考えを発表できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	①予習・復習課題、授業中の提出物、発表（10%）、期末試験（90%）により評価する。 ②紙面提出の提出物について名前がない場合は0点となる。 ③提出時間に遅れた場合は提出として取り扱うが、採点の対象とならない。 ④全予習課題（□のしるし）の提出者を期末試験受験資格者とする。 フィードバック：試験後に記載例配布・解説を行う。				
教科書	母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護　中込さと子他編（メディカ出版） （1年次授業科目「母性看護学概論」で使用している為、購入不要）				
参考書等	授業中に紹介する				
事前準備 受講要件等	授業前はシラバスを確認しておく。 助産師国家試験受験資格希望者は必ず選択する。 授業は、学生発表、ディスカッション、グループワークなどアクティブラーニングを取り入れる。 要提出の予習課題は、講義の場合、講義がある週の月曜日13時までに提出する。ただし、他に指示がある場合は指示に従う。提出方法、内容はMoodle内の指示に従う。 プレゼンテーション資料は、プレゼンテーションを実施する週の月曜日13時までにメールにて講義担当教員に提出する。				
オフィスアワー（曜日／時間）	月曜日12：10～13：00、ただしメールで事前にアポイントをとること				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	セクシュアリティとは	オリエンテーション、セクシュアリティの概念について理解する。 予習（提出不要）：なぜ看護学でセクシュアリティについて学ぶ必要があるのか、セクシュアリティをめぐる社会問題から概念を理解する。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	間中
2	セクシュアリティの発達①	セクシュアリティの発達　乳幼児期・学童期・思春期について理解する。 予習（提出不要）：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	松枝
3	セクシュアリティの発達②	セクシュアリティの課題　性分化疾患・LGBTについて理解する。 学生発表 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、性分化疾患、LGBTについて知っていることを記載する。教科書の該当箇所を熟読し（特に強調	近澤

		文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	
4	セクシュアリティの課題①	月経教育について考える。 学生発表 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、各自が受けてきた月経教育について記載する。教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
5	セクシュアリティの発達③	セクシュアリティの発達　成熟期・更年期・老年期について理解する。 学生発表 予習（提出不要）：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	間中
6	セクシュアリティの課題②	性暴力と性被害について考える。 学生発表 予習（提出不要）：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	松枝
7	セクシュアリティの課題③	セクシュアリティに関連したテーマについてグループで発表する。 学生発表 予習（要提出）：授業でのプレゼンテーション準備。 復習：発表内容について理解を深める。	間中 近澤 松枝
8	セクシュアリティの課題④	セクシュアリティに関連したテーマについてグループで発表する。 学生発表 予習（要提出）：授業でのプレゼンテーション準備。 復習：発表内容について理解を深める。	間中 近澤 松枝

授業科目	リハビリテーション医学	科目ナンバリング	N-21-13-C		
授業科目（英）	rehabilitation medicine				
教員名	◎安田稔人（医師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	ヒトの営みの基本である「活動」に着目し、その賦活化を図り、ADL・QOLをよりよくする過程を学ぶ。活動には「日常の活動」、「家庭での活動」、「社会での活動」が含まれる。急性期・回復期・生活期を通して活動の現状を把握し、問題点を明らかにし、活動の予後を予測する。その後、リハビリテーション治療、支援を行う。以上のリハビリテーションの実際を講義から学び、今後の看護実践に活かす。				
行動目標	リハビリテーション診療においては。多くの医学的課題に多職種が多方面からアプローチするチーム医療が求められる。リハビリテーション看護においては患者や家族に寄り添い、リハビリテーションの効用と見通しを説明しながら患者の意欲と家族の協力を高めることが重要である。リハビリテーション医療チームの要として、チーム内の意思疎通を図り、患者の活動を支援できるようにリハビリテーション診療の知識を深める。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、多職種と連携する力、チーム医療				
評価並びにフィードバック法	受講態度（20%）および試験（80%）による。 試験後に解説を行う。				
教科書	リハビリテーション医学・医療コアテキスト第2版（監修：日本リハビリテーション医学教育推進機構、日本リハビリテーション医学会、総編集：久保俊一、医学書院）				
参考書等	ナーシング・グラフィカ　リハビリテーション看護（メディカ出版） 総合力がつくリハビリテーション医学・医療テキスト（総編集、久保俊一、田島文博、日本リハビリテーション医学教育推進機構、シナノ書籍印刷株式会社）				
事前準備 受講要件等	「からだの仕組みと働き」、「病気の診断・治療Ⅱ」の講義資料を復習しておく。				
オフィスアワー（曜日／時間）	月曜日の授業終了後30分				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	リハビリテーション医学総論1 リハビリテーション医学の意義と現状、リハビリテーション看護	リハビリテーション医学の意義と現状を学ぶ。急性期・回復期・生活期のリハビリテーション、リハビリテーション看護について学ぶ。授業資料に沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：教科書の総論1(p3-22)、総論3(p55-65)を読んでおく。病気の診断・治療Ⅱのリハビリテーション医療を復習しておく。 復習：授業資料、教科書を読んで、重要点をまとめる。	安田
2	リハビリテーション医学総論2 リハビリテーション医学に必要な基礎科学	臨床解剖学を学ぶ。さらに骨格筋の解剖と生理、バイオメカニクス、上肢、下肢の基本動作、正常歩行などを学ぶ。授業資料に沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：教科書の総論2(p23-54)を読んでおく。主な骨格筋の解剖と作用を予習しておく。 復習：授業資料、教科書を読んで、重要点をまとめる。	安田
3	リハビリテーション医学総論3リハビリテーション診療	リハビリテーション診断（画像診断を含む）やリハビリテーション治療（理学療法、作業療法、言語聴覚療法、義肢装具療法、手術療法など）を学ぶ。さらにリハビリテーション支援のポイントや就労、就学支援について学ぶ。授業資料に沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：教科書の総論4(p66-127)を読んでおく。 復習：授業資料、教科書を読んで、重要点をまとめる。	安田
4	リハビリテーション医学各論1 運動器・リウマチ性疾患	各運動器疾患（関節疾患や脊椎疾患）、運動器の外傷の基本的な知識とリハビリテーション診療のポイントを学ぶ。関節リウマチの基本的な知識とリハビリテーションを学ぶ。授業資料に沿ってスライドを用いて授業を行う。	安田

		予習：教科書の各論2(p155-205)、各論7(p252-256)を読んでおく。 復習：授業資料、教科書を読んで、重要点をまとめる。	
5	リハビリテーション医学各論2 脳血管障害・脳外傷・脊髄損傷	脳神経系の解剖と生理、脳血管障害、頭部外傷と、それらのリハビリテーションのポイントについて学ぶ。外傷性脊髄損傷とその合併症、リハビリテーションのポイントについて学ぶ。授業資料に沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：教科書の各論1(p131-154)、各論3(p206-213)を読んでおく。 復習：授業資料、教科書を読んで、重要点をまとめる。	安田
6	リハビリテーション医学各論3 循環器・呼吸器・腎疾患	循環器、呼吸器、腎臓の解剖と生理を学ぶ。循環器疾患、呼吸器疾患、腎疾患と、それらのリハビリテーションのポイントについて学ぶ授業資料に沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：教科書の各論8,9,10(p257-279)を読んでおく。 復習：授業資料と教科書を読んで、重要点をまとめる	安田
7	リハビリテーション医学各論4 神経、小児、がん、切断	神経・筋疾患の基本的な知識とリハビリテーションのポイントを学ぶ。切断についてに基本事項を学ぶ。脳性麻痺、小児の運動器疾患とそのリハビリテーションのポイントを学ぶ。がんに対するリハビリテーション診療と緩和ケアを学ぶ。授業資料に沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：教科書の各論4,5,6(p214-251)、各論12(p286-298)を読んでおく。 復習：授業資料と教科書を読んで、重要点をまとめる。	安田
8	リハビリテーション医学各論5 ロコモティブシンドローム・フレイル・サルコペニア、内分泌代謝性疾患、まとめ	ロコモティブシンドローム・フレイル・サルコペニアの概念と診断、判定とリハビリテーションのポイントについて学ぶ。糖尿病、肥満症について学ぶ。最後にリハビリテーション医学についてまとめを行う。授業資料に沿ってスライドを用いて授業を行う。 予習：教科書の各論11(p280-285)、各論17(p317-321)を読んでおく。 復習：授業資料と教科書を読んで、重要点をまとめる。	安田

授業科目	医学概論	科目ナンバリング	N-22-01-C		
授業科目（英）	Introduction of Medical Science				
教員名	◎中野隆史（兼担）、飛田伊都子（看護師実務経験者）、岡田 仁克（特別講師：京都橘大学）、田辺功（特別講師：医療ジャーナリスト）、細井 順（特別講師：ヴォーリズ記念病院ホスピス長）、七里元督（特別講師：産業技術総合研究所）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	医学は自然科学と人文・社会科学の間に位置し、医療や介護・福祉等にエビデンスや知識、新しい手法を提供し、対象者にいかに適用するかを教育研究するもので、それ自体が単独で存在することはなく、諸学を基礎において（幅広い教養を身につけて）はじめて成り立つものであると考えることができる。本科目では、諸学や社会における医学や大学生の位置付けを明らかにすることを目的とする。				
行動目標	1. 興味の有無にかかわらず、様々な話を聞き取り、まとめることができる。 2. 法律等による医療従事者の定義とそれを支える学問の位置付けを概説できる。 3. 医療従事者を規定する法律等に記されている「品位」について考えを述べることができる。 4. 健康について多面的に概説できる。 5. 医学と医療の関係について概説できる。 6. 医学と諸学の関係について概説できる。 7. 医学の自然科学的側面について概説できる。 8. 医学の人文・社会学的側面について概説できる。 9. 提示された事例等が含む問題点を指摘できる。 10. 提示された事例等が含む問題点について多面的に解決法を列挙できる。 11. 生涯教育に結びつく講演会などに自主的に参加できる。 12. 講義内容や資料について更に深く調べ考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	受講態度を40点満点で評価し、レポートを60点満点で評価する。 両者の合計が60点以上かつそれぞれの得点が6割以上をもって合格とする。 フィードバック：レポート内容についての質問を授業中ないしオフィスアワーで受け付ける。				
教科書	なし				
参考書等	特に指定しない（講義で紹介することがある）。				
事前準備 受講要件等	レポートを事前に提出する。				
オフィスアワー（曜日／時間）	講義終了後（水曜16:10-17:00）				
SDGsとの関連	３、９、１０				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1 12/4	医学概論　導入	医学の位置づけ：医療の基礎となる「広義の医学」と「狭義の医学」さらに諸学の関係を考察する。 予習：レポート課題についてまとめて提出する。 復習：授業でプリントを配付するのでその内容について復習する.。	中野
2	医学概論　導入	医療従事者にならんとする動機：医療を支える学問の位置づけを踏まえて、自らの医療従事者にならんとする動機について考察する。 予習・復習：レポート課題の作成	中野
3 12/11	医学の範囲	医療の範囲：終末期医療（ホスピス：ひとの生命の最終の段階に関わる医療）を紹介し、医療の基礎となる医学の幅広い範囲について考察する。 予習：ホスピスの現状について新聞記事・インターネットの記載などで確認しておく。 復習：講義でプリントを配付するのでその内容についてさらに深く調べる。	細井
4 12/18	医学の範囲	正常と異常：正常と異常を決定することの困難さを紹介し、広義の医学が取り扱う健康と健康障害について考察する。	岡田

		予習：「健康」の概念について自分で調べておく。 復習：授業で配付したプリントの内容についてさらに深く調べる。	
5 1/15	医学の範囲	医学の発展：医学と諸学との関係をもとに、医学の発展に必須な医学研究について考察する。 予習：「医学研究」が扱う領域について自分なりに調べる。 復習：授業中に配付するプリントの内容についてさらに詳しく調べる。	七里
6 1/22	医療と諸学	看護とは何か：広義の医学に含まれるヘルスケアワーカーを支える学問について、看護学を例にして考察する。 予習：「看護学」が扱う領域について自分なりに調べる。 復習：授業中に配付するプリントの内容についてさらに詳しく調べる。	飛田
7 1/29	社会からみた医学	メディアの視点から：メディアからみた医学の在り方について、新聞記事を参考にして自ら考察する。 予習：新聞などのメディアで医学・医療に関する記事を探し，そのテーマについて自分で考察する。 復習：授業中に配付するプリントの内容についてさらに詳しく調べる。	田辺
8	社会からみた医学	医学の進歩、医学倫理、医療問題などに関する社会の認識の意義と現状さらに限界について考察する。 予習・復習：別途指示する課題についてのレポートを作成する。	田辺 中野

授業科目	多職種連携論1－医療人マインド	科目ナンバリング	N-22-02-C		
授業科目（英）	Interprofessional Education1 -Healthcare Professional Mindset				
教員名	看護学部担当教員：◎教育センター長他、医学部担当教員：中野隆史他、薬学部担当教員：中村敏明、角山香織				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	本学では、多職種協働に基づいた良質なチーム医療を実践する医療人を育成するため、初年次から高学年まで一貫した多職種連携教育を実施している。その中での本科目は、各学部の初年次教育に位置づけられ、自職種（自学部）と他職種（他学部）の役割を理解し、行動できること、多職種連携の意義を理解し、チームメンバーとして行動できること、医療上の多職種で対応する課題に対し適正な情報収集ができること、医療上の課題(安全や倫理)に対し、他職種の意見を尊重し最適な対応を提示できること、などを目標としている。				
行動目標	1） 医療専門職として自らの役割を理解し、説明できる。 2） 他の医療専門職の役割を理解し、説明できる。 3） 自職種の役割について省察する。				
ディプロマポリシーのキーワード	多職種と連携する力、倫理観				
評価並びにフィードバック法	・各回の講義内容をもととしたレポート課題80%、受講態度20%とする。 ・毎回の授業時に質問を受け付ける。				
教科書	なし				
参考書等	実践　多職種連携教育（監修赤澤千春、寺﨑文生）　中外医学社				
事前準備 受講要件等	各回の予習と復習を実施し出席すること				
オフィスアワー（曜日／時間）	医学部中野教授、瀧谷専門教授へメールでアポイントメントを取った後、医学教育センターで施行する。				
SDGsとの関連	4				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1 (4/11)	これからの社会に求められる医療人	・オリエンテーション：シラバスおよび講義の進め方等 ・ポートフォリオ作成方法に関して ・学長からのメッセージ	梶本宜永 佐野浩一
2 (4/18)	わが国の保健医療における医師・看護師の働き	・日本の保健医療行政 ・医師のやりがいと醍醐味 ・特定機能病院の役割と患者にやさしい病院 ・病院組織での医療職の協働と医療人マインド ・看護師のやりがいと醍醐味 ・地域に根ざす大学病院における看護の働き ・これからの医師と看護師・多職種の協働 予習：自分の居住自治体の医療保健部門の名称やトピックスを調べておくこと。 復習：1回目と2回目の授業に関連するわが国の保健医療を概括すること。	勝間田敬弘 中山サツキ
3 (4/25)	・わが国の保健医療における薬剤師の働き ・医学部・看護学部・薬学部学生が知っておきたい多職種連携のなかの歯科治療	・薬剤師のやりがいと醍醐味 ・薬理・薬剤 ・薬剤師の役割と機能、多職種の協働 ・医学部・看護学部・薬学部学生が知っておきたい 　多職種連携のなかの歯科治療 演者への質疑応答や意見交換（感想等） 予習：薬剤師・歯科医師について調べておくこと。 復習：多職種連携とはどのようなことであったのか、学んだことをまとめること。	矢野良一 植野高章 中島世市郎
4 (5/9)	医療職の機能と役割1	・放射線技師のやりがいと醍醐味 ・臨床検査技師のやりがいと醍醐味 ・放射線技師および臨床検査技師の働き 演者への質疑応答や意見交換（感想等）	石浦基文 （山本和宏） 田中 恵美子

		予習：放射線技師、臨床検査技師について調べておくこと。 復習：放射線技師、臨床検査技師への感想と医療における多職種協働について考えを整理すること。	（未定）
5 (5/16)	医療職の機能と役割2	・リハビリテーション部の機能と役割 ・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のやりがいと醍醐味 ・対象となる患者の状態、生活の不自由さをとる、緩和するとは？ 演者への質疑応答や意見交換（感想等） 予習：リハビリテーションについて調べておくこと。 復習：リハビリテーション（部）の機能と役割について学んだことをまとめること。	佐浦隆一 佐藤久友 井上功寛 黒田健司
6 (5/23)	高槻市行政からの本学への期待 地域における薬局の役割と薬剤師の働き	・高槻市の健康課題と取り組み、大学病院への期待 ・医師・看護師・薬剤師の役割と機能について討論する。 演者への質疑応答や意見交換（感想等） 予習：高槻市の保健医療に関する事柄について調べておくこと。 復習：高槻市の健康課題と取り組みについて学んだことをまとめること。 ・薬局薬剤師の醍醐味、地域における薬局の役割と機能 予習：地域における薬局の種類について調べておく。 復習：人生の様々な段階における薬局の役割についてまとめる。	森定一稔 藤原篤子
7 (5/30)	医療職の機能と役割3	・医療事務職のやりがいと醍醐味 ・医療事務職の働き ・多職種の協働 ・MSW（メディカルソーシャルワーカー）のやりがいと醍醐味 ・地域連携の意味と連携機関と職種 ・附属病院でのMSWとしての活動 演者への質疑応答や意見交換（感想等） 予習：医療事務職、MSWについて調べておくこと。 復習:医療事務職、MSWの機能と役割について学んだことをまとめること。	高田直紀 田所洋志
8 (6/6)	医療人マインドとは 医療人としての自覚まとめ	・栄養士のやりがいと醍醐味 ・栄養士としての患者・家族への栄養指導 ・日々の生活からの振り返り：投書箱への意見からの学生に理解を促す。 ・学生の質問に対するコメント ・医療人としてふさわしい態度について意見交換を行う。 演者への質疑応答や意見交換（感想等） 予習：栄養士について調べておくこと。 医療人としてふさわしい態度とはどのようなものかについて考えておくこと。 復習：栄養士の機能と役割について学んだことをまとめること。 医療人としてふさわしい態度とはどのようなものかポートフォリオを作成し、提出する。	金沢徹文 荒木里美 花岡伸治

授業科目	多職種連携論2－医療と専門職	科目ナンバリング	N-22-03-C		
授業科目（英）	Interprofessional Education 2 -Healthcare Professions				
教員名	◎看護学教育センター長，池西悦子，鈴木久美，看護学教育センター教員、医学部担当教員：中野隆史，瀧谷公隆，富山 英紀，薬学部担当教員：中村敏明他				
単位数	1.0	時間数	15	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	1．医療に関わる多職種の連携の基本を理解する。 2．多職種との連携を行う医療人としてふさわしい態度と自覚をもつことができる。				
行動目標	1．多職種連携の必要性が説明できる 2．様々な医療現場における他の専門職の役割と多職種連携の具体的方策が説明できる 3．チーム医療における患者参加の意義が説明できる 4．異なる職種の視点を尊重したコミュニケーションがとれる 5．学習課題達成のためメンバーと協力し合うことができる				
ディプロマポリシーのキーワード	多職種と連携する力、倫理観				
評価並びにフィードバック法	・レポート70%、受講態度30% ・毎回の授業時に質問を受け付ける				
教科書	なし。使用する資料は適宜配布する。				
参考書等	実践　多職種連携教育（監修赤澤千春、寺﨑文生）　中外医学社				
事前準備 受講要件等	各回の予習と復習を実施し出席すること。				
オフィスアワー （曜日／時間）	授業終了後30分、担当教員に確認のこと				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1 (10/16)	チーム医療1	【講義】 ・オリエンテーション：講義の進め方、レポート作成方法に関して等 ・チーム医療の歴史的変遷 ・チーム医療の精神 ・互いの専門職種を尊重した態度 ・コミュニケーション 予習：チーム医療について調べておくこと。 復習：講義の内容を踏まえ、チーム医療について学んだことをまとめること。	医学部：中野隆史 看護学部：池西 悦子
2 (10/23)	チーム医療2	【講義】 ・インフォームド・コンセント（IC)の意味 ・患者と家族へのICをする時の重要な姿勢 ・ICにおける患者と家族の理解 ・ICに関する患者と家族の援助 予習：ICについて調べて、ノートに記述しておくこと。 復習：ICにおける医療者として、気を配るべき内容をまとめること。	医学部：富山英紀 看護学部：鈴木久美
3 (10/30)	対象者を知る① （治療と説明）	【講義】 ・病気と向き合う方の体験談 ・病気の診断や治療における体験者の思いなどから、病気の経過における各専門職の役割と連携の在り方を考える 予習：急性期の循環器疾患やがんについて学ぶ。 復習：病と向き合う患者の心情と医療者のコミュニケーションについてまとめる。	病気の体験者の方2名
4 (10/30)	対象者を知る① （治療と説明） 【グループワーク】	【グループワーク】 ・病気と向き合う方の体験談をもとに、適切なインフォームドコンセントと必要な多職種連携についてディスカッションする ・グループディスカッションの成果を発表し、学びを共有する 予習：急性期の循環器疾患やがんについて学ぶ。	医薬看3学部教員

		復習：病と向き合う患者の心情と医療者のコミュニケーションについてまとめる。	
5 (11/6)	対象者を知る② （薬害）	【講義】 ・教員による薬害に関するミニレクチャー ・医療行為に伴う有害事象を経験している方の体験談など ・薬理・薬剤への理解、薬害被害への国の取り組みなど 予習：薬害について、調べておくこと。 復習：これからの薬害対策について考えること。	薬学部：中村敏明 B型肝炎訴訟原告団の方
6 (11/6)	対象者を知る② （薬害） 【グループワーク】	【グループワーク】 ・薬害被害の方の体験談をもとに、何が問題でその薬害が発生したのか、薬害の発生する過程およびその被害者の方や家族が生活する中で、再発防止のために各専門職に何ができた/できるのかについてグループディスカッションをする ・グループディスカッションの成果を発表し、学びを共有する 予習：薬害について、調べておく。 復習：これからの薬害対策について考える。	医薬看3学部教員
7・8(11/13)	対象者を支え・見守る③ 【グループワーク】	【グループワーク】 ・事例に基づき、多職種連携について検討する ・事前に配付された指定の事例を読む ・医師・看護師・薬剤師のそれぞれの役割と連携について 以上の内容を踏まえ、グループディスカッションした後、グループの成果を発表し、学びを共有する 予習：これまでの授業の内容を復習しておくこと。 復習：議論した内容を整理して、全人的医療について考えること。	医薬看3学部教員

授業科目	保健医療福祉概論	科目ナンバリング	N-22-04-C		
授業科目（英）	Survey of Health Care and Welfare				
教員名	◎土手友太郎（医師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	保健医療福祉の基礎的な考え方や保健医療福祉制度の現状と課題を習得する。児童・母子福祉、障害者福祉における高度医療、慢性疾患・難病対策、在宅ケア、リハビリテーション、ターミナルケアの現状と課題を習得する。				
行動目標	保健医療福祉の包括的で継続的なサービスの提供の重要性を説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	多職種と連携する力、専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	評価は受講態度(15%)、同時双方向投票アプリ(respon)を用いた小テスト(85%)による。小テストは授業冒頭と授業中に適宜に実施する。小テストは授業毎に実施し15回分の合計により最終評価とする。また授業の合間に双方向コミュニケーションツールを用いて不定期に質問し、評価に加える場合がある。なお、出席回数が少なく、学習課題の理解が不十分であると推測される場合には、評価を受けることができない。フィードバック法は授業冒頭にて前回のテストの振り返りを適宜行う。				
教科書	社会福祉士シリーズ17　保健医療サービス　福祉臨床シリーズ編集委員会　（弘文堂）				
参考書等	なし				
事前準備 受講要件等	授業前はシラバスを確認し,予習を30分間行う。授業支援システムおよび双方向コミュニケーションツールを活用した授業を行う。授業支援システムにより小テストを実施する。復習を30分間行う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	水曜日/12：10～13：00				
SDGsとの関連					

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	保健医療と法制度の歴史	わが国の保健医療対策と法律の変遷を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：第1章に記載してある基礎的用語について調べる。復習：わが国の保健・医療・福祉制度の変遷および特徴についてまとめる。	土手
2	保健医療と法制度の現状	※オンデマンド形式で実施 わが国の医療保険の特徴と課題を学ぶ。オンデマンド授業で授業の録音スライドを視聴しながら双方向コミュニケーションアプリ（Respon）を用いてに小テストに回答してもらう。 予習：ﾃｷｽﾄ第2章に記載してる基礎的用語について調べる。復習：医療保険制度の現状と問題についてまとめる。	土手
3	診療報酬制度	診療報酬制度の特徴、仕組みおよび課題を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄ第3章に記載してある基礎的用語について調べる。復習：診療報酬制度の現状および問題についてまとめる。	土手
4	健康日本21	健康日本21の概要と課題を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄ第4章に記載してある基礎的用語について調べる。復習：健康日本21の目標と活動についてまとめる。	土手
5	高齢者の保健医療対策	わが国の高齢者の特徴と保健医療対策の要点を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄ第4章に記載してある基礎的用語について調べる。復習：高齢者の健康指標および健康づくりについてまとめる。	土手
6	生活習慣病および介護の予防対策	※オンデマンド形式で実施 生活習慣病や介護の予防の重要性と対策 を学ぶ。オンデマンド授業で	土手

		授業の録音スライを視聴しながら双方向コミュニケーションアプリ（Respon）を用いてに小テストに回答してもらう。 予習：ﾃｷｽﾄ第4章に記載してある基礎的用語について調べる。復習：生活習慣病と高齢者介護の現状、対策および問題についてまとめる。	
7	保健医療福祉におけるコーディネート機能	医療福祉サービスにおけるコーディネート機能を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄ第5章に記載してある基礎的用語について調べる。復習：医療福祉サービスにおけるコーディネート機能の役割についてまとめる。	土手
8	専門職の役割と機能分担1	看護職、医師、薬剤師、リハビリ専門職の機能分担を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄ第6章に記載してある基礎的用語について調べる。復習：看護職、医師、薬剤師、リハビリ専門職の役割についてまとめる。	土手
9	専門職の役割と機能分担2	臨床心理士とソーシャルワーカーの役割を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄ第6章に記載してある基礎的用語について調べる。復習：臨床心理士とソーシャルワーカーの役割についてまとめる。	土手
10	専門職の機能と連携	※オンデマンド形式で実施 保健医療福祉におけるチーム体制を学ぶ。オンデマンド授業で授業の録音スライドを視聴しながら双方向コミュニケーションアプリ（Respon）を用いてに小テストに回答してもらう。予習：ﾃｷｽﾄ第7章に記載してある基礎的用語について調べる。復習：チーム医療と専門職の連携についてまとめる。	土手
11	患者、家族、地域などの非専門職との連携	患者や非専門職団体とのかかわり方を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄ第8章に記載してある基礎的用語について調べる。復習：非専門職団体の特徴と役割についてまとめる。	土手
12	がん医療と医療福祉	がん対策における医療福祉問題を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄ第9章に記載してある基礎的用語について調べる。復習：がん治療と仕事の両立について現状と課題についてまとめる。	土手
13	緩和ケア	※オンデマンド形式で実施 緩和ケアにおける保健医療福祉問題を学ぶ。オンデマンド授業で授業の録音スライドを視聴しながら双方向コミュニケーションアプリ（Respon）を用いてに小テストに回答してもらう。 予習：ﾃｷｽﾄ第9章に記載してある基礎的用語について調べる。復習：緩和ケアの現状と課題についてまとめる。	土手
14	慢性疾患・難病	慢性疾患・難病への対応と保健医療福祉対策を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：ﾃｷｽﾄ第10章に記載してある基礎的用語について調べる。復習：疾患を抱える患者および家族の支援についてまとめる。	土手
15	まとめ	※オンデマンド形式で実施 オンデマンド授業で、これまでの出席や学習状況を総合的に考慮し、理解度の低い内容の録音スライを視聴しながら双方向コミュニケーションアプリ（Respon）を用いてに小テストに回答してもらう。	土手

授業科目	公衆衛生学	科目ナンバリング	N-22-05-C		
授業科目（英）	Public Health				
教員名	◎土手　友太郎（医師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	公衆衛生学的見地から科学的根拠のある予防医療の実践や疫学の実際的な活用を行うための基礎的知識を習得する。				
行動目標	各保健領域における現状、動向および対策などを一次予防の観点をふまえ理解し、基礎的な疫学指標の意味および疫学手法を説明できることである。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究力、専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	評価は受講態度(15%)、同時双方向投票アプリ(respon)を用いた小テスト(85%)による。小テストは授業冒頭と授業中に適宜に実施する。小テストは授業毎に実施し15回分の合計により最終評価とする。また授業の合間に双方向コミュニケーションツールを用いて不定期に質問し、評価に加える場合がある。なお、出席回数が少なく、学習課題の理解が不十分であると推測される場合には、評価を受けることができない。フィードバック法は授業冒頭にて前回のテストの振り返りを適宜行う。				
教科書	医療職のための公衆衛生・社会医学　長谷川友紀著　（テコム）				
参考書等	なし				
事前準備 受講要件等	授業前はシラバスを確認し,予習を30分間行う。授業支援システムおよび双方向コミュニケーションツールを活用した授業を行う。授業支援システムにより小テストを実施する。復習を30分間行う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	水曜日/12：10～13：00				
SDGsとの関連	3，6，8，9，11，13，14，15				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	公衆衛生学と健康サービス	公衆衛生の意義と目的 を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。予習：Ⅰ社会医学の基礎　1社会医学入門と2健康ｻｰﾋﾞｽの項に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：公衆衛生、健康および疾病や障害の概念についてまとめる。	土手
2	社会保障、医療経済、医倫理	社会保障、医療経済の現状および医倫理を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：Ⅰ社会医学の基礎　3社会保障と医療経済、4医の倫理の項に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：社会保障と医の倫理についてまとめる。	土手
3	医療の質と安全、医療関連法規	根拠のある医療に基づく医療の質と安全の確保および関連法規を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：Ⅰ社会医学の基礎 6医療の質と安全、7医療関連法規の項に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：医療の質の確保の重要性についてまとめる。	土手
4	生活習慣病(食習慣・運動)	生活習慣病の定義、現状および予防対策を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：Ⅱﾗｲﾌｽﾀｲﾙと健康ｻｰﾋﾞｽ　8食習慣　9運動と休養の項に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：日本人の栄養摂取の現状と食事摂取基準についてまとめる。	土手
5	メンタルヘルス・その他の健康関連行動	統計指標、関連法規、現状および予防対策を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授	土手

		業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：Ⅱﾗｲﾌｽﾀｲﾙと健康ｻｰﾋﾞｽ　10ﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ　11その他の健康関連行動の項に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：精神保健の現状と対策についてまとめる。	
6	母子保健	統計指標、関連法規、現状および予防対策を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：Ⅲﾗｲﾌｽﾀｲﾙと健康ｻｰﾋﾞｽ　12母子保健の項に記載してある基礎的用語について調べる。	土手
7	学校保健	統計指標、関連法規、現状および予防対策 を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：Ⅲﾗｲﾌｽﾀｲﾙと健康ｻｰﾋﾞｽ 13学校保健の項に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：学校保健の現状と対策についてまとめる。	土手
8	産業保健	統計指標、関連法規、現状および予防対策を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。　予習：Ⅲﾗｲﾌｽﾀｲﾙと健康ｻｰﾋﾞｽ。14産業保健の項に記載してある基礎的用語について調べる。復習：産業保健の現状と対策をまとめる。	土手
9	成人保健	統計指標、関連法規、現状および予防対策を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：Ⅲﾗｲﾌｽﾀｲﾙと健康ｻｰﾋﾞｽ 15成人保健の項に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：代表的な生活習慣病の現状と対策についてまとめる。	土手
10	高齢者保健	統計指標、関連法規、現状および予防対策を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：Ⅲﾗｲﾌｽﾀｲﾙと健康ｻｰﾋﾞｽ 16高齢者保健の項に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：高齢者の健康の現状と介護対策についてまとめる。	土手
11	環境衛生	統計指標、関連法規、現状および予防対策を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：Ⅳ生活環境と疾病ｺﾝﾄﾛｰﾙ　17環境衛生の項に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：環境の健康へ及ぼす悪影響と対策についてまとめる。	土手
12	感染症予防	統計指標、関連法規、現状および予防対策を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：生活環境と疾病ｺﾝﾄﾛｰﾙ　18感染症予防の項に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：わが国の感染症の現状と対策についてまとめる。	土手
13	食品保健	統計指標、関連法規、現状および予防対策を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：Ⅳ生活環境と疾病ｺﾝﾄﾛｰﾙ　19食品保健の項に記載してある基礎的用語について調べる。	土手
14	疫学	統計指標、関連法規、現状および予防対策を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：Ⅴ疫学と衛生統計　20疫学の項に記載してある基礎的用語につ	土手

		いて調べる。 復習：疫学の活用法についてまとめる。	
15	衛生統計	わが国の人口および疾病に関する統計指標および現状を学ぶ。授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどのＩＣＴを用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：疫学と衛生統計の項に記載してある基礎的用語について調べる。 復習：人口静態統計と人口動態統計および疾病に関する調査結果についてまとめる。	土手

授業科目	疫学	科目ナンバリング	N-22-06-C		
授業科目（英）	Epidemiology				
教員名	◎土手　友太郎（医師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	疫学は医療分野を含む人間集団における様々な活動において、関連する要因の頻度と分布および関係性を科学的根拠に基づいて明らかにし、それらの発展に寄与するための技法である。その意義を理解し、基礎的知識を習得する。				
行動目標	疫学の概念と重要性について説明できる。主な疫学指標について説明できる。主な疫学研究法について説明できる。因果関係や交絡因子について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究力、専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	評価は受講態度(15%)、同時双方向投票アプリを用いた小テスト(85%)による。小テストは授業中に適宜に実施する。小テストは授業毎に実施し15回分の合計により最終評価とする。また授業の合間に双方向コミュニケーションツールを用いて不定期に質問し、評価に加える場合がある。なお、出席回数が少なく、学習課題の理解が不十分であると推測される場合には、評価を受けることができない。フィードバック法は授業冒頭にて前回のテストの振り返りを適宜行う。				
教科書	なし				
参考書等	はじめて学ぶ　やさしい疫学　南江堂、看護学生のための保健統計　南山堂				
事前準備 受講要件等	授業前はシラバスを確認し,予習を30分間行う。復習を30分間行う。				
オフィスアワー （曜日／時間）	水曜日/12：10～13：00				
SDGsとの関連					

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	疫学の概念と疫学指標	疫学的な考え方とその対象分野および各種関連指標について学ぶ。 予習：疫学の定義と歴史的な業績を調べておく。 復習：割合、率、比、有病率、罹患率、致命率および死亡率等の違いをまとめる。	土手
2	疫学研究の基礎	疫学研究のための基本的条件と方法の種類について学ぶ。 予習：調査対象の選択に関する基本的条件を調べておく。 復習：調査対象として集団および選択のための方法についてまとめる。	土手
3	スクリーニング	スクリーニングの目的と定義および妥当性と評価について学ぶ。 予習：スクリーニング実施上の原則を調べておく。 復習：スクリーニングの有効性の指標についてまとめる。	土手
4	疫学研究方法1	※オンデマンド形式で実施 疫学研究方法の種類と手順の基礎および記述疫学について学ぶ。オンデマンド授業で1～3回目の授業内容に関する問題について双方向コミュニケーションアプリ（Respon）を用いて回答してもらう。 予習：疫学研究の一般的な手順と記述疫学の目的について調べる。 復習：仮説の設定の方法についてまとめる。	土手
5	疫学研究方法2	分析疫学の基礎とケースコントロール研究、について学ぶ。 予習：記述疫学と分析疫学の目的と意義の違いについて調べておく。 復習：横断研究、生態学的研究およびケースコントロール研究の実施上の留意点をまとめる。	土手

6	疫学研究方法3	コホート研究および介入研究の基礎について学ぶ。 予習：各研究の対象、方法および意義の違いについて調べておく。 復習：各研究の利点と欠点についてまとめる。	土手
7	因果関係と交絡因子	原因と結果の関係および対象以外の要因の原因との関連性、疫学研究で扱うデータの統計学的手法を用いた整理と解釈を学ぶ。 予習：関連性と因果関係の違いと交絡因子の意味を調べておく。 復習：因果関係と交絡因子の判定についてまとめる。	土手
8	疫学で用いられる統計学的手法とその解釈	※オンデマンド形式で実施 予習：母集団と標本、検定、相関係数およびχ2乗検定について調べておく。オンデマンド授業で5～7回目の授業内容に関する問題について双方向コミュニケーションアプリ（Respon）を用いて回答してもらう。 復習：疫学データの性質、二種類のデータの関連および高度な分析方法をまとめる。	土手

授業科目	ヘルスプロモーション論	科目ナンバリング	N-22-07-C		
授業科目（英）	Health Promotion				
教員名	◎中原洋子(保健師実務経験者),草野恵美子,山埜ふみ恵（保健師実務経験者),堀池諒（保健師実務経験者）,濱浦弘美（保健師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	ヘルスプロモーションを実践するために必要な知識と基本的技術を習得し、社会の健康課題解決に向けたヘルスプロモーション活動について考察できる。				
行動目標	1.ヘルスプロモーション活動に必要な知識を身につける。 2.ヘルスプロモーションを実践する際に活用できる技術について理解できる。 3.様々な対象の健康を支援するヘルスプロモーション活動について理解できる。 4.現在社会が抱える健康課題の解決に向けて、ヘルスプロモーションの視点から考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究力、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	筆記試験（70%）、レポート課題（個人課題10%、グループ課題20%）に加えて受講態度をふまえて評価する。 課題は授業のなかで提示し解説する。レスポンスペーパーを用い、フィードバックを行う。				
教科書	（以下は「公衆衛生看護学概論」と同じ） 1.公衆衛生看護学.jp　荒賀直子 他編（インターメディカル） 2.国民衛生の動向　財団法人厚生統計協会編（財団法人厚生統計協会）				
参考書等	（以下は「公衆衛生看護学活動論」と同じ） 公衆衛生看護活動論技術演習　岩本里織 他編（クオリティケア）				
事前準備 受講要件等	これまで公衆衛生関連科目で学んだ知識等を再確認して授業にのぞむこと。 授業は学生主体のアクティブ・ラーニングを取り入れる。 授業は予習をしていることを前提とする。復習は次の授業につながるものであるから行うこと。				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜　3限				
SDGsとの関連	3、4、10				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	ヘルスプロモーションの概念の理解	健康の概念と健康づくり政策の変遷、ヘルスプロモーションの変遷と戦略について理解する。 予習：教科書１のp14～p21を読み、わからない言葉を調べる。 復習：授業の内容をふまえて、ヘルスプロモーションの理念とキーワードをまとめる。	中原
2	※オンデマンド形式で実施 様々な場におけるヘルスプロモーションと看護職の役割	地域病院等、様々な場所におけるヘルスプロモーションについて概観し、看護職の役割について考察する。 予習：教科書1のp14～p21を読み、わからない部分を確認しておく。 復習：授業の内容をふまえて、様々な場でのヘルスプロモーションについてまとめる。	草野
3	ヘルスプロモーションの展開方法	実際の地域保健活動をふまえて、地域におけるヘルスプロモーションの計画立案、実施、評価において必要な知識・技術を理解する。 予習：教科書1のp136～p142を読み、わからない部分を確認しておく。 復習：授業の内容をふまえて、PDCAサイクルに基づくマネジメントシステムについてまとめる。	中原
4	ヘルスプロモーションに必要な知識・技術	地域におけるヘルスプロモーションの計画立案に必要な各種統計やグラフの見方・説明方法について、実際の市町村の計画書を用いて理解し、統計やグラフから簡単なアセスメントの文章を作成する。 予習：教科書１のp112～p121の事例を中心に、疫学指標の読み取り方について、わからない部分を確認しておく。 復習：授業をふまえて、公衆衛生看護に疫学が必要な理由を考察する。	草野 中原 山埜 堀池 濱浦

5	ヘルスプロモーションの企画(1)	各自が企画した地域におけるヘルスプロモーションの計画案をグループ内で発表し、企画会議を実施する。実現可能性や優先順位、実施後の評価方法などを考慮し、地域に適した計画書を作成する。（プレゼンテーション、グループワーク） 予習：教科書１のp124～p129を読み、疫学指標の種類や意味についてまとめる。 復習：地域におけるヘルスプロモーションの計画案を作成する。	中原 草野 山埜 堀池 濱浦
6	ヘルスプロモーションの企画(2)	各グループで地域におけるヘルスプロモーションの計画案を作成し、実現可能性、優先順位、実施効果などの観点から、効果的なヘルスプロモーションのあり方について議論する。（グループワーク） 予習：教科書１のp143～p151を読み、わからない部分を確認しておく。 復習：討議をふまえて、評価を行い、ヘルスプロモーションのあり方について考察する。	中原 草野 山埜 堀池 濱浦
7	ヘルスプロモーションの企画(3)	各グループが企画した地域におけるヘルスプロモーションの計画の発表を行う。計画の全体の見直しや実施後の評価方法などの再検討をとおして、効果的なヘルスプロモーションのあり方、活動の展開における看護職の役割について議論し、考察する。（プレゼンテーション、グループワーク） 予習：教科書1のp143～p151の事例を読み、わからない言葉を調べる。 復習：討議をふまえて、ヘルスプロモーションの展開における看護職の役割について考察する。	中原 草野 山埜 堀池 濱浦
8	ヘルスプロモーションの企画(4)	各グループが企画した地域におけるヘルスプロモーションの計画の発表を行う。計画の全体の見直しや実施後の評価方法などの再検討をとおして、効果的なヘルスプロモーションのあり方、活動の展開における看護職の役割について議論し、考察する。（プレゼンテーション、グループワーク） 予習：教科書1のp143～p151の事例を読み、わからない言葉を調べる。 復習：討議をふまえて、ヘルスプロモーションの展開における看護職の役割について考察する。	中原 草野 山埜 堀池 濱浦

授業科目	リスクマネジメント	科目ナンバリング	N-22-08-C		
授業科目（英）	Risk Management				
教員名	◎池西　悦子（看護師実務経験者）、松上美由紀（看護部）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	医療における安全管理の考え方と医療現場における安全対策の理論と方法を理解し、医療安全における看護職の役割と課題について考察できる。				
行動目標	１．医療安全と対象について説明できる。 ２．医療事故の発生原理と事故防止策について説明できる。 ３．医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性が説明できる。 ４．医療安全における看護職の役割と課題について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	ミニレポート(35%)と最終試験(65%)で評価する。 授業の中でミニレポートの内容、試験についてフィードバックする。				
教科書	系統看護学講座-専門分野「医療安全」第５版、川村 治子著、医学書院				
参考書等	随時紹介する。				
事前準備 受講要件等	提示した予習課題に取り組み授業に参加すること。				
オフィスアワー （曜日／時間）	水曜日　12：10～13：00				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	医療安全とは	医療安全とは、医療安全の国際的動向 予習：序章・第9章の該当箇所を読み、医療安全と対象について考える。 復習：医療安全を学ぶことの意義をまとめる。	池西
2	医療事故の発生原理と事故防止対策	医療事故の発生原理、医療事故防止に有用な理論と対策 予習：第4・5章を読み、日常生活でのエラー体験を振り返り、原因と対策を考える。 復習：事故予防にむけた自己の課題をまとめる。	池西
3	個人・チーム・組織による医療安全	リスクマネジメントの体制整備、安全文化の醸成、インシデントレポート、事故から学ぶ　　※オンデマンド形式で実施 予習：第8章の該当箇所を読み、医療安全にむけて個人ができることを考える。 復習：安全文化の醸成のための課題をまとめる。	池西
4	リスクの分析と対策	危険予知トレーニング（KYT）、事故事例の分析（RCA） ※グループワーク 予習：日常生活における実施しているリスク分析と対策を考える。 復習：RCAを仕上げ活用する。	池西
5	看護における医療事故と安全対策	看護援助に伴い起こりやすい医療事故とその対策 予習：薬剤のダブルチェックの目的と方法について復習してくる。 復習：安全に看護援助を行うための看護職の責務、課題をまとめる。	池西
6	組織における安全対策の実際①	病院の安全管理体制、医療安全管理者の役割、人材育成の現状と課題 予習：第8章の該当箇所を読み、疑問点を明らかにしておく。 復習：医療施設の使命とリスクとの関係についてまとめる。	松上
7	組織における安全対策の実際②	コンフリクトマネジメントの実際、実習中の事故予防と発生時の対応 予習：看護学実習中に起きた事故について調べる。 復習：看護学実習中の事故予防と発生時の対応についてまとめる。	松上
8	総括	授業の総括 予習：1～7回の授業内容を復習しておく。 復習：医療安全における看護職の役割についてまとめる。	池西

授業科目	看護学概論	科目ナンバリング	N-31-01-B		
授業科目（英）	Introduction to Nursing				
教員名	◎川北敬美　池西悦子　二宮早苗　日髙朋美　赤崎芙美　野口美穂（いずれも看護師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	「看護とはなにか、看護学とはなにか」を広い見地から学び、看護専門職としての基本的姿勢を培う。				
行動目標	１．看護の定義や主要概念について説明できる。 ２．看護の歴史的変遷から、社会における看護の役割や機能、活動について説明できる。 ３．看護における倫理と法的責任について説明できる。 ４．保健医療福祉活動における看護の特徴と課題について議論できる。 ５．看護専門職として看護学を学ぶ意義について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、課題探求力、倫理感				
評価並びにフィードバック法	1．筆記試験(50%)、レポート40%)、グループワーク参加・発表内容（10%）により評価する。 2．レポート提出について：①提出期限および提出方法を厳守しない場合は減点対象となる。②無記名のレポートは0点となる。③記載要領はアカデミックスキルで教授された内容に準ずる。 3．フィードバック：グループワーク後には講評、試験後に解説を行う。				
教科書	1．「系統看護学講座　専門　基礎看護学[１] 看護学概論　茂野香おる　医学書院（デジタル） 2．V.ヘンダーソン　小玉香津子訳　看護の基本となるもの　日本看護協会出版会 3．F．ナイチンゲール　薄井担子訳　看護覚え書　現代社				
参考書等	適宜紹介する。				
事前準備 受講要件等	学習目標到達のために、グループ・ディスカッションやグループワークなどを取り入れた授業を行う。よって、①毎回シラバスを確認し学習課題を把握する、②学習課題における予習・復習を行う、③グループワーク時には事前に個人ワークを行い参加するなど、主体的な取り組みが必要である。				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜日　16：00～17：30（ただし、メールで事前にアポイントをとること）				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	看護とは何か、看護学とは何か	看護の対象、看護の目的、看護の定義について学ぶ。 看護の専門性および実践を支える看護学と看護のつながりについて学ぶ。 予習：看護学概論のp2-23を読み、今自分が考える「看護とは」をワンセンテンスで表現してみる。 復習：講義内容を踏まえて、予習の内容に加筆・修正を行う。	池西
2	看護の歴史的変遷（１）	職業としての看護の発展過程について学ぶ。 予習：看護学概論のp137-150を読み、重要と思う箇所にマークを付ける。 復習：講義内容をふまえて、看護の歴史年表を記載する。	二宮
3	看護の歴史的変遷（2）	第二次世界大戦後の我が国における職業的看護の発展について学ぶ（グループ学習） 予習：グループ学習に用いる資料を作成する。 復習：グループ学習での学びをふまえて、看護の歴史年表に追記する。	二宮
4	看護の主要概念と看護理論	看護における理論の必要性と主要概念の関係について学ぶ。 予習：看護学概論のp23-46を読み、重要と思う箇所にマークを付ける。 復習：講義内容を踏まえて、自分が関心が持てた理論を１つあげ、関心が持てた理由について考える。	池西

5	人と環境（１）	看護の対象となる「人間」を身体的・精神的・社会的な統合体としての存在について学ぶ。 予習：看護学概論p.77-106を読み、重要と思う箇所にマークをつける。 復習：講義内容を踏まえて、予習内容に加筆・修正を行う。	川北
6	人と環境（２）	環境が人々の健康に及ぼす影響と環境を整える看護師の役割について考える。災害時における看護の役割について知る。 予習：「看護覚え書」を読んでくる。「環境と看護」のシートの一部を作成する。 復習：グループワークを踏まえてシートを完成させる。	川北
7	健康と看護（１）	健康の概念および定義、看護における健康について学ぶ。 健康な生活づくりのために看護が果たす役割について考える。 予習：看護学概論p107-136を読み、重要と思う箇所にマークをつける。 復習：講義内容を踏まえて、予習内容に加筆・修正を行う。	川北
8	健康と看護（２）	闘病について述べた教材から対象者のニードをとらえる。さらに、そのニードを充足するために必要な看護について考察する。 予習：ヘンダーソンの看護の基本となるものに関するシートの一部を記載してくる。 復習：ワークシートを完成させる。	川北
9	健康と看護（３）	「看護の基本となるもの」をもとに”健康と看護”についてグループ内で共有し、その人らしく生きることを支える看護についてグループディスカッションを行う。 予習：その人にとっての健康とは何かを考え、ワークシートを作成する。 復習：ディスカッションを踏まえ、ワークシートを完成させる。	川北
10	看護実践の方法（１）	看護活動の目標とそのプロセスについて学ぶ。看護実践における看護の過程とその方法について学ぶ。 予習：看護学概論p.46～76を読み、重要と思う箇所にマークをつける。 復習：講義内容をふまえて予習内容に加筆・修正を行う。	二宮
11	看護実践の方法（２）	医療・看護における倫理原則について学び、対象者を取り巻く倫理的問題について考える。 予習：看護学概論p.185～218を読みまとめておく。 復習：講義内容をふまえて予習内容に加筆・修正を行う。	川北
12	保健・医療・福祉の連携	保健・医療・福祉について知り、それぞれのサービスの提供の場や多職種連携について学ぶ。看護の対象としての個人の健康問題と家族の重要性や組織・地域の関係について学ぶ。 予習：看護学概論p.223～246を読みまとめておく。 復習：講義内容をふまえて予習内容に加筆・修正を行う。	川北
13	看護をめぐる制度と政策	看護に関する法制度や看護行政、医療事故と医療安全対策について学ぶ。 予習：p.247～304を読みまとめておく。 復習：講義内容をふまえて予習内容に加筆・修正を行う。	川北
14	グローバル社会と看護（１）	国内外問わず保健医療福祉活動が直面する課題と課題解決のための看護について以下の内容から検討する。 ・災害時における看護 ・情報社会における看護（医療） ・少子高齢社会における看護 ・国際社会における看護 ・上記以外でもグループが関心をもつ課題でも可とする。 予習：保健医療福祉活動が直面する課題と課題解決のための看護についてまとめる。 復習：グループワークをもとに発表内容をまとめる。	全員
15	グローバル社会と看護（２）	国内外問わず保健医療福祉活動が直面する課題と課題解決のための看護について検討した内容を発表する。 予習:各人の役割を持ち発表の準備を行う。 復習：自らが目指す看護師像について、レポートを作成・提出する。	全員

授業科目	日常生活援助技術	科目ナンバリング	N-31-02-B		
授業科目（英）	Nursing Skills for Activity of Daily Living				
教員名	◎二宮早苗、川北敬美、赤崎芙美、日髙朋美、野口美穂（いずれも看護師実務経験者）				
単位数	3.0	時間数	90	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日			（時間割どおり）
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	対象者の日常生活を支えるために必要な基本的看護技術について説明できる。 原理原則と科学的根拠に基づいた基本的な日常生活援助技術を実施できる。				
行動目標	1. 日常生活における基本的欲求について、具体的に説明することができる。 2. 日常生活を支えるための看護技術の原理原則と科学的根拠について説明できる。 3. 日常生活を支えるための基本的な看護援助技術を実施できる。 4. 対象者の個別性にあった日常生活援助について説明することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、自己研鑽力、課題探求心、倫理観、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	評価：筆記試験（40%）、技術試験（40%）、課題等提出物（10%）、受講態度（10%）により総合的に評価する。 フィードバック法：筆記試験後は正答例の解説を行う。実技試験後は全体および個別にフィードバックを行い、再度練習の機会を設ける。				
教科書	①系統看護学講座　基礎看護学（2）　基礎看護技術Ⅰ、茂野香おる他、医学書院（デジタル） ②系統看護学講座　基礎看護学（3）　基礎看護技術Ⅱ、任和子他、医学書院（デジタル） ③看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術第3版，角濱春美・梶谷佳子編著，メヂカルフレンド社				
参考書等	適宜資料を配布する。講義の中で適宜紹介する。				
事前準備 受講要件等	事前準備：事前課題を自己学習で行う。演習前には演習要項を確認し、指定された事前課題を行う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	金曜日16:10-18:00				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1,2,3	看護技術の概念と特性 感染予防の看護技術 （標準予防策）	①看護技術とは、日常生活援助技術とは、安全・安楽・自立を原則とした看護とは何かを学ぶ。 ②感染予防の意義を理解し、標準予防策の具体的方法を学ぶ。 手洗い、個人防護具の着脱の技術を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所（p14-28）を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：手洗い、個人防護具の着脱の技術練習を行う。	①二宮 ②日髙
4,5,6	環境を調整する援助技術① （ベッドメーキング）	環境調整の意義、病室・病床環境を整える技術について学ぶ。 予習：ナイチンゲールの看護覚書、教科書の該当箇所（p45-55）を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：ベッドメーキングの技術練習を行う。	二宮
7,8,9	安楽を促進する看護技術 (安楽な体位とポジショニング)	看護における安楽の意義を学ぶ。 安楽な体位を保つための援助技術（安楽な体位・ポジショニング）について学ぶ。 予習：教科書の該当箇所（p41-43，278-281，296-299）を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：安楽な体位、ポジショニングに関するレポートを提出する。ポジショニングの技術練習を行う。	赤崎
10 11 12	活動を促す援助技術① （体位変換）	活動が人の生活に与える影響について学ぶ。 ボディメカニクスを活用した体位変換の技術を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所（p281-295，300-310）を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：体位変換に関するレポートを提出する。体位変換の技術練習を行う。	赤崎

13 14 15	休息・睡眠を促す援助技術 活動を促す援助技術② （移乗・移送・移動）	①活動と休息のバランス、休息・睡眠の意義を理解し、睡眠を促す看護援助方法について学ぶ。 ②活動の意義を理解し、自力で動くことができない人への看護を学ぶ。運動機能の障害や制限に応じた移動の援助技術を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所(①p314-319，②p278-310)を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：移乗・移送に関するレポートを提出する。ベッドと車いす/ストレッチャーの移乗、および移送方法の技術練習を行う。	①日髙 ②赤崎
16 17 18	環境を調整する援助技術② （シーツ交換／寝衣交換）	病床環境が健康に及ぼす影響と、病床環境を整える意義を学ぶ。 シーツ交換、環境清掃技術の技術を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所（p55-59)を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：シーツ交換、環境清掃の技術練習を行う。	二宮
19 20 21	総合演習①	提示された設定の患者に対し、適切な看護援助方法について学ぶ。 予習：既習の看護技術を練習する。 復習：自己の援助方法について振り返り、技術練習を行う。	二宮
22 23 24	清潔の援助技術① （清潔の概念／部分浴）	身体の清潔の意義と作用を理解し、安全・安楽・自立を考えた清潔援助方法について学ぶ。 部分浴（足浴・手浴）の技術を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所（p320-346）を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：部分浴（足浴・手浴）に関するレポートを提出する。部分（足浴・手浴）の技術練習を行う。	二宮
25 26 27	清潔の援助技術② （洗髪／全身清拭）	安全・安楽・自立を考えた清潔援助方法の具体策について学ぶ。 全身清拭、洗髪、寝衣交換の技術を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所（p320-346，355-361）を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：全身清拭、洗髪に関するレポートを提出する。全身清拭、洗髪、寝衣交換の技術練習を行う。	二宮
28 29 30	清潔の援助技術③ （洗髪／全身清拭）	安全・安楽・自立を考えた清潔援助方法の具体策について学ぶ。 全身清拭、洗髪、寝衣交換の技術を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所（p320-346，355-361）を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：全身清拭、洗髪に関するレポートを提出する。全身清拭、洗髪、寝衣交換の技術練習を行う。	二宮
31 32 33	バイタルサイン測定の技術	バイタルサイン測定の意義を理解し、正しく測定する技術を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所（p71-91）を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：バイタルサインに関するレポートを提出する。バイタルサイン測定の技術練習を行う。	日髙
34 35 36	食事の援助技術	健康レベルや食行動の自立度に応じた食事・栄養摂取方法について学ぶ 食事介助の方法を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所（p244-255）を読み、重要な箇所に印をつける。食事援助に関する演習前レポートを作成する。 復習：対象者の状況にあった安全安楽な食事介助に関するレポートを提出する。	赤崎
37 38 39	口腔健康管理技術	口腔衛生,口腔機能の評価と、口腔ケアの技術について学ぶ。 予習：教科書の該当箇所（p322,346-352）を読み、重要な箇所に印をつける。口腔ケアに関する演習前レポートを作成する。 復習：口腔衛生・口腔機能評価と口腔ケアに関するレポートを提出する。自己の口腔ケアを実施する。	川北
40 41 42	排泄の援助技術	排泄の生理機能を理解し、患者の自立度に応じた排泄援助技術を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所（p256-269）を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：排泄援助技術に関するレポートを提出する。床上排泄、おむつ交換、陰部洗浄の技術練習を行う。	日髙
43 44 45	罨法 総合演習②	①罨法の意義と、安全・安楽を考慮した罨法の方法について学ぶ。 ②提示された設定の患者に対し、適切な看護援助方法について学ぶ。	①二宮 ②日髙

		予習：既習の看護技術を練習する。 復習：自己の援助方法について振り返り、技術練習を行う。	

授業科目	基礎看護学実習Ⅰ	科目ナンバリング	N-31-03-B		
授業科目（英）	Fundamental Nursing Practicum Ⅰ				
教員名	◎川北敬美、二宮早苗、池西悦子、日髙朋美、赤崎芙美、野口美穂（いずれも看護師実務経験者）、小林道太郎				
単位数	1.0	時間数	45	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	実習		
一般目標	看護活動の場や医療チームの活動内容を知り、対象者と全人的な関わりをしていくための基礎能力について具体的に説明することができる。				
行動目標	1. 医療施設内の各部門の特色を説明できる 2. 医療施設内の各職種の活動内容を説明できる 3. 対象者の健康課題に対しておこなわれている診療の流れを説明できる 4. 対象者と医療チームメンバーとの関わりおよび受療時の心理について説明できる 5. 対象者の入院療養環境を説明できる 6. 対象者の入院療養中の生活の流れと生活者としての変化を説明できる 7. 対象者に提供されている看護援助の実際を説明できる 8. 対話を通して、療養中の対象者のニーズを説明できる 9. 対話を通して、自己のコミュニケーションの傾向を具体的に述べることができる 10. 看護の対象者や医療チームのメンバーと適切な人間関係について説明できる				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探求心、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	受講態度（20%）、実習記録（80%） フィードバック：実習記録へのコメントを通じてフィードバックを行う。				
教科書	基礎看護学実習Ⅰ要項				
参考書等	適宜、紹介する。				
事前準備 受講要件等	1学年次前期終了時までに「看護学概論」の（3単位）を修得すること。				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜日　13：00～16：00				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
		【実習期間】 毎週木曜日1・2講時に実施する。(10週間) 【実習場所】 附属病院病棟、診療科、中央診療部門、リハビリテーションセンター、検査室、輸血部 【実習方法】 第1回オリエンテーション、病院見学 第2回～5回 Aグループ:病棟 Bグループ:外来患者のエスコート 診療科、中央診療部門、リハビリテーションセンター等 第6回～9回 Aグループ:外来患者のエスコート 診療科、中央診療部門、リハビリテーションセンター等 Bグループ:病棟 第10回発表会実習のまとめ 【実習内容】 病棟では、看護師と行動をともにし活動内容を見学する。 同意の得られた患者とコミュニケーションを図る。 診療科等では、見学を通じて対象者の理解、看護職者や医療チームの役割について理解を深める。 予習：各実習場所の特徴や診療内容についてＨＰを見て把握してくる	川北 二宮 池西 日髙 赤崎 野口 小林

		実習前までに実習目標と計画について記載をしてくる 復習：実習終了後に学びについてレポート提出する	

授業科目	フィジカルアセスメント	科目ナンバリング	N-31-04-B		
授業科目（英）	Physical assessment				
教員名	◎川北敬美、二宮早苗、池西悦子、日髙朋美、赤崎芙美、野口美穂（いずれも看護師実務経験者） 津田泰宏、安田稔人（いずれも医師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 前期～後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	患者が安全安楽な療養生活を送るためには、患者の訴えを聞き、情報収集を行い、適切に身体機能を評価することが重要である。講義の前半ではフィジカルイグザミネーションを中心とした系統的レビューの基礎を学ぶ。講義の後半では、シナリオ患者の身体の状態を総合的に捉えるための観察およびアセスメントの視点について学ぶ。				
行動目標	基本的な医療面接、視診、触診、聴診などの身体診察の手技が正しく行える。 バイタルサインを正確に測定することができる。 シナリオ患者に必要な情報を聴くための面接技術が習得できる。 シナリオ患者の疾患や症状にフォーカスした身体診察技術が習得できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	筆記試験（小テスト含む）60%、実技試験40% フィードバックは、試験後に個別あるいは全体への説明を行う。				
教科書	授業中に資料を配布する。また、他の授業で使用している以下のテキストを使用する。 根拠がわかる基礎看護技術　角濱春美、梶谷佳子編（メヂカルフレンド社）（治療過程に伴う援助技術の授業で使用）				
参考書等	適宜資料を配布する。また以下のテキストを参考書とする。 フィジカルアセスメント　ナースに必要な診断の知識と技術[第4版]　編集　日野原重明　（医学書院） 系統看護学講座 専門分野　基礎看護学Ⅰ、茂野香おる他、医学書院（デジタル）				
事前準備 受講要件等	講義は総論を行った後に、循環器系、呼吸器系、運動器系、消化器系、神経系の各分野の診察法をスライドと配布資料を用いて説明する。範囲が多いので事前に該当部位を予習しておく方がよい。 演習はグループに分かれて実施する。シミュレーションモデルを用いたグループワークやロールプレイ等、アクティブラーニング形式で行う。 同時期に開講している看護展開論とも連動しているため、両科目を結び付けながら学習を進めることを期待する。				
オフィスアワー （曜日／時間）	授業開始時に提示する。 事前にアポイントメントを取ること。				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	フィジカルアセスメントとは	フィジカルアセスメントの目的、活用方法について説明するとともに、身体診察の基本である医療面接（問診）、視診、触診、打診、聴診についての総論を資料を配布して、スライドを用いて講義する。 また、フィジカルアセスメントにおけるバイタルサイン測定の意義やその測定方法について講義する。 予習：根拠がわかる基礎看護技術のp72-80を読み、問診、視診、触診、打診、聴診についてどのような方法なのかをイメージしておくこと。バイタルサインについての復習をしておくこと。 復習：配布プリントに再度目を通しておく。要点部分をまとめておく。	川北
2	循環器系のアセスメント	循環器系疾患の症状、症候、診断法について、資料を配布しスライドを用いて講義をする。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：根拠がわかる基礎看護技術のp178-193を見て、心血管系の構造と機能の復習とどのような検査方法なのかを予習しておく。	津田

		復習：配布プリントに再度目を通し、重要点を整理してまとめる。特に心音、心雑音について聴取部位と特徴をまとめる。	
3	呼吸器系のアセスメント	呼吸器系疾患の症状、症候学総論について、資料を配布しスライドを用いて講義をする。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：根拠がわかる基礎看護技術のp162-177を見て、呼吸器の構造と機能の復習とどのような検査方法なのかを予習しておく。 復習：配布プリントに再度目を通し、重要点を整理してまとめる。	津田
4	演習①	1～3回の知識確認テストの後、循環器系・呼吸器系のフィジカルアセスメントを行う。モデル人形を用いたり、学生同士で被験者になることにより、心音聴取、呼吸音聴取の実技を演習する。 予習：1～3回の講義内容を復習する。配布されている演習要項に目を通し、実技に備えて手順を整理する。 復習：実技を復習する。既習のバイタルサイン測定についても復習する。	川北他
5	演習①	1～3回の知識確認テストの後、循環器系・呼吸器系のフィジカルアセスメントを行う。モデル人形を用いたり、学生同士で被験者になることにより、心音聴取、呼吸音聴取の実技を演習する。 予習：1～3回の講義内容を復習する。配布されている演習要項に目を通し、実技に備えて手順を整理する。 復習：実技を復習する。既習のバイタルサイン測定についても復習する。	川北他
6	運動器系のアセスメント	運動器系疾患の症状、症候学総論について、資料を配布しスライドを用いて講義をする。 予習：からだの仕組みと働き２の授業で使用した配布冊子などを参考に、運動器系の仕組み、特に関節運動（屈曲、外転、内転、外旋、内旋など）を復習しておく。 根拠がわかる基礎看護技術のp207-228を見て、どのような検査方法なのかを予習しておく。 復習：配布プリントに再度目を通し、重要点を整理してまとめる。	安田
7	神経系のアセスメント	神経系疾患の症状、症候学総論についてスライドを用いて講義をする。 予習：からだの仕組みと働き２の授業で使用した配布冊子などを参考に、神経系の仕組み、特に中枢神経と末梢神経の関係、反射、錐体路などを復習しておく。 根拠がわかる基礎看護技術のp229-244を見て、どのような検査方法なのかを予習しておく。 復習：末梢神経障害（腓骨神経麻痺など）、中枢神経障害のアセスメントの重要点を整理してまとめる。	安田
8	消化器系のアセスメント	消化器系疾患の症状、特徴、症候学総論について、資料を配布しスライドを用いて講義をする。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：根拠がわかる基礎看護技術のp194-206を見て、腹部の構造と機能とどのような検査方法なのかを予習しておく。 復習：配布プリントに再度目を通して、重要点を整理する。	津田
9	演習②	6～8回の知識確認テストの後、運動器系・神経系・消化器系のフィジカルアセスメントを行う。モデル人形を用いたり、学生同士で被験者になることにより、対光反射、腱反射、関節可動域測定、徒手筋力テスト、腹部診察などの実技を演習する。 予習：6～8回の講義内容を復習する。配布されている演習要項に目を通し、実技に備えて手順を整理する。 復習：実技を復習する。既習のバイタルサイン測定、心音・呼吸音聴取の手技についても復習する。	二宮他
10	演習②	6～8回の知識確認テストの後、運動器系・神経系・消化器系のフィジカルアセスメントを行う。モデル人形を用いたり、学生同士で被験者になることにより、対光反射、腱反射、関節可動域測定、徒手筋力テスト、腹部診察などの実技を演習する。 予習：6～8回の講義内容を復習する。配布されている演習要項に目を通し、実技に備えて手順を整理する。	二宮他

		復習：実技を復習する。既習のバイタルサイン測定、心音・呼吸音聴取の手技についても復習する。	
11	転倒転落のアセスメント	重心、身体バランス能力や正常歩行について学び、疾患別の跛行や転倒リスクの看護アセスメントについて、知識を整理する。 予習：歩くときに必要な筋肉の名称と支配神経、抗重力筋の名称について予習しておく。高齢者に多い転倒による骨折（大腿骨頸部骨折など）について予習しておく。 復習：外傷や疾患に特徴的な跛行や転倒予防に必要な看護アセスメントについて復習する。	安田
12	演習③	シナリオ症例に基づいた患者のフィジカルアセスメントを行う。 看護展開論で使用した患者の事例を用いる。模擬患者に対して、医療面接（問診）・視診・触診・打診・聴診の診察技術を用いて、バイタルサイン測定及び必要な事柄の観察を行う。 予習：事前提示課題を確認し、観察事項およびその方法についてまとめておく。バイタルサイン測定の練習を行う。 復習：学生同士で患者役となり、バイタルサイン測定および必要な事柄の診察技術を練習する。	川北 津田 安田 二宮 池西 日髙 赤崎 野口
13	演習③	シナリオ症例に基づいた患者のフィジカルアセスメントを行う。 看護展開論で使用した患者の事例を用いる。模擬患者に対して、医療面接（問診）・視診・触診・打診・聴診の診察技術を用いて、バイタルサイン測定及び必要な事柄の観察を行う。 予習：事前提示課題を確認し、観察事項およびその方法についてまとめておく。バイタルサイン測定の練習を行う。 復習：学生同士で患者役となり、バイタルサイン測定および必要な事柄の診察技術を練習する。	川北 津田 安田 二宮 池西 日髙 赤崎 野口
14	実技の確認	今までに行ったフィジカルアセスメント技術（バイタルサイン測定含む）の習得状況を確認する。	川北 津田 安田 二宮 池西 日髙 赤崎 野口
15	実技の確認	今までに行ったフィジカルアセスメント技術（バイタルサイン測定含む）の習得状況を確認する。	川北 津田 安田 二宮 池西 日髙 赤崎 野口

授業科目	フィジカルアセスメント	科目ナンバリング	N-31-04-B		
授業科目（英）	Physical assessment				
教員名	◎川北敬美、二宮早苗、池西悦子、日髙朋美、赤崎芙美、野口美穂（いずれも看護師実務経験者） 津田泰宏、安田稔人（いずれも医師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 前期～後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	患者が安全安楽な療養生活を送るためには、患者の訴えを聞き、情報収集を行い、適切に身体機能を評価することが重要である。講義の前半ではフィジカルイグザミネーションを中心とした系統的レビューの基礎を学ぶ。講義の後半では、シナリオ患者の身体の状態を総合的に捉えるための観察およびアセスメントの視点について学ぶ。				
行動目標	基本的な医療面接、視診、触診、聴診などの身体診察の手技が正しく行える。 バイタルサインを正確に測定することができる。 シナリオ患者に必要な情報を聴くための面接技術が習得できる。 シナリオ患者の疾患や症状にフォーカスした身体診察技術が習得できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	筆記試験（小テスト含む）60%、実技試験40% フィードバックは、試験後に個別あるいは全体への説明を行う。				
教科書	授業中に資料を配布する。また、他の授業で使用している以下のテキストを使用する。 根拠がわかる基礎看護技術　角濱春美、梶谷佳子編（メヂカルフレンド社）（治療過程に伴う援助技術の授業で使用）				
参考書等	適宜資料を配布する。また以下のテキストを参考書とする。 フィジカルアセスメント　ナースに必要な診断の知識と技術[第4版]　編集　日野原重明　（医学書院） 系統看護学講座 専門分野　基礎看護学Ⅰ、茂野香おる他、医学書院（デジタル）				
事前準備 受講要件等	講義は総論を行った後に、循環器系、呼吸器系、運動器系、消化器系、神経系の各分野の診察法をスライドと配布資料を用いて説明する。範囲が多いので事前に該当部位を予習しておく方がよい。 演習はグループに分かれて実施する。シミュレーションモデルを用いたグループワークやロールプレイ等、アクティブラーニング形式で行う。 同時期に開講している看護展開論とも連動しているため、両科目を結び付けながら学習を進めることを期待する。				
オフィスアワー （曜日／時間）	授業開始時に提示する。 事前にアポイントメントを取ること。				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	フィジカルアセスメントとは	フィジカルアセスメントの目的、活用方法について説明するとともに、身体診察の基本である医療面接（問診）、視診、触診、打診、聴診についての総論を資料を配布して、スライドを用いて講義する。 また、フィジカルアセスメントにおけるバイタルサイン測定の意義やその測定方法について講義する。 予習：根拠がわかる基礎看護技術のp72-80を読み、問診、視診、触診、打診、聴診についてどのような方法なのかをイメージしておくこと。バイタルサインについての復習をしておくこと。 復習：配布プリントに再度目を通しておく。要点部分をまとめておく。	川北
2	循環器系のアセスメント	循環器系疾患の症状、症候、診断法について、資料を配布しスライドを用いて講義をする。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認	津田

		する。 予習：根拠がわかる基礎看護技術のp178-193を見て、心血管系の構造と機能の復習とどのような検査方法なのかを予習しておく。 復習：配布プリントに再度目を通し、重要点を整理してまとめる。特に心音、心雑音について聴取部位と特徴をまとめる。	
3	呼吸器系のアセスメント	呼吸器系疾患の症状、症候学総論について、資料を配布しスライドを用いて講義をする。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：根拠がわかる基礎看護技術のp162-177を見て、呼吸器の構造と機能の復習とどのような検査方法なのかを予習しておく。 復習：配布プリントに再度目を通し、重要点を整理してまとめる。	津田
4	演習①	1～3回の知識確認テストの後、循環器系・呼吸器系のフィジカルアセスメントを行う。モデル人形を用いたり、学生同士で被験者になることにより、心音聴取、呼吸音聴取の実技を演習する。 予習：1～3回の講義内容を復習する。配布されている演習要項に目を通し、実技に備えて手順を整理する。 復習：実技を復習する。既習のバイタルサイン測定についても復習する。	川北他
5	演習①	1～3回の知識確認テストの後、循環器系・呼吸器系のフィジカルアセスメントを行う。モデル人形を用いたり、学生同士で被験者になることにより、心音聴取、呼吸音聴取の実技を演習する。 予習：1～3回の講義内容を復習する。配布されている演習要項に目を通し、実技に備えて手順を整理する。 復習：実技を復習する。既習のバイタルサイン測定についても復習する。	川北他
6	運動器系のアセスメント	運動器系疾患の症状、症候学総論について、資料を配布しスライドを用いて講義をする。 予習：からだの仕組みと働き２の授業で使用した配布冊子などを参考に、運動器系の仕組み、特に関節運動（屈曲、外転、内転、外旋、内旋など）を復習しておく。 根拠がわかる基礎看護技術のp207-228を見て、どのような検査方法なのかを予習しておく。 復習：配布プリントに再度目を通し、重要点を整理してまとめる。	安田
7	神経系のアセスメント	神経系疾患の症状、症候学総論についてスライドを用いて講義をする。 予習：からだの仕組みと働き２の授業で使用した配布冊子などを参考に、神経系の仕組み、特に中枢神経と末梢神経の関係、反射、錐体路などを復習しておく。 根拠がわかる基礎看護技術のp229-244を見て、どのような検査方法なのかを予習しておく。 復習：末梢神経障害（腓骨神経麻痺など）、中枢神経障害のアセスメントの重要点を整理してまとめる。	安田
8	消化器系のアセスメント	消化器系疾患の症状、特徴、症候学総論について、資料を配布しスライドを用いて講義をする。授業中にレスポンを用いて学生の理解度を確認する。 予習：根拠がわかる基礎看護技術のp194-206を見て、腹部の構造と機能とどのような検査方法なのかを予習しておく。 復習：配布プリントに再度目を通して、重要点を整理する。	津田
9	演習②	6～8回の知識確認テストの後、運動器系・神経系・消化器系のフィジカルアセスメントを行う。モデル人形を用いたり、学生同士で被験者になることにより、対光反射、腱反射、関節可動域測定、徒手筋力テスト、腹部診察などの実技を演習する。 予習：6～8回の講義内容を復習する。配布されている演習要項に目を通し、実技に備えて手順を整理する。 復習：実技を復習する。既習のバイタルサイン測定、心音・呼吸音聴取の手技についても復習する。	二宮他

授業科目	看護展開論	科目ナンバリング	N-31-05-B		
授業科目（英）	Nursing Processes				
教員名	◎二宮早苗、川北敬美、赤崎芙美、日髙朋美、野口美穂（いずれも看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	対象者の健康課題の解決に向けて看護実践を行うために必要となる、基本的な看護過程の展開を行うことができる。				
行動目標	１．看護過程の必要性と構成要素について述べることができる。 ２．事例患者を通して、情報の整理・分析・判断（アセスメント）を行い、情報の関連性を捉えることができる。 ３．NANDA-Iの看護診断を用いて、事例患者の看護診断を挙げることができる。 ４．事例患者を通して、看護計画を立案し、実施と評価の視点について説明することができる。 ５．看護過程に必要な疾患や病態、症状に関する自己学習を行うことができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、課題探求心、多職種と連携する力、倫理観、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	評価：授業課題(90%)、受講態度(10%) フィードバック法：各授業の課題について教員が一例を提示する。学生の提出課題を確認し、コメントする。				
教科書	1．NANDA-I看護診断-定義と分類　2021-2023　原著第12版，原著編集：T.ヘザー・ハードマン, 上鶴重美，医学書院 2．New実践！看護診断を導く情報収集・アセスメント　第7版，編著：古橋洋子，Gakken 3．系統看護学講座　基礎看護学（2）　基礎看護技術Ⅰ、茂野香おる他、医学書院（デジタル）				
参考書等	1．看護診断のアセスメント力をつける　臨床判断力をみがく看護過程，編著：岡崎美智子, 道重文子，メヂカルフレンド社 2．エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図　改訂版，監修：阿部俊子，中央法規 3．エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図　改訂版，監修：阿部俊子，中央法規 他、講義の中で適宜紹介する。				
事前準備 受講要件等	事前準備：事前課題を自己学習で行うこと 受講要件：「日常生活援助技術」「基礎看護学実習Ⅰ」が修得済みであること				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜日16:10～18:00				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	看護過程の概要	①オリエンテーション：授業の進め方を理解する。 ②看護過程とは何か、看護過程の必要性について学ぶ。 予習：テキスト3のP272-276を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：授業で用いる事例の疾患名、検査や治療、標準看護について調べ、記録用紙にまとめる。	二宮
2	臨床判断	問題解決法のプロセス、問題解決法の技法について学ぶ。 予習：テキスト3のP277-292 を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：講義内容を整理し、まとめる。	川北
3	看護診断の基礎知識	看護診断の目的、種類、NANDA-I分類の構造・診断の種類、NANDA-I看護診断ハンドブック（テキスト2）の使い方について学ぶ。 予習：テキスト3のP292-294を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：講義内容を整理し、まとめる。	川北
4	情報の整理とアセスメント①	①情報収集の種類と方法、情報の整理の方法、情報の解釈と分析について学ぶ。 ②ヘルスプロモーション（NANDA-I，領域1）のアセスメントの視点を学ぶ。 予習：テキスト3のP294-304、テキスト2のP30-41（領域1）を読み、重要な箇所に印をつける。	二宮

		復習：事例の領域1（ヘルスプロモーション）のアセスメントを記載する。	
5	情報の分析（アセスメント）②	①事例の領域1のアセスメント例を確認する。 ②栄養（領域2）、排泄と交換（領域3）のアセスメントの視点を学ぶ。 予習：テキスト2のP42-68（領域2～3）を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：事例の領域2～3のアセスメントを記載する。	二宮
6	情報の分析（アセスメント）③	①事例の領域2～3のアセスメント例を確認する。 ②活動／休息（領域4）のアセスメントの視点を学ぶ。 予習：テキスト2のP69-88（領域4）を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：事例の領域4のアセスメントを記載する。	①二宮 ②赤崎
7	情報の分析（アセスメント）④	①事例の領域4のアセスメント例を確認する。 ②知覚／認知（領域5）、自己知覚（領域6）、役割関係（領域7）のアセスメントの視点を学ぶ。 予習：テキスト2のP89-116（領域5～7）を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：事例の領域5～7のアセスメントを記載する。	①赤崎 ②日髙
8	情報の分析（アセスメント）⑤	①事例の領域5～7のアセスメント例を確認する。 ②セクシュアリティ（領域8）、コーピング／ストレス耐性（領域9）、生活原理（領域10）のアセスメントの視点を学ぶ。 予習：テキスト2のP117-133（領域8～10）を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：事例の領域8～10のアセスメントを記載する。	①日髙 ②赤崎
9	情報の分析（アセスメント）⑥	①事例の領域8～10のアセスメント例を確認する。 ②安全／防御（領域11）、安楽（領域12）、成長／発達（領域13）のアセスメントの視点を学ぶ。 予習：テキスト2のP134-159 （領域11～13）の該当箇所を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：事例の領域11～13のアセスメントを記載する。	①赤崎 ②日髙
10	看護アセスメントの統合と関連図	①事例の領域11-13のアセスメント例を確認する。 ②看護アセスメントの統合と関連図の目的・書き方について学ぶ。 予習：領域1～13のアセスメントを振り返り、不足箇所に追記する。 復習：事例の関連図案を作成する。	①日髙 ②川北
11	関連図の作成	アクティブラーニング（グループワーク）により、事例の関連図をグループ内で作成する。 予習：各自が事例の関連図案を作成する。 復習：グループで討議した内容を踏まえて、自分の関連図を完成する。	川北
12	看護診断と期待される成果	看護診断の優先順位と期待される成果の考え方について学ぶ。 予習：テキスト3のP305-315を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：事例に対する看護診断の優先順位を考え、問題リストを記載する。	二宮
13	看護計画の立案	看護計画の立案方法について学ぶ。 予習：テキスト3のP314-318を読み、重要な箇所に印をつける。事例の看護診断に対する「期待される成果」を立てる。 復習：事例の看護計画を立案する。	二宮
14	経過記録	①事例の看護計画例を確認し、自分の記録を修正する。 ②経過記録（フローシート、経時記録、フォーカスチャーティングなど）とSOAPの記載方法について学ぶ。 予習：テキスト3のP322-327を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：事例の経過記録を記載する。	二宮
15	看護計画の実施に基づく評価	看護計画の実施と評価方法について学ぶ。 予習：テキスト3のP318-321を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：事例の看護計画を評価する。事例の看護記録をまとめ、整理する。	二宮

授業科目	治療過程に伴う援助技術	科目ナンバリング	N-31-06-B		
授業科目（英）	Nursing Skills for Medical Treatment				
教員名	◎二宮早苗、川北敬美、赤崎芙美、日髙朋美、野口美穂（いずれも看護師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	60	学年	2
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	治療過程における看護の役割と対象者に必要な基本的看護技術について説明できる。 科学的根拠に基づいた基本的な診療補助技術を実施できる。				
行動目標	1．治療過程における対象者の身体・心理的特徴について説明できる。 2．安全・安楽な診療補助技術の必要性とその科学的根拠について説明できる。 3．治療過程における安全・安楽な診療補助技術を実施できる。 4．治療過程における看護職の役割について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、自己研鑽力、課題探究心、倫理観、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	評価：筆記試験（40%）、技術試験（40%）、課題等提出物（10%）、受講態度（10%）により総合的に評価する。 フィードバック法：筆記試験後は正答例の解説を行う。技術試験後は全体および個別にフィードバックを行い、再度練習の機会を設ける。				
教科書	1．看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術第3版，角濱春美・梶谷佳子編著，メヂカルフレンド社 （「日常生活援助技術」で使用しているため新規購入不要） 2．系統看護学講座　基礎看護学（3）　基礎看護技術Ⅱ、任和子他、医学書院（デジタル）				
参考書等	適宜資料を配布する。講義の中で適宜紹介する。				
事前準備 受講要件等	事前準備：事前課題を自己学習で行う。演習前には演習要項を確認し、指定された事前課題を行う。 受講要件：「日常生活援助技術」を修得済みであること。				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜日16:10～18:00				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1 2	診療に伴う援助技術とは 検査における看護技術① 排尿障害に対する援助技術①	診療・検査における看護師の役割について学ぶ。排尿障害の種類と身体への影響、排尿障害に対する援助技術について学ぶ。 予習：診療・検査における看護師の役割について、様々な資料を調べ、まとめる。教科書（p256-277)と「日常生活援助技術」の『排泄援助』の資料を読み、重要な箇所に印をつける。 復習：診療・検査における看護師の役割に関するレポートを提出する。	二宮
3 4	排便障害に対する援助技術（浣腸）	排便障害の種類と身体への影響、排便障害に対する看護援助技術について学ぶ。グリセリン浣腸法について学ぶ。 予習：教科書の該当箇所（p256-257，269-271）を読み、ナーシングスキル等の動画を視聴したうえで、グリセリン浣腸の実施方法、留意点、根拠をまとめる。 復習：グリセリン浣腸法に関するレポートを提出する。グリセリン浣腸の技術練習を行う。	二宮
5 6	排尿障害に対する援助技術②（無菌操作/一時的導尿）	無菌操作、無菌尿の採取（一時的導尿）の技術を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所（p.28-33，271-277)を読み、ナーシングスキル等の動画を視聴したうえで、一時的導尿の実施方法、留意点、根拠をまとめる。 復習：無菌操作、無菌尿の採取（一時的導尿）の技術練習を行う。	二宮
7 8	排尿障害に対する援助技術③（一時的導尿/持続的導尿）	無菌尿採取（一時的導尿）、持続的導尿の技術を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所（p271-277）を読み、ナーシングスキル等の動画を視聴したうえで、一時的導尿・持続的導尿の実施方法、留意点、根拠をまとめる。 復習：一時的導尿、持続的導尿に関するレポートを提出する。無菌尿の採取（一次的導尿）の技術練習を行う。	二宮

11 12	呼吸を整える援助技術① （吸引・吸入）	吸入・吸引の目的、原理、種類、生体への影響、方法について学ぶ。 予習：教科書の該当箇所（p409-430）を読み、ナーシングスキル等の動画を視聴したうえで、吸入・吸引の実施方法、留意点、根拠をまとめる。 復習：吸入・吸引に関するレポートを提出する。	赤崎
11 12	呼吸を整える援助技術② （吸引・吸入）	吸入・吸引の目的、原理、種類、生体への影響、方法について学ぶ。 予習：教科書（p409-430）を読み、ナーシングスキル等の動画を視聴したうえで、吸引・吸入の実施方法、留意点、根拠をまとめる。 復習：吸入（酸素吸入、ネブライザー吸入）と吸引（口腔・鼻腔内吸引）の技術練習を行う。	赤崎
13 14	総合演習①	提示された設定の患者に対し、適切な看護援助方法について学ぶ。 予習：既習の看護技術を練習する。 復習：自己の援助方法について振り返り、技術練習を行う。	二宮
15 16	皮膚・創傷の管理技術	皮膚・創傷の管理技術について学ぶ。 予習：教科書（p439-475）を読み、ナーシングスキル等の動画を視聴したうえで、創傷処置、包帯法の実施方法、留意点、根拠をまとめる。 復習：創傷管理に関するレポートを提出する。創傷処置、包帯法の技術練習を行う。	日髙
17 18	検査における看護技術① （採血）	採血法の目的、種類、生体への影響、方法について学ぶ。採血に用いる物品の取扱い方法について学ぶ。採血部位の選定方法について、超音波診断法・静脈可視化装置を用いて学ぶ。 予習：教科書（p369-371，375-376，393-397）を読み、ナーシングスキル等の動画を視聴したうえで、採血に用いる物品の取扱い方法、留意点、根拠をまとめる。 復習：採血部位の選定法についてレポートを提出する。採血に用いる物品の取扱いに関する技術練習を行う。	二宮
19 20	検査における看護技術② （採血）	静脈血採血法（注射器および翼状針を用いた方法）の技術を学ぶ。 予習：教科書（p393-397）を再読し、ナーシングスキル等の動画を視聴したうえで、静脈血採血の実施方法、留意点、根拠をまとめる。 復習：採血において看護師に求められる知識・技術・態度・倫理に関するレポートを提出する。静脈血採血の技術練習を行う。	二宮
21 22	与薬における看護技術① （注射薬の準備）	与薬の目的、種類、生体への影響、方法、看護師の役割について学ぶ。 予習：教科書（p364-369、371-382）を読み、ナーシングスキル等の動画を視聴したうえで、薬剤の各投与方法、留意点、根拠についてまとめる。 復習：注射薬の準備方法の技術練習を行う。与薬における看護師の役割についてレポートを提出する。	日髙
23 24	与薬における看護技術② （皮下注射/筋肉内注射）	皮下注射、筋肉内注射の技術を学ぶ。 予習：教科書（p374-383）を読み、ナーシングスキル等の動画を視聴したうえで、皮下注射・筋肉内注射の実施方法、留意点、根拠についてまとめる。 復習：皮下注射、筋肉注射の技術練習を行う。	日髙
25 26	与薬における看護技術③ （点滴静脈内注射の準備）	点滴静脈内注射の技術を学ぶ。 予習：教科書（p383-392）を読み、ナーシングスキル等の動画を視聴したうえで、点滴静脈内注射の実施方法、留意点、根拠についてまとめる。 復習：点滴静脈内注射の準備の技術練習を行う。	赤崎
27 28	与薬における看護技術④ （点滴静脈内注射の実施）	点滴静脈内注射の技術を学ぶ。 予習：教科書（p383-392）を再読し、ナーシングスキル等の動画を視聴したうえで、点滴静脈内注射の実施方法、留意点、根拠についてまとめる。 復習：点滴静脈内注射薬の準備・実施の技術練習を行う。	赤崎
29 30	総合演習②	提示された設定の患者に対し、適切な看護援助方法について学ぶ。 予習：既習の看護技術を練習する。 復習：自己の援助方法について振り返り、技術練習を行う。	赤崎

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ	科目ナンバリング	N-31-07-B		
授業科目（英）	Fundamental Nursing Practicum Ⅱ				
教員名	◎二宮早苗、川北敬美、赤崎芙美、日髙朋美、野口美穂（いずれも看護師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	90	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	実習		
一般目標	看護過程を活用し、対象者の健康課題の解決に向けて看護実践を行うための基礎的な能力を培う。				
行動目標	1. 対象者の健康状態に関する情報を収集することができる 2. 既習した学習の知識を活用し、情報の分析・解釈を行い、対象者の健康状態についてアセスメントすることができる 3. 対象者のニーズを把握することができる 4. 対象者のニーズ充足のために、不足している情報を収集することができる 5. 情報の関連性を明らかにし、対象者の全体像を把握することができる 6. 対象者の健康課題を抽出することができる 7. 対象者にとって優先度の高い健康課題について、看護計画を立案することができる 8. 対象者に行われている看護ケアに参加し、助言を受けながら看護計画の一部を実施することができる 9. 看護ケアに対する対象者の反応を評価することができる 10. 対象者とその家族および医療チームメンバーと適切な人間関係を形成することができる				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、自己研鑽力、課題探求心、倫理観、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	評価：実習評価表に基づき評価する（100%） フィードバック法：カンファレンスや実習内容および実習記録へのコメントを通してフィードバックを行う。				
教科書	既習科目で使用したテキスト（主に看護展開論，日常生活援助技術，フィジカルアセスメント）、資料など				
参考書等	「看護展開論」で紹介した参考書、その他適宜紹介する				
事前準備 受講要件等	事前準備：「看護展開論」「フィジカルアセスメント」「日常生活援助技術」「治療過程に伴う援助技術」の復習を行い、学びを深めておくこと 受講要件：「日常生活援助技術」「基礎看護学実習Ⅰ」「看護展開論」「治療過程に伴う援助技術」の全てを修得し、「フィジカルアセスメント」を履修中であること				
オフィスアワー（曜日／時間）	実習期間中、随時担当教員にメールにて時間予約してください				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
		概要：看護師のケアの見学や受持ち患者の看護過程を展開する。 1．実習期間 　後期試験期間終了後、2週間ずつに分かれて実習を行う。 2．実習場所 　大阪医科薬科大学病院の病棟 3．指導体制 　1グループ5～6名に対して、実習担当教員が臨地実習指導者と連携し、指導を行う。 3．実習内容 　1日目）実習オリエンテーション、技術練習 　2～9日目）受持ち患者の看護過程展開（情報収集，アセスメント，関連図作成，看護計画立案，ケアの実施と評価）および看護師のケアの見学 　10日目）看護要約作成、学びの共有 予習：「看護展開論」で学んだ看護過程の展開方法を確認する。「日常生活援助技術」で学んだバイタルサイン測定や日常生活援助技術の方法や、フィジカルアセスメントで学んだ内容を確認する。	二宮 川北 赤崎 日髙 野口

		復習：日々の実習を振り返り、教員担当教員・臨地実習指導者の助言やカンファレンスでの意見交換等を参考に、実習記録を記載・随時修正する。実習を振り返り、自らの今後の課題を明らかにする	

授業科目	看護管理	科目ナンバリング	N-31-07-B		
授業科目（英）	Nursing Administration				
教員名	◎川北敬美、日髙朋美、中山サツキ（いずれも看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	4
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	看護管理は管理者だけがするものではない。看護を取り巻く社会背景と看護管理の基本となる概念を理解し、対象者に良質な看護サービスを提供するための看護に関する制度・施策から個々のケア管理までを1つのシステムとして説明することができる。				
行動目標	1. 看護管理の基本となる概念を説明できる。 2. 看護師の仕事と管理や看護提供システムについて説明できる。 3. 看護管理に求められる能力や理論を説明できる。 4. 医療・看護サービスにおける継続的な質向上の必要性を認識し、その方略について議論ができる。 5. これからの医療・看護を担う専門職としての自己の役割について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	受講態度（10%）、筆記試験（60%）レポート（30%） フィードバックは、各回の学びシートに基づいて行う。				
教科書	ナーシンググラフィカ　看護の統合と実践①「看護管理」メディカ出版				
参考書等	適時、資料を配付する。				
事前準備 受講要件等	教科書の該当部分を読み、重要な箇所には線などを引き、講義内容のアウトラインを確認しておく。 第5回については、事前にレポート課題を提示する。				
オフィスアワー（曜日／時間）	川北：金曜日午後　ただし、メールで事前にアポイントメントをとること。				
SDGsとの関連	4，5，8				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	看護管理の基本となる概念・知識	・看護管理の定義や目的、歴史について ・組織とマネジメント ・リソースマネジメント ・看護管理プロセス 予習：教科書p.16～36, 75~95, 97~106を読み、重要な箇所に線を引く 復習：重要な概念についてまとめる	川北
2	看護管理に求められる能力	・セルフマネジメントスキル、コミュニケーションスキル、タイムマネジメント、アサーションについて ・リーダーシップ理論 ・看護管理者のコンピテンシー 予習：教科書p.37～74, 224～234, 235～249を読み、分からない言葉は調べる。 復習：重要な概念についてまとめる	川北
3	看護職とキャリア	・キャリアとは何か、キャリア理論、キャリア発達のプロセス ・組織社会化、新人期看護師に関する諸課題 ・基礎教育、継続教育、生涯学習 予習：教科書p.256~279を読んでくる 復習：重要な概念についてまとめる。新人期看護師に関する諸課題と自らの傾向を分析し、対策についてまとめる（要提出）	日髙
4	看護の質と向上①	・医療の質とは ・看護の質保証とその方略（グループワーク） ・看護倫理と組織倫理について 予習：教科書p.160～7を読み、看護実践上の倫理場面についてのワークシートを記載する	川北

		復習：グループメンバーのディスカッションを通して、重要な概念についてまとめる	
5	看護の質向上②	・医療安全と看護管理 ・医療・看護の質と評価 ・組織変革、組織開発 予習：教科書p.168～203を読み、重要な箇所に線を引く 復習：看護の質保証①②の講義およびグループメンバーのディスカッションを通して、看護の質保証への取り組みについて、ワークシートを仕上げる（要提出）	川北
6	看護管理の実際 看護管理におけるリソースマネジメント	・看護管理のリソースマネジメント（ヒト、モノ、情報、コスト） ・労働環境管理 予習：教科書p.122～157を読み、重要な箇所についてまとめる 復習：重要な概念についてまとめる	中山
7	看護活動を取り巻く 法律・制度・施策	オンデマンドで実施 ・看護管理に関連する法律（医療法、保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律） ・保健医療福祉政策と最近の動向 ・看護と専門機関・職能団体 ・看護政策 予習：教科書p.198~220を読み、重要な箇所についてまとめる 復習：医療法、保助看法、人確法および、看護師の需給見通しについてまとめる。	川北
8	総括	・看護提供システム ・授業の総括 予習：教科書p.108~112を読み、1～7回の学習内容を復習してくる 復習：看護管理に必要な概念と自らのキャリアマネジメントについてまとめる。	川北

授業科目	看護教育	科目ナンバリング	N-31-08-B		
授業科目（英）	Nursing Education				
教員名	◎池西悦子（看護師実務経験者）　赤崎芙美（看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	4
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	看護学教育の基本となる概念について理解し、対象者に質の高い看護を提供するための看護教育制度・教育方法・評価のあり方について考察できる。また、自身のキャリアとの関係から看護学を学ぶ意義を明らかにする。				
行動目標	１．看護学教育とは何かが説明できる。 ２．日本の看護教育制度の特徴が説明できる。 ３．学習とは何かが具体例を挙げて説明できる。 ４．主体性を育む教育方法、教育評価の意義が説明できる。 ５．看護職者となる自分にとっての生涯学習の意義と方法が説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	ミニレポート30%、課題20%、最終レポート50%で評価する。 授業の中でミニレポート・課題の内容についてフィードバックする。				
教科書	グレッグ美鈴、池西悦子編著：看護教育学−看護を学ぶ自分と向き合う−．南江堂．2024．				
参考書等	必要時授業で提示する。				
事前準備 受講要件等	予習に取り組み授業に参加すること。				
オフィスアワー （曜日／時間）	水曜日　12:10～13:00				
SDGsとの関連	3，4				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	教育とは　看護学教育とは	看護学教育の目的・意義 予習：教科書１章1.、2章1.2.を読み、看護学教育の目的を考えてくる。 復習：授業を通してあなたが看護学を学ぶ意味を整理する。	池西
2	日本の看護教育制度	日本の看護教育制度・教育課程の変遷　※オンデマンド形式で実施 予習：教科書 3章を読み、大学と養成所の教育の違いを考えてくる。 復習：自身の経験と授業内容から日本の看護教育制度・教育課程の特徴をまとめる。	池西
3	学習理論・方法、評価	アンドラゴジー、学習理論、評価 予習：教科書 6章、８章を読み、学習とは何か、評価とは何かを考えてくる。 復習：授業内容を通して改めて学習とは何か、評価とは何かについてまとめる。	赤崎
4	経験学習とリフレクション	経験学習、リフレクション 予習：教科書 4章3.４．を読み、経験学習の意義について考えてくる。 復習：自分の気がかりな事例1例を振り返り、記述する。	池西
5	生涯学習と自己主導型学習	看護職の生涯学習、自己主導型学習、リカレント教育 ※オンデマンド形式で実施 予習：教科書 4章５を読み、看護職の資格取得後の学習資源について調べてくる。 復習：自己主導型学習の計画を立案する。	池西
6･7	リフレクションの実際	グループリフレクション・発表資料作成　※グループワーク 予習：気がかりな事例を振り返り、シートに記述して持参する。 復習：事前課題で取り組んだシートに加筆し、看護職としてより良い実践にするための行動計画を具体的に立案する。シートは提出する。	池西・赤崎

8	リフレクションによる学びの共有	グループリフレクションで明らかになった学びを共有する　※発表 予習：各グループで検討した事例の発表ができる様に準備する。 復習：看護職者にとってのリフレクションの意義と方法をまとめる。	池西・赤崎

授業科目	成人看護学概論	科目ナンバリング	N-32-01-B		
授業科目（英）	Introduction to Adult Nursing				
教員名	◎飛田伊都子（看護師実務経験者）、赤澤千春（看護師実務経験者）、 寺口佐與子（看護師実務経験者）、有田弥棋子（看護師実務経験者）、 勝山あづさ（看護師実務経験者）、野瀬珠美（看護師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	１．成人期にある人の生活と健康に関する基本的な知識を理解する。 ２．成人期にある人の多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的な考え方を理解する。 ３．成人期にある人の健康レベルや状況に対応した看護を実践するための基盤となる概念・理論を理解する。				
行動目標	１．成人期にある人についてライフサイクルの各ステージにおける身体的、精神・心理的、社会的側面の特徴を説明できる。 ２．成人期にある人の成長・発達、生活や健康の特徴を踏まえて保健医療福祉における動向と課題について説明できる。 ３．ヘルスプロモーションを必要とする対象、治療を必要とする対象、ターミナル期の対象など様々な健康状態にある人の特徴を説明できる。 ４．様々な健康状態にある人の必要とされる看護援助、看護の概念、看護の基礎的理論を説明できる。 ５．看護職者の倫理的課題を説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究心、専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	筆記試験（100%） 課題に関しては授業で説明する。 試験の終了後に解説を行う。				
教科書	系統看護学講座 専門 成人看護学［1］「成人看護学総論」、小松浩子他、医学書院（デジタル）				
参考書等	資料等はUNIPAで事前に提供する。必ず確認しておくこと。				
事前準備 受講要件等	基礎科目、専門基礎科目を学習しておくこと。事前にシラバスを確認し、該当箇所を読んでおくこと。				
オフィスアワー （曜日／時間）	水曜日 12:10～13:00				
SDGsとの関連	3、4				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	成人と生活	第１章 成人と生活 成人期にある対象の理解、対象の生活 予習：生涯発達の特徴、青年期・壮年期・中年期・向老期の特徴について調べる。 復習：生涯発達の特徴、青年期・壮年期・中年期・向老期の特徴についてまとめる。	飛田
2	生活と健康	第２章 生活と健康 ①成人保健の動向、生活者として対象の理解 ②ライフサイクルと成長・発達 予習：成人期の健康と生活について考えておく。 復習：発達段階の視点から成人保健について説明できるようにまとめる	寺口
3	成人への看護アプローチの基本（１）	第３章 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助、症状マネジメント、健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 予習：大人の健康行動と症状マネジメントについて調べる。 復習：大人の健康行動とその変容に向けたアプローチ、症状マネジメント、医療における人間関係についてまとめる。	飛田
4	成人への看護アプローチの基本（２）	第３章 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ、チームアプローチ、看護におけるマネジメント 予習：医療におけるチームアプローチについて調べる。	飛田 野瀬

		復習：集団へのアプローチ、チームアプローチ、看護の質の保証についてまとめる。	
5	成人への看護アプローチの基本（３）	第３章　看護実践における倫理的判断、意思決定支援、家族支援 予習：医療における倫理的課題、意思決定、家族支援に関して調べる。 復習：倫理の原則、倫理的問題に関する看護者の役割をまとめる。意思決定にかかわる看護師の役割をまとめる。家族支援の実際をまとめる。	赤澤
6	ヘルスプロモーションと看護	第４章 ヘルスプロモーションと看護 予習：個人の主体的な健康づくりを読み、ヘルスリテラシーについて説明できるように調べる。ヘルスプロモーションについて５つの活動の視点でまとめ、さらに自身のヘルスプロモーションを説明できるように準備する。 復習：職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護についてまとめる。	有田
7	まとめ	学習の振り返りと理解の確認 予習：これまでの講義内容を復習する。 復習：再度講義内容を振り返る。	飛田、赤澤
8	健康をおびやかす要因と看護	第５章 健康をおびやかす要因と看護 予習：健康バランス、生活行動について調べる。 復習：健康バランスの構成要素と影響要因、生活行動と健康問題とその予防についてまとめる。	赤澤
9	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護	第６章 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 予習：テキストの該当箇所「健康の急激な破綻」「急性期にある人の看護について」を読む。 復習：健康の急激な破綻に陥る過程とその援助方法ついて整理し、急性期にある人の特徴とその看護についてまとめる。	勝山
10	慢性病とともに生きる人を支える看護	第７章 慢性病とともに生きる人を支える看護 予習：テキストの該当箇所「慢性病とともに生きる人を理解する」「慢性病とともに生きる人を支える」を読む。 復習：慢性病と慢性病をもつ人の特徴、慢性病とともに生きる人への支援方法をまとめる。	飛田
11	障害がある人の生活とリハビリテーション	第８章 障害がある人の生活とリハビリテーション 予習：テキストの該当箇所「障害がある人とリハビリテーション」「障害がある人とその生活を支援する看護」を読む。 復習：障害がある人の生活とリハビリテーションの特徴を振り返り、障害がある人を支援する看護についてまとめる。	勝山
12	人生の最期のときを支える看護	第９章 人生の最期のときを支える看護 予習：苦痛と苦悩の違いを調べる。全人的苦痛（トータルペイン）について説明できるように調べる。 復習：人にとっての死、スピリチュアルペイン、自己の死生観について説明できるようにまとめる。	有田
13	さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援	※オンデマンド形式で実施 第１０章 さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援 予習：テキストの該当箇所「移行支援の基礎知識」「継続的な移行を支える支援の実際」を読む。 復習：移行支援が必要とされる背景、移行支援の看護アプローチの特徴と方法についてまとめる。	有田
14	新たな治療法、先端医療と看護	第１１章 新たな治療法、先端医療と看護 予習：先進医療と先端治療について調べておく。 復習：対象の特徴、フィジカルアセスメント、心理・社会的側面のアセスメントをまとめる。	寺口
15	まとめ	学習の振り返りと理解の確認 予習：これまでの講義を復習する。 復習：成人看護学に必要な対象の特徴をまとめる。	飛田、赤澤

授業科目	急性期成人看護学援助論	科目ナンバリング	N-32-02-B		
授業科目（英）	Critical Care Nursing				
教員名	◎赤澤千春(看護師実務経験者)、寺口佐與子(看護師実務経験者)、安田稔人(医師実務経験者)、勝山あづさ(看護師実務経験者)				
単位数	1.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	対象者に生じる生命の危機的状況を理解し、その状況にある対象者及び家族に対する看護アセスメントができ、介入方法を立案することができる。				
行動目標	1．急激な生体侵襲により生命を脅かすような危機的状態や健康障害を理解することができる。 2．アクティブラーニングを用いて、その対象及び家族に生じる身体的・心理的・社会的状況をアセスメントできる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究力、倫理観、専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	筆記試験（70%）、IOT(respon)を用いて小テスト（20%）、個人ワークの提出物（10%） 試験後に解説				
教科書	池上徹、高橋則子編：系統看護学講座　臨床外科総論　（医学書院デジタル） 北島政樹、江川幸二編：系統看護学講座　臨床外科各論　（医学書院デジタル）				
参考書等	資料等はUNIPAで事前に提供する。必ず確認しておくこと。				
事前準備 受講要件等	・専門基礎科目の中の人間理解に関する授業科目での学習事項を復習すること。 ・配布資料の予備は保管しません。欠席者は出席者の資料をコピーすること。 ・わかりにくい点などがあれば、自主的に質問をすること。				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜9:00~12:00				
SDGsとの関連	3，4				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	病期の急性期の特徴と看護	急性期成人看護学の概観 生命の危機的状況について 予習：成人看護概論を見直しておく.生体侵襲による生体反応についてまとめておく(総論P2-16) 復習：生体侵襲による生体反応を説明できるようにしておく。	赤澤
2	生命の危機的状況：周術期	生命の危機的状況である周術期のMOOREの回復過程 予習：周術期の患者の特徴を読んでおく（総論P17-23、78-101)。 復習：周術期の患者の特性をまとめる。	赤澤
3	生命の危機的状況：集中治療、救急	生命の危機的状況である救急・集中治療を必要とする患者 予習：救急患者と集中治療を受ける患者の特徴を読んでおく（総論P178-191、334-355)。 復習：救急医療、救急患者、救急看護、集中治療の特性をまとめる。	赤澤
4	術後合併症：呼吸	術後に生じる呼吸器合併症とその援助 予習：これまで学習している麻酔、呼吸に関する解剖生理を復習しておく。(総論P101-109,P320-321) 復習：呼吸のメカニズムを理解し、呼吸器合併症をアセスメントするために必要な検査項目、また看護方法をまとめる。	勝山
5	術後合併症：循環	術後に生じる循環器合併症とその援助 予習：循環器系の解剖生理学を復習しておく。教科書は臨床外科看護総論p317-319を学習しておく 復習：配布資料と教科書を用いて循環器系の合併症とその援助について理解する。	赤澤
6	術後合併症：代謝	術後に生じる代謝機能の変化による合併症とその援助 予習：内分泌・代謝系および腎・泌尿器系の解剖生理学を復習をしておく。臨床外科看護総論p110-135、p314、p322-326を学習しておく。	寺口

		復習：手術侵襲による内分泌・代謝系・腎・泌尿器系の変化について理解し、授業資料に基づいて合併症とその看護についてまとめる。	
7	周手術期の患者の心理と術前の看護	手術を受ける患者及び家族の心理身体社会的問題と術後に生じる合併症とその援助 予習：術後合併症について読んでおくこと。（総論P218-247,P311-317）、成人看護学概論の理論の復習をしておくこと 復習：術前ケアの必要性を理解し、術後合併症をまとめ、術前指導について、まとめる。手術侵襲が心理・社会におよぼす影響についてまとめる。	寺口
8	術中の看護	全身麻酔を受ける手術中に生じる問題とその援助 予習：テキストを読んで手術室における看護の展開をイメージしておく（総論262ー304） 復習：手術室という場の特徴、手術室入室から退室までの各期の看護についてまとめる	寺口
9	術後の看護	手術後に生じる問題と援助 予習：手術侵襲による生体反応を復習しておく。 総論306ー324、343ー345を読んでおく。 復習：術後合併症の予測と回復促進に向けた看護援助についてまとめておく。	寺口
10	生体反応症状：炎症、感染症	炎症、感染症、創傷ケア 予習：皮膚の機能についての解剖生理学を復習しておく。臨床外科看護総論を学習しておく。総論p24−53（炎症、感染、創傷治癒）ドレーン管理（総論p308-310) 復習：縫合不全、ドレーン挿入の目的、ドレーンの管理、排液のみかた、褥瘡について授業配布資料に基づきまとめる。	勝山
11	外科的治療の実際と術後回復期	外科的治療の実際と術後回復期における特に運動器合併症の予防や対応 予習：外科的治療の実際について（テキスト総論p144-168）運動器の合併症について（テキスト総論ｐ326-329神経障害、関節拘縮、筋萎縮）を読んでおく。社会復帰の障壁となる術後回復期の様々な障害を整理しておく。 復習：早期運動療法など社会復帰のためのリハビリテーションについて理解し、回復期の看護に役立てる。	安田
12	看護計画作成	オンデマンド形式で実施 情報のアセスメント 予習：これまでに配布した事例のわからないところを調べておく 復習：情報から生体侵襲による生体反応を踏まえたアセスメントを考える。	赤澤 寺口 勝山
13	看護計画作成	情報のアセスメント 予習：これまでに配布した事例のわからないところを調べておく 復習：情報から生体侵襲による生体反応を踏まえたアセスメントを考える。	赤澤 寺口 勝山
14	看護計画作成	情報のアセスメント 予習：これまでに配布した事例のわからないところを調べておく 復習：情報から生体侵襲による生体反応を踏まえたアセスメントを考える。	赤澤 寺口 勝山
15	学習まとめ	学習のまとめ 予習：これまでの講義を復習しておく。 復習：これまでの講義をもとに事例の看護計画を立案しておく。	赤澤 安田 寺口 勝山

授業科目	急性期成人看護学援助方法	科目ナンバリング	N-32-03-B		
授業科目（英）	Critical Care Nursing Methods				
教員名	◎赤澤千春(看護師実務経験者)、 安田稔人（医師実務経験者）、 寺口佐與子(看護師実務経験者)、勝山あづさ(看護師実務経験者)、玉木　彰（非）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	アクティブラーニング（IBL・模擬患者・シミュレーション・グループワーク）を用いて、生命の危機的状況にある対象を理解し、その対象および家族の看護問題をアセスメントし、問題解決に必要な看護介入の方法を立案できる。				
行動目標	周手術期を通して生命の危機的状況を述べることができる。 手術を受ける患者の看護計画を立案できる。 ロールプレイを通して看護介入の方法を説明できる。 グループ発表を通して各事例の相違点と類似点を述べることができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	受講態度・グループ評価（看護計画）20%、個人評価（記述試験）70%、個人評価（課題提出）10% 試験後に解説				
教科書	矢永勝彦、高橋則子編：系統看護学講座　臨床外科総論　（医学書院） 北島政樹、江川幸二編：系統看護学講座　臨床外科各論　（医学書院） 授業科目「急性期成人看護学援助論」で使用しているため購入不要				
参考書等	2回生の急性期成人看護学援助論の資料				
事前準備 受講要件等	・生体反応、MOOREの回復過程、呼吸、循環、代謝、術後合併症、手術前、中、後の看護についての復習 ・DVDやビデオで手術の援助に必要な看護技術の学習 ・1回生2回生の専門科目で学んでいるコミュニケーション、日常生活援助技術の復習 ・授業はアクティブラーニングを用いてグループで課題探索やディスカッション、プレゼンテーションとロールプレイを行う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜9:00～12:00				
SDGsとの関連	3，4				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	オリエンテーション 思考過程について	グループワーク IBLにて事例を提示 予習：2回生の講義を振り返っておく。 復習：グループ内で分担した項目を調べる。	赤澤 寺口 勝山
2	思考過程（探索）	アクティブラーニングの方法で事例の情報、探索した内容をグループ間で共有 予習：探索した内容の発表準備をしておく。 復習：共有した内容をまとめておく。	赤澤 寺口 勝山
3	思考過程（共有）	各自調べてきた内容を発表し合う。 予習：発表準備をしておく。 復習：内容をまとめておく。	赤澤 寺口 勝山
4	入院時情報収集 看護計画作成	入院時の情報収集,看護計画作成 予習：情報取集のための項目を抽出しておく。これまで学習してきている問診時に必要な技術を調べておく。 復習：得られた情報を整理しておく。	赤澤 寺口 勝山
5	呼吸理学療法	呼吸理学療法：講義 予習：基礎科目で学習した呼吸に関する解剖生理を調べておく。 復習：呼吸に関することを整理しておく。	赤澤 寺口 勝山 玉木

6	呼吸理学療法の実際 創傷ケア	呼吸理学療法：聴診・スクイージング、創傷ケア、観察技術 予習：フィジカルアセスメント、皮膚の解剖生理について学習しておく。 復習：講義内容が正しくできるように繰り返し練習しておく。	赤澤 寺口 勝山 玉木
7	看護計画作成	事例の看護計画を作成 予習：生体反応、回復過程および事例についての不明な点を調べておく。 復習：情報が正しくアセスメントでき、問題の抽出ができる。	赤澤 寺口 勝山
8	術前訓練	事例の術後合併症予防のために必要な内容を術前に行うロールプレイ 予習：立案した看護計画を実施するために必要な技術を確認しておく。 復習：術前のケアに必要な内容をまとめておく。	赤澤 寺口 勝山
9	術前ロールプレイ 術中の記録による看護計画修正	術前のロールプレイ、術中の記録からの看護計画修正 予習：術式を調べる。 復習：術式による特徴をまとめる。	赤澤 寺口 勝山
10	術中の記録による看護計画修正	術中の記録からの看護計画修正 事例の術直後の準備 予習：配布された術中記録の不明な点を調べておく。術直後に必要な観察項目を調べてくる。 復習：術直後の合併症予防のための観察項目をまとめる。	赤澤 寺口 勝山
11	術直後の観察および援助	事例の術直後の観察、看護介入のロールプレイ 予習：観察項目の正常範囲を調べておく。必要な看護技術を調べておく。 復習：観察から得た情報のアセスメントと介入方法をまとめておく。	赤澤 寺口 勝山
12	術直後の観察および援助	事例の術直後の観察、看護介入のロールプレイ 予習：観察項目の正常範囲を調べておく。必要な看護技術を調べておく。 復習：観察から得た情報のアセスメントと介入方法をまとめておく。	赤澤 寺口 勝山
13	事例の看護計画の発表準備	事例の看護計画の発表の準備 予習：これまでの事例の看護計画を見直しておく。 復習：看護計画をまとめる。	赤澤 寺口 勝山
14	グループ発表	グループ発表 予習：グループ発表の準備 復習：各グループの発表をまとめる。	赤澤 安田 寺口 勝山
15	グループ発表	グループ発表 予習：グループ発表の準備 復習：各グループの発表をまとめる。	赤澤 安田 寺口 勝山

授業科目	急性期成人看護学実習	科目ナンバリング	N-32-04-B		
授業科目（英）	Critical Care Nursing Practicum				
教員名	◎寺口佐與子(看護師実務経験者)、赤澤千春(看護師実務経験者)、 安田稔人（医師実務経験者）、 勝山あづさ(看護師実務経験者)、土井智生(看護師実務経験者)				
単位数	3.0	時間数	135	学年	3
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	実習		
一般目標	成人期にある生命の危機的状況（生体侵襲による生命反応）における対象（患者およびその家族など）を術前・術中・術後の周手術期を通して理解し、看護上の問題解決のための看護を計画・実施・評価するために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。				
行動目標	1） 患者が手術を受けることでどのような変化・反応を示すか推測できる。 2） 手術に向けての準備を効果的に進めるために何が必要か理解でき援助できる。 3） 術後の各期に起こる生体の変化を指摘し、合併症を予防するよう援助できる。 4） 退院後の日常生活について患者及び家族とともに考えることができる。 5） 手術室という特殊性を理解できる。 6） 手術室内での看護師の役割を理解できる。 7） 手術中に患者の安全・安楽をどのように守るか理解できる。 8） 手術がどのように行われているかわかる。 9） 思考過程が整理された記録ができる。 10）責任ある報告、相談ができる。 11）学ぶものとして真摯な態度で実習に臨むことができる。 12）主体的な態度で取り組むことができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	自己研鑽力、倫理観、課題探究力、専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	実習評価表に基づき評価する（100%)。 実習前後とも、教員もディスカッションに参加し指導、修正を行う。				
教科書	矢永勝彦、高橋則子編：系統看護学講座　臨床外科総論　（医学書院） 北島政樹、江川幸二編：系統看護学講座　臨床外科各論　（医学書院） 授業科目「急性期成人看護学援助論」で使用しているため購入不要				
参考書等	なし				
事前準備 受講要件等	・履修の手引きの履修要件を満たし、「成人看護学概論」、「急性期成人看護学援助論」、「急性期成人看護学援助方法」について復習しておくこと ・DVDやビデオでの手術の援助に必要な看護技術の復習				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜9:00～12:00				
SDGsとの関連	3，17				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
	手術を受ける対象を通して生命の危機的状況における患者及び家族の看護問題を抽出し、看護援助を行う。	手術を受ける患者を受け持ち、術前、術中、術直後の看護過程の展開を行う。 予習：成人看護学概論、急性期成人看護学援助論、急性期成人看護学援助方法を復習する。基礎技術を復習しておく。担当の病棟の疾患で看護計画を策しておく。 復習：術前から術後までをもう一度振り返り、手術を受ける患者の看護、生命の危機的状況にある患者の看護についてまとめる。	寺口 勝山 土井 赤澤 安田

授業科目	慢性期成人看護学援助論	科目ナンバリング	N-32-05-B		
授業科目（英）	Chronic Care Nursing				
教員名	◎飛田伊都子（看護師実務経験者）、有田弥棋子（看護師実務経験者）、 野瀬珠美（看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	慢性疾患とその治療法を学び、慢性病を持つ患者の身体的・社会的・精神心理的特徴について理解し、対象となる人の生活を支援する看護の基本的な考え方が理解できる。				
行動目標	１．慢性病を持つ人とその家族の身体的・社会的・精神心理的特徴を説明できる。 ２．セルフケア能力を高め、QOL向上を目指した看護における理論について説明できる。 ３．慢性病を持ちながら生活する人の事例を通じて、看護過程を展開できる。 ４．慢性病を持ちながら生活する人の倫理的課題について考えることができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、自己研鑽力、専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	筆記試験（70%）、グループワーク・受講態度（10%）、レポート（20%） 試験・グループワーク終了後にフィードバックを行う。				
教科書	系統看護学講座 専門 成人看護学［1］「成人看護学総論」、小松浩子他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門 成人看護学［2］「呼吸器」、浅野浩一郎他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門 成人看護学［3］「循環器」、吉田俊子他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門 成人看護学［5］「消化器」、南川雅子他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門 成人看護学［6］「内分泌・代謝」、黒江ゆり子他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門 成人看護学［7］「脳・神経」、井手隆文他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門 成人看護学［8］「腎・泌尿器」、今井亜矢子他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門 成人看護学［11］「アレルギー 膠原病 感染症」、岩田健太郎他、医学書院（デジタル）				
参考書等	授業時、随時紹介する				
事前準備 受講要件等	成人看護学概論の講義内容を十分復習して臨むこと。				
オフィスアワー （曜日／時間）	水曜日 12:10～13:00				
SDGsとの関連	3，4，5				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	慢性期看護：総論	慢性期看護の特徴、慢性病を持つ人とその家族の理解、慢性病を持つ人とその家族への援助に関わる主な理論・概念について学ぶ 予習：成人看護学概論の内容を見直しておく 復習：教科書p.1-p.128の要点をまとめる	飛田
2	代謝・内分泌機能の障害を有する人への看護：糖尿病	糖尿病を持つ人の症状アセスメント、看護援助について学ぶ 予習：教科書p.328-p.339を読んでおく 復習：教科書と講義資料を参考に糖尿病を持つ患者の看護についてまとめる	飛田
3	脳・神経系機能の障害を有する人への看護：脳梗塞	脳梗塞を患う人の症状アセスメント、看護援助について学ぶ 予習：教科書p.418-p.425を読んでおく 復習：教科書と講義資料を参考に脳梗塞を患う患者の看護についてまとめる	有田
4	循環器系機能の障害を有する人への看護：慢性心不全	慢性心不全を患う人の症状アセスメント、看護援助について学ぶ 予習：教科書p.271-p.280を読んでおく 復習：教科書と講義資料を参考に慢性心不全を患う患者の看護についてまとめる	野瀬
5	腎・泌尿器系機能の障害を有する人への看護：慢性腎不全	慢性腎不全を患う人の症状アセスメント、看護援助について学ぶ 予習：教科書p.357-p.367を読んでおく 復習：教科書と講義資料を参考に慢性腎不全を患う患者の看護についてまとめる	飛田

6	呼吸器系機能の障害を有する人への看護：慢性閉塞性肺疾患（COPD）	慢性閉塞性肺疾患（COPD）を患う人の症状アセスメント、看護援助について学ぶ 予習：教科書p.225-p.232を読んでおく 復習：教科書と講義資料を参考にCOPDを患う患者の看護についてまとめる	飛田
7	消化器系機能の障害を有する人への看護：肝硬変	肝硬変を患う人の症状アセスメント、看護援助について学ぶ 予習：教科書p.296-p.306を読んでおく 復習：教科書と講義資料を参考に肝硬変を患う患者の看護についてまとめる	飛田
8	脳・神経系機能の障害を有する人への看護：パーキンソン病	パーキンソン病を患う人の症状アセスメント、看護援助について学ぶ 予習：教科書p.426-p.432を読んでおく 復習：教科書と講義資料を参考にパーキンソン病を患う患者の看護についてまとめる	飛田
9	生体防御機能の障害を有する人への看護：全身性エリテマトーデス（SLE）	全身性エリテマトーデス（SLE）を患う人の症状アセスメント、看護援助について学ぶ 予習：教科書p.410-p.417を読んでおく 復習：教科書と講義資料を参考にSLEを患う患者の看護についてまとめる	有田
10	学習のまとめ	学習の振り返りと理解の確認 予習：これまでの講義内容を復習する 復習：最後講義内容を振り返る	飛田 有田 野瀬
11	看護過程の展開・事例紹介	慢性病を持つ患者の事例を上げて、看護過程を展開する 予習：慢性病を持つ患者の看護の要点についてまとめておく 復習：事例の患者の情報を整理する	飛田
12	看護関連図作成	慢性病を持つ患者の事例の看護関連図を作成する 予習：関連図を作成するための情報を整理しておく 復習：作成した看護関連図を振り返っておく	飛田 有田 野瀬
13	看護課題抽出・目標設定・計画立案（１）	慢性病を持つ患者の事例についてアセスメントし、看護課題・目標設定・計画を立案する 予習：看護課題を抽出した根拠について整理しておく 復習：看護計画を振り返っておく	飛田 有田 野瀬
14	看護課題抽出・目標設定・計画立案（２）	慢性病を持つ患者の事例についてアセスメントし、看護課題・目標設定・計画を立案する 予習：看護課題を抽出した根拠について整理しておく 復習：看護計画を振り返っておく	飛田 有田 野瀬
15	グループ発表	慢性病を持つ患者の事例の看護過程について発表する 予習：看護過程を振り返っておく 復習：発表した内容も含めて講義内容を全般的に振り返る	飛田 有田 野瀬

授業科目	慢性期成人看護学援助方法	科目ナンバリング	N-32-06-B		
授業科目（英）	Chronic Care Nursing Methods				
教員名	◎飛田 伊都子（看護師実務経験者）、有田弥棋子（看護師実務経験者）、 野瀬珠美（看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	１．慢性病を持ちながら生活している人とその家族の身体的・精神心理的・社会的特徴を理解する。 ２．慢性病を持つ人が療養生活を送りながら、自身のセルフケア能力を高め、さまざまな苦痛を緩和し、自立・自律した生活を送ることができる援助について理解する。 ３．慢性病を持つ人に対する援助に用いる理論と方法を理解する。 ４．障害を持ちながら生活をする人とその家族の生活の再構築に向けたQOL向上のための理論と方法を理解する。				
行動目標	１．慢性病を持ちながら生活している人とその家族の身体的・精神心理的・社会的特徴を説明できる。 ２．慢性病を持ちながら生活している人の事例を通じて、情報のアセスメント、看護課題の抽出、看護目標の設定、個別性を考慮した看護計画の立案、評価ができる。 ３．慢性病を持ちながら生活している人の事例を例に挙げ、看護技術のポイントについて説明できる。 ４．障害を持ちながら生活をする人とその家族の生活の再構築に向けたQOL向上のための理論について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究力、自己研鑽力、専門職としての実践力、倫理観、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	筆記試験（50%）、グループワーク・受講態度（20%）、課題提出物（30%） 試験・グループワーク終了後にフィードバックを行う。				
教科書	系統看護学講座 専門 基礎看護学［2］「基礎看護技術Ⅰ」、有田清子他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門 基礎看護学［3］「基礎看護技術Ⅱ」、有田清子他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門 基礎看護学［4］「臨床看護総論」、香春知永他、医学書院（デジタル） 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進［2］「病態生理学」、土居健太郎、医学書院（デジタル）				
参考書等	授業時、随時紹介する				
事前準備 受講要件等	成人看護学概論、慢性期成人看護学援助論の講義内容を十分復習して臨むこと。 授業はジグソー法などのグループワークによるアクティブ・ラーニングを取り入れて行う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	水曜日12:10～13:00				
SDGsとの関連	3，4，5				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	慢性病を持つ対象の理解と慢性看護に用いる主要概念・理論	導入・オリエンテーション。慢性看護の特徴、慢性病を持つ人とその家族の理解、慢性病を持つ人とその家族への援助に関わる主な理論・概念についての講義を行う。 予習：成人看護学概論および慢性期成人看護学援助論の内容を見直しておく。 復習：講義内容を振り返る。	飛田
2	事例紹介	看護過程を展開する事例を紹介する。 予習：成人看護学概論および慢性期成人看護学援助論の内容を見直しておく。 復習：講義内容を振り返る。	飛田 野瀬
3-4	慢性期における患者の看護	慢性期の患者についてのアセスメント、看護課題の抽出、看護目標の設定、看護計画の立案について学ぶ 予習：看護過程の展開に必要な資料を持参する。 復習：慢性期の看護についてまとめる。	飛田 有田 野瀬

5-6	慢性期のセルフケアを必要とする患者の看護（１）	セルフケアを必要とする患者（事例１）についてのアセスメント、看護課題の抽出、看護目標の設定、看護計画の立案について学ぶ 予習：看護過程の展開に必要な資料を持参する。 復習：事例１の看護についてまとめる。	飛田 有田 野瀬
7-8	慢性期のセルフケアを必要とする患者の看護（２）	セルフケアを必要とする患者（事例１）について振り返りを行う。 予習：事例１の演習記録をまとめておく。 復習：事例１についてのフィードバックをまとめる。	飛田 有田 野瀬
9-10	回復期のリハビリテーションを必要とする患者の看護（１）	リハビリテーションを必要とする患者（事例２）についてのアセスメント、看護課題の抽出、看護目標の設定、看護計画の立案について学ぶ 予習：看護過程の展開に必要な資料を持参する。 復習：事例２の看護についてまとめる。	飛田 有田 野瀬
11-12	回復期のリハビリテーションを必要とする患者の看護（２）	リハビリテーションを必要とする患者（事例２）について振り返りを行う。 予習：事例２の演習記録をまとめておく。 復習：事例２についてのフィードバックをまとめる。	飛田 有田 野瀬
13-14	終末期の安楽なケアを必要とする患者の看護（１）	安楽を必要とする患者（事例３）についてのアセスメント、看護課題の抽出、看護目標の設定、看護計画の立案について学ぶ 予習：看護過程の展開に必要な資料を持参する。 復習：事例３の看護についてまとめる。	飛田 有田 野瀬
15	終末期の安楽なケアを必要とする患者の看護（２）	安楽を必要とする患者（事例３）について振り返りを行う。 予習：事例３の演習記録をまとめておく。 復習：事例３についてのフィードバックをまとめる。	飛田 有田 野瀬

授業科目	慢性期成人看護学実習	科目ナンバリング	N-32-07-B		
授業科目（英）	Chronic Care Nursing Practicum				
教員名	◎飛田伊都子（看護師実務経験者）、有田弥棋子（看護師実務経験者）、 野瀬珠美（看護師実務経験者）				
単位数	3.0	時間数	135	学年	3
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必須	授業形態	実習		
一般目標	成人期にあるさまざまな健康レベルの人とその家族を身体的・精神心理的・社会的・スピリチュアル的側面等から統合的に理解する。また、対象者と家族の自立・自律に向けたセルフケア能力を高め、健康の維持・増進（予防、治療、社会生活への適応）に向けての継続看護の観点から必要な体制や専門職者間の連携のあり方を学ぶとともに、療養生活を主体的に送ることができるための看護実践能力の基礎を養う。課題をもちながら生活する人とその家族における生活の再構築に向け、また、ターミナル期にある人とその家族にはトータルペインを緩和し、QOLを維持・向上させることができるための看護実践能力の基礎を養う。				
行動目標	１．倫理的課題を理解し、慢性期にある対象者の尊厳、権利と意思を尊重し、対象者と援助的関係の形成ができる。 ２．根拠に基づき、慢性期疾患の特徴である複雑で多様な健康課題をもつ対象者とその家族を身体的・精神心理的・社会的側面から統合的にアセスメントし、健康課題の解決のプロセスの展開ができる。 ３．地域包括ケアシステムにおいて生活を送るうえでの保健医療福祉課題に向けて必要な継続看護援助について理解できる。 ４．保健医療福祉チームにおける看護職の役割および多職種との協働・連携、継続看護について理解できる。 ５．看護学生として責任のある行動をとることができる。 ６．受け持ち患者への看護実践を通して、慢性期の看護における自らの課題を考察することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、専門職者としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	対象者への看護実践（50%）、実習記録物（30%）、受講態度（20%） グループ全体に対して週に一回、個人に対して随時にてフィードバックを行う。				
教科書	既修得科目の教科書である人体の構造と機能、成人看護学概論、慢性期看護論　緩和ケア看護論、糖尿病食事療法のための食品交換表、その他随時紹介する。				
参考書等	随時紹介する				
事前準備 受講要件等	成人看護学概論、慢性期成人看護学援助論、慢性期成人看護学援助方法を十分復習して実習に臨むこと				
オフィスアワー （曜日／時間）	水曜日 12:10～13:00				
SDGsとの関連	3,4,5				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
	慢性病と有する患者の看護実践を通じて慢性期看護学を理解する。	慢性的な健康障害を持ち治療を受けている、生活への再構築に向け障害をもちながら生活する、ターミナル期にある、いずれかの入院患者1名を受け持ち、系統的な看護過程の展開を通して、継続看護の観点から、その人の健康問題に対処する支援方法を学ぶ。必要な体制や専門職間の連携の在り方を学ぶとともにチーム医療における看護職の役割について学ぶ。 予習：成人看護学概論、慢性期成人看護学援助論、 慢性期成人看護学援助方法の学習内容を見直す。 復習：受け持ち事例を通じて、慢性期看護の特徴を考察して まとめる。	飛田 有田 野瀬

授業科目	精神看護学概論	科目ナンバリング	N-32-08-B		
授業科目（英）	Introduction to Mental Health and Psychiatric Nursing				
教員名	◎ 新田 和子（看護師実務経験者）、山岡　由実（看護師実務経験者）、山内　彩香（看護師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	精神看護に関連した事柄について理解を深めるとともに、精神看護に対する基本的な素養を習得することができる。				
行動目標	精神看護学の知識をもち、理解を深めるために、1)精神看護の基本概念、2)リエゾン精神看護の基礎的な考え方、3)精神疾患患者への看護において基本となるものを習得することができる。具体的には、1)では、心の成長発達と危機、精神の構造、生物学的モデル、リラクセーション、精神の機能と障がい、クライシス、2)では、身体を病む人および援助者への精神看護、3)では症状アセスメント、精神状態に対する看護援助、人間関係論、セルフケア理論、精神医療看護の歴史と人権、精神保健医療福祉の法制度、精神障がい者を支える社会資源、リカバリーの考え方を説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探求心、専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	レポート(20%)および試験(80%)による。 講義時間の中で、レポートの課題についての説明を行う。 最終講義時にレポートについて全体向けにフィードバックを行う。				
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学［1］精神看護の基礎　武井麻子（他）　（医学書院）(デジタル) 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学［2］精神看護の展開　武井麻子（他）　（医学書院）（デジタル）				
参考書等	看護のための精神医学　第2版　中井久夫・山口直彦　（医学書院） 明解看護学双書3　精神看護学　第3版　野嶋 佐由美（他）　（金芳堂） 生涯人間発達論　服部祥子　（医学書院） その他は授業時に紹介する。				
事前準備 受講要件等	予習をしたうえで講義に臨むこと。授業で適宜ディスカッションを行う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜5限				
SDGsとの関連	3,10,16				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	精神看護学への導入:精神看護の重要性	精神看護の理解を深め、精神医療看護、精神保健看護、リエゾン精神看護の目的と機能を学ぶ。 予習：教科書［1］p1-22を読み、精神看護とは何か、について調べておくこと。 復習：精神看護とは何か、について配布資料を用いて整理する。	山岡
2	精神看護の基本概念(1):心の成長発達と危機	乳幼児期から老年期までの発達課題と発達危機について学ぶ。 予習：教科書［1］p97-102を読み、エリクソンの漸成的発達理論について調べておくこと。 復習：エリクソンの漸成的発達理論について配布資料を用いてまとめる。	新田
3	精神看護の基本概念(2):精神(こころ)の構造	自我のさまざまなはたらきや精神分析モデルについて学ぶ。 予習：教科書［1］p83-91を読み、自我のはたらきについて調べておくこと。 復習：自我のはたらきについて配布資料を用いて整理する。	山岡
4	精神看護の基本概念(3):リラクセーション	ストレスの機序、及びリラクセーションの方法を学ぶ。 予習：教科書［1］p31-34、p249-250を読み、ストレス反応とリラクセーション反応について調べておくこと。 復習：ストレス反応とリラクセーション反応について配布資料を用いてまとめる。	新田

5	精神看護の基本概念(4):生物学的モデル	脳と心のつながりについて、特に脳の部位と精神機能について学ぶ。 予習：教科書の該当部分を読み、脳の部位と精神機能について調べておくこと。 復習：配布資料を用いて脳の部位と精神機能について振り返りを行う。	山岡
6	精神看護の基本概念(5):精神の機能と障がい	意識、知覚、思考、感情、意欲、記憶等の精神機能とその障がいを学ぶ。 予習：教科書の精神機能について記述されている箇所を読み、意識、知覚、思考、感情、意欲、記憶等の精神機能とその障がいについて調べておくこと。 復習：さまざまな精神機能について配布資料を用いて整理する。	新田
7	精神看護の基本概念(6):クライシス	危機の理解を深め、その予防と危機介入について学ぶ。 予習：教科書［1］p34-38を読み、危機の概念、危機への介入について調べておくこと。 復習：危機の概念、危機への介入について配布資料を用いて整理する。	新田
8	リエゾン精神看護の基礎(1):身体を病む人の精神看護	身体を病む患者の心の健康と精神的な諸問題について学ぶ。 予習：教科書［2］p353-372を読み、リエゾン精神看護の機能について調べておくこと。 復習：リエゾン精神看護の機能について配布資料を用いて整理する。	新田
9	リエゾン精神看護の基礎(2):看護師のメンタルヘルス	看護師の心の健康と精神的な諸問題について学ぶ。 予習：教科書［2］p390-411を読み、看護師のストレッサーとストレス反応について調べておくこと。 復習：看護師のストレッサーとストレス反応について配布資料を用いて整理する。	山内
10	精神医療看護の基本(1):精神状態への看護援助	怒り、攻撃的行動などの精神状態への看護ケアとアンガーマネジメントについて学ぶ。 予習：教科書［2］p53-58を読み、怒りの表現の背景や怒りに対する働きかけについて調べておくこと。 復習：怒りの表現の背景や怒りに対する働きかけについて配布資料を用いてまとめる。	新田
11・12	精神医療看護の基本(2):症状アセスメント	不安、抑うつ、幻覚、妄想等の精神症状のアセスメントを学ぶ。 予習：教科書の該当部分を読み、不安、抑うつ、幻覚、妄想等の精神症状のアセスメントについて調べておくこと。 復習：不安、抑うつ、幻覚、妄想等の精神症状のアセスメントについて配布資料を用いて振り返りを行う。	山岡
13	精神医療看護の基本(3):人権と歴史	※オンデマンド形式で実施 精神障害と治療の歴史、日本における精神医学・精神医療の流れ、精神障害と文化－多様性と普遍性、について学ぶ。 予習：教科書［1］p298-310を読み、精神医療看護の歴史と人権について調べておくこと。 復習：精神医療看護の歴史と人権について配布資料を用いて整理する。	山内
14	精神医療看護の基本(4):精神保健福祉の法制度	※オンデマンド形式で実施 精神保健福祉の関係法規について学ぶ。 予習：教科書［1］p310-322を読み、精神保健福祉に関する法律について調べておくこと。 復習：精神保健福祉に関する法律について配布資料を用いてまとめる。	新田
15	精神医療看護の基本（5）精神障がい者を支える社会資源とリカバリーの考え方	地域で生活する精神障がい者を支える社会資源やリカバリーの考え方について学ぶ。 予習：教科書［2］p70-90、p130-150を読み、精神看護地域で生活する精神障がい者を支える社会資源やリカバリーの考え方を調べておくこと。 復習：資料を振り返り、地域で生活する精神障がい者を支える社会資源やリカバリーの考え方を整理する。	山内

授業科目	精神看護学援助論	科目ナンバリング	N-32-09-B		
授業科目（英）	Mental Health and Psychiatric Nursing				
教員名	◎新田 和子（看護師実務経験者）、山岡　由実（看護師実務経験者）、山内　彩香（看護師実務経験者)、木下　真也（兼担）、安田　真佐枝（特別講師）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	精神疾患とその治療・看護について理解を深め、看護を展開するための能力を習得することができる。				
行動目標	本科目では、精神疾患患者に適切な看護を実践するために必要な基本的知識と、主要な疾患の治療と看護について学習する。具体的な行動目標としては、1）統合失調症、2）気分障害、3）神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性、4）生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群、5）パーソナリティ障害、6）器質性精神障害、7）精神作用物質使用による精神および行動の障害、8）てんかん 、9）神経発達障害群、10）秩序破壊的・衝動制御・素行障害群、11）心身症、12）性同一性障害、13)行動制限時の看護について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	レポート(20%)および試験(80%)による。 講義時間の中で、レポートの課題についての説明を行う。 最終講義時にレポートについて全体向けにフィードバックを行う。				
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学［1］精神看護の基礎　武井麻子（他）　（医学書院）(デジタル) 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学［2］精神看護の展開　武井麻子（他）　（医学書院）（デジタル） 上記の2冊は、授業科目「精神看護学概論」で使用しているため、購入不要。				
参考書等	明解看護学双書3　精神看護学　第3版　野嶋 佐由美 （金芳堂） 精神看護エクスペール第1、2、3、4、5、8、9、13、16、18、19巻　（中山書店） 精神疾患診断のエッセンス　アレン・フランセス　（金剛出版）など				
事前準備 受講要件等	予習をしたうえで講義に臨むこと。授業で適宜ディスカッションを行う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜5限				
SDGsとの関連	3,5,16				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	精神疾患の診断と治療： ①診断と疾病分類 ②統合失調症	精神疾患の診断と疾病分類、統合失調症の症状、回復過程、治療について学ぶ。 予習：教科書［1］p162-182を読み、診断と疾病分類、薬物療法をはじめとする治療について調べておくこと。 復習：診断と疾病分類、薬物療法をはじめとする治療を整理する。	木下
２・３	精神疾患の診断と治療： ③気分（感情）障害（双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群） ④神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 ⑤精神作用物質使用による精神および行動の障害	気分（感情）障害（双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群）、神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、精神作用物質使用による精神および行動の障害の症状、回復過程、治療について学ぶ。 予習：教科書［1］p182-207を読み、各疾患の症状と薬物療法をはじめとする治療について調べておくこと。 復習：各疾患の症状と薬物療法をはじめとする治療を整理する。	木下
4・５	精神疾患の診断と治療： ⑥各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調 ⑦その他	各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調（知的能力障害／知的発達障害、てんかん、発達障害、摂食障害、パーソナリティ障害、器質性精神障害、秩序破壊的・衝動制御・素行障害群、周産期にあらわれやすい心的不調、適応障害、ミッドライフークライシス、高次脳	木下

	A 精神科における治療 B 精神療法 ①個人療法 ②集団精神療法 ③家族療法	機能障害、老年期うつ、認知症、睡眠障害、心身症など）の症状、回復過程、治療について学ぶ。精神療法について学ぶ。 予習：教科書［1］p208-234を読み、各疾患の症状と薬物療法をはじめとする治療について調べておくこと。 復習：各疾患の症状と薬物療法をはじめとする治療を整理する。	
6	精神疾患の診断と治療： C 薬物療法 ①精神科治療における薬物療法の意義 ②向精神薬とその種類 ③看護師による服薬へのかかわり D 電気けいれん療法その他 E　環境療法・社会療法 ①環境療法・社会療法の歴史 ②治療共同体の実践 ③日本における社会療法の歴史 ④作業療法（OT) ⑤精神科リハビリテーション	精神科治療における薬物療法、電気けいれん療法、環境療法・社会療法について学ぶ。 予習：教科書［1］p265-296を読み、精神療法、環境療法・社会療法を調べておくこと。 復習：精神療法、環境療法・社会療法を整理する。	木下
7	精神症状、症状アセスメントの技術、看護援助	精神症状、症状アセスメントの技術、看護援助について学ぶ。 予習：教科書［1]p.148-172を復習しておく。 復習：資料を振り返り、精神症状、症状アセスメント、看護技術について整理する。	新田
8	急性期の統合失調症患者への看護	急性期の統合失調症患者への看護について学ぶ。 予習：教科書［1］p165-182を読み、急性期にある統合失調症患者への看護について自己学習する。 復習：資料を振り返り、急性期にある統合失調症患者への看護について整理する。	山岡
9	大うつ病性障害をもつ患者への看護	大うつ病性障害をもつ患者への看護について学ぶ。 予習：教科書［1］p182-191を読み、大うつ病性障害をもつ患者への看護について自己学習する。 復習：資料を振り返り、大うつ病性障害をもつ患者への看護について整理する。	山岡
10	ストレス反応と災害時の看護	ストレス反応と災害時の看護について学ぶ。 予習：教科書［2］p374-388を読み、災害時の看護について自己学習する。 復習：資料を振り返り、災害時の看護について整理する。	山内
11	アルコール依存症患者への看護	※オンデマンド形式で実施 アルコール依存症患者への看護について学ぶ。 予習：教科書［1］p201-206を読み、アルコール依存症患者への看護について自己学習する。 復習：資料を振り返り、アルコール依存症患者への看護について整理する。	新田
12	行動制限時の看護	※オンデマンド形式で実施 行動制限時の看護について学ぶ。 予習：教科書［2］p312-323を読み、行動制限時の看護について自己学習する。 復習：資料を振り返り、行動制限時の看護について整理する。	山内
13	性別違和、性別不合	性別違和、性別不合について学ぶ。 予習：教科書［1］p231を読み、性別違和、性別不合について調べる。 復習：性別違和、性別不合について配布資料を用いて整理する。	木下
14	摂食障害のある方への支援	※オンライン形式で実施 摂食障害のある方への支援について学ぶ。 予習：教科書［1］p215-216、p367-369、［2］p108-113を読み、摂食障害について自己学習する。（疾患や制度、リカバリーのプロセスなど） 復習：講義の感想をレポートに記載する。	安田

15	まとめ	これまでの講義の内容を復習する。 予習：これまでの資料を振り返り、内容を復習しておく。 復習：講義内容を踏まえ、これまでの講義の要点を整理する。	山岡・新田・山内

授業科目	精神看護学援助方法	科目ナンバリング	N-32-10-B		
授業科目（英）	Mental Health and Psychiatric Nursing Methods				
教員名	◎山岡　由実(看護師実務経験者）、新田 和子（看護師実務経験者）、山内　彩香(看護師実務経験者）、森　実恵（特別講師）、池田　百合江（特別講師）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	精神疾患患者に対する看護の具体的方法および手順について理解することができる。				
行動目標	本演習では、既習の精神疾患とその看護に関する総論を踏まえて、様々な事例の検討を行い、看護師として具体的な援助ができる素養を身に着ける。具体的には、1）事例紹介と看護のポイント、2）アプローチの方法、3）セルフケアニードの同定、4）具体策、5）①成長発達と危機、②サポートシステム、③患者のストレングスを踏まえた事例の理解、6）看護計画（短期目標および長期目標）の立案、7）リカバリー概念の理解と支援、8)地域生活への移行・定着のための支援について検討することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	創造力、課題探求心、創造力、専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	レポート(20%)および試験(80%)による。 講義時間の中で、レポートの課題についての説明を行う。 最終講義時にレポートについて全体向けにフィードバックを行う。				
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学［1］　精神看護の基礎　武井麻子（他）　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学［2］　精神看護の展開　武井麻子（他）　（医学書院） 授業科目「精神看護学概論」で使用しているため、購入不要。				
参考書等	精神看護エクスペール第6、7、10、11、12、14、15、17、20巻　（中山書店）など。				
事前準備 受講要件等	予習をしたうえで講義に臨むこと。授業では適宜グループワークを行う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜5限				
SDGsとの関連	3,16				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	セルフケア理論	セルフケア理論について自己学習するとともに、事例検討の目的・方法について学ぶ。 予習：教科書［2］p59を読み、セルフケア理論について自己学習しておくこと。 復習：事例検討をする際の視点・方法について整理する。	山岡・新田・山内
2・3	【事例】急性期の統合失調症患者への看護	統合失調症の寛解過程に基づいた看護の展開について学ぶ。 統合失調症の急性期における精神の健康問題が生活に与える影響についてのアセスメント。 予習：教科書［1］p165-182を読み、統合失調症（特に陽性症状とその看護、寛解過程）について復習しておくこと。 復習：事例を読み返して、看護の要点を整理する。	山岡・新田・山内
4・5	【事例】慢性期の統合失調症患者への看護	再燃あるいは再入院に至った経過の分析と患者に即した慢性期看護の展開について学ぶ。 統合失調症の慢性期における精神の健康問題が生活に与える影響についてのアセスメント。 予習：教科書［1］p165-182を読み、統合失調症（特に陰性症状とその看護）について復習しておくこと。 復習：事例を読み返して、看護の要点を整理する。	山岡・新田・山内
6・7	【事例】急性期のうつ病患者への看護	急性期うつ病の寛解過程に基づいた看護の展開について学ぶ。 うつ病の急性期における精神の健康問題が生活に与える影響についてのアセスメント。 予習：教科書［1］p182-190を読み、うつ病について復習しておくこと。 復習：事例を読み返して、看護の要点を整理する。	山岡・新田・山内

8・9	【事例】慢性期のうつ病患者への看護	慢性期うつ病の寛解過程に基づいた看護の展開について学ぶ。 うつ病の慢性期における精神の健康問題が生活に与える影響についてのアセスメント。 予習：教科書［1］p182-190を読み、うつ病について復習しておくこと。 復習：事例を読み返して、看護の要点を整理する。	山岡・新田・山内
10・11	【事例】精神疾患を患う方が、身体的変調をきたした事例	精神疾患を患う方が身体疾患に罹患するとどのような変化をきたすのか、またそのような方の看護の展開について学ぶ。 予習：教科書［2]p350-372を読み、リエゾン精神看護について復習しておくこと。 復習：事例を読み返して看護の要点を整理する。	山岡・新田・山内
12	患者のこれまでの生き方と今後の希望を大事にしたリカバリーの考え方	患者のこれまでの生き方と今後の希望を大事にしたリカバリーの考え方について学ぶ。 予習：教科書［2］p70-90を読み、リカバリーについて復習しておくこと。 復習：資料を読み返して、リカバリーの視点やストレングスモデルに基づいた看護の要点を整理する。	山岡・新田・山内
13	当事者が語る病いと援助	当事者から見た病いという体験について学ぶ。 予習：教科書［1]p5-9、p144-148を読み、当事者の病いの体験について理解を深めておくこと。 復習：講義についての感想・考え・学びをレポートに記載し整理する。	森
14	地域精神保健福祉システム	※オンデマンド形式で実施 地域で生活する精神障がい者を支える地域精神保健福祉システムについて学ぶ。 予習：教科書［1］p310-322、［2］p130-150を読み、精神障がい者が利用できる社会資源とその根拠となる法律について復習しておくこと。 復習：資料を読み返して、地域で生活する精神障がい者への看護の要点を整理する。	山岡・新田・山内
15	精神科訪問看護	地域で生活する精神障がい者を支える精神科訪問看護について学ぶ。 予習：教科書［1]p319-322、［2]p130-150を読み、精神障がい者の地域移行や共生社会を促進する上での精神科訪問看護の役割について復習しておくこと。 復習：講義についての感想・考え・学びをレポートに記載し整理する。	池田

授業科目	精神看護学実習	科目ナンバリング	N-32-11-B		
授業科目（英）	Mental Health and Psychiatric Nursing Practicum				
教員名	◎山岡　由実（看護師実務経験者）、新田 和子（看護師実務経験者）、山内　彩香（看護師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	90	学年	3
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	実習		
一般目標	精神医療看護の実習を通じて、精神科関連の臨床における看護職の様々な機能と役割について理解を深めるとともに、精神看護を行う基礎的能力を習得することができる。				
行動目標	病棟実習では、学生は原則として一人の患者を受け持ち、セルフケアモデルに基づいて実習を展開する。また、訪問看護実習では、地域で生活する利用者とのかかわり（見学を含む）から、地域社会で生活する利用者を全人的に捉え、必要な援助について考察する。実習後、自己評価を行い、今後の課題を明らかにする。 〈目標〉 1.病院および地域で療養・生活する患者（利用者）に関心を注ぎながら、患者（利用者）-看護師（看護学生）関係を展開していくことができる。 2.［病院］精神や身体の健康問題が生活に与える影響を理解し、患者の生活能力に応じた必要なケアを見いだし、それに対する具体策を立て、一部を実践できる。 ３.［病院］精神科病棟で看護に従事する看護職の機能と役割について理解することができる。 4.［病院］患者への働きかけを振り返り、プロセスレコードを通して、自己理解や相互関係の展開について検討することができる。 ５.［地域］地域における利用者とのかかわり（見学を含む）から、地域社会で生活する上での諸問題やそれに対する必要な援助について考えることができる。 ６.［地域］精神科訪問看護の機能と役割について理解することができる。 ７.［地域］精神科訪問看護の実習を通して利用者のリカバリーについて検討することができる。 ８.倫理的な事柄についての理解を深め、看護学生として適切に行動することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究心、創造力、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	看護実践の内容(60%)、カンファレンスの参加と貢献、看護記録・レポート(40%)を総合して評価する。面接をとおして、実習内容の振り返りと講評を行う。				
教科書	なし				
参考書等	実習要項。その他は実習の進行に合わせて随時紹介する。				
事前準備 受講要件等	履修の手引きの履修要件を満たし、「精神看護学概論」「精神看護学援助論」「精神看護学援助方法」について復習しておくこと。				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜5限				
SDGsとの関連	3,8,16				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
	病棟、あるいは地域において、精神的健康に失調をきたした人々に関心を注ぎながら、対象者の理解を深めるとともに、看護師の機能と役割を学び、援助の一部ができるようになる。	病棟実習では、学生は原則として一人の患者を受け持ち、セルフケアモデルに基づいて実習を展開する。学生は患者に関心を注ぎつつ援助関係を形成し、心の健康問題が生活に与える影響をアセスメントする。そして必要な援助を見いだしてその一部を実践し、具体策を立案する。また、訪問看護実習では、地域で生活する利用者とのかかわり（見学を含む）から、地域社会で生活する利用者を全人的に捉え、必要な援助について考察する。実習後、自己評価を行い、今後の課題を明らかにする。 〈指導体制〉 1グループ5~6名に対して、実習担当教員が実習施設の指導者と共に指導にあたる。実習カンファレンスを適宜行い、看護実践内容を検討し、学びを共有する。 〈実習期間〉2週間(病棟実習1週間、訪問看護実習1週間） 〈実習場所〉 大阪医科薬科大学病院精神神経科病棟、訪問看護ステーション　アユースで実習を行う予定である。 ※大阪医科薬科大学病院精神神経科病棟での実習では、患者中心の全	山岡 新田 山内

		人的・包括的医療をめざして、多職種連携-臨床カンファレンスを行う。具体的には、クリニカルクラークシップ実習に参加している医学部生、病院実務実習に参加している薬学部生、本実習中の看護学部生が共通に受け持っている患者について事例カンファレンスを行う。これにより、対象理解を深め、また医療チームにおけるそれぞれの専門職機能と協働について意見交換を行う。 予習：これまでに学習した内容を振り返っておくこと（特に、精神疾患の治療と看護、対人関係理論、漸成的発達理論、セルフケア理論、訪問看護についてなど）。 復習：実習を振り返って、学びと課題を明確にする。	

授業科目	老年看護学概論	科目ナンバリング	N-32-12-B		
授業科目（英）	Introduction to Gerontological Nursing				
教員名	◎樋上容子（看護師実務経験者）、久保田正和、杣木佐知子（看護師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	老年期を健やかにその人らしく生きることを支援する看護の機能と役割を多様な視点から理解することができる。また、学生自身の高齢者観、老年看護観を育む基盤を学び、具体的に述べることができる。				
行動目標	1.　ライフサイクルにおける高齢者の特徴を老化の理論を基盤として説明できる。 2.　高齢者およびその家族の身体的、精神的・心理的、社会的特徴と日常生活への影響を説明できる。 3.　高齢者看護の倫理的課題について説明できる。 4.　高齢社会の進展に伴う社会的特徴と、保健・医療・福祉の現状と課題を説明できる。 5.　病院、施設、地域・在宅サービス提供機関における看護職の役割や多職種チームケアについて説明できる。 6.　学びを統合し、学生自身の高齢者観、老年看護観を表現する事ができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、倫理観、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	レポート(20%)、授業中の提出物と試験(80%)による。 フィードバック：課題・レポートに関しては、講義内において解説、説明をする。				
教科書	系統看護学講座　専門分野　老年看護学　第９版・北川公子他・医学書院（デジタル）				
参考書等	老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは・正木治恵他・南江堂 老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する・真田弘美他・南江堂 老年医学系統講義テキスト・日本老年医学会・西村書店 その他、随時紹介する				
事前準備 受講要件等	授業前は必ずシラバスを確認しておくこと。 一部授業はグループワークやプレゼンテーション等のアクティブラーニング授業で行う。課題の提出方法は、その都度連絡を行う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜日16:00～17:30(他、随時メールにて時間予約して下さい)				
SDGsとの関連	3，10，11				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	老年看護学を理解するための基盤	老年期を生きる人の理解、「老い」のイメージ・「老い」の意味 予習：現在80歳の人が生きてきた時代背景を調べまとめる 復習：高齢者・家族支援への活用可能理論（ウエルネス理論・サクセスフルエイジングなど）をまとめる	久保田
2	老年期を生きる人の理解と老年看護	人間発達論から捉えた老年期(グループワークを含む) 予習：高齢者の発達課題、老化学説（プログラム説、環境因子説）、老化の4原則を調べまとめる 復習：テキストのライフサイクルと老年期の項をレポートにまとめる	久保田
3	身体機能・構造の加齢変化と生活への影響①	感覚器系・外皮系・運動器系 予習：感覚器・外皮系・運動器系の加齢変化について調べる 復習：テキストの身体機能・構造の加齢変化と生活への影響の項をレポートにまとめる	樋上
4	身体機能・構造の加齢変化と生活への影響②	呼吸器系・循環器系・消化器系 予習：呼吸器系・循環器系・消化器系の加齢変化について調べる 復習：テキストの身体機能・構造の加齢変化と生活への影響の項をレポートにまとめる	杣木
5	身体機能・構造の加齢変化と生活への影響③	泌尿器系・血液造血器系・免疫系・内分泌代謝系・性生殖器系 予習：泌尿器系・血液造血器系・免疫系・内分泌代謝系・性生殖器系の加齢変化について調べる	樋上

		復習：テキストの身体機能・構造の加齢変化と生活への影響の項をレポートにまとめる	
6	心理・精神機能の加齢変化と生活への影響	知能・記憶・注意・パーソナリティ（脳・神経系含む） 予習：知能・記憶・パーソナリティについて調べる 復習：テキストの心理・精神的側面の加齢変化と生活への影響の項をレポートにまとめる	久保田
7	老年期に特有の健康障害	高齢者の健康・生活の特徴及び老年症候群 予習：フレイルとサルコペニア・ロコモティブシンドローム・介護予防について調べる 復習：授業中配布したレジメに示した重要ポイントをまとめる	久保田
8	高齢者の主な健康障害と看護①	心不全、脳血管疾患、高血圧の発症とその観察ポイント 予習：心不全、脳血管疾患、高血圧について調べる 復習：テキストと授業中に示した重要なポイントを見直す	杣木
9	高齢者の主な健康障害と看護②	COPD、骨関節疾患、がん、パーキンソン病とその観察ポイント 予習：COPD、骨関節疾患、がん、パーキンソン病について調べる 復習：授業中配布したレジメに示した重要ポイントをまとめる	久保田
10	高齢者の主な健康障害と看護③	認知症をもつ高齢者と家族への理解、HDS-R/MMSEについて 予習：認知症の定義と用語の変遷を調べる 復習：授業中配布したレジメに示した重要ポイントをまとめる	久保田
11	高齢社会における権利擁護	高齢者虐待、成年後見制度（動画学習含む） 予習：高齢者虐待、成年後見制度について調べまとめる 復習：高齢者の権利擁護における看護職者の役割について整理する	久保田
12	高齢社会における保健医療福祉の動向	地域包括ケアシステムや介護保険システムと在宅支援 予習：介護保険制度、地域包括ケアシステムについて調べる 復習：授業中配布したレジメに示した重要ポイントをまとめる	久保田
13	高齢者とその家族の理解	高齢者とその家族の理解、ナラティブアプローチ 予習：高齢者の生活史を知るための方法や留意点についてまとめる 復習：現在85歳の人の幼少期から65歳までの時代背景を調べ、年表を作成する（事後課題）。	樋上
14	老年看護における倫理的課題	高齢者の尊厳の尊重と倫理的課題（グループワークを含む） 予習：高齢者の倫理的課題について最近の記事やニュースを調べる。事例のワーク（事前課題） 復習：エンドオブライフケアについてまとめる	樋上
15	まとめ	高齢者と共生する社会の課題と看護職者の役割（グループワーク含む） 予習：退院支援、退院調整について調べまとめる 復習：超高齢社会の課題と看護職者の役割についてまとめる	樋上

授業科目	老年看護学援助論	科目ナンバリング	N-32-13-B		
授業科目（英）	Gerontological Nursing				
教員名	◎樋上容子（看護師実務経験者）、久保田正和、杣木佐知子（看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	老年期にあり、様々な生活機能障害を持ちながら生活している人およびその家族が疾病・障害を持ちつつもその人らしく生活を送ることができるように援助するための理論と方法について説明することができる。				
行動目標	1.　高齢者の加齢による変化とコミュニケーションの特徴を説明できる。 2.　高齢者の生活機能を整える看護展開に必要な知識・技術を説明できる。 3.　高齢者の意思決定支援や、老年看護における倫理的課題について考察し、具体的に述べることができる。 4.　高齢者の生活の場の特徴と多職種との連携における看護職の役割について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	レポート(30%)、および試験(70%)による。 フィードバック：課題、レポートに関しては、講義内において解説、説明を行う。				
教科書	系統看護学講座　専門分野　老年看護学　第９版・北川公子他・医学書院（デジタル）				
参考書等	老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは・正木治恵他・南江堂 老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する・真田弘美他・南江堂 系統看護学講座専門Ⅱ老年看護病態・疾患論・佐々木英忠他・医学書院 他、随時紹介する				
事前準備 受講要件等	授業前は必ずシラバスを確認しておくこと。 一部授業はアクティブラーニング授業で行う。課題の提出方法は、その都度連絡を行う。 その他、履修のてびき参照				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜日16:00～17:30(他、随時メールにて時間予約して下さい)				
SDGsとの関連	3，10，11				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	多角的で包括的な健康アセスメントの枠組みと方法	高齢者の健康アセスメントの特徴と看護過程 予習：概論での学習をふまえ老年期の看護の特徴について調べまとめる 復習：授業中に示した重要ポイントについてまとめる	樋上
2	老年の疑似体験1	加齢変化と生活の理解：高齢者の疑似体験（実習室1・2・4・5，講義室） 予習：感覚器機能の加齢変化とコミュニケーションの方法、高齢者の特徴について調べる 復習：演習事後課題を実施する	樋上 杣木
3	老化の模擬体験2	加齢変化と生活の理解：高齢者の疑似体験（実習室1・2・4・5，講義室） 予習：杖歩行の方法、車いすの移送方法について調べまとめる 復習：演習事後課題を実施する	樋上 杣木
4	高齢者の主な健康障害と看護①	研究に基づく認知症高齢者への看護 予習：認知症の病態と看護ケアについて調べる 復習：テキストの関連ページを読み、授業資料と合わせて整理する	久保田
5	高齢者の主な健康障害と看護②	高齢者の摂食嚥下障害・低栄養と看護ケア 予習：摂食嚥下障害・低栄養について調べレポートにまとめる 復習：嚥下食についての事後課題を実施する	樋上
6	高齢者の主な健康障害と看護③	高齢者の排尿障害・排便障害と看護ケア 予習：排泄（排尿・排便）の機序について調べまとめる 復習：排尿障害・排便障害を起こしている高齢者の看護援助についてまとめる	久保田

7	高齢者の主な健康障害と看護④	高齢者の排尿障害・排便障害と看護ケア　演習（実習室1・2・4・5） 予習：演習の課題にある事例について、不明点を調べておく 復習：演習事後課題を行う	樋上 杣木
8	高齢者の主な健康障害と看護⑤	高齢者の排尿障害・排便障害と看護ケア　演習（実習室1・2・4・5） 予習：演習の課題にある事例について、不明点を調べておく 復習：演習事後課題を行う	樋上 杣木
9	高齢者の主な健康障害と看護⑥	脱水症・熱中症・掻痒症と看護ケア 予習：脱水症・熱中症・掻痒症について調べまとめる 復習：テキストの関連ページを読み、脱水症・熱中症・掻痒症に伴う生活への影響をまとめる	杣木
10	高齢者の主な健康障害と看護⑦	高齢者の転倒・骨折と看護ケア 予習：加齢による骨・筋肉の変化、高齢者に多い骨折と部位について調べまとめる 復習：テキストの関連ページを読み転倒に起因する複数の要因について図示しまとめる	樋上
11	高齢者の主な健康障害と看護⑧	研究に基づく高齢者の睡眠障害と看護ケア 予習：睡眠障害について調べまとめる 復習：高齢者の生活リズムを整える看護援助についてまとめる	樋上
12	高齢者の主な健康障害と看護⑨	高齢者のうつ病とせん妄と看護ケア 予習：うつ病とせん妄について調べまとめる 復習：うつ病とせん妄に対する看護援助についてまとめる	久保田
13	高齢者の主な健康障害と看護⑩	高齢者の感染症と疥癬と看護ケア 予習：加齢に伴う免役機能や皮膚の変化について調べまとめる 復習：高齢者の感染予防に対する看護援助について調べまとめる	杣木
14	高齢者の意志決定・倫理的課題	高齢者およびその家族にとっての死とエンドオブライフケア、意思決定支援と倫理的課題 予習：エンドオブライフケア、グリーフケアについて調べる 復習：授業中に示した重要ポイントについてまとめる	樋上
15	まとめ グループワーク	治療を要する健康障害をもつ高齢者と家族への包括的支援（グループワーク） 予習：高齢者総合機能評価（CGA)について調べる 復習：本人と家族への包括的支援について整理する	樋上 杣木

授業科目	老年看護学援助方法	科目ナンバリング	N-32-14-B		
授業科目（英）	Gerontological Nursing Methods				
教員名	◎樋上容子（看護師実務経験者）、久保田正和、杣木佐知子（看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	老年期にある人とその家族の健康障害や生活障害に応じた具体的な看護展開や援助方法を説明することができる。				
行動目標	1.　高齢者およびその家族の身体的、精神的・心理的、社会的特徴を総合的に理解し、説明できる。 2.　治療を受ける高齢者の看護の特徴と看護上の留意点を説明できる。 3.　疾病・障害をもつ高齢者およびその家族の看護事例を用いた看護過程の展開ができる。 4.　高齢者医療・福祉現場でのチームアプローチにおける看護職者の役割を考察し、具体的に述べることができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	授業・グループワークへの参加度(30%)、レポート(70%) フィードバック：課題、レポートに関しては講義内において解説、説明を行う。				
教科書	2年次「老年看護学概論」で使用している為、購入不要 最新老年看護学第4版・水谷信子他・日本看護協会出版会				
参考書等	山田律子編集：高齢者の“もてる力”を引き出す！ 老年看護過程の決定版　医学書院 内田陽子：ベストティーチャーが教える！看護過程目からウロコの教え方＆学び方　日総研 他、随時紹介する				
事前準備 受講要件等	授業前は必ずシラバスを確認しておくこと。 一部授業はグループワークやプレゼンテーション等のアクティブラーニング授業で行う。課題の提出方法は、その都度連絡を行う。 その他、履修のてびき参照。				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜日16:00～17:30(他、随時メールにて時間予約してください〉				
SDGsとの関連	3，10，11，16				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	療養する高齢者に対する看護	理論を活用した高齢者の看護展開 予習：老年看護に役立つ看護理論、概念について調べまとめる。 復習：授業中示した重要ポイントについてまとめる	樋上
2	高齢者に対する看護展開	看護展開事例の紹介と看護展開の進め方、加齢性変化をまとめる（グループワーク） 予習：事前課題（アセスメント用紙に加齢による変化を加筆） 復習：事後課題（アセスメント用紙に加齢による変化を記入する）	久保田 樋上 杣木
3	高齢者に対する看護展開	看護展開事例の紹介と看護展開の進め方、加齢性変化をまとめる（グループワーク） 予習：事前課題（アセスメント用紙に加齢による変化を加筆） 復習：事後課題（加齢性変化について全体の理解をまとめる）	久保田 樋上 杣木
4	治療を必要とする高齢者の看護	薬物療法やリハビリテーションを受ける高齢者の看護※オンデマンド形式で実施 予習：入院に伴う環境の変化と高齢者への影響について調べ、まとめる 復習：治療を受ける高齢者に必要な看護の視点をまとめる	樋上
5	高齢者に対する看護展開（アセスメントと看護課題の抽出）①	「呼吸・循環」のアセスメントのニーズの抽出、看護援助※オンデマンド形式で実施 予習：事例の呼吸・循環に関する情報を整理する 復習：授業内容を振り返り、事後課題に取り組む	杣木
6	高齢者に対する看護展開（アセスメントと看護課題の抽出）②	「栄養・排泄」のアセスメントのニーズの抽出、看護援助※オンデマンド形式で実施 予習：低栄養、尿失禁、便秘のある高齢者に関する看護援助を調べま	久保田

		とめる 復習：授業内容を振り返り、予習した看護援助内容に追記する	
7	高齢者の対する看護展開（アセスメントと看護課題の抽出）③	「コミュニケーション・認知機能低下」のアセスメントのニーズの抽出、看護援助※オンデマンド形式で実施 予習：認知症のある高齢者に対する看護援助を調べまとめる 復習：授業内容を振り返り、予習した看護援助内容に追記する	久保田
8	高齢者に対する看護展開（アセスメントと看護課題の抽出）④	「姿勢・体位」、「睡眠・休息」のアセスメントのニーズの抽出、看護援助、身体拘束に関する演習（実習室1・2・4での演習） 予習：転倒リスクの高い高齢者に対する移動・移乗についてナーシングスキルを用いて手順を書いておく（事前課題） 復習：事後課題を実施する	久保田 樋上 杣木
9	高齢者に対する看護展開（アセスメントと看護課題の抽出）④	「姿勢・体位」、「睡眠・休息」のアセスメントのニーズの抽出、看護援助、身体拘束に関する演習（実習室1・2・4での演習） 予習：転倒リスクの高い高齢者に対する移動・移乗についてナーシングスキルを用いて手順を書いておく（事前課題） 復習：事後課題を実施する	久保田 樋上 杣木
10	高齢者医療の場面に遭遇する倫理的課題	排泄の場面、身体拘束の場面での看護倫理（グループワーク） 事前学習：看護者の倫理綱領を一読した上で、事前課題について自分の考えを記述する。 復習：事後課題を実施する（関連図の作成）	樋上 杣木
11	高齢者に対する看護過程の展開	事例を用いた看護過程の展開・関連図の作成（グループワーク） 予習：事前課題を行う（事例の残りを項目をアセスメントし、課題を抽出する） 復習：グループワークでの学びを個人のワークシートに追記する	樋上 杣木
12	高齢者に対する看護過程の展開	事例を用いた看護過程の展開・関連図の作成（グループワーク） 予習：事前課題を行う（事例の残りを項目をアセスメントし、課題を抽出する） 復習：グループワークでの学びを個人のワークシートに追記する	樋上 杣木
13	高齢者に対する看護過程の展開	事例を用いた看護過程の展開・計画立案（グループワーク） 予習：発表内容をまとめる 復習：発表をきいて、アセスメントの視点として不足していた項目を挙げ、まとめる	樋上 杣木
14	高齢者に対する看護過程の展開	事例を用いた看護過程の展開・計画立案（発表）、記録（SOAP） 予習：発表内容をパワーポイントにまとめておく 復習：発表をきいて、アセスメントの視点として不足していた項目を挙げ、まとめる	樋上 杣木
15	認知症ケアとまとめ	研究に基づく認知症患者の看護ーパーソンセンタードケアを用いた看護実践 予習：認知症の病態について復習し、看護援助のポイントをまとめる 復習：授業内容を振り返り、事後課題を提出する	樋上

授業科目	老年看護学実習Ⅰ	科目ナンバリング	N-32-15-B		
授業科目（英）	Gerontological Nursing Practicum Ⅰ				
教員名	◎樋上容子（看護師実務経験者）、杣木佐知子（看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	45	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	実習		
一般目標	地域で生活する高齢者との関わりを通して、老年期の発達的特徴を理解し、健康の向上を目指した看護援助を考えることができる。				
行動目標	1. 高齢者の価値観を尊重したコミュニケーションをとることができる。 2. 老年期の発達的特徴を理解し、高齢者とその家族の健康と生活状況を知ることができる。 3. 各施設の役割、機能、提供されているサービスを理解する。 4. 高齢者への倫理的課題について考えることができる。 5. 健康レベルに応じた介護予防の実際を学ぶことができる。 6. 多職者の役割とチーム連携について学び、チーム内での看護の役割を考えることができる。 7. 高齢者が健康維持向上を目指した看護援助について考える。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究心、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	実習内容と日々の実習記録（75%）、レポート課題（10%）、実習態度（15%）を総合して評価する。 実習内容、記録等、適宜指導、修正を行う。				
教科書	「老年看護学概論」と同じ 最新老年看護学第4版・水谷信子他・日本看護協会出版会				
参考書等	実習要項を別途配布する 他、随時紹介する				
事前準備 受講要件等	履修のてびき参照 2021年度以前の入学者対象				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜日16:00~17:30（他、随時メールにて時間予約して下さい）				
SDGsとの関連	3、10、11				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
	地域で生活する高齢者との関わりを通して、老年期の発達的特徴を理解し、健康の向上を目指した看護援助を考えることができる。	【指導体制】 各実習施設に実習指導教員を配置し、各事業所の実習指導者と連携をとり、指導する。 【実習期間】 1週間 【実習施設】 高槻市内の介護保険施設等 高槻市内の老人福祉センター 【予習】 本実習開始前までに、老年看護学概論の講義内容および配布資料・参考文献を確認しておくこと。 【復習】 実習での学びについてレポートを記述する。	樋上 杣木

授業科目	老年看護学実習	科目ナンバリング	N-32-15-B		
授業科目（英）	Gerontological Nursing Practicum				
教員名	◎樋上容子（看護師実務経験者）、杣木佐知子（看護師実務経験者）				
単位数	3.0	時間数	135	学年	3
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	実習		
一般目標	老年期にある健康障害をもつ人とその家族を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、対象者の個別性や健康レベルに応じて看護活動を実践できる基礎的能力を養う。また、高齢者の生活を支える保健・医療・福祉職について理解を深め、多職種との連携・協働や看護師の役割について学ぶことができる。				
行動目標	1.受け持ち高齢者の価値観や思いを尊重し総合的な理解を深め、対象者との援助的関係を築くことができる。 2.対象者とその家族の健康課題を身体的・精神的・社会的側面からの情報を統合し、全体像を捉え、看護過程を展開する。 3.看護実践を通して、急性期から慢性期、終末期といったそれぞれの状態にある高齢者を支える医療機関の機能や多職種の役割、連携・協働における特徴を理解する。 4.看護実践を通して老年期における倫理的課題や看護師の役割を理解する。 5.学生として責任ある行動を取ると共に、学生同士で協力し、積極的に看護実践や学生カンファレンスに取り組む。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探求心、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	看護実践の内容と記録（85%）、実習態度やカンファレンスへの参加と貢献（15%）を総合して評価する。 フィードバック方法は、実習内容、記録等適宜指導修正を行う。				
教科書	「老年看護学概論」で使用しているため、購入不要 最新老年看護学第4版・水谷信子他・日本看護協会出版会				
参考書等	実習要項を別途配布する 他、随時紹介する				
事前準備 受講要件等	履修の手引き参照				
オフィスアワー （曜日／時間）	火曜日 16：00～17：30、随時メールにて時間を予約してください				
SDGsとの関連	3、10、11				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
	病院や施設における高齢者への看護実践を通して、老年看護学への理解を深める。	老年期の入院患者を受け持ち、看護過程を通してその人の健康問題に対処していく援助方法を学ぶ。 【指導体制】 1グループ5-6名で構成する。実習施設の指導者と実習担当教員が連携し指導にあたる。実習カンファレンスを適宜行い、学びを共有する。 【実習期間】 3週間、 内、1週間：多職種連携実習（三島南病院、高槻市内の介護老人保健施設） 2週間：看護展開実習（三島南病院、高槻市内の介護老人保健施設） 予習：実習開始前までに老年看護学概論、老年看護学援助論、老年看護学援助方法の講義・演習内容および配布資料、参考文献を見直しまとめる。 復習：ケースレポートの作成（詳細は実習要項参照）を行う。また、受け持ち事例を通して、「老年看護学とは」に対して考察し説明できるようにする。	樋上 杣木

授業科目	母性看護学概論	科目ナンバリング	N-33-01-B		
授業科目（英）	Introduction to Maternity Nursing				
教員名	◎近澤幸（助産師実務経験者）、間中麻衣子（助産師実務経験者）、松枝加奈子（助産師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	1
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	母性看護学を学ぶための基礎的知識を修得することができる。 助産学を学ぶ上での基礎的知識としても位置付けられる。				
行動目標	①母性看護の概念と看護の対象となる人々（女性と子どもとその家族）の特性について説明できる。 ②母性看護の対象を支援する社会の仕組みについて説明できる。 ③母性看護の実践活動について説明できる。 ④母性看護学の現代社会における役割と課題について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究心、専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	①予習・復習課題、授業中の提出物、確認問題（10%）、試験（中間：40%、期末：50%）により評価する。 ②紙面提出の提出物について名前がない場合は0点となる。 ③提出時間に遅れた場合は提出として取り扱うが、採点の対象とならない。 ④全予習課題の提出者を中間・期末試験受験資格者とする。 ⑤中間試験を欠席した場合は、病気その他特別の理由により、やむを得ず試験を受験できなかった学生に対してのみ、その願い出により対応する。 フィードバック：試験後に記載例配布・解説を行う。				
教科書	ナーシンググラフィカ　母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護　中込 さと子他編（メディカ出版）				
参考書等	適宜紹介する。				
事前準備 受講要件等	シラバスを確認しておく。 授業は、アクティブラーニングを取り入れる。 課題提出日は、単元ごとに指定する。				
オフィスアワー（曜日／時間）	月曜日12：10～13：00、ただしメールで事前にアポイントをとること				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	母性看護学とは	オリエンテーション 母性看護学の概念と対象、母性看護の専門性について理解する 1.自己紹介 2.科目オリエンテーション 3.この科目でどんなことを学ぶのかイメージしよう。 4.母性看護の概念と対象について 5.最近の母性看護関連のトピック 予習：シラバスを熟読し（特に強調文字）マーカーをひく。 復習：母性看護学で何を学ぶのかについて確認する。	間中
2	母性看護学の中心概念	母親になること（愛着理論・ボンディング・親子相互作用など）について学ぶ 1.母親になるとはどのようなことか 2.愛着理論の定義について確認する。 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	間中
3	リプロダクティブヘルスに関する概念① リプロダクティブヘルス・	女性の健康とリプロダクティブヘルスについて学ぶ 学生発表 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカー	間中

	ライツ	をひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	
4	リプロダクティブヘルスに関する概念② 人間の性と生殖	人間の性と生殖の概念について理解する セクシュアリティとジェンダーについて学ぶ 1.セクシュアリティ 2.ジェンダー 3.性の多様な要素 学生発表 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	松枝
5	リプロダクティブヘルスに関する動向	母子保健に関する指標と動向について母子保健統計から理解する 学生発表 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、リプロダクティブヘルスに関する動向についての問題に回答する。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
6	リプロダクティブヘルスに関する倫理① 生命誕生に関わる倫理的課題	生命誕生に関わる倫理的課題を理解する 1.医療者の倫理 2.人工妊娠中絶 3.出生前診断 学生発表 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	松枝
7	リプロダクティブヘルスに関する倫理② 生殖補助医療における倫理的課題	生殖補助医療における倫理的課題を理解する 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	松枝
8	リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援①	母性看護に関する法律や現代の施策について学ぶ 1.子どもと女性の保護に関する法律 2.女性の就労に関する法律 3.子育て支援に関する制度・施策 4.暴力・虐待の防止に関する法律と支援 学生発表 予習：Moodle内の指示に従い、リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援についての問題に回答する。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
9	リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援② 女性のライフサイクル	女性のライフサイクルと現代の家族や社会環境について理解する 学生発表 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	松枝
10	生殖に関する生理	生命のはじまり、生殖器の分化、形態と機能について学ぶ 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
11	生殖における健康問題と看護① 思春期	思春期女性の健康と看護について学ぶ 1．思春期の特徴 2．思春期の健康課題（月経異常、デートDV、性行動、妊娠と中絶、避妊） 3．思春期教育 学生発表 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、生殖における思春期女性の	近澤

		健康問題と看護に関する考えを回答する。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	
12	生殖における健康問題と看護② 性感染症	性に関する課題について学ぶ 1. 性に関する健康課題（性感染症） 学生発表 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、性に関する健康課題に関する考えを回答する。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
13	生殖における健康問題と看護③ 成熟期	成熟期の健康と看護について学ぶ 1.成熟期の特徴 2.成熟期の健康課題（妊娠・出産、生殖器系の腫瘍性疾患等） 学生発表 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	間中
14	不妊症	不妊症と看護について理解する 学生発表 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、不妊症に関する問題に回答する。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
15	加齢とホルモンの変化 まとめ	更年期の健康と看護、老年期の健康と看護について学ぶ 1.更年期・老年期の特徴 2.更年期・老年期の健康課題（更年期障害、生殖器系の老化） 学生発表 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	間中

授業科目	母性看護学援助論	科目ナンバリング	N-33-02-B		
授業科目（英）	Maternity Nursing				
教員名	◎間中麻衣子（助産師実務経験者）、近澤幸（助産師実務経験者）、松枝加奈子（助産師実務経験者）、番聡子（病院看護部）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	母性看護学の中でも特に、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期において女性と子どもとその家族に生じる身体的・心理的・社会的変化について理解し、対象となる人々の健康な生活を援助できる実践能力の基礎を修得できる。				
行動目標	①妊娠期・分娩期・産褥期の女性の身体的変化とその看護について説明できる。 ②周産期の女性の家族の心理的・社会的変化とその看護について説明できる。 ③胎児の成長発達とその看護について説明できる。 ④新生児の生理的特徴、胎外生活への適応過程、成長発達とその看護について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究心、専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	①予習・復習課題、授業中の提出物、確認問題（10%）、試験（中間：50%、期末：40%）により評価する。 ②紙面提出の提出物について名前がない場合は0点となる。 ③提出時間に遅れた場合は提出として取り扱うが、採点の対象とならない。 ④全予習課題の提出者を中間・期末試験受験資格者とする。 ⑤中間試験を欠席した場合は、病気その他特別の理由により、やむを得ず試験を受験できなかった学生に対してのみ、その願い出により対応する。 フィードバック：試験後に記載例配布・解説を行う。				
教科書	母性看護学Ⅱマタニティサイクル　大平光子他編（南江堂）※2年前期「リプロダクションと看護」選択者は購入済				
参考書等	病気が見える　10産科　医療情報科学研究所編（メディックメディア） ウェルネスからみる母性看護過程+病態関連図　佐保正勝他（医学書院）				
事前準備 受講要件等	授業前はシラバスを確認しておく。 授業は、ディスカッション、グループワークなどアクティブラーニングを取り入れる。 要提出の予習課題は、講義の場合、講義日週の水曜日13時までに提出する。ただし、他に指示がある場合は指示に従う。提出方法、内容はMoodle内の指示に従う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	月曜日12：10～13：00、ただしメールで事前にアポイントをとること。				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	母性看護の実践に必要な基本用語	母性看護の実践に必要な基本用語について 科目オリエンテーション 予習：シラバスを熟読し（特に強調文字）マーカーする。 母性看護の実践に必要な基本用語を確認する。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	間中
2	妊婦の身体的変化と胎児の成長	妊娠の生理、妊婦の身体的変化、胎児の成長と看護 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	松枝
3	妊婦と胎児の健康状態のアセスメント	妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	松枝
4	ハイリスク妊娠のアセスメント（1）	主要なハイリスク妊娠（妊娠悪阻、切迫流・早産、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群、早産、胎児付属物の異常、双胎など）と看護 （ハイリスク妊婦に関するミニ事例のアセスメント）	松枝

		予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	
5	ハイリスク妊娠のアセスメント（2）	ハイリスク妊娠に必要な胎児心拍数モニタリング 妊婦と家族の心理・社会的変化と看護 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	松枝
6	分娩の生理と母子への影響（1）	分娩の生理と分娩第1期における母子に及ぼす影響と看護 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、分娩の生理と分娩第1期における母子に及ぼす影響に関連した事前問題に回答する。 教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	間中
7	分娩の生理と母子への影響（2）	分娩第2～4期における母子に及ぼす影響と看護 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、分娩第2～4期における母子に及ぼす影響に関連した事前問題に回答する。 教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	間中
8	ハイリスク分娩	主要なハイリスク分娩（ハイリスク分娩の種類、胎児機能不全＜CTGの判読の基礎＞、急速遂娩）と看護 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、ハイリスク分娩に関する用語を記載する。 教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	間中
9	分娩期のアセスメント	事例を用いた分娩期のアセスメント 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、事例アセスメントに必要な項目（指示された箇所）について記載する。教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	間中
10	産褥期の生理と看護	褥婦の生理的変化（退行性変化と進行性変化）と看護、褥婦と家族の心理・社会的変化と看護 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、産褥期の生理的変化に関連した事前問題に回答する。 教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
11	産褥期のハイリスク状態	主要な身体的ハイリスク状態（子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、帝王切開術後など）と看護、心理・社会的ハイリスク状態（マタニティブルーズ、産後うつ、新生児の先天異常など）と看護 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、産褥期の身体的変化に関連した事前問題に回答する。教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
12	産褥期のアセスメントと看護	事例を用いた産褥期のアセスメント 予習：Moodle内の指示に従い、事例を読む。アセスメントに必要な項目について教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
13	新生児期の生理的特徴	新生児の生理的特徴、胎外生活への適応と看護 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、新生児の生理的特徴に関連した事前問題に回答する。	近澤

		教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	
14	新生児期のアセスメント	新生児期のアセスメント 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、新生児のアセスメントに必要な項目に関連した事前問題に回答する。 教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
15	ハイリスク新生児	主要な新生児の異常 低出生体重児の特徴と看護 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）マーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤 番

授業科目	母性看護学援助方法	科目ナンバリング	N-33-03-B		
授業科目（英）	Maternity Nursing Methods				
教員名	◎間中麻衣子（助産師実務経験者）、近澤幸（助産師実務経験者）、松枝加奈子（助産師実務経験者）、酒向なつみ（助産師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	看護職に必要な母性看護学の看護実践能力の基礎を修得できる。母性看護の中でも特に、周産期の女性と子どもとその家族への看護実践の具体的方法を修得できる。				
行動目標	母性看護における看護実践の過程について、模擬事例を対象に情報のアセスメント、看護課題の抽出、看護目標の設定、看護計画の立案と実施ができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究心、専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	①予習・復習課題、授業中の提出物 (20%)、筆記試験(80%)により評価する。ただし、技術確認不合格者は筆記試験を受験できない。なお、再試験は筆記試験のみとする。 ②紙面提出の提出物について名前がない場合は0点となる。 ③提出時間に遅れた場合は提出として取り扱うが、採点の対象とならない。 ④全予習課題・事後課題、授業中の提出物の提出者を筆記試験受験資格者とする。 フィードバック：筆記試験後に記載例配布・解説を行う。				
教科書	母性看護学Ⅱマタニティサイクル　大平光子他編　（南江堂）※2年前期「リプロダクションと看護」または、後期「母性看護学援助論」で購入済 ナーシンググラフィカ　母性看護学③母性看護技術　荒木奈緒他編（メディカ出版）				
参考書等	ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図　佐世正勝、石村由利子編　（医学書院） 目で見る母性看護学DVD（1～6巻）　（医学映像教育センター） 産褥経過のアセスメントと支援の実際DVD（1～4巻）　（医学映像教育センター） 目で見る新生児看護DVD（1～4巻）　（医学映像教育センター）				
事前準備 受講要件等	授業前はシラバスを確認しておく。 授業は、学生発表、ディスカッション、グループワークなどアクティブラーニングを取り入れる。 予習課題・事後課題は、所定の日時までにレポートボックスに提出する。				
オフィスアワー（曜日／時間）	月曜日12：10～13：00、ただしメールで事前にアポイントをとること				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	看護過程①	オリエンテーション、周産期看護過程 予習：シラバスを読んでくる。 復習：テキストの事例で不明な点がないか確認する。	間中 近澤 松枝 酒向
2	看護過程②	事例の看護展開（グループワーク） 予習：シラバスを読んでくる。 復習：テキストの事例で不明な点がないか確認する。	近澤 間中 松枝 酒向
3	看護過程③	事例の看護展開（グループワーク） 予習：事例の看護過程の展開（グループワーク） 復習：グループで事例の看護過程を完成させる。 　＊課題はいくつあげてもよい。 　＊初期計画の健康課題・看護目標（長期・短期）までを目標とする。	近澤 間中 松枝 酒向
4	看護過程④	事例の看護展開（グループワーク） 予習：事例の看護過程の展開（グループワーク） 復習：グループで事例の看護過程を完成させる。 　＊課題はいくつあげてもよい。	近澤 間中 松枝 酒向

		＊初期計画の健康課題・看護目標（長期・短期）までを目標とする。	
5	分娩期の看護①	分娩期（経膣）の看護の実際（DVD視聴、講義） 予習：教科書の該当箇所・配布資料を熟読しまとめる。 復習：分娩期に必要な看護（技術含む）について教科書を確認する。	間中 近澤 松枝 酒向
6	分娩期の看護②	分娩期（帝王切開）の看護の実際（DVD視聴、講義） 予習：教科書の該当箇所・配布資料を熟読しまとめる。 復習：分娩期に必要な看護（技術含む）について教科書を確認する。	松枝 近澤 間中 酒向
7	周産期に必要な看護技術①	NST・CTGの実施と判読（DVD視聴） 予習：教科書（母性看護技術）のNST・CTG、レオポルド触診法について熟読しまとめる。 復習：実施手順について確認し、レジュメに記載する。	間中 近澤 松枝 酒向
8	看護過程⑤ −発表−	妊娠期の看護過程の発表と質疑応答（事例の発表：事前に、教員による、発表グループの選定。） 予習：事例の看護過程の展開（グループワーク） 復習：①発表・ディスカッションの内容を参考にして、看護過程の追加・修正を行う(グループ、PC・手書きどちらも可）。追加・修正したものに、個人で計画立案し提出する（個人・手書き）。 ②グループ発表に対する学び（個人で提出） ③グループワークに関する自己評価（個人で提出）	近澤 間中 松枝 酒向
9	看護過程⑥ −発表−	産褥期の看護過程の発表と質疑応答（事例の発表：事前に、教員による、発表グループの選定。） 予習：事例の看護過程の展開（グループワーク） 復習：①発表・ディスカッションの内容を参考にして、看護過程の追加・修正を行う(グループ、PC・手書きどちらも可）。追加・修正したものに、個人で計画立案し提出する（個人・手書き）。 ②グループ発表に対する学び（個人で提出） ③グループワークに関する自己評価（個人で提出）	近澤 間中 松枝 酒向
10	看護過程⑦ −発表−	新生児期の看護過程の発表と質疑応答（事例の発表：事前に、教員による、発表グループの選定。） 予習：事例の看護過程の展開（グループワーク） 復習：①発表・ディスカッションの内容を参考にして、看護過程の追加・修正を行う(グループ、PC・手書きどちらも可）。追加・修正したものに、個人で計画立案し提出する（個人・手書き）。 ②グループ発表に対する学び（個人で提出） ③グループワークに関する自己評価（個人で提出）	近澤 間中 松枝 酒向
11、12	周産期に必要な看護技術②③	・新生児の看護展開：新生児の清潔援助（沐浴） ・新生児の看護展開：新生児健康診査（バイタルサインと全身観察）（演習） 予習：事例の個別性に合わせた実施上の留意点を踏まえてチェックリストを完成させる。 ナーシングスキル 新生児の看護：沐浴、 新生児の移乗・移送、新生児の観察：全身観察を視聴しておく。 復習：実施後レポートをまとめる。	近澤 間中 松枝 酒向
13	周産期に必要な看護技術④	・妊婦の看護展開：妊婦健康診査（母体と胎児の身体的変化の観察） ・育児技術（新生児の清潔：清拭、オムツ交換、更衣）（演習） 予習：事例の個別性に合わせた実施上の留意点を踏まえてチェックリストを完成させる。 ナーシングスキル妊婦健診関連（ 妊娠中の検査：腹囲・子宮底測定、妊娠中の検査：レオポルド触診法）と新生児の看護：寝衣交換を視聴しておく。 復習：実施後レポートをまとめる。	近澤 間中 松枝 酒向

14	周産期に必要な看護技術⑤	・妊婦の看護展開：妊婦健康診査（母体と胎児の身体的変化の観察） ・育児技術（新生児の清潔：清拭、オムツ交換、更衣） （演習） 予習：事例の個別性に合わせた実施上の留意点を踏まえてチェックリストを完成させる。 ナーシングスキル妊婦健診関連（妊娠中の検査：腹囲・子宮底測定、妊娠中の検査：レオポルド触診法）と新生児の看護：寝衣交換を視聴しておく。 復習：実施後レポートをまとめる。	近澤 間中 松枝 酒向
15	周産期に必要な看護技術⑥	・褥婦の看護展開：褥婦健康診査（進行性・退行性変化の観察） ・褥婦の看護展開：授乳介助 （演習） 予習：事例の個別性に合わせた実施上の留意点を踏まえてチェックリストを完成させる。 ナーシングスキルの褥婦のアセスメント、授乳指導、新生児の移乗・移送を視聴しておく。 復習：実施後レポートをまとめる。	近澤 間中 松枝 酒向
16	周産期に必要な看護技術⑦	・褥婦の看護展開：褥婦健康診査（進行性・退行性変化の観察） ・褥婦の看護展開：授乳介助 （演習） 予習：事例の個別性に合わせた実施上の留意点を踏まえてチェックリストを完成させる。 ナーシングスキルの褥婦のアセスメント、授乳指導、新生児の移乗・移送を視聴しておく。 復習：実施後レポートをまとめる。	近澤 間中 松枝 酒向

授業科目	母性看護学実習	科目ナンバリング	N-33-04-B		
授業科目（英）	Maternity Nursing Practicum				
教員名	◎間中麻衣子（助産師実務経験者）、近澤幸（助産師実務経験者）、松枝加奈子（助産師実務経験者）、酒向なつみ（助産師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	90	学年	3
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	実習		
一般目標	女性のライフサイクルの中でも特に周産期を中心とした臨床の場において、既習の知識と技術を統合し看護実践を行うための基礎的な能力を修得できる。 妊婦健康診査と健康教育の実際、分娩期の産婦と家族および胎児・新生児への看護、母子分離にある母親と家族への看護の実際を体験することや、産褥期の母親と新生児あるいはハイリスク妊婦の看護過程の展開での学びを通して、健全な母性の育成に向けた基礎的実践能力を養うことができる。				
行動目標	1.周産期病棟、外来、NICU･GCUにおける看護援助の場面を通して、母子とその家族の生活を把握し、さまざまなレベルの健康状態について理解できる。 2.ヒューマン・セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、人生移行の観点から、母子とその家族の健康状態をアセスメントできる。 3.対象の持つ健康課題と必要な看護援助において、ウエルネス、セルフケア、家族中心的ケア、意思決定、エンパワメント、ディベロップメンタルケアの視点を理解できる。 4. 周産期における看護の連続性と連携について考察できる。 5.看護実践における倫理的配慮の実際を理解できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究心、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	実習内容（実習態度含む）および記録物により評価する。なお、出席は100%を原則とする。 フィードバック法：実習内容、記録物についてカンファレンスや実習中に適宜フィードバックする。				
教科書	母性看護学Ⅱマタニティサイクル　大平光子他編（南江堂）（2,3年次授業科目「母性看護学援助論、母性看護学援助方法」で使用している為、購入不要） ナーシンググラフィカ　母性看護学③母性看護技術　荒木奈緒他編（メディカ出版）（3年次授業科目「母性看護学援助方法」で使用している為、購入不要）				
参考書等	写真でわかる母性看護技術アドバンス　平澤美恵子編　（インターメディカ） ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図　佐世正勝編　（医学書院） 根拠と事故防止からみた母性看護技術　石村由利子編　（医学書院）				
事前準備 受講要件等	実習科目の履修要件を参照				
オフィスアワー（曜日／時間）	月・水・金曜日：17：00～18：00				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
	周産期にある母子とその家族に対する看護の実際を通じて、周産期にある対象の特徴や看護について考察し、健全な母性の育成に向けた基礎的実践能力を養う。	〈実習準備〉 基本的な母性看護の技術と看護過程展開の方法についてまとめる。 〈臨地実習〉 1.産科病棟実習 ①入院中の母子または妊婦（胎児を含む）を対象として受け持ち、看護過程を展開する。 ②入院中の新生児看護を実践する。 2.外来実習 ①妊婦健康診査を受診する妊婦を受け持ち、外来における看護を見学・実践する。 ②外来受診する妊婦を対象に実施される保健相談や健康教育に参加する。 3.NICU･GCU実習 ①母子分離にあるNICU･GCU入院中の児の看護を見学・実践する。 4.分娩期実習 ①産科病棟での受け持ち実習を優先的に行いながら、対象者の同意を得た上で援助を実施する。 ②許可が得られた場合、手術室で帝王切開による分娩期の援助を見学	間中 近澤 松枝 酒向

		する。 ③経腟分娩の分娩期実習は、進行の状況により実習時間を延長することがある。 5.健康教育等の見学および実践 産科病棟や外来において、個別あるいは集団を対象に実施されている保健相談や健康教育に、参加または実践する。 〈まとめ〉 対象となる母子の看護過程の展開や見学実習の実践内容を、実習評価表と照らし合わせながら自己評価を行い、グループ討議によって深め、母性看護学の実践と理論の統合を図る。 〈実習施設〉 大阪医科薬科大学病院 〈予習と復習〉 予習：受持ち対象の看護過程の展開や見学実習に必要な知識・技術について確認し、実施できるよう準備する。 復習：受持ち対象の看護過程の展開の評価や見学実習の学びを振り返り、学びを深める。	

授業科目	小児看護学概論	科目ナンバリング	N-33-05-B		
授業科目（英）	Introduction to Child care Nursing				
教員名	◎竹村淳子（看護師実務経験者）、鈴木美佐（看護師実務経験者）、倉橋理香（看護師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	小児看護に携わる看護職として、様々な場においてすべての子どもとその家族を対象に子どもの成長・発達を促す看護支援を考えることができる。				
行動目標	１．小児看護の対象を理解し、小児看護の役割と機能を説明できる。 ２．子どもの成長と発達を説明できる。 ３．子どもの発達を促す養育方法を説明できる。 ４．子どもを育む家族の役割を説明できる。 ５．社会的存在である子どもの権利を説明でき、擁護する方策を説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、倫理観				
評価並びにフィードバック法	試験85%、課題レポート15%で評価する。 課題に関しては、授業において説明をする。試験は終了後に解説を行う。				
教科書	奈良間美保他：小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版（医学書院）（デジタル）.				
参考書等	随時紹介する。				
事前準備 受講要件等	授業前にはシラバスを確認し、予習・復習を確実に行う。また、教科書の該当箇所を読んでおく。				
オフィスアワー （曜日／時間）	木曜日／9：30～10：30				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	小児看護の特性	オリエンテーション：授業の進め方について、課題と反転授業の説明 小児医療の変遷、小児看護の特性と今後の課題（テキストP4-18） 予習：テキストP4-18を読み、重要箇所をピックアップしておく 復習：現代の生活が子どもの育ちに与える影響を考える	竹村 鈴木 倉橋
2	子どもの人権、最善の利益にかなう医療・看護	医療における子どもの権利、子どもの権利条約、インフォームド・アセント、侵害されやすい子どもの人権、小児看護における倫理 予習：教科書の「児童憲章」を読んでくる。 復習：看護師として検査処置の前に幼児に理解してもらう方法を箇条書きする。	鈴木
3	子どもを理解する理論と概念 ＊オンデマンド形式で実施	＊オンデマンド形式で実施 エリクソンの自我発達理論、ピアジェの認知発達理論、ボウルビーの愛着理論 予習：教科書P30-33を読んでくる 復習：「人見知り」についてまとめる	竹村
4	子どもの成長と発達１	成長・発達の原則、発達の臨界期、発達の指標、発達のスクリーニング 新生児の発達 予習：発達段階の区分を調べてくる 復習：「成熟」の例をあげてみる	竹村
5	子どもの成長と発達２	新生児・乳児の発達 運動機能、原始反射、精神・認知の発達 予習：IT等の利用で原始反射を1つ以上視聴し感じたことをメモする 復習：原始反射の出現時期と消失時期をまとめる	竹村
6	子どもの成長と発達３ 食べる機能の発達	乳児の口腔の発達と咀嚼、離乳食、幼児食、歯牙の萌出 予習：摂食・咀嚼の発達についてYou-Tubeで実際を見てイメージする 復習：固形物と水分の取り込みについての発達を整理する 授業資料を参考に離乳食各期の献立を考案する	鈴木

7	中間テスト グループワーク・オリエンテーション	これまでの学習を振り返る。 テストの解説と質問、次回グループワークのオリエンテーションとメンバー間の打合せ 予習：これまでの授業内容をまとめる 復習：解説をうけて不正解問題に取り組む	竹村 鈴木 倉橋
8	子どもを育む社会１ ＊グループワーク	児童憲章、児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）、児童福祉法、および戦後の母子保健対策として、子どもを育む法律・施策を各自が調べ、その内容をもとに事例への適用についてグループワークする（15分の授業を組み立てる） 予習：各自でグループワークに役立つと思う資料を準備する。 復習：他グループの発言、教員の助言を受けて授業資料を作成する。	竹村 鈴木 倉橋
9	子どもを育む社会２ ＊反転授業	子どもを育む法律・施策の事例への適用 ２事例に対する法律・施策の適用プロセスと看護職の役割について学生が授業を行う 予習：授業資料を作成し指定された日時に提出する 復習：授業を通して子どもを育む法律・施策の在り方を考察する	竹村 鈴木 倉橋
10	子どもの成長と発達４	幼児期の発達 運動機能、精神・認知の発達、日常生活習慣（食行動、排泄行動、清潔行動、挨拶やエチケット、マナー）の獲得 予習：DENVERⅡの表を見て幼児期の成長発達をイメージする 復習：幼児期の子どもの様子をみて現代の課題を考察する	竹村
11	子どもの成長と発達5	学童期の発達 運動機能、精神・認知の発達、生活習慣と健康障害への影響 学校保健行政、学校保健活動、子どもの安全と安全教育 予習：小学生を扱ったニュース、記事を読んでくる。 復習：幼児と学童の違い（運動機能と認知）をまとめる。	竹村
12	子どもの成長と発達6	思春期の発達 運動機能、精神・認知の発達、第二次性徴 予習：第二次性徴の記述を読んでくる 復習：セルフケア行動に関与する要因をまとめる	竹村
13	子どもの発達の支援 ＊グループワーク	排泄、離乳食、歯磨き、3歳児のケンカの対応に関するしつけと養育者への助言 各グループで課題を一つ選択し、指導パンフレットを作成 予習：10回目授業で説明した課題について各自で調べておく 復習：発表資料の準備	倉橋 竹村 鈴木
14	子どもの発達の支援 ＊成果発表会	排泄、離乳食、歯磨き、3歳児のケンカの対応に関するしつけと養育者への助言をパンフレットにまとめ、発表する 各グループで課題を一つ選択し、指導パンフレットを作成 予習：発表資料の準備 復習：他者からの意見について検討しておく	倉橋 竹村 鈴木
15	学びの振り返り	これまでの学習の振り返り、これからの小児看護について考える 予習：これまでの授業内容を見直す 復習：授業を振り返り、小児看護が果たす役割について考える	竹村 鈴木 倉橋

授業科目	小児看護学援助論	科目ナンバリング	N-33-06-B		
授業科目（英）	Child care Nursing				
教員名	◎鈴木美佐（看護師実務経験者）、竹村淳子（看護師実務経験者）、倉橋理香（看護師実務経験者）、山岡繁夫（兼坦）、瀧谷公隆（兼坦）、島川修一（兼坦）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	子どもの健康障害について認知発達によるとらえ方を知り、代表的疾患と治療、症状の理解を基盤にして、様々な健康の段階・状況にある子どもと家族に対する基本的な看護の考え方が習得できる。				
行動目標	1．認知発達の知識に基づき、子どもの病気の捉えかたを理解することができる。 2．小児期特有の疾患および病態、治療、支援についての知識を理解することができる。 3．小児期によくみられる症状について発達に応じた看護を理解することができる。 4．病気の子どもをもつ家族に対する支援を考えることができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、倫理観				
評価並びにフィードバック法	筆記試験及び、課題レポートで評価する。（試験85%，課題レポート15%） 課題レポートへのフィードバックは、提出後の講義内で実施する。筆記試験に関しては、回答を提示し、各自での振り返りが実施できるようにフィードバックを行う。				
教科書	奈良間美保編：小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学①，第14版，医学書院（デジタル） 奈良間美保編：小児臨床看護各論　小児看護学②，第14版，医学書院（デジタル）				
参考書等	随時紹介する				
事前準備 受講要件等	※事前準備として毎回の受講前には、下記シラバスに記載した講義の内容について該当するテキストの章を必ず熟読した後、講義に参加して下さい。 復習に関しては、それぞれの講義回に記載してある内容を実施してください。				
オフィスアワー（曜日／時間）	授業日の10時40分～12時				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	病気に対する子どもの理解	子どもに適した療養環境と、認知発達段階による病気の理解および説明 予習：学童期までの認知発達をまとめてくる。 復習：病気の理解状況に適した支援を整理する。	竹村
2	子どもの健康問題と看護	健康問題を持つ子どもの治療・健康管理や日常生活にかかわる看護 健康問題を持つ子どもの家族への看護 予習：小児期の年齢階級ごとの有病率を調べてくる。 復習：講義資料を基に子どもと家族への影響および支援の特徴を整理する。	鈴木
3	急性期にある子どもと家族（1）	子どもの発熱・嘔吐・脱水・下痢の観察と看護 予習：発熱の機序について教科書を基にまとめてくる。 復習：脱水の種類を整理するとともに、必要水分量の計算の復習を行う。	倉橋
4	急性期にある子どもと家族（2）	子どもの呼吸困難・チアノーゼの観察と看護 予習：子どもの呼吸における解剖学的特徴を調べてくる。 復習：講義資料を基にテキストの指定ページ内容を再度熟読し整理する。	鈴木
5	子どもの疾病と治療(1)	小児特有の疾患と治療1 (先天異常、低出生体重児、呼吸機能障害) 予習：正常な新生児の特徴と生理を調べる。 復習：新生児期に起こりやすい異常についてまとめる。	小児科医 山岡
6	子どもの疾病と治療(2)	※オンデマンド形式で実施 小児特有の疾患と治療2(循環機能・代謝・内分泌、消化器障害) 予習：小児の循環機能・代謝・内分泌・消化機能障害にはどのようなものがあるかを調べ、その病態を読む。	小児科医 瀧谷

		復習：代表的な疾患をそれぞれ1つあげ、病態と治療をまとめる。	
7	子どもの疾病と治療(3)	※オンデマンド形式で実施 小児特有の疾患と治療３（栄養・感染症・アレルギー・血液腫瘍） 予習：小児の正常血液状態、栄養、および感染症、アレルギーは、どのようなものがあるか調べてくる。 復習：感染症について、予防接種と感染経路、潜伏期間に関する一覧を作成する。	小児科医 瀧谷
8	障がいがある子どもと家族	重症心身障害児、精神機能障害（心身症、自閉スペクトラム症、LD、AD/HD） 予習：重症心身障害児、自閉スペクトラム症やAD/HDに関する書物または記事を読んでまとめてくる 復習：障害児にかかわる医療と教育の連携について考察する	小児科医 島川
9	急性期にある子どもと家族（3）	子どもの意識障害・けいれんの観察と看護 予習：けいれんの種類について、テキストの該当ページを読んでまとめてくる 復習：講義資料を基にテキスト指定ページ内容を再度熟読し整理するけいれんの原因と種類を整理する	鈴木
10	外来における看護	これまでの学習の振り返り。 外来を受診する子どもと家族の特徴、緊急性の判断と感染症対策 予習：これまでの授業内容を見直す。小児感染症（麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘）の特徴的症状を調べてくる 復習：感染予防対策に役立つ問診項目を整理する	鈴木
11	検査・処置時の看護	検査や処置を受ける子どもとその家族への看護 予習：テキストの該当ページを読んでくる。前期の小児看護学概論の内容にある子どもの人権にかかわる法律やインフォームドアセントについて調べてくる 復習：講義資料を整理する。動画の中でレポート課題提示	倉橋
12	周手術期にある 子どもと家族	検査・処置時の看護に関するフィードバック 子どもの手術の特徴と手術を受ける子どもや家族への看護 予習：小児の手術の特徴に関する記述部分を読んでくる 復習：手術前・後の子どもへの看護の資料を基に整理する	倉橋
13	長期療養を要する こどもと家族	長期療養（慢性疾患）が必要な子どもと家族への看護 予習：小児慢性特定疾患について、内容を調べてくる 復習：講義資料を整理し、講義の中での児に対する支援を考える	鈴木
14	終末期にある 子どもと家族	子どもの死の捉え方と終末期にある子どもと家族の苦痛の緩和、意思決定支援 予習：認知発達の段階を確認し、テキスト該当箇所を読んでくる 復習：終末期に起こる心身の変化についてまとめる	竹村
15	小児看護学援助論のまとめ	これまでの学習の振り返り 予習：これまでの授業内容を見直す 復習：授業を振り返り、小児特有の疾患と症状に対する援助のあり方を考察する	鈴木 竹村 倉橋

授業科目	小児看護学援助方法	科目ナンバリング	N-33-07-B		
授業科目（英）	Child care Nursing Methods				
教員名	◎鈴木美佐(看護師実務経験者）、竹村淳子(看護師実務経験者）、倉橋理香（看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	小児期の代表的疾患に関する知識を土台に、さまざまな健康課題をもつ子どもと家族に対する看護の展開方法を習得し、小児看護技術の演習を通して発達をふまえた援助の提供を考えることができる。				
行動目標	1，小児期の代表的疾患に罹患した子どもと家族への看護の展開を理解することができる。 2，基本的な小児看護技術の実践を通して、子どもの発達段階に応じた安全・安楽な技術の実施方法が理解できる。 3，子どもの状況に適した一連の小児看護技術の提供方法について、個人での事前課題の内容を踏まえた討議を通して考えることができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、倫理観、課題探究力				
評価並びにフィードバック法	筆記試験及び、技術演習参加状況や個人での技術課題レポートへの取組み状況から総合的評価を行う。（筆記試験75%，技術演習事前課題レポート1および意見交換などの演習参加状況15%，看護過程の展開レポート10%） 課題レポートに関するフィードバックは、レポート集計後に講義内で実施する。また、筆記試験に関しては、実施後に解答を提示し、各自での復習が行えるようにする。				
教科書	奈良間美保編：小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学①，第14版，医学書院 奈良間美保編：小児臨床看護各論　小児看護学②，第14版，医学書院 ※「小児看護学援助論」で購入済				
参考書等	随時紹介する。				
事前準備 受講要件等	授業前にはシラバスを確認し、教科書の該当箇所を読んでまとめておく。また、2年次後期の小児看護学援助論のなかの小児の疾患3コマの資料を毎回持参しておく。				
オフィスアワー（曜日／時間）	金曜日13時～15時(事前にメールでご連絡ください）				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	健康課題がある子どもと家族への看護（呼吸器）	科目ガイダンス：授業参加について、看護過程課題の説明 呼吸器感染症の子どもと家族の健康課題とその看護 予習：小児看護学援助論の該当資料およびテキストから、主要な子どもの呼吸器疾患の概要および治療、呼吸困難時の看護について調べてくる。 復習：呼吸器感染症の原因と症状について整理する。	竹村 鈴木
2	健康課題がある子どもと家族への看護（消化器）	消化器疾患とその看護 予習：小児看護学援助論の該当資料およびテキストから、主要な子どもの消化器疾患の概要および治療について調べておく。 復習：腸重積症の代表的症状と観察点について整理しておく。	倉橋
3	健康課題がある子どもと家族への看護（腎・泌尿器）	腎・泌尿器疾患とその看護 予習：副腎皮質ホルモン剤の作用・副作用を調べてくる。小児看護学援助論の該当資料およびテキストから、主要な子どもの腎・泌尿器疾患の概要および治療について調べておく。 復習：ネフローゼ症候群の症状とケアポイントをまとめる。	鈴木
4	健康課題がある子どもと家族への看護（循環器）	循環器疾患とその看護 予習：小児看護学援助論の該当資料およびテキストから、主要な子どもの循環器疾患の概要および治療について調べておく。 復習：ファロー四徴症の看護のポイントについて整理する。	鈴木
5	事例を用いた看護過程の展開（1）個人ワーク演習	個人ワークを中心とした全体像の作成 予習：事例展開に取り組むための資料を持参する。 復習：教員の助言をもとに全体像に基づいた看護問題の抽出、看護問題に対するケア計画の立案を行う。	竹村 鈴木 倉橋

6	健康課題がある子どもと家族への看護（悪性腫瘍）	血液・造血器疾患、悪性腫瘍疾患とその看護 予習：小児看護学援助論の該当資料およびテキストから、白血病の種類・治療についてまとめてくる。 復習：講義資料を基に、抗がん剤治療中の観察ポイントについて整理しておく。	鈴木
7	健康課題がある子どもと家族への看護（アレルギー）	アレルギー疾患とその看護 予習：テキスト等を活用し、即時型・遅延型アレルギーについて調べる。 復習：食物アレルギーの子どもの看護のポイントについて整理する。	倉橋
8	事例を用いた看護過程の展開 (2) フィードバック	事例展開におけるポイントのでディスカッションおよび教員からのフィードバック. 予習：展開した看護過程資料を指定期日に提出（初回講義で説明） 復習：ディスカッション・教員からのフィードバックを受けて、各自の看護過程を修正する。	竹村 鈴木 倉橋
9	小児看護における看護技術 (1)	※オンデマンド形式で実施 子どもの看護技術の概説 予習：テキスト、ナーシングスキルを活用し、課題学習の子どものバイタルサイン項目を確認してくる。 復習：講義内容、ナーシングスキルを活用し、小児技術の手順やポイントについてまとめる。	倉橋
10	小児看護における看護技術 (2)　技術演習	小児看護技術項目のデモンストレーションと実施 （技術項目：バイタルサイン測定、吸入・吸引、輸液、経管栄養） 予習：講義資料や書籍をもとに小児看護技術項目の個人課題を実施し持参する。(第10回11回の演習は2コマ続けて実施予定)	竹村 鈴木 倉橋
11	小児看護における看護技術 (3)　技術演習	小児看護技術項目のデモンストレーションと実施 復習：技術演習を振り返り留意点のまとめを行う。	竹村 鈴木 倉橋
12	健康課題がある子どもと家族への看護（内分泌代謝）	内分泌・代謝疾患とその看護 予習：小児看護学援助論の該当資料およびテキストから、1型糖尿病と2型糖尿病の違い、1型糖尿病の治療、カーボカウントについて調べる。 復習：1型糖尿病の子どもの発達段階に応じた自己管理について整理する。	鈴木
13	低出生体重児と家族への看護（事例を用いた看護過程の展開）	ハイリスク新生児の特徴とその看護 予習：低出生体重児および子宮内胎児発育不全（FGR）について調べる。 復習：講義資料を基に低出生体重児・新生児の看護のポイントについて整理する。	倉橋
14	障害のある子どもと家族への看護（1）	重症心身障害児・医療的ケアのある子どもと家族への看護 予習：国際生活機能分類（ICF） について調べる。 復習：家族への支援について考える。	鈴木
15	障害のある子どもと家族への看護（2）	重症心身障害児・医療的ケアのある子どもと家族への看護 予習：医療的ケア児について調べる。 復習：医療的ケア児とその家族の支援について考える。	鈴木

授業科目	小児看護学実習	科目ナンバリング	N-33-08-B		
授業科目（英）	Child care Nursing Practicum				
教員名	◎鈴木美佐（看護師実務経験者）、竹村淳子（看護師実務経験者）、倉橋理香（看護師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	90	学年	3
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	実習		
一般目標	健康障がいのある小児と家族を対象に、これまでに学んだ知識を統合してアセスメントし、看護活動を展開する基礎的能力を養う。				
行動目標	1．小児看護領域の臨床の場（小児病棟、ＮＩＣＵ）において、小児の健康問題に発達段階を加味し、家族の特徴など対象に適した看護を展開できる。 2．保育や学校の場において、小児の生活集団を対象に展開する保健活動を理解する。 3．1および2の体験を通して、小児看護の特質を理解し、個々人の健康レベルに適した小児とその家族の生活を支える看護を考察し説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、倫理観、課題探究力				
評価並びにフィードバック法	看護実践の内容・実習記録85%、カンファレンスへの貢献・実習態度15%とし、総合的に評価する。 学内での「看護実践と理論の統合（実習後）」において個別面接を行い、フィードバックする。				
教科書	奈良間美保編：小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学①，第14版，医学書院 奈良間美保編：小児臨床看護各論　小児看護学②，第14版，医学書院 （※授業科目で使用している為、購入不要）				
参考書等	小児看護学実習要項 そのほか随時紹介する。				
事前準備 受講要件等	実習科目の履修要件を参照しておくこと 実習を受講するにあたり、必ず以下の項目を行うこと ①実習前の特別講義『養護教諭の職務』の受講 ②事前学習課題の実施 ③『看護実践と理論の統合』への出席 ④オリエンテーションへの出席 ⑤実習先の学校の場所、交通アクセス、所要時間の確認 なお、小児感染症およびインフルエンザの予防接種が済んでいることが必要				
オフィスアワー（曜日／時間）	実習中の休憩時間および終了直後に、担当教員と時間を調整すること。				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
	1．医療施設における看護 1) 小児および家族との援助関係を築くことができる。 2) 健康障がいのある小児の看護上の問題を明らかにできる。 3) 健康障がいのある小児とその家族に適切な看護が実践できる。 4) 外来での小児と家族への看護の実際について説明できる。 5) 看護チームおよび医療チームの一員としての役割と行動が説明できる。	1．実習施設： 大阪医科薬科大学病院 65病棟・NICUおよび小児科外来 2．実習期間： 8日間 3．実習内容： 1) 小児病棟 a） 受けもち児を選定し、小児と家族との援助関係を築く。 b） 小児に適した環境整備を理解し、整えることができる。 c） 様々な方法を用いた情報収集により健康状態および心理社会的状態をアセスメントし、受けもち児の全体像を把握する。 d） 受けもち児の看護上の問題を特定する。 e） 受けもち児の看護上の問題のうち、優先度の高い2つ以上ついて個別性をふまえた計画を立て、実施する。 f） 受けもち児に実施した看護について振り返り、その効果や影響を考察する。 g) 外来受診の目的を知り、小児と家族への看護師の関わり方から外来看護師の役割を学ぶ。 h) 看護チームの一員として状況に応じて適切に報告し、必要時は助言を求める。 2) NICU a) 低出生体重児あるいは健康障がいのある児を出産した親の心情	竹村 鈴木 倉橋

		を理解できる。 b) 受けもち児を選定し、小児と家族との援助関係を築く。 c) 小児に適したNICUの環境整備を理解し、整えることができる。 d) 様々な方法を用いた情報収集により健康状態をアセスメントし、受けもち児の全体像を把握する。 e) 受けもち児の看護上の問題を特定する。 f) 受けもち児の看護上の問題のうち、優先度の高い2つについて個別性をふまえた計画を立て、指導のもと実施する。 g) 受けもち児に実施した看護について振り返り、その効果や影響を考察する。 h) 外来受診の目的を知り、小児と家族への看護師の関わり方から外来看護師の役割を学ぶ。 i) 看護チームの一員として状況に応じて適切に報告し、必要時は助言を求める。 4. 予習 1) 実習前：事前課題を実施する。 ［項目］小児の成長発達、小児期特有の疾患・看護、その他必要な学習 2) 実習中：受けもち児への看護に必要な学習を適宜行う。 5. 復習 日々の実習を振り返り、実習記録を作成する。	
	2. 保育施設・学校における看護 1) 児童生徒の発達とニーズに応じた対応ができる。 2)幼児期・ 学齢期に起こりやすい健康問題を説明できる。 3) 保育施設・学校における保健管理・ 保健教育について理解できる。 4) 保育施設責任者、学校長、保健主事、教諭、養護教諭の役割および保護者・地域との連携を説明できる。	1. 実習施設： 高槻中学校・高等学校、高槻市立小学校、茨木支援学校、大阪医科薬科大学保育室のいずれか1か所 2. 実習期間： 2日間 3. 実習内容： a) 保育施設・学校の理念・教育目的、保健管理・保健教育・組織活動の講話を受け、実習校の概要を理解する。 b) クラスに入って朝の健康観察、給食への参加、帰りのホームルームに同席し、児童生徒と関わり、発達に応じた健康管理能力への働きかけを理解する。 c) 保育施設責任者／養護教諭／担当教諭の活動（校内巡視・環境点検・健康観察・健康相談活動・教育活動など）を見学し、それぞれの役割を理解する。 4. 予習： 実習前：事前課題を実施する。 ［項目］養護教諭の役割・医療的ケア、その他必要な学習 5. 復習： 日々の実習を振り返り、実習記録を作成する。	竹村 鈴木 倉橋

授業科目	地域・在宅看護論	科目ナンバリング	N-33-09-B		
授業科目（英）	Introduction to Home and Community Care				
教員名	◎真継和子（看護師実務経験者）、大橋尚弘（看護師実務経験者）、内田浩江（看護師実務経験者）、有吉真里菜（看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	1年
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	身近な人びとの暮らし方に目を向け、人びとの暮らしとその多様性を理解するとともに、その行動のなかに潜む考え方や健康に対する意識を理解し、暮らしが健康に与える影響について考察する。さらに、地域共生社会における包括ケアのあり方を学び、人が人を助け、支え合うとはどういうことかを理解し、ケアという観点から看護の役割とその専門性について考察する。				
行動目標	1. 多面的な暮らしの捉え方と生活者としての対象理解の方法を説明できる。 2. 暮らしの中で人々が大切にしていることや習慣などから暮らしの多様性について説明できる。 3. 暮らし方の背景にある人々の健康に対する意識（意味、意義など）を探り、暮らしと健康との関係を説明できる。 4. 人が人とかかわるとはどういうことかを考察し、ケアの意味とともにヒューマンケアを実現していくための基本的姿勢を説明できる。 5. ヘルスケアシステムとしての地域包括ケアシステムにおける看護の役割、機能について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探求力、専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	講義内課題レポート（50%）、定期試験（50%） 課題レポートは授業内でフィードバック、またはUNIPAに概評を掲示する。定期試験は終了後に解説を行う。				
教科書	『系統看護学講座　地域・在宅看護論１　地域・在宅看護の基盤』河原加代子他，医学書院（デジタル）. 『ケアの本質 生きることの意味』ミルトン・メイヤロフ／田村真・向野宜之（訳），ゆみる出版.				
参考書等	授業内で指示する				
事前準備 受講要件等	基礎看護学概論（必修）、健康科学概論（選択）での学修内容を復習しておくこと。 講義では、グループワークやディスカッション等のアクティブラーニング授業、レスポン等のリアルタイムアンケートシステムを用いた双方向授業を展開する。				
オフィスアワー（曜日／時間）	授業時間の前後1時間、事前に連絡をいただける場合はその都度対応します。				
SDGsとの関連	3,5,10,11,16,17				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	暮らしとは何か	暮らしの多面的な捉え方について教授する。自分自身の暮らし方、その中で大切にしていることや習慣の焦点をあてグループワーク、ディスカッションし、暮らしの多様性について理解を深める。 予習：事前配布資料にもとづいて「私の一日とその中で大切にしていること」のレポートをまとめる。 復習：授業内容をレポートにまとめ、学修内容の理解を深める。	真継 内田 有吉
2	暮らしと健康	自分自身の暮らしにおける習慣、様式、実際の行動や考え方、その暮らしの背景にある意識（意味、意義）についてディスカッションし、暮らしと健康との関係について理解を深める。 予習：第1回目の学修内容を振り返り、自分自身の暮らしの背景にある意識（意味、意義）についてレポートにまとめる。 復習：授業内容をレポートにまとめ、学修内容の理解を深める。	真継 内田 有吉
3	生活者としての対象理解	事前課題をもとにディスカッションし、生活者としての視点とは何か、生活者としての対象理解についての基本的知識について説明する。 予習：事前配布資料を読み、生活者の視点についてまとめてくる。 復習：授業内容をレポートにまとめ、学修内容の理解を深める。	真継 内田 有吉

4	日常生活におけるケア/ケアリング	人間存在としてのケアとは何か、「人が人とかかわる」ということはどういうことか、ディスカッションを通して理解を深める。 予習：事前配布資料を読む。日常の中でどのような意味でケア/ケアリングという用語を用いているか調べてくる。 復習：学修内容の理解を深め、課題レポートをまとめる。	真継 内田 有吉
5	ケア/ケアリングの本質的要素	ケア/ケアリングについて説明するとともに、専門職としてのケア/ケアリングについてディスカッションし、ケア/ケアリングの意味を探求する。 予習：事前配布資料を読み、ケアの要素をまとめる。 復習：授業内容をレポートにまとめ、学修内容の理解を深める。	真継 内田 有吉
6	地域社会システムと地域保健の基本的理論	地域におけるコミュニティ形成やネットワーク形成がもたらす意義について説明する。また、プライマリケアやヘルスプロモーションの概念について説明する。 予習：プライマリケア、ヘルスプロモーションの意味について調べてくる。 復習：授業内容をレポートにまとめ、学修内容の理解を深める。	真継 内田 有吉
7	ヘルスケアシステム	地域包括ケアシステムなどの地域医療・福祉システムに関する基本的知識について説明するとともに、課題についてディスカッションする。 予習：事前配布資料を読み、要点をレポートにまとめる。 復習：学修内容の理解を深め、地域包括ケアシステムの理解を深める。	真継 内田 有吉
8	まとめ	これまでの学修内容を振り返り、人々の暮らしと健康への理解を深めるとともに、看護の役割、機能について探究する。また、地域・在宅ケア実習に向けての学習課題と目標を明確化する。 予習：これまでの学修内容を振り返り、理解を深めておく。 復習：学修内容をふまえ、人々の暮らしと健康についての自分自身の関心、課題意識をレポートにまとめる。	真継 大橋 内田 有吉

授業科目	地域・在宅ケア実習	科目ナンバリング	N-33-10-B		
授業科目（英）	Community Care Practicum				
教員名	◎真継和子（看護師実務経験者）、大橋尚弘（看護師実務経験者）、内田浩江（看護師実務経験者）、鈴木久美（看護師実務経験者）、南口陽子（看護師実務経験者）、土井智生（看護師実務経験者）、有吉真里菜（看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	45	学年	1年
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	実習		
一般目標	地域で生活する多様なライフステージや健康状態にある人々とのかかわりを通して、人々の暮らしとニーズ、さまざまな場で展開される健康づくりのための活動とケアの実際を理解できる。また、自らも地域社会の一員であることを自覚し、共生社会の実現に向けた役割を考察するとともに、ヘルスプロモーションの視点から地域包括ケアにおける看護の機能と看護職の役割について考察する。				
行動目標	１．地域で暮らす人々の生活様式や生活習慣，実際の生活行動や考え方を知り，人々の暮らしとその多様性について説明できる。 ２．人々の生活行動の背景にある意味を知り，多様な価値観があることを説明できる。 ３．地域特性を知り，地域環境が人々の健康や暮らしに及ぼす影響について説明できる。 ４．人々の暮らしと健康を支える地域における活動やケアの実際に参加し、地域共生社会について考察できる。 ５．人と人，人と資源がつながることの意味を考察できる。 ６．人々と共に活動することを通し，地域社会の一員としての自己の役割を考察できる。 ７．人々のニーズを考察し，地域包括ケアにおける看護の機能と役割を考察できる。 ８．倫理的配慮にもとづいて行動ができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探求心、専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	実践内容・実習記録（80%）、カンファレンスへの貢献・実習態度（20%）を総合的に評価する。 実習内容については実習最終日の全体カンファレンスにおいてフィードバックするとともに、実習記録へのコメントを通して個別にフィードバックする。				
教科書	『系統看護学講座　地域・在宅看護論１　地域・在宅看護の基盤』河原加代子他，医学書院（デジタル）．				
参考書等	必要時、別途指示する				
事前準備 受講要件等	地域・在宅看護論（必修）、基礎看護学概論（必修）、健康科学概論（選択）での学修内容を復習しておくこと。				
オフィスアワー（曜日／時間）	授業時間の前後1時間、事前に連絡をいただける場合はその都度対応します。				
SDGsとの関連	1,3,4,5,8,10,11,12,16,17				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
	1. 「暮らし」「ケア」「支え合い生きる」とは 2. 地域の生活環境が健康に与える影響 3. 暮らし，生活習慣，価値観，生き方，健康観の相互関係性と多様性 4. 看護の対象と看護が提供される多様な場 5. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割と課題	【実習内容】 １）地域で行われている活動やさまざまな暮らしの場に出向き，活動への参加，地域で暮らす人々や施設等の利用者へのインタビューを通して，以下について理解する。 ■ 地域特性 自然環境，社会的環境，保健・医療・福祉・教育環境，交通機関，文化的環境・風土・風習等 ■ 人々の暮らしや健康に影響する要素，その関連 ■ さまざまなライフステージ，健康段階にある人々の暮らし，習慣，価値観，生き方，健康観 ■ 健康障害による暮らしの変化，その変化により影響を受けていること ■ 暮らしと健康との関連 ２）実習内容1）をもとにしたグループワーク，全体発表，ディスカッションにより以下の内容について考察し，理解を深める。 ■ 「暮らし」「ケア」「支え合い生きる」とはどういうことか ■ 地域の生活環境が健康に与える影響 ■ 暮らし，生活習慣，価値観，生き方，健康観の相互関係性と多様性	真継 大橋 内田 鈴木（久） 南口 土井 有吉

		■ 看護の対象と看護が提供される多様な場 ■ 地域包括ケアシステムにおける看護の役割と課題 【実習場所】 高槻市市民公益活動サポートセンター（各団体） 合同会社スノークフレーク 社会福祉法人高槻市社会福祉事業団　高槻市立療育園 株式会社ひなたぼっこ 特定非営利活動法人たかつき 社会福祉法人大潤会　複合型介護施設　大冠カーム 社会福祉法人北摂杉の子会　高槻地域生活総合支援センターぷれいすBe みらいコーポレーション株式会社　ナーシングホームみらいのいろ 大阪医科薬科大学訪問看護ステーション 大阪医科薬科大学訪問看護ステーション三島南 【実習のすすめ方】 ・高槻市市民公益活動サポートセンターの登録団体において２日間の実習を行う。また，高齢者関連施設，障害者福祉関連施設，母子関連施設のうち，いずれか１か所で２日間の実習を行う。 ・詳細については、「地域・在宅ケア実習要項」を参照。 予習：地域・在宅ケア実習要項を読み、実習概要の理解を深めておく。実習目標に沿って自己の学習課題の設定、実習計画書を作成する。 復習：実習での体験を振り返り、学びをレポートする。	

授業科目	在宅看護学概論	科目ナンバリング	N-33-11-B		
授業科目（英）	Introduction to Home Care Nursing				
教員名	◎真継和子（看護師実務経験者）、大橋尚弘（看護師実務経験者）、内田浩江（看護師実務経験者）、原田かおる（看護師実務経験者）、三原　綾（特別講師）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	病気や障がいをもちながら在宅で療養する人とその家族のQOLの維持、向上にむけた看護を実践するため、在宅看護が必要とされる背景と歴史的変遷をふまえ、在宅看護の理念と機能、療養者と家族の特性とニーズ、わが国の在宅看護に関連する制度やケアシステム、その中での保健・医療・福祉の連携・協働の必要性について理解することができる。				
行動目標	1．在宅看護の視点と主要概念について説明できる。 2．在宅看護をとりまく社会状況について説明できる。 3．在宅で生活する療養者と家族の健康や生活の特徴を説明できる。 4．療養者と家族をアセスメントするための理論やモデルについて説明できる。 5．在宅看護における訪問看護活動の実際について説明できる。 6．療養者と家族の在宅生活を支える社会資源の特徴とそのシステムについて説明できる。 7．退院支援・退院調整から在宅ケアにおける看護専門職の役割について説明できる。 8．在宅看護の現状と課題、看護サービスのあり方について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探求力、専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	定期試験（90%）、小テスト（10%）。試験の解説は終了後にUNIPAに掲示する。				
教科書	『系統看護学講座　地域・在宅看護論１　地域・在宅看護の基盤』河原加代子他，医学書院（デジタル）.				
参考書等	学習の進行に合わせて随時紹介する。				
事前準備 受講要件等	各回終了後のコメント用紙の提出をもって出席とする。講義時間内に小テストを複数回実施する。 「地域・在宅看護論」について復習しておくこと。 一部講義では、グループワークやディスカッション等のアクティブラーニング授業、レスポン等のリアルタイムアンケートシステムを用いた双方向授業を展開する。（方法については各下記の担当教員がその都度連絡する。）				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜日14:30～16:00				
SDGsとの関連	3,10,11,16				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	在宅看護の目的と必要とされる背景	わが国のヘルスケアシステムに関する施策を概観し、在宅看護の目的と必要とされる背景について説明する。 予習：教科書該当ページ及び各種資料を参考にし、わが国の人口構造及び健康に関する動向についてまとめる。 復習：在宅看護が必要とされる社会的背景と課題について整理する。	真継
2	在宅看護の特徴と基本理念	在宅看護の特徴、基本理念、在宅看護における倫理について説明する。グループディスカッションを通し、提示事例を理論やモデルを使って読み解き、在宅看護の理解を深める。 予習：教科書の該当ページを読むとともに、事前配信した動画を確認し対象理解のための理論やモデルについて学習する。 復習：在宅看護の役割、特徴について整理し理解を深める。	真継
3	在宅療養者と家族の理解	在宅療養者とその家族の特徴とニーズについての学習内容を発表、共有し、在宅看護の対象者の特徴に理解を深める。 予習：教科書の該当ページを読み、在宅看護の対象者の特徴をまとめ、発表準備をする。 復習：在宅療養者の特徴・ニーズについて理解を深める。	真継
4	在宅療養を支える社会資源（1）：医療保険制度・介護保険制度	在宅ケアを支える医療保険制度および介護保険制度について説明する。 予習：教科書該当ページを読み、医療保険制度及び介護保険制度についてまとめる。	真継

		復習：オンデマンドによる動画を活用し授業内容への理解を深めるとともに、提示したレポート課題を行う。	
5	在宅療養を支える社会資源（2）：社会資源活用の実際	医療保険制度及び介護保険制度の活用について、具体的な事例をもとにグループディスカッションし理解を深める。 予習：事前に配布した課題を行う。 復習：ディスカッション内容をまとめ、活用できる制度やサービスの理解を深める。	真継 原田 有吉
6	在宅療養を支える社会資源（3）：障害者（児）、難病、高齢者	障がい者（児）、難病療養者、高齢者の在宅療養を支える社会制度と社会資源について説明する。 予習：教科書該当ページを読み、障害者に対する法律・制度歴史について整理する。また、在宅支援が必要となる子ども・高齢者の特徴について整理する。 復習：オンデマンドによる動画を活用し授業内容への理解を深めるとともに、提示したレポート課題を行う。	内田 真継
7	在宅療養を支える社会資源（4）：社会資源の活用（事例検討）	事例をもとにグループディスカッションを通して、対象に応じた社会資源の活用について理解を深める。 予習：事例が活用できる社会資源を整理する。 復習：社会資源の活用における視点について整理する。	内田 真継 有吉
8	地域包括ケアとケアマネジメント	ケアマネジメントの概略と必要性、多職種連携について確認するとともに、事例を活用しケアマネジメントの実際を体験する。 予習：教科書該当ページを読むとともに事前に配信した動画を確認し、地域包括ケアシステムの必要性、目的、機能についてまとめる。 復習：地域包括ケアシステムの概要とケアマネジメントの過程について整理する。	真継
9	訪問看護の制度と特徴（1）	※オンデマンド形式で実施 訪問看護に関する法律と制度、訪問看護の目的・機能・特徴について説明する。 予習：訪問看護に関する法律・制度や訪問看護の目的、機能について調べ、整理する。 復習：訪問看護に関する法律・制度や訪問看護の目的、機能について、その学びや自身の考えを課題レポートに整理する。	大橋
10	訪問看護の制度と特徴（2）	訪問看護ステーションの設置基準と管理方法、医療・介護保険による訪問看護についてそれぞれ説明する。 予習：既習内容をもとに、医療保険、介護保険の違いについて復習する。医療保険および介護保険にもとづく訪問看護それぞれの目的やサービス内容とその違いについて調べ、整理する。 復習：医療保険による訪問看護と介護保険による訪問看護の違いについて整理する。訪問看護の質を維持・向上させるための方略について考察する。	大橋
11	訪問看護の実際	訪問看護師による訪問看護の実際について紹介する。 予習：訪問看護の役割、機能についてまとめておく。動画を視聴し、疑問点を整理しておく。 復習：講義を通して、訪問看護師の実践活動の意味を考察する。	三原 真継
12	療養移行支援	意思決定支援や多職種・看看連携について概説し、円滑な療養移行支援について説明する。 予習：教科書該当ページを読み、継続看護が必要とされる背景と退院支援のプロセスについいて確認する。 復習：療養の場と病床機能の特徴をまとめ、療養移行支援における看護、他職種の役割について整理する。	有吉 真継
13	在宅におけるリスクマネジメント	在宅におけるアクシデントの特徴、インシデント及びアクシデントの予防、事例のディスカッションを通して安全管理について理解を深める。 予習：教科書該当ページを読む。居住環境を振り返り、自宅で起こりやすい事故についてまとめる。 復習：在宅看護におけるリスクマネジメントの視点について整理する。	原田
14	在宅における災害マネジメント	在宅療養者の特徴をふまえ、災害による療養者への影響と防災対策および災害時の危機管理について説明する。 予習：事前に配布した資料を読み、災害が在宅療養者にもたらす影響についてまとめる。	原田

		復習：災害時における在宅看護の役割と多職種連携についてまとめる。	
15	まとめ	事前課題をもとに第１～14回までの学修内容を整理、補足説明しながら知識の定着を行う。 予習：事前に配布した課題を行う。 復習：学修内容について理解を深める。	真継

授業科目	在宅看護学援助論	科目ナンバリング	N-33-12-B		
授業科目（英）	Home Care Nursing				
教員名	◎真継和子（看護師実務経験者）、大橋尚弘（看護師実務経験者）、内田浩江（看護師実務経験者）、原田かおる（看護師実務経験者）、有吉真里菜（看護師実務経験者）、中村敏明（兼担）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	在宅看護が展開される場と活動の特性を理解し、在宅療養者とその家族のQOLの維持、向上にむけた看護を実践するために必要な基本的援助について理解する。基礎看護技術を応用、展開する必要性を理解し、日常生活支援、在宅でのリハビリテーションやターミナルケア、医療的管理を必要とする人の医療処置・安全管理にともなう看護、合併症の予防と生活指導、社会資源の活用について理解する。				
行動目標	1．在宅看護の場と活動の特徴をふまえた生活支援、医療管理のあり方について説明できる。 2．生活を支える在宅看護技術の根拠と援助方法について説明し、一部実施・評価できる。 3．在宅における医療処置の目的、適応と仕組み、おこりやすい異常とトラブルとその予防および対処方法について説明できる。 4．福祉用具の選択方法、使用方法について説明できる。 5．在宅における看取りをとりまく現状とエンド・オブ・ライフケアについて説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、創造力、専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	定期試験（80%）、事前学習課題（5%）、演習レポート（10%）、小テスト（5%）を総合的に判断する。定期試験を受けるには演習に参加していることを要件とする。事前学習課題及び演習レポートは各自のレポート等にコメントするとともに授業にて解説する。試験の解説は終了後にUNIPA掲示する。				
教科書	『系統看護学講座　地域・在宅看護論１　地域・在宅看護の基盤』河原加代子他，医学書院（デジタル）.				
参考書等	『家族看護学を基盤とした在宅看護論Ⅱ 実践編』渡辺裕子（監修），日本看護協会出版会. 『看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術』正野逸子・本田彰子（編），メヂカルフレンド社.				
事前準備 受講要件等	各回終了後のコメント用紙の提出をもって出席とする。演習時は実習衣、またはトレーニングウエア（上は半そでポロシャツ可）を着用し、身だしなみを整えること。患者役の場合は寝衣を準備すること。一部講義では、グループワークやディスカッション等のアクティブラーニング授業、レスポン等のリアルタイムアンケートシステムを用いた双方向授業を展開する。（方法については各下記の担当教員がその都度連絡する。）				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜日14:30～16:00				
SDGsとの関連	3,10,16				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	摂食・嚥下障害のある療養者と家族への支援（1）	食支援に向けた栄養状態の評価、摂食・嚥下機能障害のアセスメントおよび援助方法を説明する。 予習：教科書該当ページを読む。事前提示した動画を視聴し、咀嚼・嚥下機能について確認する。 復習：栄養、咀嚼・嚥下機能のアセスメント、嚥下訓練ができるよう復習し、栄養障害のある療養者と家族への看護についてまとめる。	真継
2	摂食・嚥下障害のある療養者と家族への支援（2）	在宅における中心静脈栄養法と経管栄養法のしくみ、適応、トラブルとその対応について説明する。 予習：教科書該当ページを読み、中心静脈栄養法と経管栄養法について確認する。 復習：在宅中心静脈栄養法と経管栄養法の目的やトラブルについて整理し、療養者と家族が必要とする看護援助について理解を深める。	有吉 真継
3	排泄障害のある療養者と家族への支援（1）	排泄障害のアセスメント、補助用具の種類と選択方法について説明する 予習：教科書該当ページを読む。排尿・排便のメカニズムについて確認する。排泄日誌の作成をする。 復習：排泄機能のアセスメントについて整理する。おむつ使用の適応、使用方法について確認する。	内田 真継

4	排泄障害のある療養者と家族への支援（2）	間欠導尿・膀胱留置カテーテル・ストーマ・腹膜透析のしくみ、適応、トラブルと対処方法について説明する。 予習：教科書該当ページを読む。間欠導尿、膀胱留置カテーテル・ストーマ・腹膜透析について確認する。 復習：膀胱留置カテーテル・ストーマ・腹膜透析の適応、トラブルと対応についてまとめ、排泄障害のある療養者への看護援助について理解を深める。	有吉 真継
5	運動機能障害のある療養者と家族への支援（1）	失禁関連皮膚炎・褥瘡といった訪問看護の場で遭遇する全身の皮膚状態のアセスメントとその予防、在宅での清潔援助方法、補助用具の種類と選択方法について説明する。 予習：教科書該当ページを読む。皮膚・粘膜の生理機能について確認する。自身の清潔行動について振り返る。 復習：在宅における皮膚トラブルに対する対処について理解を深める。	内田 真継
6	運動機能障害のある療養者と家族への支援（2）	活動・移動のアセスメントと援助方法（在宅リハビリテーションを含む）、移動補助用具の種類と選択方法について説明する。 予習：教科書該当ページを読む。活動の種類、活動による心身への影響について確認する。自宅における運動実施体験をする。 復習：運動・活動機能のアセスメント方法について理解を深め、運動機能評価方法と実施方法をまとめる。	内田 真継
7	演習1： 日常生活支援が必要な療養者と家族への支援	グループワーク、ディスカッションを通して日常生活支援が必要な療養者と家族への訪問看護計画を立案し、実施、評価する。 予習：提示事例の疾患について調べ第1～6回までの講義内容を振り返り、演習レポートに沿って事前課題を行い、援助計画を立案する。 復習：演習を振り返り、レポートをまとめる。	真継 大橋 内田 有吉 原田
8	演習1： 日常生活支援が必要な療養者と家族への支援	グループワーク、ディスカッションを通して日常生活支援が必要な療養者と家族への訪問看護計画を立案し、実施、評価する。 予習：提示事例の疾患について調べ第1～6回までの講義内容を振り返り、演習レポートに沿って事前課題を行い、援助計画を立案する。 復習：演習を振り返り、レポートをまとめる。	真継 大橋 内田 有吉 原田
9	呼吸障害のある療養者と家族への支援（1）	在宅生活における呼吸・循環器系のヘルスアセスメントの重要性と基本的技術について、既習内容を確認しながら説明する。呼吸障害のある療養者・家族が利用可能な社会資源について説明する。 通気性や気道浄化機能に障害のある療養者とその家族への看護について説明する。 予習：教科書該当ページを読み、呼吸器・循環器系の解剖生理の復習、排痰ケアに関する基本用語を整理する。 復習：在宅における呼吸管理の目的と特徴・管理方法についてまとめる。通気性や気道浄化障害のある療養者とその家族への看護について、利用できる社会資源も含めてまとめる。	大橋
10	呼吸障害のある療養者と家族への支援（2）	換気機能、肺胞・ガス交換能・循環機能に障害のある療養者とその家族への看護について説明する。HOT、NPPVの目的・意義、それらを使用している療養者や家族への看護について説明する。 予習：HOT、NPPVに関する基本的用語を整理する。 復習：HOT、NPPVの目的・意義について理解する。また、HOT、NPPVを使用している療養者や家族への看護について整理する。	大橋
11	呼吸障害のある療養者と家族への支援（3）	換気機能、肺胞・ガス交換能・循環機能に障害のある療養者とその家族への看護について理解する。 TPPVの目的・意義について理解する。 予習：TPPVに関する基本的用語を整理する。 復習：TPPVの目的・意義について整理する。また、TPPVを使用している療養者や家族への看護について整理する。	大橋
12	演習2： 呼吸管理を必要とする療養者の看護	①気管カニューレの見学や、聴診、呼吸理学療法、呼吸リハビリテーションについて体験する。②各自で立案してきた事前提示事例への援助計画についてグループメンバーとディスカッションしながら繰り返し試行し、呼吸障害のある療養者や家族への適切な支援について検討する。 予習：演習レポートに沿って事例に合った計画を立案する。 復習：演習を振り返り、自身の立案した計画を見直し、修正する。	大橋 真継 内田 有吉 原田

13	演習2： 呼吸管理を必要とする療養者の看護	①気管カニューレの見学や、聴診、呼吸理学療法、呼吸リハビリテーションについて体験する。②各自で立案してきた事前提示事例への援助計画についてグループメンバーとディスカッションしながら繰り返し試行し、呼吸障害のある療養者や家族への適切な支援について検討する。 予習：演習レポートに沿って事例に合った計画を立案する。 復習：演習を振り返り、自身の立案した計画を見直し、修正する。	大橋 真継 内田 有吉 原田
14	服薬管理が必要な療養者と家族への支援	在宅における服薬管理、疼痛管理の目的と意義、トラブルや合併症の予防と対応について説明する。療養者の障害に応じた服薬支援とチームアプローチについて説明する。 予習：教科書該当ページを読む。高齢者の生理機能の変化について確認する。 復習：服薬管理、疼痛管理の目的・意義、服薬支援について理解を深める。	中村
15	在宅におけるエンド・オブ・ライフケア	エンド・オブ・ライフをめぐる課題、アドバンス・ケア・プランニング、意思決定支援、グリーフケアについて説明する。また、DVD視聴や教員の研究結果から、在宅看取りの実際について紹介する。 予習：教科書該当ページを読む。アドバンス・ケア・プランニングについて調べる。 復習：終末期における身体的・精神的特徴と経過について復習し、人生の最期を在宅で迎える療養者と家族への支援について理解を深める。	真継

授業科目	在宅看護学援助方法	科目ナンバリング	N-33-13-B		
授業科目（英）	Home Care Nursing Methods				
教員名	◎大橋尚弘（看護師実務経験者）、真継和子（看護師実務経験者）、内田浩江（看護師実務経験者）、原田かおる（看護師実務経験者）、有吉真里菜（看護師実務経験者）、林佳美（兼担）、但見雅代（兼担）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	在宅療養者とその家族に対して効果的な看護を展開するために、在宅療養者の健康段階と健康障害に応じた基本的な看護の視点について説明できる。代表的な在宅療養者の事例を通して倫理的判断・臨床的判断にもとづいた訪問看護計画を立案でき、評価視点を説明できる。				
行動目標	1．在宅看護の場の特性をふまえた看護過程の特徴と展開方法について説明できる。 2．在宅療養者のセルフケア能力、生活環境、介護状況などの視点をもとにした療養者および家族の健康課題や生活ニーズのアセスメント、看護計画の立案ができ、評価方法について説明できる。 3．在宅療養者と家族にとって必要な社会資源の内容を列挙できる。 4．ケアスタッフへの教育や相談、多職種との連携調整の必要性について説明できる。 5．在宅人工呼吸療法および在宅酸素療法における医療機器の取り扱いと留意点、災害時の対処について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探求力、創造力、専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	定期試験（85%）、演習レポート（15%）を総合的に判断する。 定期試験では教員の指定した資料のみ持ち込みを許可する。 演習レポートには適宜、教員がコメントの記載や授業内での解説を行う。 試験の解説は終了後にUNIPAに掲示する。				
教科書	『新体系 看護学全書　在宅看護論』河野あゆみ（編），メヂカルフレンド社. ※「地域・在宅看護論」で使用しているため購入不要				
参考書等	『家族看護学を基盤とした在宅看護論Ⅱ実践編』　（日本看護協会出版会）など、随時紹介する。				
事前準備 受講要件等	授業終了後のコメント用紙の提出により最終的な出席の確認を行う。演習時は実習衣、またはトレーニングウエア（上は半そでポロシャツ可）を着用し、身だしなみを整えること。患者役は寝衣を準備すること。 一部の講義では、グループワーク・ディスカッション等のアクティブラーニング授業、授業関連動画の事前・事後配信による自主学習を採用する(方法については各回の担当教員が連絡）。 また一部の演習は、医療機器メーカーの協力を得て、実際の医療機器の体験、体験をもとにしたディスカッションを繰り返しながら行う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜日14:30～16:00				
SDGsとの関連	3,10,11,16				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	在宅における看護の展開	ゴードンの機能的健康パターンの枠組みを用いて在宅療養者やその家族の状況をアセスメントする意義・方法について説明する。 予習：紙上事例および教科書P71を確認し、訪問看護で取り扱う文書の種類と特徴について復習する。在宅看護の目的、機能について復習する。 復習：紙上事例の情報をゴードンの機能的健康パターンの枠組みに整理する。	大橋 真継 内田 有吉
2	ADL低下及び疾病の再発予防が必要な療養者の看護（１）	※オンデマンド形式で実施 脳血管障害後遺症をもつ認知症高齢者とその家族が抱える生活上の支障と看護の視点について説明する。紙上事例の情報の理解、アセスメントを行う。 予習：高齢者の特徴、脳梗塞および認知症の病態について調べる。ゴードンの機能的健康パターンのうち、教員の指定したパターンの情報整理・アセスメントを行う。 復習：講義内容を参考に、各自の行った情報整理やアセスメントを追加・修正する。	大橋

3	ADL低下及び疾病の再発予防が必要な療養者の看護（２）	課題のパターンについての各自のアセスメントを、グループメンバーとのディスカッションや教員への質疑を行いながら追加・修正する。また、教員の解説を聴き、ゴードンの別のパターンのアセスメントを行う。 予習：ゴードンの各機能的健康パターンにおけるアセスメントの視点について確認する。各自の行った情報整理やアセスメントを追加・修正する。 復習：アセスメントの修正を行う。	大橋 真継 内田 有吉
4	ADL低下及び疾病の再発予防が必要な療養者の看護（３）	課題のパターンについての各自のアセスメントを、グループメンバーとのディスカッションや教員への質疑を行いながら追加・修正する。また、教員の解説を聴き、ゴードンの別のパターンのアセスメントを行う。 予習：各自の行った情報整理やアセスメントを追加・修正する。 復習：講義や各自の行ったアセスメントを振り返りながら、ADL低下および疾病再発予防における看護の視点について整理する。	大橋 真継 内田 有吉
5	呼吸器・酸素機器管理が必要な療養者の看護（１）	※オンデマンド形式で実施 難病(ALS)の病態や療養者・家族が抱える生活上の支障と看護の視点について理解する。紙上事例をもとに情報の理解、整理を行う。 予習：提示した事例の情報を読み、事例をアセスメントする上で必要な知識について整理する。 復習：難病療養者や家族介護者への看護の視点について整理し、提示事例のアセスメント、全体像の記述を追加・修正する。(60分)	大橋
6	呼吸器・酸素機器管理が必要な療養者の看護（２）	グループディスカッションを行い、ゴードンの機能的健康パターンに沿ったアセスメント、全体の記述を追加・修正する。 予習：紙上事例の情報を整理し、アセスメント、全体像の記述を行う。 復習：グループディスカッションを振り返り、アセスメント、全体像の記述を追加・修正する。	大橋 真継 内田 有吉
7	呼吸器・酸素機器管理が必要な療養者の看護（３）	演習を通して、在宅酸素機器の取り扱い、観察のポイントについて理解する。 予習：在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法の目的や管理の注意点について復習し、整理する。 復習：演習を振り返り、レポートをまとめる。(60分)	大橋 真継 内田 有吉
8	呼吸器・酸素機器管理が必要な療養者の看護（４）	提示事例のアセスメントや健康課題について模範例を挙げて説明する。健康課題に対する看護の方向性の定め方について解説する。 予習：在宅酸素機器を使用することが療養者や家族の各パターン(ゴードン)にどのように影響しているのかを考え、アセスメント、全体像の記述を追加・修正する。 復習：講義内容をもとに各々が記述したアセスメントや全体像を見直し、レポートをまとめる。(60分)	大橋 真継 内田 有吉
9	がん末期にある療養者と家族への看護（１）	※オンデマンド形式で実施 がん末期の在宅療養者とその家族が抱える生活上の支障と看護の視点について説明する。紙上事例をもとに情報の理解、整理を行う。 予習：肺がんとターミナルケアについて調べる。紙上事例を理解するために必要な情報について考える。 復習：肺機能障害やがん性疼痛による生活への支障について整理する。	真継
10	がん末期にある療養者と家族への看護（２）	紙上事例に関連する文書情報から情報を整理し、不足している情報内容および情報収集方法を整理し、訪問の準備を行う。 予習：紙上事例をもとに情報を整理し、不足情報について整理する。 復習：情報収集の方法と特徴について整理する。	真継 大橋 内田 有吉
11	がん末期にある療養者と家族への看護（３）	グループワークで作成した計画にもとづき模擬訪問を行い、場の特性を踏まえた情報収集を行う。得られた情報をグループで共有し、アセスメントを行う。 予習：訪問マナーについて調べる。事例をもとに情報整理を行い、不足している情報をまとめる。 復習：アセスメントシートへ情報を整理する。	真継 大橋 内田 原田 有吉 林 但見
12	がん末期にある療養者と家族への看護（４）	紙上事例の療養者を訪問する前、訪問中に得られた情報をもとにアセスメントを行い、関連図の追加、修正を行う。	真継 大橋

		予習：アセスメントシートに沿って情報の分析を行う。 復習：アセスメント、関連図を追加する。	内田 有吉
13	がん末期にある療養者と家族への看護（５）	グループでアセスメントを共有、ディスカッションし、追加・修正を行う。アセスメントを通して事例の全体像を描く。 予習：アセスメントの修正を行う。 復習：アセスメントから全体像を描く。	大橋 真継 内田 有吉
14	がん末期にある療養者と家族への看護（６）	健康課題の抽出、看護の方向性について討議し、目標設定する。また、抽出した健康課題についての看護計画を立案する。 予習：前回までの学習内容をふまえ、健康課題をあげる。 復習：訪問看護計画を立案する。	大橋 真継 内田 有吉
15	がん末期にある療養者と家族への看護（７）	抽出した健康課題についての看護計画を立案する。 看護計画立案についての説明を通して、がん末期の在宅療養者や家族への援助方法を理解する。 予習：訪問看護計画を立案する。 復習：学習内容をふまえ計画の追加修正を行い、レポートをまとめる。（60分）	大橋 真継 内田 有吉

授業科目	在宅看護学実習	科目ナンバリング	N-33-14-B		
授業科目（英）	Home Care Nursing Practicum				
教員名	◎大橋尚弘（看護師実務経験者）、真継和子（看護師実務経験者）、内田浩江（看護師実務経験者）、原田かおる（看護師実務経験者）、有吉真里菜(看護師実務経験者)				
単位数	2.0	時間数	90	学年	3
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	実習		
一般目標	在宅療養者とその家族のQOL向上をめざした看護が実践できる基礎的能力を身につける。そのために、在宅療養者とその家族のニーズおよび生活特性を理解し、訪問看護の実際を通してその役割と機能を理解する。また、社会資源の活用や多職種との連携・協働の実際を通して、地域ケアシステムにおける看護職の役割について考察することができる。				
行動目標	1. 在宅療養者とその家族の生活環境と生活状況についてアセスメントできる。 2. 在宅療養者の健康状態（身体面・精神面・社会面）についてアセスメントできる。 3. 在宅療養者とその家族の問題解決能力についてアセスメントできる。 4. 在宅療養者と家族の健康課題に対する訪問看護計画の立案・実施・評価ができる。 5. 保健・医療・福祉サービスの必要性と活用方法を理解できる。 6. 地域ケアシステムにおける多職種間および関係諸機関との連携・協働の必要性を説明できる。 7. 倫理的配慮にもとづいた行動がとれる。 8. 地域ケアシステムにおける看護職の役割を説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、創造力、課題探求力、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	看護実践の内容（80%）、カンファレンスへの貢献・実習態度（20%）を総合的に判断する。実習レポートへのコメントおよび実習終了後に個人面談をする。				
教科書	随時紹介する。				
参考書等	在宅看護学実習要項、その他随時紹介する。				
事前準備 受講要件等	履修の手引きの履修要件を満たし、「在宅看護学概論」「在宅看護学援助論」「在宅看護学援助方法」について復習しておくこと。				
オフィスアワー（曜日／時間）	実習帰校日14:30～17:00				
SDGsとの関連	3,4,5,10,11,12,16				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
	1.在宅療養者とその家族の理解 2.在宅療養者と家族の健康課題および生活ニーズに沿った訪問看護計画の立案・実施・評価 3.地域で生活するための社会資源の理解 4.多職種および関係諸機関との連携・協働のあり方 5.在宅療養者と家族をとりまく状況の理解と看護の役割と機能	＊広域医療連携センターでのオリエンテーションや退院支援看護師、MSWに同行することによって、退院に向けた支援の実際、医療連携について学ぶ。 ＊社会資源および多職種間の連携・協働の実際、その中での看護職の役割について理解を深める。 ＊訪問看護に同行し、在宅療養者や家族とのコミュニケーションを図り、援助の見学・実施を通して実習目標に対する学びを深める。 ＊訪問事例「1例」において、訪問看護計画を立案し、実施、評価する。 ＊詳細は、別途配布する「在宅看護学実習要項」を確認すること。 〈指導体制〉 1グループ2～3名で編成し、実習指導担当教員が実習施設の指導者およびスタッフとともに指導にあたる。適宜、実習カンファレンスを実施し、療養者および家族の理解、看護実践内容を検討し、学びの共有を図る。 〈実習期間〉2週間 〈実習場所〉 大阪医科薬科大学病院広域医療連携センター 高槻市内および近隣の訪問看護ステーション 予習：①ケアマネジメントの概念と過程、②介護保険制度と医療保険制度、及びサービス内容、③障害者総合支援法とサービス内容、④難病医療費助成制度、⑤訪問看護ステーションの法的枠組みと利用の流	大橋 真継 内田 原田 有吉

		れ、⑥退院支援・退院調整の流れと看護職の役割、⑦在宅支援に関連する多職種の役割、⑧地域包括ケアシステムと地域包括支援センターの役割 復習：実習内容を振り返って理論的意味づけを行い、レポートを作成し学習成果を確認する。	

授業科目	公衆衛生看護学概論	科目ナンバリング	N-33-15-B		
授業科目（英）	Introduction to Public Health Nursing				
教員名	◎草野恵美子、山埜ふみ恵(保健師実務経験者）、中原洋子(保健師実務経験者)、堀池諒（保健師実務経験者）、濱浦弘美(保健師実務経験者)、特別講師				
単位数	2.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	個人の健康増進と地域全体の人々の健康を支援する環境づくりや生活の質（QOL）の向上をめざす看護職に必要な公衆衛生看護学の知識を習得する。				
行動目標	１．公衆衛生看護学の定義と目的を説明できる。 ２．保健師活動を支える保健・医療・福祉制度の概要を説明できる。 ３．公衆衛生看護の変遷と社会環境の変化との関係を理解し、今後のあり方を考察できる。 ４．公衆衛生看護活動の場と展開方法を説明できる。 ５．母子・学校・成人・産業保健活動の歴史的経過と法的根拠、保健師の役割と活動について説明できる。 ６．難病、障害、感染症などの健康課題に対応した保健活動と保健師の役割を説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探求力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	筆記試験(90%）、レポート課題(10%)にて評価する。 毎回レスポンスペーパーに書かれた内容に関して、次の講義またはレスポンスペーパーにて回答する。				
教科書	1.公衆衛生看護学.jp　荒賀直子、後閑容子編（インターメディカル） 2.厚生の指標増刊号「国民衛生の動向」財団法人厚生統計協会編（財団法人厚生統計協会）				
参考書等	その都度紹介する。				
事前準備 受講要件等	授業前は、シラバスを確認しておくこと。 遅刻、無断で休むことは厳禁とする。特別な事情がある際は必ず教員に連絡する。 レポートの提出期限は必ず守る。 レスポンスペーパーは、講義終了後提出のこと。				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜　3限				
SDGsとの関連	3、4、10				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	公衆衛生看護学の概念とヘルスプロモーション	公衆衛生看護学の定義と基本となる考え方や健康と予防の概念について理解する。予習：シラバスを読んでくる。教科書1のp4～21、教科書3のp2~7を読み、予防の概念と公衆衛生看護についてまとめる。復習：配布資料の「学修到達目標」の内容を確認し、資料と教科書から目標にそってまとめる。	草野
2	公衆衛生看護の歴史	公衆衛生看護の歴史と保健師が取り組む健康課題の変遷について理解する。予習：教科書1のp22～p43を読み、公衆衛生看護活動の変遷についてまとめる。復習：配布資料の「学修到達目標」の内容を確認し、資料と教科書から目標にそってまとめる。	草野
3	保健師と公衆衛生看護活動	※オンデマンド形式で実施 公衆衛生看護活動の場、活動内容、方法と保健師が行う保健指導の目的、対象、特徴について理解する。予習：教科書1のp61～p70を読み、活動の場の特徴と活動方法についてまとめる。復習：配布資料の「学修到達目標」の内容を確認し、資料と教科書から目標にそってまとめる。	草野
4	保健医療システム	衛生行政、社会保障制度、公衆衛生看護と法体系について理解する。予習：教科書1のp51～p59を読み、保健・福祉制度の体系をまとめる。復習：配布資料の「学修到達目標」の内容を確認し、資料と教科書から目標にそってまとめる。	草野
5	感染症保健活動（１）	感染症保健活動の理念と活動内容や主な感染症の最新の動向を知り、保健師の役割を理解する。予習：教科書1のp367～p386、教科書2のp	山埜

		135～151を読み、感染症および感染症対策の動向をまとめる。復習：配布資料の「学修到達目標」の内容を確認し、資料と教科書から目標にそってまとめる。	
6	感染症保健活動（２）	結核の最新の動向および結核対策の基本と保健師の役割を理解する。予習：教科書1のp387～p405、教科書2のp151～p155を読み、結核および結核対策についてまとめる。復習：配布資料の「学修到達目標」の内容を確認し、資料と教科書1,2、教科書3のp262～p271から目標にそってまとめる。	堀池
7	社会と公衆衛生・地域保健活動の課題	※オンデマンド形式で実施 社会情勢や生活と健康の変化にあった活動を求められる公衆衛生看護活動について理解する。予習：教科書1のp86～p100を読んでおく。復習：課題レポート「１．我が国の社会保障を取り巻く環境の変遷と法・制度を参照に、各年代の特徴と公衆衛生看護活動についてまとめなさい。２．まとめたことに基づき、公衆衛生看護活動について考察しなさい。」 提出日　別途伝える　提出先：レポートボックス	草野
8	母子保健活動の理念と活動の変遷	母子保健活動の歴史的経過、法的根拠、保健師の役割と活動について学ぶ。予習：教科書1のp234～p246、教科書2のp106～115を読み、母子保健の理念と母子保健法の目的をまとめる。復習：配布資料の「学修到達目標」の内容を確認し、資料と教科書から目標にそってまとめる。	中原
9	母子保健活動の体制と実際	妊産婦や乳幼児の健康課題と支援方法、児童虐待における予防活動について理解する。予習：教科書1のp247～p258を読み、現代の母親と子どもの健康課題をまとめる。復習：配布資料の「学修到達目標」の内容を確認し、資料と教科書から目標にそってまとめる。	中原
10	健康上のリスクを持つ母子への支援	発達障害児とその親への支援方法と保健師の役割について理解する。予習：教科書1のp256～p258、p329～p339を読み、障害児とその家族の支援についてまとめる。復習：配布資料の「学修到達目標」の内容を確認し、資料と教科書から目標にそってまとめる。	濱浦・草野
11	行政における保健師活動の実際	市保健センターにおける保健師活動の現状について理解する。予習：保健所と市保健センターの根拠法令、業務内容、それぞれの保健師活動指針を調べてまとめる。復習：保健師がめざしていることや大切にしていること、そのためにどのようなことをしているか講義内容をまとめる。	草野
12	産業保健における看護活動(1)	産業保健制度とシステムや産業保健の現状と課題について理解する。予習：教科書1のp462～p485、教科書2のp323～p330を読み、産業保健制度についてまとめる。復習：配布資料の「学修到達目標」の内容を確認し、資料と教科書1,2、教科書3のp138～p152から目標にそってまとめる。	山埜
13	産業保健における保健活動(2)	産業保健活動の現状について理解する。予習：産業保健の目的や管理システムをまとめる。復習：産業における看護職の具体的な活動内容と役割をまとめる。	特別講師(産業保健師実務経験者） 草野
14	難病保健活動	地域の難病療養者・難病療養児と地域のサポートシステム、保健師の役割について理解する。予習：教科書1のp308～p325、教科書2のp169～p174を読み、難病および難病対策についてまとめる。復習：配布資料の「学修到達目標」の内容を確認し、資料と教科書から目標にそってまとめる。	特別講師(行政保健師実務経験者) 草野
15	学校保健における看護活動	学校保健の目的や健康課題と養護教諭の役割について理解する。予習：教科書1のp447～p461、教科書2のp370～p384を読み、学校保健のしくみについてまとめる。復習：配布資料の「学修到達目標」の内容を確認し、資料と教科書から目標にそってまとめる。	山埜

授業科目	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	科目ナンバリング	N-33-16-B		
授業科目（英）	Public Health Nursing Ⅰ				
教員名	◎草野恵美子、山埜ふみ恵（保健師実務経験者）、堀池諒（保健師実務経験者）、金子典代（非常勤講師）、特別講師（高槻市保健所保健師）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	公衆衛生看護活動の対象となる個人・集団・地域の健康特性やその支援技術、保健活動を支える理論的基盤のうち、特に看護職共通で必要とされる知識や技術について理解できる。				
行動目標	1. 保健指導で活用できる理論とその活用の仕方について理解できる。 2. 性の多様性を理解するとともに、特に公衆衛生上重要な健康課題への対応について理解できる。 3. 対象別保健活動のうち、成人および精神障害をかかえる対象者を支える保健活動について理解するとともに、各対象者の健康課題の特性に応じた保健指導について考察できる。 4. グループ支援について学び、個から、集団、地域組織活動への展開について理解できる。 5. 公衆衛生看護技術のうち、健康診査の目的と意義、その方法について理解できる。 6. 国際保健活動について理解できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	筆記試験(90%)、レポート課題(10%）にて評価する。フィードバック方法については、レスポンスペーパーを用い、各回で学生が記入した学びや質問等について、次の回の講義にてフィードバックする。また、レポートについてのフィードバックも行う。				
教科書	（以下は公衆衛生看護学概論で購入済み） 厚生の指標増刊号「国民衛生の動向」　財団法人厚生統計協会編　（財団法人厚生統計協会） 公衆衛生看護学.jp　荒賀直子、後閑容子編　（インターメディカル） （以下は本科目で新規購入） 公衆衛生看護活動論技術演習　第3版、岩本里織 他編（クオリティケア）				
参考書等	その都度紹介する				
事前準備 受講要件等	これまで公衆衛生関連科目で学んだ知識等を再確認して授業にのぞむこと。 特別な事情がない限り、20分以上の遅刻は認めない。				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜・3時限				
SDGsとの関連	3、４、10				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	人々の健康に対するとらえ方と保健行動、健康行動理論と看護における活用方法	保健行動について学ぶとともに、行動変容を支える保健活動について学ぶ。さらに保健指導で活用できる理論等について学ぶ。 予習：教科書第1章Ⅱ.5保健行動と保健活動を読み、これまでの講義で関連して出てきた点については復習をしておく。 復習：公衆衛生看護活動論技術演習第3章B.健康教育の理論活用演習を読み、演習例題に取り組んでわからないところは質問できるようにしておく。	草野
2	国際保健	国際保健活動の現状と課題について学ぶ。持続可能な開発目標について理解し、国際保健活動の意義を考える。 予習：教科書第8章Ⅱ国際保健の現状と課題を読み、わからない部分を確認しておく。 復習：国民衛生の動向第2章9.保健医療分野における国際協力を読み講義資料と照らし合わせながら、講義でのポイントを整理しておく。	堀池
3	高齢者保健（1）	高齢者保健の理念および動向、高齢者保健施策について理解する。介護認定で自立と判定された場合の看護支援も含めて理解する。 予習：教科書第4章Ⅳ高齢者保健活動1～3を読み、わからない部分を確認しておく。 復習：国民衛生の動向の介護保険制度の箇所を読み、学習内容を整理する。	山埜
4	性（セクシュアリティ）の多様性と看護	ＬＧＢＴＱ、セクシャルマイノリティ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、性感染症予防における健康教育等についての先駆的取り組みについて理解を深める。	金子（非常勤講師）

		予習：教科書第3章Ⅱ健康相談を読み、わからない部分を確認しておく。 復習：保健師業務要覧第1部第3章4.健康相談を読み、講義資料とも照らし合わせながら講義でのポイントを整理しておく。	
5	成人保健（１）	※オンデマンドで実施 成人保健の理念および動向、成人保健施策、成人期の主な健康課題を理解する。 予習：教科書第4章Ⅲ成人保健活動1～4を読み、わからない部分を確認しておく。 復習：公衆衛生看護活動論技術演習第7章成人期保健活動Aを読み、知識を整理する。	草野
6	地域精神保健の実際およびゲートキーパー研修	地域精神保健活動の実際およびゲートキーパー研修 特別講師：高槻市保健所　保健師 予習：公衆衛生看護活動論技術演習第11章Cを読み、わからない部分を確認しておく。また保健所での活動の実際の特別講義に向けて、現時点での疑問や知りたいことを整理しておく。 復習：保健師業務要覧第2部１を読み、講義資料とも照らし合わせながら講義でのポイントを整理しておく。	特別講師 草野
7	ライフステージを通じた健康診査	健康診査の目的と意義、および技術について学ぶ。妊娠期からの継続支援における乳幼児健康診査の役割などライフステージを通じた健康診査について学ぶ。 予習：教科書第３章Ⅳ健康診査を読み、わからない部分を確認しておく。 復習：公衆衛生看護活動論技術演習第６章Ⅲ.乳幼児期における支援を読み、演習例題に取り組んでわからないところは質問できるようにしておく。	草野
8	地域組織活動入門編（特にグループ支援） まとめ	グループ支援の手法および地域でのグループ支援の実際について学ぶ。 予習：教科書第2章Ⅱ.1～2を読み、わからない部分を確認しておく。 復習：公衆衛生看護活動論技術演習第4章Aを読み、講義資料とも照らし合わせながら講義でのポイントを整理しておく。	草野

授業科目	看護と生体診断法	科目ナンバリング	N-34-02-B		
授業科目（英）	Nursing and biological diagnostic method				
教員名	◎鈴木久美（看護師実務経験者），津田泰宏（医師実務経験者），南口陽子（看護師実務経験者），土井智生（看護師実務経験者），矢野貴人（兼担），河野武弘（兼担）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	4
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	よりよい看護ケアを提供していくために，生体検査および生体診断の意義とその役割について理解し，看護に必要な基礎知識を学ぶことができる。				
行動目標	1．生体検査および生体診断の意義と役割について説明できる。 2．検体検査，生体検査，病理検査の目的および方法を説明できる。 3．臨床事例をもとに検査所見を読み取ることができる。 4．検査結果を用いて看護のアセスメントに活用できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	レポート課題（30%），グループ発表（10%）、試験（60%）で評価する。 フィードバック：課題レポートに関して解説の時間を設ける。試験終了後に解説する。				
教科書	資料は適宜配付する。				
参考書等	看護学テキストNiCE，病態・治療論[1]　病態・治療総論，石松伸一他（南江堂）				
事前準備 受講要件等	指定された資料を確認する。				
オフィスアワー（曜日／時間）	金曜日の16:30～18:00				
SDGsとの関連	３，４				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	看護における生体検査、生体診断の意義と役割	1)生体検査・生体診断とは 2)生体検査の種類と意義 3)看護における生体検査の意義と役割 予習：生体検査の種類について調べる。 復習：「看護実践における検査の意義」をまとめる。	鈴木
2	生理機能検査—心電図1	1)心電図の原理，刺激伝導系 2)心電図の種類 予習：心臓の刺激伝導系を調べる。 復習：心電図の原理をまとめる。	土井
3	検体検査-血液生化学検査1	1)生化学検査とは 2)検査所見の読み方 予習：逸脱酵素，リポタンパク質，血糖について調べる。 復習：代表的な検査値から疾患を読み取る。	矢野
4	検体検査—血液生化学検査2	1)免疫血清学的検査とは 2)検査所見の読み方 予習：抗体について調べる。 復習：肝炎ウイルス検査，自己抗体検査，腫瘍マーカーを説明する。	矢野
5	検体検査-一般血液検査・輸血関連検査	1)血液検査，凝固・線溶系検査とは 2)主な血液検査と所見の読み方 3)輸血関連検査の種類と結果の読み方 予習：血球の働きをまとめる。 復習：事例の検査値を読み取る。	河野
6	検体検査-微生物学的検査	1)細菌検査法の種類と所見の読み方 2)微生物同定検査の種類と所見の読み方 予習：細菌検査・微生物同定検査の種類を調べる。 復習：所見の読み方をまとめる。	河野
7	生理機能検査—心電図2	1)心電図所見の読み方（波形の名称と特徴） 2)異常波形（代表的な不整脈）	土井

		予習：心電図の波形を調べる。 復習：代表的な不整脈をまとめる。	
8	画像診断−X線単純撮影	1)X線単純撮影検査とは 2)検査所見の読み方 予習：X線単純撮影検査について調べる。 復習：代表的な検査所見をまとめる。	津田
9	症例分析1 グループワーク	1)個別分析した症例についてグループディスカッションをする 予習：これまでの授業について振り返る。 復習：グループ発表の準備をする。	南口，鈴木 土井
10	画像診断−CT検査とMRI検査	1)CT検査，MRI検査とは 2)検査所見の読み方 予習：CT検査およびMRI検査について調べる。 復習：CT検査・MRI検査の検査所見をまとめる。	津田
11	症例分析2 グループワーク	1)グループディスカッションを基に発表準備をする 予習：これまでの授業について振り返る。 復習：グループ発表の準備をする。	南口，鈴木 土井
12	画像診断−超音波検査	1)超音波検査とは 2)検査所見の読み方 予習：超音波検査について調べる。 復習：検査の留意事項をまとめる。	津田
13	画像診断−内視鏡検査	1)内視鏡検査とは 2)検査所見の読み方 予習：内視鏡検査について調べる。 復習：検査の留意事項をまとめる。	津田
14	症例検討 プレゼンテーション	1)グループ発表（各グループはプレゼンテーションを行う） 2)症例の解説 予習：課題を調べる。 復習：課題のまとめ。	南口
15	まとめ	1～13回のまとめと振り返り 予習：1回目～13回目までの配布資料をまとめる。	鈴木，南口 土井

授業科目	医療カウンセリング	科目ナンバリング	N-34-03-B		
授業科目（英）	Medical counseling				
教員名	◎真継和子（看護師実務経験者）、山岡由実（看護師実務経験者）、本多晶子（非）、近藤恵（非）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	4
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	医療におけるカウンセリングの特徴、個人面接（カウンセリング）の技法および集団に対するカウンセリング的アプローチの方法について理解することができる。				
行動目標	1. カウンセリングの考え方や基礎となる理論について説明できる。 2. カウンセリングの基本姿勢について説明できる。 3. ロールプレイングを通してカウンセリングにおける基本技法を実践できる。 4. カウンセリングを活用した看護介入の実際を知ることができる。 5. 看護におけるカウンセリングの意義と自己課題を言語化できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、専門職としての実践力、自己研鑽力、課題探求力				
評価並びにフィードバック法	授業中の課題レポート（70%）、ディスカッション・ロールプレイングへの参加貢献度（30%）により評価する。 フィードバック：各講義後質問を受ける。レポート提出後にUNIPAを通じ全体へのコメントを提示する。				
教科書	適宜資料を配布する				
参考書等	学習の進行に合わせて随時紹介する				
事前準備 受講要件等	既習のカウンセリングおよび医療に関連したコンサルテーションについて復習しておくこと。 講義では、グループワークやディスカッション、ロールプレイング等の授業を展開する。（方法については各下記の担当教員がその都度連絡する。）				
オフィスアワー（曜日／時間）	授業終了後～1時間とする。				
SDGsとの関連	1,3,10,11,16,17				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	カウンセリングの概念と基本姿勢	来談者中心療法を中心にカウンセリングの歴史について概観し、カウンセリングの概念と基本姿勢について説明する。医療の場におけるカウンセリングのあり方について議論する。 予習：「カウンセリング」とは何か、その概要と医療の場とカウンセリングの意義について調べておく。 復習：講義内容をまとめる。	本多
2	カウンセリングの基本技法	来談者中心療法を中心にカウンセリングの基本技法（傾聴／聴く・相槌・伝え返し等）について説明し、一連のプロセスをロールプレイングを通して体験する。 予習：コミュニケーションスキルについて復習しまとめておく。 復習：講義内容をまとめる。	本多
3	カウンセリングの理論（1）	来談者中心療法の理論について概説し、臨床場面における実践を紹介する。 予習：「来談者中心療法」とは何か、概要を調べておく。 復習：講義内容をまとめる。	本多
4	カウンセリングの理論（2）	認知行動療法の理論について概説し、臨床場面における実践を紹介する。 予習：「認知行動療法」とは何か、概要を調べておく。 復習：講義内容をまとめる。	山岡
5	カウンセリングの理論（3）	認知行動療法の実際を体験的に理解する。 予習：認知行動療法の看護実践への適応を考える。 復習：講義内容をまとめる。	山岡
6	カウンセリングの理論（4）	動機づけ面接について概説し、臨床場面における実践を紹介する。 予習：「動機づけ面接」とは何か、概要を調べておく。 復習：講義内容をまとめる。	真継

7	看護場面でのカウンセリングの活用（１）	【オンデマンド及び課題レポート】 予期悲嘆にある患者・家族へのアプローチ 予習：予期悲嘆とは何か、概要について調べてくる。 復習：学んだことを振り返って整理する。	近藤
8	看護場面でのカウンセリングの活用（２）	支持的面接を用いた看護介入 予習：支持的面接とは何か、概要を調べておく。 復習：学んだことを振り返って整理する。	真継
9	看護場面でのカウンセリングの活用（３）	アイデンティティの喪失に悩む患者へのアプローチ 予習：紙上事例への介入方法を検討し、自らのアプローチを計画する。 復習：学んだことを振り返って整理する。	真継
10	看護場面でのカウンセリングの活用（４）	エンカウンター・グループを用いた看護介入 予習：エンカウンター・グループについて調べておく。 復習：学んだことを振り返って整理する。	本多
11	看護場面でのカウンセリングの活用（５）	レクリエーション療法を用いた看護介入 予習：レクリエーション療法とは何か、概要を調べておく。 復習：講義内容をまとめる。	山岡
12	看護場面でのカウンセリングの活用（６）	リラクセーションを用いた看護介入 予習：リラクセーションの方法と効果について調べておく。 復習：学んだことを振り返って整理する。	山岡
13	看護場面でのカウンセリングの活用（７）	リラクセーションの実際を体験的に理解する。 予習：リラクセーションの看護実践への適応を考える。 復習：学んだことを振り返って整理する。	山岡
14	看護場面でのカウンセリングの活用（８）	面接とセラピューティックタッチを用いた看護介入 予習：タッチングの要素、プロセス、効果について整理する。 復習：学んだことを振り返って整理する。	真継
15	看護場面でのカウンセリングの活用（９）	不安の強い患者へのアプローチ 予習：紙上事例への介入方法を検討し、自らのアプローチを計画する。 復習：学んだことを振り返って整理する。	真継

授業科目	看護実践発展総合演習	科目ナンバリング	N-34-04-B		
授業科目（英）	Seminar of Practical Nursing				
教員名	◎南口陽子（看護師実務経験者），鈴木久美（看護師実務経験者），土井智生（看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	4
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	生命の危機状態や回復期にある対象者のニーズを明確化し、病態や個別性に応じた看護援助を安全かつ確実にできるために必要な知識、判断力、看護技術を身につけることができる。				
行動目標	１．患者の治療および療養生活を支える看護技術について自己課題を明確化し、説明できる。 ２．状況設定の患者の課題として取り上げる看護技術を安全かつ確実に実施できるためのポイントを説明できる。 ３．課題として取り上げる看護技術を患者の反応を捉えながら安全かつ確実に実施できる。 ４．実施した看護技術を他者と共に振り返り、自己課題と改善に向けた方策について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究力、専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	評価：授業への参加状況（15%）、技術演習への取り組み（40%）、実技試験（45%） フィードバックは各授業にて実施する。				
教科書	適宜資料を配布する				
参考書等	随時紹介する				
事前準備 受講要件等	事前準備：3回生までに学習した解剖学や病理学などの基本的知識を復習し、実習での学びや自己の課題を振り返っておくこと。				
オフィスアワー（曜日／時間）	金曜日：12：00～13：00				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	卒業時到達目標から見た自己課題の分析	１．オリエンテーション（演習の進め方等） ２．臨床現場における臨床判断、基本的看護技術や侵襲を伴う看護技術の重要性について ３．これまでの臨地実習における自己課題の明確化と演習における個人目標の設定 事前学習：これまでの実習・講義の復習 復習：臨床判断についてまとめる	鈴木，南口，土井
2，3	技術演習１：シナリオ症例に基づいて処方箋を用いた点滴作成と輸液管理	１．実施方法、留意点、根拠についてプレゼンテーションする ２．シミュレータなどを使用し看護技術を実施する ３．実施した看護技術を振り返り、課題と解決に向けた方策をディスカッションする 事前学習：点滴作成から患者への投与のポイントをまとめる。 復習：技術の自己課題についてまとめる。	土井，南口，鈴木
4，5	技術演習２：シナリオ症例に基づいた持続点滴中の患者の寝衣交換（座位、臥床）	１．実施方法、留意点、根拠についてプレゼンテーションする ２．シミュレータなどを活用し看護技術を実施する ３．実施した看護技術を振り返り、課題と解決に向けた方策をディスカッションする 事前学習：持続点滴中の患者の寝衣交換のポイントをまとめる。 復習：技術の自己課題についてまとめる。	土井，南口，鈴木
6	自己の課題解決に向けた復習	技術演習１，２もしくは、これまでの演習・実習における自己課題の明確化と技術練習 事前課題：技術演習１，２もしくは、自己課題の復習 復習：自己課題解決に向けた技術練習	南口，鈴木，土井
7，8	技術演習３：シナリオ症例に基づいた患者の経管栄養とその管理	１．実施方法、留意点、根拠についてプレゼンテーションする ２．シミュレータなどを活用し看護技術を実施する ３．実施した看護技術を振り返り、課題と解決に向けた方策をディスカッションする 事前学習：経管栄養の準備から実施、実施中の観察などのポイントを	南口，土井，鈴木

		まとめる。 復習：技術の自己課題についてまとめる。	
9，10	技術演習４：シナリオ症例に基づいた患者に必要な口腔・鼻腔（・気管）内吸引	１．実施方法、留意点、根拠についてプレゼンテーションする ２．シミュレータなどを活用し看護技術を実施する ３．実施した看護技術を振り返り、課題と解決に向けた方策をディスカッションする 事前学習：口腔・鼻腔吸引の準備・実施時のポイントをまとめる。 復習：技術の自己課題についてまとめる。	南口，土井，鈴木
11，12	技術演習５：シナリオ症例に基づいた患者の血糖測定と測定値に応じたフィードバック	１．実施方法、留意点、根拠についてプレゼンテーションする ２．シミュレータなどを活用し看護技術を実施する ３．実施した看護技術を振り返り、課題と解決に向けた方策をディスカッションする 事前学習：血糖測定の手順と高血糖または低血糖時の観察ポイントについてまとめる。 復習：技術の自己課題についてまとめる。	鈴木，南口，土井
13，14	技術演習６	技術演習１～５までの実技の確認 予習：これまで学習した看護技術の復習 復習：看護技術における課題の明確化	南口，鈴木，土井
15	まとめ	総復習とまとめ 事前課題：第14回までの自己課題を整理しておく。 復習：本科目で取り扱った看護技術に関する自己課題についてまとめる。	南口，鈴木，土井

授業科目	看護実践発展実習	科目ナンバリング	N-34-05-A		
授業科目（英）	Practicable Nursing Practicum				
教員名	◎鈴木久美（看護師実務経験者），南口陽子（看護師実務経験者），土井智生（看護師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	90	学年	4
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	重症度あるいはケア度の高い患者や家族を多角的かつ総合的にとらえ，科学的根拠に基づいた看護実践力を強化する。さらに，看護実践力を自己評価し，自己の課題を明確にできる。				
行動目標	1．責任ある態度で主体的な学習を継続し，既有の知識と技術を統合させ，問題解決的思考で看護実践を展開できる。 2．重症度あるいはケア度の高い患者および家族を身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな側面から，総合的にアセスメントを展開できる。 3．患者および家族の健康課題を明確にし，優先順位をつけることができる。 4．患者の健康課題について，根拠に基づいた看護計画を立案できる。 5．患者の安全・安楽を踏まえて，立案した計画に基づいた看護実践を主体的に実施できる。 6．実施した結果は速やかに健康課題および目標に照らして評価し，計画を修正できる。 7．患者に行われている検査，治療，処置の必要性および留意点を踏まえて援助できる。 8．患者および家族の生活の変化を予測した看護のあり方を考察できる。 9．チームの一員として患者の援助に責任をもち、看護スタッフ及び多職種と連携・協働できる。 10．潜在する倫理的問題に気づき、その解決法について考察できる。 11．自己の看護実践力を客観的に評価し，自己の課題をあげることができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観，課題探究力，創造力，専門職としての実践力，多職種と連携する力，自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	実習記録，看護の実施場面，実習に対する態度・意欲，カンファレンスの参加度，目標の達成度を総合的に評価する。 フィードバック：実習最終日に個別に面談を行う。				
教科書	なし				
参考書等	なし				
事前準備 受講要件等	事前準備：3回生で行った看護学実習の内容について振り返り、自分の課題を明確化しておくこと。				
オフィスアワー （曜日／時間）	金曜日／16:30～18:00				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
	看護実践の展開（病棟実習）	1．実習場所 大阪医科薬科大学病院　外科・内科系病棟 2．実習方法 1)各病棟において2週間の実習を行う。 2)原則として，重症度あるいはケア度の高い患者1名以上を受け持ち，実習指導者の指導を受けながら，受け持ち患者のアセスメント，看護問題の特定，問題解決のための看護計画の立案・実施・評価を行う。 3)患者の援助や処置を行う際には，安全・安楽を十分に配慮し実習指導者の監督のもと実施する。また，準備や後片付けの時間も考慮して余裕をもって行動する。 3．実習内容 1)患者—看護師の援助関係を基盤に課題発見・問題解決思考プロセスに則って，患者の個別性を重視した看護実践を展開する。 2)受け持ち患者に関する情報を多角的に収集し，患者の生活における課題を全体的に把握する。(受け待ち開始から早期に取り組む) 3)課題解決に向けた援助・支援を行うために看護実施計画を立案する。 4)実施計画は，毎日，患者の状態を確認したうえで修正・立案し，	鈴木，南口 土井

		実習指導者の助言・指導・監督のもと実施する。 5)適切な問題解決となるよう，援助の実施内容は立案した看護計画に 基づいて，随時評価する。 4．カンファレンス（まとめ）の実施 原則として，ショートカンファレンスは毎日，中間カンファレンスは1週目の最終日，最終カンファレンスは病棟実習最終日に実施する。 5．予習 援助や処置，検査，治療は，事前に目的，方法，手順，留意点等について自己学習する。 6．復習 その日の看護実践を通して学んだことをまとめる。	

授業科目	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	科目ナンバリング	N-35-01-B		
授業科目（英）	Public Health NursingⅡ				
教員名	◎草野恵美子、山埜ふみ恵（保健師実務経験者）、中原洋子（保健師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	公衆衛生看護活動の対象となる個人・集団・地域の健康特性を理解した上での家庭訪問や地域組織化支援などの支援技術について理解することができる。さらに発達障害児・医療的ケア児等に対する地域支援、自立する高齢者支援を含む高齢者保健、地域包括ケアシステム・地域ケアシステムの構築と評価、等を学び、公衆衛生の理念に基づく看護活動の展開について考察できる。				
行動目標	1. 公的な看護活動について考察できる。 2. 公衆衛生看護技術のうち、家庭訪問の目的と意義、その方法について理解できる。 3. 対象別保健活動のうち、障害児、高齢者を支える保健活動について理解するとともに、各対象者の健康課題の特性に応じた保健指導について考察できる。 4. 公衆衛生看護の専門特性の１つとして地域組織化について理解し、個から、集団、地域組織活動への展開について理解できる。 5. 健康の社会的決定因子、ソーシャル・キャピタルの醸成について理解できる 6.地域包括ケアシステム・地域ケアシステムの構築と評価について理解できる				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	筆記試験にて評価する。フィードバック方法については、レスポンスペーパーを用い、各回で学生が記入した学びや質問等について、次の回の講義にてフィードバックする。				
教科書	（以下は公衆衛生看護学概論で購入済み） 厚生の指標増刊号「国民衛生の動向」　財団法人厚生統計協会編　（財団法人厚生統計協会） 公衆衛生看護学.jp　荒賀直子、後閑容子編　（インターメディカル） （以下は公衆衛生看護学活動論Ⅰで購入済み） 公衆衛生看護活動論技術演習　第3版、岩本里織 他編、（クオリティケア）				
参考書等	その都度紹介する				
事前準備 受講要件等	これまで公衆衛生関連科目で学んだ知識等を再確認して授業にのぞむこと。 特別な事情がない限り、20分以上の遅刻は認めない。				
オフィスアワー（曜日／時間）	木曜・3時限				
SDGsとの関連	3、４、10				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	公衆衛生活動における『公的』な看護活動（なぜ公的に行われるのか等）	これまでの復習を踏まえて、行政で行われる公的な看護活動について理解を深めるとともに、なぜそれらが「公的」に供給されるかについて考える。 予習：教科書(公衆衛生看護学.jp、以下同様）第1章Ⅰ.5.1衛生行政制度を読み、わからない部分は公衆衛生看護学概論の資料を読み直す。 復習：教科書第1章Ⅱ地域保健の活動1～4を読み、講義で出た内容を確認するとともに、それ以外の部分についても理解を深める。	草野
2	公衆衛生看護技術（家庭訪問）	家庭訪問の目的と意義、およびその技術について学ぶ。 予習：教科書第3章Ⅰ家庭訪問を読み、わからない部分を確認しておく。 復習：保健師業務要覧第1部第3章3.家庭訪問、公衆衛生看護活動論技術演習第1章Ａを読み、演習例題に取り組んでわからないところは質問できるようにしておく。	中原
3	成人保健（２）	成人期の保健指導について理解する。 予習：教科書第4章Ⅲ成人保健活動3-3と4-1を読み、わからない部分を確認しておく。 復習：公衆衛生看護活動論技術演習第7章成人期保健活動Cの事例①-1、演習③-1を行う。	山埜
4	地域精神保健活動の基本	※オンデマンドで実施 地域精神保健活動の理念および精神保健施策、精神障害者の生活特性	草野

		と保健活動について学ぶ 予習：教科書第4章Ⅶ精神保健活動を読み、わからない部分を確認しておく。 復習：公衆衛生看護活動論技術演習第11章A.Bを読み、講義資料とも照らし合わせながら講義でのポイントを整理しておく。	
5	障害児保健福祉	医療的ケア児・発達障害児等に対する地域支援と看護職の役割について学び、地域全体で支える方策について考察する。 予習：教科書第4章Ⅳ.3障害者（児）の生活特性と自立支援を読み、わからない部分は公衆衛生看護学概論の資料を読み直す。 復習：公衆衛生看護活動論技術演習第6章Fを読み、演習例題に取り組んでわからないところは質問できるようにしておく。	中原
6	高齢者保健（2）	高齢期の主な健康課題と地域包括支援センターの保健活動について理解する。 予習：教科書第4章Ⅳ高齢者保健活動4を読み、わからない部分を確認しておく。 復習：公衆衛生看護活動論技術演習第8章高齢者保健活動の演習3～5を行う。	山埜
7	地域組織活動（コミュニティレベルのエンパワメント等）、健康の社会的決定因子、ソーシャル・サポート、ソーシャル・キャピタル	組織化への支援、組織との協働、コミュニティ・エンパワメントについて学ぶ 予習：教科書第2章Ⅱ.3を読み、わからない部分を確認しておく。 復習：公衆衛生看護活動論技術演習第4章Bを読み、講義資料とも照らし合わせながら講義でのポイントを整理しておく。またグループ支援との違いについても整理する。	草野
8	地域ケアシステム、地域包括ケアシステム、地域共生社会	地域ケアシステムの理念およびその発展過程、評価について学ぶ。学びを統合し、保健活動のあり方について考察する。地域包括ケアシステム、子育て世代包括支援センター、住民の自助・互助の力と専門職の関わりも含めて学習する。 予習：公衆衛生看護活動論技術演習第6章Cおよび教科書第2章Ⅱ.4を読み、わからない部分を確認しておく。また本科目全体を通して残っている疑問等がないか確認しておく。 復習：公衆衛生看護活動論技術演習第12章および保健師業務要覧第1部第3章6を読み、講義資料とも照らし合わせながら講義でのポイントを整理しておく。	草野

授業科目	公衆衛生看護学活動方法	科目ナンバリング	N-35-02-B		
授業科目（英）	Public Health Nursing Methods				
教員名	◎山埜ふみ恵（保健師実務経験者)、草野恵美子、中原洋子（保健師実務経験者）、堀池諒（保健師実務経験者）、濱浦弘美（保健師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	公衆衛生看護技術のうち、健康教育の展開の上で必要な知識・技術を習得し実施することができる				
行動目標	①健康教育の目的と意義について説明できる。 ②健康教育に活用できる理論および必要な技術について説明できる。 ③これまで学んだ知識、技術を用いて、集団を対象とした健康教育を学内で実施できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、課題探究力、多職種と連携する力、倫理観				
評価並びにフィードバック法	筆記試験（50%）、演習への参加状況（50%）に加えて授業態度をふまえて評価する。グループワークが中心であり、各グループの担当教員が進捗やグループの課題についてその都度フィードバックする。				
教科書	（以下は、「公衆衛生看護学概論」で購入済み） 1.荒賀直子、後閑容子編「公衆衛生看護学.jp」（インターメディカル） 2.財団法人厚生統計協会編、厚生の指標増刊号「国民衛生の動向」（財団法人厚生統計協会）				
参考書等	その都度紹介する。				
事前準備 受講要件等	これまで公衆衛生関連科目で学んだ知識等を再確認して授業にのぞむこと。 授業は学生主体のアクティブ・ラーニングを取り入れる。 特別な事情がない限り、20分以上の遅刻は認めない。				
オフィスアワー（曜日／時間）	金曜・3限				
SDGsとの関連	3，4，10				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	地域における健康教育	健康教育の目的と意義、および健康教育の歴史、活用できる理論、必要な技術（評価含む）を理解する。 予習：健康行動理論など既習の理論等についての予習を行う。 復習：健康教育の対象者の発達課題および活用できる理論についてレポートにまとめる。	山埜
2	健康教育演習①	企画書の作成１（解決を目指す健康課題、目的・目標・対象の確認） テーマに沿って背景となる健康課題について整理し、目的・目標設定を行う。 予習：既習の統計学について復習しておく 復習：健康教育のプロセスを講義や教科書をもとに復習しておく。	草野・中原・山埜・堀池・濱浦
3	健康教育演習②	企画書の作成２（主な内容等・評価計画）・グループワーク 予習：目的・目標と評価の関係について講義や教科書をもとに確認しておく。 復習：計画した健康教育に必要な情報の収集を行う。	草野・中原・山埜・堀池・濱浦
4	健康教育演習③	指導案・媒体の作成①・グループワーク 予習：計画した健康教育に必要な情報の収集を行う。 復習：目的・目標・評価計画を踏まえた指導案等の見直しを行う。	草野・中原・山埜・堀池・濱浦
5	健康教育演習④	指導案・媒体の作成②・グループワーク 予習：計画した健康教育に必要な情報の収集を行う。 復習：効果的なプレゼンテーションについて調べておく。	草野・中原・山埜・堀池・濱浦
6	健康教育演習⑤予演会	予演会（プレゼンテーション）の実施、本番に向けて改善案についてグループ内でディスカッション 予習：予演会に向けて担当部分について練習等を行う。 復習：予演会の振り返りと発表準備を行う。	草野・中原・山埜・堀池・濱浦
7	健康教育演習⑥発表会	発表（プレゼンテーション）および評価① 予習：発表練習を行う。 復習：評価を整理し、報告書完成を完成させる。	草野・中原・山埜・堀池・濱浦

8	健康教育演習⑦発表会	発表（プレゼンテーション）および評価②、まとめ 予習：発表練習を行う。 復習：評価を整理し、報告書を完成させる。	草野・中原・山埜・堀池・濱浦

授業科目	公衆衛生看護学管理論	科目ナンバリング	N-35-03-B		
授業科目（英）	Public Health Nursing Management				
教員名	◎草野恵美子、山埜ふみ恵(保健師実務経験者）、中原洋子(保健師実務経験者)、堀池諒(保健師実務経験者）、濱浦弘美(非常勤教員)				
単位数	2.0	時間数	30	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	公衆衛生看護の基盤となる地域診断の目的と理論を理解し、地域診断技術を習得する。また、健康危機管理の重要性と保健師の役割について理解する。				
行動目標	１．地域診断の目的を理解し、地域診断に用いる理論について説明できる。 ２．演習を通じて地域診断の技術を習得し、地域の健康課題を列挙できる。 ３．地域保健計画、事業計画と保健師の役割を説明することができる。 ４．地域における健康危機管理と保健師の役割について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究力、専門職としての実践力、多職種と連携する力、倫理観				
評価並びにフィードバック法	筆記試験（定期試験80%）、レポート課題（10%）、グループワークへの参加や発表および討議状況（10%）により評価する。レスポンスペーパーを用い、フィードバックを行う。				
教科書	1.　荒賀直子、後閑容子編　「第5版　公衆衛生看護学.jp」　（インターメディカル）(購入済み） 2.　財団法人厚生統計協会編　厚生の指標増刊号　「国民衛生の動向」　（財団法人厚生統計協会）(購入済み）				
参考書等	佐伯和子編著「地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド　第二版　地域活動ならびに施策化のアセスメント・活動計画・評価計画の立案」（医歯薬出版株式会社)				
事前準備 受講要件等	保健師課程を希望する学生は、必ず受講すること。 第3-12回は、アクティブラーニング（グループワークおよびプレゼンテ-ション）により行う。 特別な事情がある際は必ず指導教員に連絡する。 レポートの提出期限は必ず守る。				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜　3限				
SDGsとの関連	3、4、10				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	オリエンテーション 公衆衛生看護管理の目的と機能	※オンデマンド形式にて実施 公衆衛生看護管理の目的と機能について理解する。 予習：教科書1p503~p513まで読み、公衆衛生看護管理の8つの要素についてまとめる。 復習：配布資料の「学修到達目標」の内容を確認し、資料と教科書からまとめる。	草野
2	地域診断の目的と必要な理論と方法	地域診断の目的を理解し、必要な理論と地域診断の過程と方法について理解する。 予習：教科書1p103~123、p136~p151まで読み、地域診断の必要性と地域診断と保健活動の関連をまとめる。 復習：配布資料の「学修到達目標」の内容を確認し、資料と教科書からまとめる。	草野
3	地域診断演習（１）	演習オリエンテーションと地域の概要と基本構造（コアである人々）の情報の確認と最新の情報収集を行う。最新の情報の収集の方法と疫学の指標について理解する。 予習：コミュニティ・アズ・パートナーモデルをまとめる。 復習：配布資料の「学修到達目標」の内容を確認し、資料と教科書からまとめる。	草野 堀池
4	地域診断演習（２）	情報収集：ITを利用して地域の概要と基本構造（コアである人々）の情報を収集する。 予習：地域の基本構造の内容の確認と情報源を調べる。 復習：時間内で得られなかった情報を補足する。	全科目担当教員
5	地域診断演習（３）	情報収集：ITを利用して地域の概要と基本構造（コアである人々）の情報に必要な最新の情報を収集する。	全科目担当教員

		予習：地域の基本構造（コアである人々）の情報収集 復習：地域診断レポート（個人）　Ｉ-2　「予想される健康に関する地域の特徴（健康課題の仮説）」の抽出を行い、レポートボックスに提出する。提出日は、３回目に提示する。	
6	地域診断演習（４）	各自が抽出した基本構造（コアである人々）から考えた仮説の健康課題をグループ内で発表し共有する。優先順位を考慮し、アセスメントの対象となる集団を決定し、健康課題の構造化に必要な地域の基本構造（サブシステム）の情報収集を行う。 予習：地域の基本構造（サブシステム）の項目と情報を調べる。 復習：時間内で得られなかった情報を補足する。	全科目担当教員
7	地域診断演習（５）	基本構造（サブシステム）の情報収集とアセスメント（グループワーク） 予習：抽出された仮説の健康課題の情報収集とアセスメント。 復習：不足している情報の収集とアセスメント。	全科目担当教員
8	地域診断演習（６）	健康課題の抽出と構造化（グループワーク）。 健康課題を決定し、健康課題の分析と構造化。 予習：必要な情報項目の整理と情報収集。 復習：情報の整理と検討。	全科目担当教員
9	地域診断演習（７）	健康課題の分析と構造化（グループワーク）。 予習：必要な情報項目の整理と情報収集。 復習：情報の整理と検討。	全科目担当教員
10	地域診断演習（８）	発表準備（グループワーク） 根拠となる最新の資料を準備し、情報の統合、関連性の提示、健康課題抽出までの関連図を作成し、優先順位をつけた健康課題を示した資料作成を行う。	全科目担当教員
11	地域診断演習（９）	各グループごとに、地域診断シートを利用し対象集団の健康課題を発表する（プレゼンテーション）。その後、対象集団の健康課題について、ディスカッションを行う。評価シートを用いて自己評価を行う。 予習：発表原稿等の確認。 復習：発表内容の資料をまとめて提出する。	全科目担当教員
12	地域診断演習（１０）	各グループごとに、地域診断シートを利用し対象集団の健康課題を発表する（プレゼンテーション）。その後、対象集団の健康課題について、ディスカッションを行う。評価シートを用いて自己評価を行う。 予習：発表原稿等の確認。 復習：発表内容の資料をまとめて提出する。	全科目担当教員
13	地域福祉と地域の特徴	地域の特徴を把握し、実情にあった地域福祉活動の展開方法を理解する。 予習：教科書1のp157～p164まで読み、地域ケアシステムにおけるチームワークについてまとめる。 復習：講義内容のキーワードをまとめておく。	特別講師、草野
14	保健所保健師の活動の実態	保健所保健師の看護管理活動について理解する。 予習：保健所の種類と市保健センターの根拠法令、業務内容、それぞれの保健師活動指針を調べておくこと。地域診断の発表資料を読み直し、高槻市の保健活動をまとめる。1回目の講義資料を読み直し、看護管理について調べておくこと。 復習：地域診断から、地域保健計画、事業計画と保健師の役割を考察する。	特別講師(行政保健師実務経験者）、草野
15	災害保健活動	災害保健活動の目的と地域における看護職の役割を理解する。 予習：教科書１のp417～p444まで読み、健康危機管理の事例をまとめる。復習：配布資料の「学修到達目標」の内容を確認し、資料と教科書からまとめる。	草野

授業科目	公衆衛生看護学演習	科目ナンバリング	N-35-03-B		
授業科目（英）	Seminar of Public Health Nursing				
教員名	◎山埜ふみ恵（保健師実務経験者）、草野恵美子、中原洋子（保健師実務経験者）、堀池諒（保健師実務経験者）、濱浦弘美（保健師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	4
開講期	2024年度 前期～後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	自由	授業形態	演習		
一般目標	公衆衛生看護技術のうち、地域における看護管理や個別支援を展開するうえで必要な基本的技術を習得し実施することができる。				
行動目標	1. 実際に実習する地域を対象に地域診断をし、保健活動計画を立案できる。 2. 家庭訪問の基本的技術を実践できる。 3. 乳幼児健康診査の際に必要な保健指導における基本的技術を実践できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	専門職としての実践力、課題探究力、倫理観、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	100%出席を原則とする。出席状況・実習への取り組み・態度（５０%）、課題レポート（５０%）。グループワークが中心であり、各グループの担当教員が進捗やグループの課題についてその都度フィードバックする。				
教科書	（以下は「公衆衛生看護学概論」で購入済み） 1．公衆衛生看護学.jp　荒賀直子、後閑容子編　（インターメディカル） 2．新版保健師業務要覧　日本看護協会編　（日本看護協会出版社） （以下は「公衆衛生看護学活動論」で購入済み） 3．公衆衛生看護活動論技術演習　第3版、岩本里織 他編（クオリティケア） （以下は新規購入） 4．厚生の指標増刊号「国民衛生の動向」　財団法人厚生統計協会編　（財団法人厚生統計協会）				
参考書等	その都度紹介する。				
事前準備 受講要件等	原則として、「公衆衛生看護学実習Ⅱ」履修予定者、事前課題を提出すること。 授業は学生主体のアクティブ・ラーニングを取り入れる。				
オフィスアワー（曜日／時間）	金曜3限				
SDGsとの関連	３，４，１０				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	家庭訪問（１）	1.オリエンテーション（演習の進め方） 2.公衆衛生看護活動における家庭訪問の意義 3.家庭訪問計画の立案 4.ロールプレイ（新生児訪問） 5.家庭訪問の評価・グループワーク 予習：事前課題（家庭訪問）に取り組む。教科書(公衆衛生看護学.jp)第3章Ｉをもとに、家庭訪問の目的、意義、方法等について復習しておく 復習：保健師業務要覧第1部第3章3.家庭訪問 公衆衛生看護活動論技術演習第1章Ａをもとに家庭訪問演習の振り返りを行い、レポートを完成させる。	草野、中原、山埜、堀池、濱浦
2	家庭訪問（２）	同上	草野、中原、山埜、堀池、濱浦
3	家庭訪問（３）	同上	草野、中原、山埜、堀池、濱浦
4	保健指導演習	乳幼児健康診査 ロールプレイ（乳幼児健康診査保健指導） 予習：事前課題(その２）に取り組む。教科書第3章Ⅳ健康診査をもとに、健康診査の目的・意義やアセスメント・支援のポイント等につい	山埜

		て復習しておく。 復習：公衆衛生看護活動論技術演習第6章Ⅲ.乳幼児期における支援をもとに演習の振り返りを行い、レポートを完成させる。	
5	GIS演習	内容並びに方法：各自のPCでGIS（地理情報システム）を操作し、実習先自治体のデジタルマップを作成するとともに地理空間的に分析する。 予習：下記について確認又は調べておくこと ・GIS（地理情報システム） ・QGIS ・オープンデータ ・公衆衛生看護学.jp 第２章１地域診断 復習：演習内容を踏まえ、以降の地域診断時にデジタルマップを利用し分析を行う。	堀池
6	地域診断（１）	情報の収集①②③ 各情報のアセスメント①② 各アセスメント結果の統合と健康課題の抽出①② 地域保健活動計画の立案④ 予習： 各自の実習先自治体の保健医療に関する資料収集を行う。その際、下記の教科書等を再度復習する。 教科書(公衆衛生看護学.jp) 　第2章1.地域診断 　第2章3.1地域保健活動計画 　第2章3.2地域保健活動計画の作成 国民衛生の動向・福祉と介護の動向（関連部分の確認） 復習：下記の教科書等を参考に、実習前の時点での地域診断による課題の抽出までを行い、そこまでのレポートを完成させる。 教科書(公衆衛生看護学.jp) 　第2章3.3地域保健活動計画のモニタリング・評価 　第2章4.地方自治体における計画策定・施策化と予算のしくみ	草野、中原、山埜、堀池、濱浦
7	地域診断（２）	同上	草野、中原、山埜、堀池、濱浦
8	地域診断（３）	同上	草野、中原、山埜、堀池、濱浦
9	地域診断（４）	同上	草野、中原、山埜、堀池、濱浦
10	地域診断（５）	同上	草野、中原、山埜、堀池、濱浦
11	地域診断（６）	同上	草野、中原、山埜、堀池、濱浦
12	地域診断（７）	同上	草野、中原、山埜、堀池、濱浦
13	地域診断（８）	同上	草野、中原、山埜、堀池、濱浦
14	健康教育演習	健康教育の実際（実習先自治体の健康課題の整理と計画立案に向けた演習） 予習： 各自の実習先自治体の健康課題の整理を行う。下記の教科書をもとに、健康教育の目的、意義、方法等について復習しておく。 教科書(公衆衛生看護学.jp)第3章Ⅲ健康教育	草野、中原、山埜、堀池、濱浦

		復習：保健師業務要覧第3章5健康教育等を参考とし、各グループの健康教育の企画書について見直し、完成させる。	
15	公衆衛生看護管理・まとめ	公衆衛生看護管理の復習 まとめ（実習に向けた課題の整理） 予習：保健師業務要覧「公衆衛生看護管理」の内容を復習しておく。 復習：各実習地の統計情報、地域資源を整理し学びを統合する。	草野、中原、山埜、堀池、濱浦

授業科目	公衆衛生看護学実習Ⅰ	科目ナンバリング	N-35-04-A		
授業科目（英）	Public Health Nursing Practicum Ⅰ				
教員名	◎草野恵美子、土手友太郎(医師実務経験者）、中原洋子（保健師実務経験者）、山埜ふみ恵(保健師実務経験者）、堀池諒（保健師実務経験者）、濱浦弘美（保健師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	45	学年	4
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	地域で行う様々な保健活動、特に感染症健康危機管理および労働者の健康支援に焦点をあてて、その実際や多機関・多職種と協働して活動する地域看護職の役割を学ぶ。				
行動目標	1.検疫所 ・検疫所の役割や検疫業務の実際について理解できる。 ・検疫所と関連機関、多職種との連携について理解できる。 ・健康危機管理(感染症など）において検疫所のはたす役割について理解し考察できる。 ・検疫所における看護職の役割を理解し考察できる。 2. 大阪健康安全基盤研究所 ・研究所の役割や業務の実際について理解できる。 ・研究所と関連機関、多職種との連携について理解できる。 ・大阪府における公衆衛生（感染症、生活環境など）の特徴を理解し考察できる。 3.事業場 ・事業場の特性と、労働者の特性および健康課題を理解できる。 ・事業場における安全衛生管理体制と産業保健活動を理解できる。 ・産業保健活動における関連機関、多職種との連携について理解できる。 ・事業場における産業看護職および産業保健スタッフの役割を理解し考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	実習目標の達成度および実習記録（90%）、実習態度（10%） 特別な事情を除き100%出席を原則とする。 事前課題等は、実習を通して解説する。実習中の記録や成果物は実習中および最終発表の際にコメントする。				
教科書	（以下は「公衆衛生看護学概論」で購入済み） 1．荒賀直子、後閑容子編「公衆衛生看護学.jp」（インターメディカル） （以下は（「公衆衛生看護学演習」にて教科書指定） 2.厚生の指標増刊号「国民衛生の動向」　財団法人厚生統計協会編　（財団法人厚生統計協会）				
参考書等	その都度紹介する				
事前準備 受講要件等	・「履修のてびき」の履修要件を満たすこと。 ・公衆衛生関連科目について復習しておくこと。 ・実習前に実習内容に関する事前課題を必ず行い、期限日に提出する。 ・遅刻・無断欠席等は厳禁とする、特別な事情がある際は必ず指導教員に連絡する。 ・実習記録・レポートの提出期限は必ず守る ・服装や実習態度は、実習要項をよく読み、必ず守る。 ・本実習ではアクティブ・ラーニングを取り入れる。				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜　3限				
SDGsとの関連	3、4、10				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
	健康危機管理(感染症など）、検疫所や大阪健康安全基盤研究所の機能、看護職の役割、大阪府の公衆衛生の特性を理解する。 ・事業場や労働者の特性および健康課題と安全衛生管理体制と産業保健活動を理	事前学習課題に配布した課題（１．検疫所　２．大阪健康安全基盤研究所　３．事業場）についてそれぞれまとめ、事前に提出する。 各実習場所に数名ずつ分かれて実習する。実習担当教員が実習施設の指導者と共に指導にあたる。実習最終日には、合同カンファレンスを行い、学びを共有する。 場所：検疫所または大阪健康安全基盤研究所および事業場 上記フィールドワークを行い、グループワークを取り入れながら学び	土手 草野 中原 山埜 堀池 濱浦

	解できる。産業保健活動における関連機関、多職種との連携と産業看護職および産業保健スタッフの役割を理解し考察できる。	を深める。最終日には学習成果についての発表を行う（プレゼンテーション）。	

授業科目	公衆衛生看護学実習Ⅱ	科目ナンバリング	N-35-05-A		
授業科目（英）	Public Health Nursing Practicum Ⅱ				
教員名	◎草野恵美子、中原洋子（保健師実務経験者）、山埜ふみ恵(保健師実務経験者）、堀池諒(保健師実務経験者）、濱浦弘美（保健師実務経験者）				
単位数	4.0	時間数	180	学年	4
開講期	2024年度 前期～後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	自由	授業形態	実習		
一般目標	地域社会に住む人々の健康レベルの向上を目指す公衆衛生看護活動を実践するために、保健所・保健センターや地域関連機関の実習を行うことで専門職としての実践力を習得し,現状の課題と展望について考察できる。				
行動目標	1．地域の社会的、文化的特性をふまえた健康課題の把握と、解決に必要な情報収集、アセスメントから評価までの地域診断プロセスを通して、地域の健康特性が理解できる。 2．対象の生活の営みに即した公衆衛生看護活動の展開方法が理解できる。 3．行政における保健福祉サービスの成り立ちと、各機関の機能・役割が理解できる。 4．公衆衛生看護活動と連携する他機関や、他職種、地域の人々との協働活動について考察できる。また、地域保健医療チームの一員としての看護職の役割と機能について考察できる。 5．公衆衛生看護管理の実際について理解できる。 6．個から集団、地域をみる複眼的視点をもって、地域におけるケアシステムについて考察できる。 7．公衆衛生看護活動の課題と展望について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探求力、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	100%出席を原則とする。実習目標の達成度及び実習記録（90%）、実習態度（10%） 事前課題等は、実習を通して解説する。実習中の記録や成果物は実習中および最終発表の際にコメントする。				
教科書	（以下は「公衆衛生看護学概論」で購入済み） 1. 荒賀直子、後閑容子編「公衆衛生看護学.jp」（インターメディカル） （以下は（「公衆衛生看護学演習」にて教科書指定） 2. 厚生の指標増刊号「国民衛生の動向」　財団法人厚生統計協会編　（財団法人厚生統計協会）				
参考書等	その都度紹介する。				
事前準備 受講要件等	・本実習ではアクティブラーニングを取り入れる。 ・「履修のてびき」の履修要件を満たすこと。 ・公衆衛生関連科目について復習しておくこと。 ・実習前に実習内容に関する事前課題を必ず行い、期限日に提出する。 ・遅刻・無断欠席等は厳禁とする、特別な事情がある際は必ず指導教員に連絡する。 ・実習記録・レポートの提出期限は必ず守る ・服装や実習態度は、実習要項をよく読み、必ず守る。				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜　3限				
SDGsとの関連	3、4、10				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
	保健所・保健センターにおける公衆衛生看護活動 ・保健所、保健センターの機能と役割 ・実習地の地域診断 ・保健福祉事業 ・健康教育 ・家庭訪問 ・地域レベルの連絡会議 ・地区組織活動 ・健康危機管理体制および整備	各グループに分かれ、保健所・保健センターを中心とした実習を4週間行う。 〈実習方法〉 1．実習期間：4週間 2．実習時期：6月～10月末まで 3．実習場所： 大阪府下の保健所・保健センター、 遠隔地（兵庫県宍粟市・兵庫県赤穂市、兵庫県神崎郡神河町）の保健所・保健センター 〈予習〉 事前に配布した課題　（その１）（その２）（その３）についてまとめ事前に提出する。 実習中に経験する事業の目的、法的根拠、事業の概要等について実習	草野 中原 山埜 堀池 濱浦

		ノート２に事業ごとにまとめ提出する。 実習終了後は全実習記録をまとめて提出する。 〈復習〉 公衆衛生看護活動の課題と展望について考察し、レポート提出する。 上記フィールドワークを行い、グループワークを取り入れながら学びを深める。最終日には学習成果についての発表を行う（プレゼンテーション）。	

授業科目	助産学概論	科目ナンバリング	N-36-01-B		
授業科目（英）	Introduction to Nurse-Midwifery				
教員名	◎近澤幸（助産師実務経験者）、間中麻衣子（助産師実務経験者）、松枝加奈子（助産師実務経験者）、番聡子（病院看護部）（新生児集中ケア認定看護師）、千葉貴子（愛染橋病院看護部）（母性看護専門看護師）				
単位数	2.0	時間数	30	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	助産学概論は助産学を学ぶ上での基礎的知識として位置付けられる。本科目は、母性看護学と密接に関連している科目でもあり、助産師以外の看護職を目指す学生が履修することも有益である。				
行動目標	1. 助産学の特徴について説明できる。 2. 助産の歴史的変遷、母子保健の動向、社会保障制度について説明できる。 3. 助産師が行う助産活動の内容、活動の場、意義、責務、課題、今後の方向性について説明できる。 4. 助産の専門性と職業倫理について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	①予習・復習課題、授業中の提出物、確認問題（10%）、試験（中間：50%、期末：40%）により評価する。 ②紙面提出の提出物について名前がない場合は0点となる。 ③提出時間に遅れた場合は提出として取り扱うが、採点の対象とならない。 ④全予習課題の提出者を中間・期末試験受験資格者とする。 ⑤中間試験を欠席した場合は、病気その他特別の理由により、やむを得ず試験を受験できなかった学生に対してのみ、その願い出により対応する。 フィードバック：試験後に記載例配布・解説を行う。				
教科書	ナーシンググラフィカ　母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護　中込さと子他編（メディカ出版）※1年前期「母性看護学概論」で購入済				
参考書等	助産師基礎教育テキスト　第1巻　工藤美子編（日本看護協会出版社） 母子保健の主なる統計　母子衛生研究会編（母子保健事業団） 母性看護学Ⅱマタニティサイクル　大平光子他編（南江堂）				
事前準備 受講要件等	授業前はシラバスを確認しておく。 助産師国家試験受験資格希望者は必ず選択する。 授業は、ディスカッション、グループワークなどアクティブラーニングを取り入れる。 要提出の予習課題は、講義の場合、講義日週の水曜日13時までに提出する。ただし、他に指示がある場合は指示に従う。提出方法、内容はMoodle内の指示に従う。				
オフィスアワー（曜日／時間）	月曜日10：00～12：00、ただしメールで事前にアポイントをとること。				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	助産の概念	オリエンテーション 助産の定義と対象、活動の場、看護職における位置づけについて 予習：シラバスを熟読し（特に強調文字）、マーカーをひく。 皆さんの抱く「助産」「助産師」のイメージ、現代社会の課題に対する役割「助産師」の役割について。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
2	助産ケアの独自性	ライフサイクルに応じた活動と法律で規定されている助産業務について 現代社会の課題と助産ケア 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）、マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	松枝
3	母子保健の動向と社会保障制度	母子保健の動向と社会保障制度について わが国の母子保健の課題についてＧＷを行い発表する 学生発表	近澤

		予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、母子保健の動向に関する問いに回答する。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	
4	助産の歴史的変遷と「お産」	助産の歴史（教育史含む）、産育習俗史について学ぶ 産育の文化的差異について学ぶ 学生発表 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）、マーカーをひく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	間中
5	助産活動の実際①	周産期の助産活動について学ぶ （院内助産システム・助産外来・院内助産・バースプラン） 学生発表 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、周産期および周産期医療機関の現状と課題に関する問いに回答する。 教科書・参考書を熟読し（特に強調文字、模式図）、配布資料に記載する。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
6	助産活動の実際②	ライフサイクルに応じた助産活動について学ぶ 妊産婦のメンタルケア（産後うつ・虐待予防・ペリネイタルロス） 学生発表 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、妊産婦メンタルヘルスに関する考えを回答する。 教科書・参考書を熟読し（特に強調文字、模式図）、配布資料に記載する。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
7	助産活動の実際③	災害の概要、災害時の助産活動について学ぶ 学生発表 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、災害に関する考えを回答する。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	間中
8	地域母子保健と助産活動①	地域母子保健と助産活動について学ぶ 一人の勤労女性が妊娠確定してから子どもが小学校入学前まで、どのような保健・医療・福祉サービスを受けられるのか、インタビューしレジメに記載する 学生発表 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）、マーカーをひく。 復習（要提出）：地域母子保健と助産活動についてレポートする。	間中
9	地域母子保健と助産活動②	地域母子保健（父親支援）と助産活動について学ぶ 一人の父親がパートナーの妊娠確定から子どもが小学校入学前まで、どのような福祉サービスを受けられるのか、インタビューしレジメに記載する 学生発表 予習： 教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）、マーカーをひく。 復習（要提出）：地域母子保健（父親支援）と助産活動についてレポートする。	間中
10	助産活動と連携	助産活動における保健・医療・福祉の連携について学ぶ 地域母子保健における助産師の役割について討議する 学生発表 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、助産活動における問題に解答する。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	松枝

11	生殖補助医療と助産活動	不妊症、生殖補助医療について学ぶ 生殖補助医療と助産活動について討議する 学生発表 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、生殖補助医療に関する考えを回答する。 教科書・参考書を熟読し（特に強調文字、模式図）、配布資料に記載する。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
12	助産に関わる倫理的課題①	助産に関わる倫理的課題（生殖補助医療）について考察する。 生殖補助医療に関わる倫理的な問題について提示した事例をもとに、討議する。 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）、マーカーをひく。 復習（要提出）：助産に関わる倫理的課題（生殖補助医療）についてレポートする。	松枝
13	助産に関わる倫理的課題②	助産に関わる倫理的課題（出生前診断）について考察する。 出生前診断に関連する倫理的な問題について提示した事例をもとに、討議する。 予習：教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）、マーカーをひく。 復習（要提出）：助産に関わる倫理的課題（出生前診断）についてレポートする。	松枝
14	助産師と教育	助産師基礎教育、助産師の卒後教育、諸外国の助産師教育について理解する 看護職のキャリアアップ：新生児集中ケア認定看護師について 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、認定看護師の定義（日本看護協会ホームページなどを参考にする）について解答する。 教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）、マーカーをひく。 復習（要提出）：看護職のキャリアアップについてレポートする。	近澤 番
15	高度な助産活動	複雑・困難な妊産婦に対する高度な実践活動について学ぶ 母性看護専門看護師の高度な実践活動について 予習（要提出）：Moodle内の指示に従い、専門看護師の定義（日本看護協会ホームページなどを参考にする）について解答する。 教科書の該当箇所を熟読し（特に強調文字、模式図）、マーカーをひく。 復習（要提出）：高度な実践活動についてレポートする。	近澤 千葉

授業科目	助産診断・技術学Ⅰ	科目ナンバリング	N-36-02-B		
授業科目（英）	Midwifery Diagnosis & Caring Ⅰ				
教員名	◎近澤幸（助産師実務経験者）、間中麻衣子（助産師実務経験者）、松枝加奈子（助産師実務経験者）、酒向なつみ（助手、助産師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	助産診断の概念を理解し、助産過程を展開するために必要な基本的知識・助産技術を修得できる。 特に、助産における健康教育について実践の基礎的能力を身につけることができる。				
行動目標	①助産診断の概念を説明できる。 ②助産師が行う妊娠期のケアについて説明できる。 ③模擬事例の妊娠期の助産診断をもとに妊婦健康診査を実施できる。 ④助産診断にもとづき妊娠期の集団を対象とする健康教育のテーマを決定しロールプレイできる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究力、専門職としての実践力、多職種と連携する力、倫理観				
評価並びにフィードバック法	①予習・復習課題、授業中の提出物（10%）、小テスト（10%）、期末試験（80%）により評価する。 ②紙面提出の提出物について名前がない場合は0点となる。 ③提出時間に遅れた場合は提出として取り扱うが、採点の対象とならない。 ④全予習課題の提出者を期末試験受験資格者とする。 フィードバック：試験後に記載例配布・解説を行う。				
教科書	母性看護学Ⅱマタニティサイクル　大平光子他編　（南江堂）（2年次授業科目で使用している為、購入不要） 病気が見える　10産科　医療情報科学研究所編（メディックメディア）				
参考書等	実践マタニティ診断　日本助産診断・実践研究会編　（医学書院） 助産師基礎教育テキスト　第4巻　森恵美編（日本看護協会出版会）				
事前準備 受講要件等	シラバスを事前に確認する。 助産師国家試験受験資格希望者は必ず選択する。 授業は、学生発表、ディスカッションなどアクティブラーニングを取り入れる。 予習（要提出）は、講義日週の月曜日13時までに提出する。提出方法、内容はMoodle内の指示に従う。その他の提出物は、単元ごとの指示に従い提出する。				
オフィスアワー（曜日／時間）	月曜日12：10～13：00、ただしメールで事前にアポイントをとること。				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	助産診断と助産過程	オリエンテーション、助産診断と助産過程、 健康教育の指導案について 知識の確認、グループ分け、集団指導に関する担当分け、情報収集サイト、育児雑誌など紹介 予習：シラバスを読んでくる。母性看護学援助論の 妊婦の健康管理（妊婦診査、保健指導内容）について復習しておく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
2	妊娠初期の助産診断とケア（1）	妊娠初期の助産診断とケアについて ミニ事例の助産診断を行う 予習（提出不要）：妊娠初期の助産診断に必要な知識（妊娠の成立、妊娠の早期診断、妊娠にともなう全身の変化、妊娠初期に起こりやすい異常（血液型、不規則抗体、感染症[風疹、HB s Ab、HTLV-1])それぞれの①母子への影響、②診断方法、③治療）について教科書の該当箇所を熟読しマーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	間中
3	妊娠初期の助産診断とケア（2）	妊娠初期の助産診断とケア（保健指導）について 事前課題の発表と補足 学生発表	間中

		予習（提出不要）：起こりやすい異常（つわりの症状と病態、異常との鑑別、妊娠悪阻、ウェルニッケ脳症）について教科書の該当箇所を熟読しマーカーする。 保健指導を受ける妊婦像を作る。 予習（要提出）：教科書、参考図書、育児雑誌、インターネットから収集し、保健指導の企画書と指導用パンフレット作成：講義時発表（テーマ：つわり、勤労妊婦） 復習：実施した保健指導、講義中の振り返りを元に個別指導の実施上の工夫など経験をまとめておく。	
4	妊娠中期の助産診断とケア（1）	妊娠中期の助産診断とケアについて ミニ事例の助産診断を行う 予習（提出不要）：妊娠中期の助産診断に必要な知識（妊娠高血圧、妊娠糖尿病、糖負荷試験、胎児発育、超音波断層法、栄養、歯科衛生、マイナートラブル、運動と性生活、出産準備＜母乳育児準備含む＞）について教科書の該当箇所を熟読しマーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	松枝
5	妊娠中期の助産診断とケア（2）	妊娠中期の助産診断とケア（保健指導）について 事前課題の発表と補足 学生発表 予習（提出不要）：妊娠合併症や異常の早期発見と対処、家族・社会生活や家族関係の調整、起こりやすい異常（切迫早産＜①病態、②診断、③治療＞、妊娠貧血＜①病態、②診断、③治療＞、マイナートラブル＜[便秘・頻尿・腰痛・静脈瘤]の①特徴、②原因や誘因、③対処方法＞）について、教科書、参考書の該当箇所を熟読しマーカーする。 保健指導を受ける妊婦像を作る。 予習（要提出）：教科書、参考書、育児雑誌、インターネットから収集し、保健指導の企画書と指導用パンフレット作成：講義時発表（テーマ：切迫早産、妊娠貧血、マイナートラブル[便秘・頻尿・腰痛・静脈瘤]) 復習：実施した保健指導、講義中の振り返りを元に個別指導の実施上の工夫など経験をまとめておく。	松枝
6	妊娠末期の助産診断とケア（1）	妊娠末期の助産診断とケアについて ミニ事例の助産診断を行う 予習（提出不要）：妊娠末期の助産診断に必要な知識（NST、分娩3要素＋妊産婦の心理、分娩開始徴候、分娩経過、破水の診断、BPS、入院準備、出産準備教育（母乳育児含む）、起こりやすい異常（妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病＜①病態、②診断、③治療、④看護＞）について教科書、参考書の該当箇所を熟読しマーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
7	妊娠末期の助産診断とケア（2）	妊娠末期の助産診断とケア（保健指導）について 講義はじめに小テスト（1～6回の範囲） 事前課題の発表と補足 学生発表 予習（提出不要）：分娩に対する準備状態の診断と分娩経過の予測、妊婦と家族の分娩に対する準備状況、起こりやすい異常（破水、前置胎盤、常位胎盤早期剥離＜①病態、②診断、③治療、④看護＞）について、教科書、参考書の該当箇所を熟読しマーカーする。 予習（要提出）：教科書、参考書、育児雑誌、インターネットから収集し、保健指導の企画書と指導用パンフレット作成：講義時発表（テーマ：育児技術[沐浴、母乳育児]) 復習：妊娠末期の個別指導の留意点等についてまとめる。	近澤
8	特殊な状況にある妊婦のケア（1）	感染症ケアについて 知識の確認とミニ事例の助産診断 予習（提出不要）：妊婦健診で行われる血液検査と感染症の検査に関する検査の必要性と分娩や胎児への影響について教科書、参考図書の	間中

		該当箇所を熟読しマーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	
9	特殊な状況にある妊婦のケア（2）	社会的ハイリスク妊婦（特定妊婦） 予習（提出不要）：社会的ハイリスク妊婦について教科書、参考図書の該当箇所を熟読しマーカーする。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
10	妊婦健康管理の実践の基礎（1）	助産における健康教育の目的と意義、健康教育の方法について 健康教育デモンストレーション 予習（提出不要）：教科書の該当箇所・配布資料を熟読しマーカーする。（妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア、出産準備教育のポイント） 復習：健康教育デモンストレーションで学んだ事項について確認する。	間中
11	妊婦健康管理の実践の基礎（2）	妊婦健康診査に必要な技術（医療面接） 講義はじめに小テスト（7-10回の範囲） プロフィール記録用紙を使い、模擬妊婦さんに医療面接実施（問診）する。 予習（提出不要）：プロフィール記録用紙の内容を確認しまとめる。（60分） 復習：妊婦健康診査に必要な技術について確認する。	近澤
12	事例による助産過程の展開（1）	対象の全体像の把握 健康教育指導案の検討 予習・復習：健康教育指導案確認・検討	近澤 間中 松枝 酒向
13	事例による助産過程の展開（2）	健康教育案作成とロールプレイ準備 予習・復習：健康教育準備	近澤 間中 松枝 酒向
14	事例による助産過程の展開（3）	健康教育案作成とロールプレイ準備 妊娠期の助産過程のまとめ 予習・復習：健康教育準備	近澤 間中 松枝 酒向
15	事例による助産過程の展開（4）	ロールプレイにより健康教育を発表する 予習（提出不要）：各ロールプレイ内容に関する母性看護学の教科書の該当ページを熟読する。発表終了後に、発表資料、発表原稿の提出（グループ単位） 復習：評価についてレポート提出する。	近澤 間中 松枝 酒向

授業科目	助産診断・技術学Ⅱ	科目ナンバリング	N-36-03-B		
授業科目（英）	Midwifery Diagnosis & CaringⅡ				
教員名	◎近澤幸（助産師実務経験者）、間中麻衣子（助産師実務経験者）、松枝加奈子（助産師実務経験者）、酒向なつみ（助産師実務経験者）、番聡子（病院看護部）（新生児集中ケア認定看護師）、藤田太輔（兼担）、永易洋子（兼担）				
単位数	3.0	時間数	90	学年	4
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	自由	授業形態	演習		
一般目標	助産師に必要な正常分娩における助産診断、助産計画立案、分娩介助技術の基礎、ならびに、妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常からの逸脱を判断する能力とハイリスク状態にある対象への基礎的な助産援助について修得することができる。				
行動目標	模擬事例を用いて分娩期の助産過程が展開できる。 モデルを用いて標準的な方法で分娩介助ができる。 妊産褥婦・新生児の主な異常について説明できる。 ハイリスク妊産褥婦・新生児の助産診断とケアについて説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	①予習・復習課題と授業中の提出物(10%)、初回テスト(10%)、中間テスト(10%)、小テスト（10%）、技術試験(10%)、筆記試験(50%)により評価する。原則、再試験は行わない。 ②名前のないレポートは0点となる。 ③提出時間に遅れた場合は提出として取り扱うが、採点の対象とならない。 ④全予習復習課題、授業中の提出物のレポート提出者を期末試験受験資格者とする。 フィードバック：試験後に記載例配布・解説を行う。				
教科書	助産師基礎教育テキスト　第2巻　吉沢豊予子編（日本看護協会出版会） 助産師基礎教育テキスト　第4巻　森恵美編（日本看護協会出版会） 助産師基礎教育テキスト　第5巻　町浦美智子編（日本看護協会出版会） 助産師基礎教育テキスト　第6巻　江藤宏美編（日本看護協会出版会） 助産師基礎教育テキスト　第7巻　遠藤俊子編（日本看護協会出版会） 病気が見える　10産科　医療情報科学研究所編（メディックメディア）※3年前期「助産診断・技術学Ⅰ」で購入済 実践マタニティ診断　日本助産診断・実践研究会編（医学書院） 改訂2版 周産期超音波の見かた: これから始める!　金井 雄二（メディカ出版） 新生児蘇生法テキスト　田村正徳監修　（メディカルビュー） 写真でわかる助産技術アドバンス　平澤美恵子・村上睦子監修　（インターメディカ） 母性看護学Ⅱマタニティサイクル　大平光子他編　（南江堂）※2年前期「リプロダクションと看護」または、後期「母性看護学援助論」で購入済				
参考書等	新生児学入門　仁志田博司　（医学書院） 最新産科学正常編　荒木勤　（文光堂） 最新産科学異常編　荒木勤　（文光堂） 病気が見える　9婦人科・乳腺外科　医療情報科学研究所編（メディックメディア） 正常分娩の助産術トラブルへの対応と会陰裂傷縫合　進純郎・堀内成子　（医学書院）				
事前準備 受講要件等	予習課題レポートは、所定の日時までにレポートボックスに提出する。助産診断・技術学に関する学習を課す。 受講要件はシラバス「助産師国家試験受験資格希望者の選抜にあたって」を参照。 技術の習得については、自己演習を重ね実技試験までに行動できるようにしておく。 授業は、学生発表、グループワーク、ディスカッションなどアクティブラーニングを取り入れる。				
オフィスアワー（曜日／時間）	月曜日12：10～13：00、ただしメールで事前にアポイントをとること				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1-2	1.初回テスト 助産診断の概要 2.分娩期の助産診断	1. 内容：知識確認テスト、分娩期の助産診断の概要 方法：分娩期助産診断 予習：テスト範囲の学習を行う 復習：教科書（マタニティ診断の分娩期）について熟読し、関連する	1.間中 2.近澤

		情報、基準値や理解できていない用語は調べておく。配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。 2. 内容：パルトグラムの見かたと助産診断 方法：知識の確認 予習：パルトグラムの見かたと助産診断を見直しておく 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	
3-6	3-6.分娩第1期の助産診断とケア（1）～（4）	3. 内容：分娩期入院時の助産診断の実際（入院時助産診断の確認、事例確認、情報収集） 方法：事例の助産診断（記載例の助産録、受持ち時の情報を解釈し、助産診断のどの要素に関係するか確認） 予習：教科書（マタニティ診断の分娩期）について熟読し、関連する情報、基準値や理解できていない用語は調べておく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。 4. 内容：分娩期入院時の助産診断の実際（入院時の入院時情報の解釈、CTG判読） 方法：事例の助産診断（記載例の助産録、受持ち時の情報を解釈し、助産診断のどの要素に関係するか確認）とCTG事例の判読 予習：教科書（マタニティ診断の分娩期）について熟読し、関連する情報、基準値や理解できていない用語は調べておく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。 5. 内容：分娩期入院時の助産診断の実際（初期診断・初期計画） 方法：事例の助産診断 予習：教科書（マタニティ診断の分娩期）について熟読し、関連する情報、基準値や理解できていない用語は調べておく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。 6. 内容：分娩第1期の助産診断と必要な技術＜入院前助産診断（技術：分娩開始の診断、入院前電話対応）、入院時助産診断（技術：入院時医療面接、産婦の健康診査）＞ 方法：助産学実習で使用する記録の説明、入院から分娩第1期の流れのDVD視聴内容から、分娩第1期の助産診断に必要な情報、技術について確認（次回の単元に関連） 予習：入院前電話対応に必要な情報、入院時に必要な情報、破水の診断、陣痛の診断についてまとめる。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。 分娩第1期の初期計画立案。	3-6.間中
7-9	7.分娩第1期の助産診断とケア（5） 8.分娩第1期の助産診断とケア（6） 9.分娩期の助産診断に必要な技術（1）	7. 内容：分娩第1期潜伏期の助産診断の実際 方法：模擬事例の助産診断 予習：教科書（マタニティ診断の分娩期）について熟読し、関連する情報、基準値や理解できていない用語は調べておく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。 8. 内容：分娩第1期潜伏期の助産診断の実際 方法：事例の助産診断と計画 予習：教科書（マタニティ診断の分娩期）について熟読し、関連する情報、基準値や理解できていない用語は調べておく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。 9. 内容：骨盤外計測法、レオポルド触診法、ザイツ法、内診、CTGの装着 方法：知識の確認と演習 予習：児頭骨盤不均衡（CPD）と骨盤外計測法、レオポルド触診法、	7-8.間中 9.松枝（全員）

		ザイツ法、内診の意義・手順等を確認し、まとめる。 復習：演習内容を自己演習し習得する。	
10-12	10-12.分娩第1期の助産診断とケア（7）～（9）	10. 内容：分娩第1期活動期の助産診断の実際（パルトグラムの記載含む） 方法：事例の助産診断と助産展開 予習：配布資料（DVD視聴の事例パルトグラム）を熟読し、パルトグラムの書き方のイメージを構築しておく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。 11. 内容：分娩第1期活動期の助産診断の実際（パルトグラムの記載含む） 方法：事例の助産診断と助産展開 予習：分娩第1期の助産診断（7）で行った事例の次の場面について、助産診断とケアを考えておく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。 12. 内容：分娩第1期活動期の助産展開に必要な技術 方法：知識の確認と演習 予習：分娩促進のケア、分娩準備（滅菌操作）、分娩室移動の判断、努責の抑制、肛門保護について意義・手順等を確認し、まとめる。 復習：必要な技術の意義、手順の確認と自己演習を行う。	10-11.近澤 12.松枝（全員）
13-15	13-14.分娩第2～4期の助産診断とケア(1)～(2) 15.分娩介助	13. 内容：分娩第2期の助産診断の実際（パルトグラムの記載含む） 方法：事例の助産診断と助産展開 予習：分娩第2期の助産診断の基準について熟読し、まとめる。分娩体位とその特徴について、教科書、参考書を熟読し、理解しておく。分娩介助DVDの再視聴を行い、努責の誘導についてイメージを構築しておく。 復習：助産展開を加筆修正する。 14. 内容：分娩第2期の助産診断とケアの実際 方法：児頭の下降と胎児健康度に合わせた努責の誘導方法の選択シミュレーション 予習：分娩第2期の助産診断の基準について熟読し、まとめる。分娩体位とその特徴について、教科書、参考書を熟読し、理解しておく。分娩介助DVDの再視聴を行い、努責の誘導についてイメージを構築しておく。 復習：記載したパルトグラムの確認と努責の誘導方法選択のイメージを強化する。 15. 内容：分娩介助の準備から介助の流れ(間介含む) 方法：教員デモンストレーション（分娩時導尿含む）と質疑応答 予習：分娩介助のDVDを再視聴する。分娩の機転と分娩介助の流れについてイメージ(シャドーシミュレーション)を強化する。 復習：分娩介助の流れを自己演習する。	13.間中 14.間中（全員） 15.松枝（全員）
16-18	16.分娩第2～4期の助産診断とケア(3) 17.分娩第2～4期の助産診断とケア（4） 18.分娩第2～4期の助産診断とケア（5）	16. 内容：分娩第3～4期の助産診断（パルトグラムの記載、胎盤の精査、新生児全身観察含む） 方法：事例の助産診断と助産展開 予習：分娩第3～4期の助産診断の基準について熟読し、まとめる。 復習：助産展開を加筆修正する。 17-18 内容：分娩介助技術（分娩第4期のケアに必要な技術） 方法：技術の演習 予習：早期母子接触、全身清拭と更衣、胎盤計測（精査）、新生児計測の手順を確認し、まとめる。 復習：演習内容を自己演習し習得する。	16.近澤 17-18.松枝（全員）

19-21	19-21.ハイリスク妊娠(1)～（3）	19. 内容：妊娠期の異常、ハイリスク妊産婦（妊娠合併症）の助産診断とケア 方法：ミニ事例の助産診断 予習：流産、切迫早産、妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、前置胎盤・常位胎盤早期剥離について、教科書、参考書を熟読し、まとめる。疑問点を抽出しておく。 プレゼン：定義・病態・診断・重篤合併症・治療・管理 ・血液型不適合妊娠 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。 20. 内容：妊娠期の異常、ハイリスク妊産婦（合併症妊娠）の助産診断とケア 方法：基礎知識の確認とミニ事例の助産診断 予習：母体感染症（原因・感染経路・母子への影響・検査・治療・保健指導、ケア）・羊水過多・過少症、胎児発育不全、糖代謝異常（糖尿病合併妊娠・妊娠糖尿病）、合併症妊娠（前回帝王切開、子宮筋腫、心疾患、自己免疫疾患〔抗リン脂質抗体症候群など〕）について、教科書、参考書を熟読しまとめる。疑問点を抽出しておく。 確認問題：母体感染症自己学習分 ・TORCH：トキソプラズマ症、梅毒、風疹、サイトメガロウィルス、単純ヘルペスウィルス ・性感染症：クラミジア、HIV、B型肝炎・C型肝炎、成人T細胞白血病、GBS感染症、ヒトパルボウィルス感染症 プレゼン：定義・病態・診断・重篤合併症・治療・管理・ケア ・羊水過多・過少症・胎児発育不全・糖尿病合併妊娠・妊娠糖尿病 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。 21. 内容：ハイリスク妊産婦（合併症妊娠）の知識確認、ハイリスク妊産婦（心理社会的）の助産診断とケア 方法：ミニ事例の助産診断 予習：親役割が困難な人々、不妊治療後妊娠について、教科書、参考書を熟読し、まとめる。疑問点を抽出しておく。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	19-21.松枝
22-24	22.妊娠期・産褥期の保健指導 23.分娩第2～4期の助産診断とケア(6) 24.分娩第2～4期の助産診断とケア(7)	22. 内容：妊娠中期から末期を対象とした集団保健指導の実際、事例に対する個別指導案作成 方法：集団保健指導案作成、個別指導案についてグループワーク 予習：助産診断・技術学Ｉで実施した集団指導と指導案の見直し、大阪医科薬科大学病院で実施されている分娩クラスについての情報収集を行っておく。授乳、家族計画、沐浴、退院指導案について、教科書、参考書、出産・育児雑誌等を確認し、まとめる。 復習：指導案を完成させ提出する。（期日は別途指示） 23. 内容：ハイリスク妊娠（1）～（3）の小テスト 内容：分娩介助技術演習(1) 方法：一連の流れの体験 予習：分娩準備（滅菌操作）、肛門保護、会陰保護と児娩出介助、胎盤娩出の手順を確認し、まとめる。 復習：演習内容を自己演習し習得する。 24. 内容：分娩介助技術演習(2) 方法：一連の流れについて演習する。 予習：分娩準備（滅菌操作）、肛門保護、会陰保護と児娩出介助、胎盤娩出の手順を確認し、まとめる。 復習：演習内容を自己演習し習得する。	22.間中 23-24.松枝（全員）
25-28	25.分娩第1期の助産診断とケア(10) 26-28.分娩第2～4期の助産	25. 内容：分娩第1期の助産診断の実際 方法：事例の助産診断と助産展開をパルトグラムに記載する。	25-26.松枝 27.近澤 28.松枝（全

	診断とケア（8）～（10）	予習：事例を熟読し、指定する時点での助産診断について検討する。 復習：事例に不足する情報（観察内容）やケアに関する他の選択肢について振り返りを行う。 26. 内容：分娩第2期の助産診断の実際 方法：事例の助産診断と助産展開をパルトグラムに記載する。 予習：事例を熟読し、指定する時点での助産診断について検討する。 復習：事例に不足する情報（観察内容）やケアに関する他の選択肢について振り返りを行う。 27. 内容：分娩第3～4期の助産診断の実際 方法：事例の助産診断と助産展開をパルトグラムに記載する。 予習：事例を熟読し、指定する時点での助産診断について検討する。 復習：事例に不足する情報（観察内容）やケアに関する他の選択肢について振り返りを行う。 28. 内容：分娩第2～4期の異常発生時の対応（産科救急） 方法：知識の確認 予習：CTGの判読、レベル判定、助産師の対応、肩甲難産とマックロバーツ体位、骨盤位、急速遂娩、危機的産科出血、羊水塞栓症について、教科書・参考書を熟読し、まとめる。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	員）
29-30	29-30.分娩期の助産過程(1)～（2）	29-30. 内容：分娩期助産診断の実際（分娩第1期活動期から分娩第4期） 方法：助産診断・初期計画の発表と事例の助産診断・助産展開をパルトグラムに記載する。 予習：事例の受け持ち時診断と初期計画を立案する。 復習：事例の助産診断の見直しや計画の加筆修正等を行い、理解を深める。	29-30.近澤
31-34	31.産褥期の助産診断とケア(1) 32.分娩期の一連の助産診断とケア演習(1) 33.産褥期の助産診断とケア(2) 34.新生児期の助産診断とケア(1)	31. 内容：ハイリスク産褥と産褥期の助産展開 方法：ハイリスク産褥の知識確認、ミニ事例の展開 予習：子宮復古不全、産褥熱、血栓性静脈炎、深部静脈血栓症、帝王切開後産褥、乳房トラブルと乳腺炎、マタニティブルーズ、産後うつ、産褥精神病・周産期の死について、教科書、参考書を熟読し、まとめる。疑問点を抽出しておく。 プレゼン：定義・病態・診断・重篤合併症・治療・管理・ケア ・子宮復古不全・産褥熱・血栓性静脈炎・深部静脈血栓症・帝王切開後産褥・乳房トラブルと乳腺炎・マタニティブルーズ ・産後うつ ・産褥精神病 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。 32. 内容：入院時から分娩第1期活動期に入るまでの助産診断と助産計画 方法：シナリオに沿って演習を展開する 予習：事前配布した事例の場面を分割し、その場面の助産診断を行っておく。 復習：実施した演習を振り返って、自己演習を行い、行動レベルで習得する。 33. 内容：新生児の栄養、地域母子保健 方法：ミニ事例の展開 予習：新生児の栄養に関する教科書、参考書の該当箇所を熟読し、まとめる。 地域母子保健（産後ケア事業）に関する教科書、参考書の該当箇所を熟読し、まとめる。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。 34.	31.近澤 32.間中（全員） 33.間中 34.近澤

		内容：ハイリスク新生児と新生児期の助産展開 方法：ハイリスク新生児の基礎知識確認、ミニ事例の展開 予習：呼吸窮迫症候群、胎便吸引症候群、分娩時損傷、新生児黄疸（血液型不適合妊娠含む）について、教科書、参考書を熟読し、まとめる。プレゼン：定義・病態・診断・重篤合併症・治療・管理・ケア・新生児の異常徴候・新生児一過性多呼吸・胎便吸引症候群 ・分娩時損傷・黄疸・低出生体重児とケア・ディベロップメンタルケア 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	
35-38	35-38.分娩期の一連の助産診断とケア演習(2)～(5)	35-36. 内容：分娩第1期活動期から分娩第4期までの助産診断と助産計画 方法：シナリオに沿って演習を展開する。 予習：事前配布した事例の場面を分割し、その場面の助産診断を行っておく。 復習：実施した演習を振り返って、自己演習を行い、行動レベルで習得する。 37. 内容：分娩第1期活動期から分娩第4期までの助産診断と助産計画 方法：（2）（3）の演習の振り返りと反復演習 予習：事前配布した事例の場面と演習内容を振り返り、反復や確認が必要な場面を明確しておく。 復習：実施した演習を振り返って、自己演習を行い、行動レベルで習得する。 38. 内容：分娩第2～4期の助産診断とケア（8）、産褥期の助産診断とケア（1）、新生児期の助産診断とケア（1）の小テスト 内容：分娩第1期活動期から分娩第4期までの助産診断と助産計画 方法：反復演習 予習：反復や確認が必要な場面を明確にしておく。 復習：実施した演習を振り返って、自己演習を行い、行動レベルで習得する。	35-36.近澤（全員） 37-38.近澤
39-40	39-40.超音波診断法(1)(2)	39-40. 内容：超音波画像の判読と実際 方法：超音波診断法の実際(臨床講義) 予習：教科書の該当箇所・配布資料を熟読し、まとめる。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容特に、代表的な画像の判読(国家試験出題問題等)ができるように確認する。	39-40.兼担
41-43	41-43.新生児蘇生(1)～(3)	41-43. 内容：新生児蘇生技術に必要な知識と技術 方法：知識の確認と演習 予習：胎児から新生児への生理的変化と適応過程を予習(復習) し、まとめる。 復習：新生児蘇生のフローチャート、技術についてまとめるとともにイメージトレーニングを行う。	41-43.番
44-45	44.会陰縫合術 45.無痛分娩	44. 内容：会陰切開の適応、会陰裂傷、会陰縫合の種類と実際 方法：知識の確認と縫合の演習 予習：教科書の該当箇所・配布資料を熟読し、まとめる。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。 45. 内容：無痛分娩の基本と実際 方法：知識の確認 予習：教科書の該当箇所・配布資料を熟読し、まとめる。 復習：配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	44-45.兼担

授業科目	助産管理	科目ナンバリング	N-36-04-B		
授業科目（英）	Nurse-Midwifery Management				
教員名	◎間中麻衣子（助産師実務経験者）、近澤幸（助産師実務経験者）、松枝加奈子（助産師実務経験者）、前田利子（特別講師）、担当者				
単位数	1.0	時間数	15	学年	4
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	自由	授業形態	講義		
一般目標	助産師に求められる助産師業務を効果的に遂行するための管理能力の基礎を修得できる。				
行動目標	助産師の業務に関する法的責任および倫理規定について説明できる。 助産におけるリスクマネジメントについて説明できる。 看護管理者や開業助産師が行う助産管理について具体的内容を説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	1. 予習・復習課題、授業中の提出物（30%）、期末試験（70%）により評価する。 2. 名前のないレポートは0点となる。 3. 提出時間に遅れた場合は提出として取り扱うが、採点の対象にはならない。 4. 全予習課題のレポート提出者を期末試験受験資格者とする。 フィードバック：試験後に記載例配布・解説を行う。				
教科書	助産師基礎教育テキスト　第1巻　工藤美子編（日本看護協会出版会） 助産師基礎教育テキスト　第3巻　成田伸編　（日本看護協会出版会）				
参考書等	適宜紹介する。				
事前準備 受講要件等	受講前にシラバスを確認する。 授業は、学生発表、ディスカッションなどアクティブラーニングを取り入れる。 受講要件はシラバス「助産師国家試験受験資格希望者の選抜にあたって」を参照。				
オフィスアワー（曜日／時間）	月曜日12：10～13：00、ただしメールで事前にアポイントをとること				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	助産管理の概念	助産管理の概念と助産業務に関する法令について 【予習】シラバスを読んでくる。 オリエンテーション 【復習】助産管理の概念について ※助産師基礎教育テキスト　第3巻：ｐ1～16を熟読。 【復習】助産業務に関する法令について 1～8回終了までに ＜配布資料（法規一覧）＞ 医療法 医療法施行令 医療法施行規則 ※助産所に関連した法令を確認、マイノートに整理しておく。 【復習】＜問題集＞1～8回終了までに ・2024年出題基準別助産師国家試験重要問題集 該当箇所を解く。ｐ161～162、186～187の助産所に関する内容は頻出内容のため、マイノートにまとめておく。特に細かい数字は暗記する。 ・2024年助産師国家試験問題の該当問題を解き、知識を定着させる。	近澤
2	周産期医療システム	日本の周産期医療システム・切れ目のない看護について学ぶ 学生発表 【予習（提出不要）】助産師基礎教育テキスト　第3巻の該当ページを熟読しマーカーする。 【予習（要提出）】切れ目のない看護（高槻市の例など）について、	松枝

		調べてきた内容をプレゼンテーション 【復習】配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	
3	周産期におけるリスクマネジメント	医療事故・災害とリスクマネジメントについて学ぶ 学生発表 【予習（講義時持参）】母性・助産に関連した医療事故・災害（コロナ禍含む）に関連した新聞記事を選び、参考書・インターネット情報等を利用しリスクマネジメントの視点を含んだレポートを作成する。 【予習（提出不要）】教科書の該当箇所・配布資料を熟読し、配布資料に記載する。 【復習】配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	間中
4	病院の助産業務管理①	病院の助産業務管理について学ぶ 【予習（提出不要）】助産師基礎教育テキスト　第3巻：該当ページを読み、①院内助産システム、②助産外来は、なぜこのようなことが必要となったのか、定義、どのようなものか、など読み取り配布資料に記載する。 【復習】配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤
5	まとめ	助産管理に関連するテーマについてまとめ、発表する 【予習】助産師基礎教育テキスト　第3巻：該当ページのイギリスの周産期医療システムを読み、①日本の周産期医療システムとの比較。②日本の周産期医療システムの改善に向けた課題や方策。以上を講義時ディスカッションし、まとめ発表する 【復習】配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	間中
6	病院の助産業務管理②	病院の助産業務管理の実際について学ぶ 【予習】助産師基礎教育テキスト　第3巻：該当ページを事前に熟読しマーカーする。 【復習】配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	近澤・ 担当者
7	助産所の助産業務管理	助産所の助産業務管理について学ぶ 【予習】助産師基礎教育テキスト　第3巻：該当ページを事前に熟読しマーカーする。配布資料を事前に読んでまとめる。 【復習】助産所の助産業務管理について確認する。	間中・前田
8	周産期における医療事故とリスクマネジメント	医療事故とリスクマネジメント 【予習（講義時持参）】自身が助産または統合看護学実習中に見聞、あるいは経験した 1.インシデントもしくはアクシデントについて指定用紙に記載し、原因、対応、予防の観点から討論する。 2.災害時の対応について指定用紙に記載し、討論する。 【予習（提出不要）】教科書の該当箇所・配布資料を熟読しマーカーする。 【復習】配布資料の【学習到達目標】の内容を確認する。	間中 近澤 松枝

授業科目	助産学実習	科目ナンバリング	N-36-05-A		
授業科目（英）	Nurse-Midwifery Practicum				
教員名	◎近澤幸（助産師実務経験者）、間中麻衣子（助産師実務経験者）、松枝加奈子（助産師実務経験者）、酒向なつみ（助手、助産師実務経験者）				
単位数	8.0	時間数	360	学年	4
開講期	2024年度 前期～後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	自由	授業形態	実習		
一般目標	助産の対象となる人々に対して、科学的根拠に基づく助産診断・技術を統合した助産活動を実践する基礎的能力を養うことができる。さらに、助産活動の実践を通じて助産における看護の望ましい活動と課題を見出す基礎的な能力を養うことができる。				
行動目標	1. 妊産婦の助産過程が展開できる。 2. 助産師の指導のもと10例程度の正常分娩介助が実践できる。 3. 褥婦と新生児の助産過程が展開できる。 4. 周産期の対象者に対する健康教育が実践できる。 5. 病院および助産所における助産業務管理について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	実習内容（実習態度含む）および記録物(70%)、カンファレンスでのプレゼン・参加貢献度（30%）により評価する。なお、出席は100%を原則とする。 フィードバック法：実習内容、記録物についてカンファレンスや実習中に適宜フィードバックする。				
教科書	助産師基礎教育テキスト第4巻　森恵美編（日本看護協会出版会） 助産師基礎教育テキスト第5巻　町浦美智子編（日本看護協会出版会） 助産師基礎教育テキスト第6巻　江藤宏美編（日本看護協会出版会） 助産師基礎教育テキスト第7巻　小林康江編（日本看護協会出版会） (3,4年次授業科目「助産診断技術学Ⅰ、Ⅱ」で使用している為、購入不要)				
参考書等	なし				
事前準備 受講要件等	受講要件はシラバス「助産師国家試験受験資格希望者の選抜にあたって」を参照すること。 実習が始まるまでに担当教員が説明した事項について学習し実習に備えておくこと。 履修の手引きの履修要件を満たし、「母性看護学概論」「母性看護学援助論」「母性看護学援助方法」「セクシュアリティーと看護」「リプロダクションと看護」「助産学概論」「助産診断・技術学Ⅰ」「助産診断・技術学Ⅱ」「助産管理」について復習しておくこと。				
オフィスアワー（曜日／時間）	月・水・金曜日：17：00～18：00				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
	助産診断に基づいた妊産褥婦へのケアの実践 正常分娩の助産技術の習得 助産業務管理の実際	周産期実習 ①妊婦の助産過程を展開する。 ②分娩介助を含む分娩期の助産過程を展開する。 ③産褥期の母子の助産過程を展開する。 ④集団保健指導を行う。 助産管理実習 ①地域の助産所における助産業務管理の実際を学ぶ。 〈実習施設〉 大阪医科薬科大学病院、他（助産所含む） 予習：受持ち対象の助産過程の展開や見学実習に必要な知識・技術について確認し、実施できるよう準備する。 復習：受持ち対象の助産過程の展開の評価や見学実習の学びを振り返り、学びを深める。	近澤 間中 松枝 酒向

授業科目	がん看護学総論	科目ナンバリング	N-37-01-B		
授業科目（英）	Introduction to Cancer Nursing				
教員名	◎鈴木久美（看護師実務経験者），南口陽子（看護師実務経験者），土井智生（看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	2
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	1．わが国の最新のがんの動向およびがん対策について理解できる。 2．臨床経過および発達段階におけるがん患者・家族の特徴と援助について理解できる。 3．主ながん治療を受ける患者の特徴と援助について理解できる。 4．緩和ケアの概念およびがん医療における倫理的課題について理解できる。				
行動目標	1．最新のがんの罹患・死亡の動向，がん対策推進基本計画について説明できる。 2．がんの病態，診断・治療，臨床経過，緩和ケアの概念について説明できる。 3．臨床経過（診断期，治療期，再発がんの診断・治療期，エンドオブライフ，臨死期）におけるがん患者及び家族の特徴と看護のポイントを説明できる。 4．発達段階（小児期，AYA世代，成人期，老年期）におけるがん患者及び家族の特徴と看護のポイントを説明できる。 5．主ながん治療（化学療法，放射線療法）を受ける患者の特徴と看護のポイントを説明できる。 6．症状マネジメントについて説明できる。 7．がん医療における倫理的課題について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観，課題探究力，専門職としての実践力				
評価並びにフィードバック法	試験（54%），レポート課題（30%），ミニレポート（16%）で総合的に評価する。 フィードバック：試験終了後に解説する。また，レポート課題に関しては授業のなかで解説する。				
教科書	随時資料を配布する 系統看護学講座　別巻　がん看護学，小松浩子他，医学書院（デジタル） 鈴木久美他（2018），乳がん早期発見のための乳房セルフケアを促す教育プログラムの効果，日本がん看護学会誌，vol.32，12-21（資料として提示）				
参考書等	看護学テキストNiCE　がん看護，鈴木久美他（南江堂） 看護学テキストNiCE　緩和ケア，梅田恵他（南江堂） 緩和ケアガイドブック，日本医師会（青海社）				
事前準備 受講要件等	予習の課題を必ず自己学習する。 レポート課題は，期日までに提出すること。				
オフィスアワー（曜日／時間）	金曜日の16:30～18:00				
SDGsとの関連	３，４				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	がんの疫学とがん対策 がんの臨床経過 緩和ケアの概念	1)がん看護とは 2)最新データによるがんの罹患・死亡の動向とがん対策 ＊がん検診に関する研究の紹介（乳がん啓発教育について） 3) がんの病態・診断・治療，がんの臨床経過 4) 緩和ケアの概念 5) がん患者を取り巻く医療環境 ＊一部双方向システムを用いて授業を行う。 予習：テキストp187-189を読み、「トータルペイン」「サバイバーシップ」の意味を調べる。 復習：がんの病態・診断・治療をまとめる。	鈴木
2	臨床経過におけるがん看護	1) 診断期にあるがん患者および家族の特徴と看護 ＊視聴覚教材を用いたビデオ視聴 2) 治療期にある患者および家族の特徴と看護 3) 再発がんの診断・治療期における患者および家族の特徴と看護 予習：テキストp185-187を読み、臨床各期の患者の特徴を調べる。 復習：各期看護の特徴をまとめる。	鈴木
3	臨床経過におけるがん看護 がん医療における倫理（グループワーク）	1) 終末期（エンドオブライフ，臨死期）のがん患者および家族の特徴と看護，看取りのケア 2) がん医療における倫理的課題	鈴木

		＊視聴覚教材を用いたビデオ視聴 3)グループディスカッション 予習：テキストp85-91を読み、エンド・オブ・ライフの患者・家族の特徴を調べる。 復習：倫理における看護師の役割についてまとめる。	
4	発達段階におけるがん看護	1) 小児期のがん患者および家族の特徴と看護 2) AYA世代のがん患者および家族の特徴と看護 3) 成人期のがん患者および家族の特徴と看護 4) 老年期のがん患者および家族の特徴と看護 予習：テキストp184-185を読み、ライフステージの特徴を調べる。 復習：各世代の看護のポイントをまとめる。	鈴木
5	化学療法を受けるがん患者の看護	1) 化学療法の有害事象について 2) 化学療法を受けるがん患者の特徴 3) 化学療法を受ける患者のアセスメントと援助 4) 曝露対策 ＊課題の解説を含む 予習：テキストp128-151，p263-281を読み、課題を調べる。 復習：化学療法の援助をまとめる。	南口
6	放射線療法を受けるがん患者の看護	1) 放射線療法の有害事象について 2) 放射線療法を受けるがん患者の特徴 3) 放射線療法を受ける患者のアセスメントと援助 4) 放射線防護対策 ＊課題の解説を含む 予習：テキストp159-181，p281-294を読み、課題を調べる。 復習：放射線療法の援助をまとめる。	南口
7	症状マネジメント	1) がん患者に特有の症状 2) 症状マネジメントの概念 3) 症状マネジメントの実際（倦怠感，せん妄など） 予習：テキストp200-207を読み、がん患者の苦痛を調べる。 復習：症状マネジメントの実際についてまとめる。	南口
8	がん疼痛の看護 オンコロジックエマージェンシー	1) がん疼痛の定義，分類，発生機序 2) がん疼痛の薬物療法 3) がん疼痛のアセスメントと援助 4) オンコロジックエマージェンシーとその対応 予習：テキストp94-105を読み、がん疼痛について調べる。 復習：がん疼痛に効果的な援助をまとめる。	鈴木，土井

授業科目	家族看護学	科目ナンバリング	N-37-02-B		
授業科目（英）	Family Nursing				
教員名	◎竹村淳子（看護師実務経験者）、真継和子（看護師実務経験者）、鈴木美佐（看護師実務経験者）、内田浩江（看護師実務経験者）、倉橋理香（看護師実務経験者）、松本修一（非常勤講師）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	現代社会における家族のあり方を考えることができる。さらに、健康障がいのある家族員のいる家族の状況をアセスメントし、家族看護実践ができる基礎的能力を養うことができる。				
行動目標	１．家族看護学における対象のとらえ方を説明できる。 ２．健康障がいのある家族員がいる家族をアセスメントする視点を説明できる。 ３．健康障がいの家族員がいる家族の状況を理解し、介入の方向性を提示できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、専門職としての実践力、多職種と連携する力、課題探求力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	試験70%、課題レポート30%で評価する。 レポートに関しては、授業中に解説を行う。試験は終了後に解説を行う。				
教科書	看護学テキストNiCE 家族看護学改定第3版，山崎あけみ，原礼子 (南江堂)				
参考書等	国民衛生の動向(厚生労働統計協会)				
事前準備 受講要件等	授業前にシラバスを確認し、事前学習を行うこと。				
オフィスアワー（曜日／時間）	月曜日：9:00～10:30				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	看護と家族 現代日本の家族	家族看護の発展と動向、家族の定義、日本における家族の文化的背景、家族看護の展開についての概要 予習： 自分がもつ家族に対するイメージを考えておく。 復習：現代の家族に関する課題について自分の考えをまとめる。	竹村
2	家族看護の諸理論・モデル	家族発達理論における発達段階と課題、家族周期と２つの移行 家族システム理論、家族ストレス対処モデル、円環モデル 家族を理解するためのジェノグラムとエコマップ 予習：教科書 p10-12の家族周期に関する記述を読んでくる。 復習：青年期の子どもがいる家族の発達段階の課題を整理する。	鈴木
3	家族機能とセルフケア	家族形態と機能および家族の役割、家族のコミュニケーション、健康な家族とは、家族のセルフケア 予習：教科書ｐ53-61を読み、家族機能とは何かを把握する。 復習：p66場面14の家族のセルフケアを考察する。	鈴木
4	家族支援専門看護師の実践	日本の専門看護師制度,家族支援専門看護師の役割と機能、実際の活動 家族全体を理解する「家族システム」の考え方に基づいた家族支援の実際（事例） 予習： 日本看護協会ＨＰをみて専門看護師について調べる 復習： 実際の活動に関しての感想を記録する。	松本
5	家族看護アセスメント	家族看護過程の視点、情報収集、情報整理と分析、家族像の形成、家族アセスメントモデル 予習：教科書p.95-98を読み、家族看護過程の概要を整理する。 復習：学習内容を振り返り、家族像を形成するための視点を整理する。	真継
6	家族看護における看護者の役割	家族看護目標設定のポイント、家族成員に対する援助、家族関係に働きかける援助、家族単位の社会性に働きかける援助、家族看護と多職種連携 予習：教科書p.96の家族中心的思考の記述を読み、家族を援助する際の看護者の基本姿勢についてまとめる。 復習：第5～6回の学習内容を振り返り、配布資料（家族アセスメント)に沿って整理する。	真継

7	家族看護過程の展開(1)	紙上事例をもとづいた家族アセスメント、家族像の形成 予習：第1～6回までの学習内容をもとに、配布資料（家族アセスメント）の家族像の形成まで行う。 復習：ディスカッション内容を振り返り、家族像形成の追加・修正を行う。	真継 竹村 鈴木 内田 倉橋
8	＊成果発表会 家族看護過程の展開(2)	プレゼンテーション：家族像の発表 予習：グループごとに発表準備を行う。 復習：課題レポート（家族像と看護介入）を作成する。	真継 竹村 鈴木 内田 倉橋

授業科目	災害看護論	科目ナンバリング	N-37-03-B		
授業科目（英）	Disaster　Nursing				
教員名	◎寺口佐與子（看護師実務経験者）、赤澤千春（看護師実務経験者）、土手友太郎(医師実務経験者)、 安田稔人（医師実務経験者）、 勝山あづさ（看護師実務経験者）、近藤恵（非常勤講師）				
単位数	1.0	時間数	8	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	災害看護の理念と目的、制度とシステム、健康課題、看護の展開について理解できる。				
行動目標	災害の定義・分類、災害看護の目的、自然災害サイクルと災害医療・看護、災害に関する法体系、災害支援の制度とシステム、災害支援活動・災害復旧・復興対策と看護活動などについて、基本的な知識を習得できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力、課題探求力				
評価並びにフィードバック法	記述試験(100%)　試験の後に解説				
教科書	ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践③　災害看護，酒井明子(メディカ出版).				
参考書等	随時紹介する。				
事前準備 受講要件等	シラバスを確認し、教科書の該当箇所を読んでおく。				
オフィスアワー （曜日／時間）	木曜日9:00～12:00				
SDGsとの関連	3，4，11，17				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	災害とは 災害の種類と災害サイクル	災害看護の歴史 災害の定義・分類、災害サイクルを学ぶ。 予習：教科書P20-45,96-103を読んで調べる。 復習：災害の種類をまとめる。	赤澤
2	危機管理：減災・防災マネジメント	災害に関する減災から防災までの管理を学ぶ。 予習：教科書のP74-94,104-107,240-261を読んで調べる。 復習：災害時の防災、減災、危機管理についてまとめ、常日頃から準備をしておく。	寺口
3	配慮を必要とする人への支援と看護	配慮を必要とする人への支援と看護を学ぶ。 予習：教科書P186-237を読んで調べる。 復習：配慮を必要とする人への支援と看護についてまとめる。	寺口
4	災害看護の実際、被災者と支援者の心理の理解と援助、国際看護	※オンデマンド形式で実施 救護活動の実際、被災者と支援者の心理、災害看護における国際看護を学ぶ。 予習：教科書P166-184、264-278を読んで調べる。 復習：国内外の実際の救護活動内容、被災者と支援者の心理をまとめる。	近藤
5	災害医療に関する国の政策と法律	※オンデマンド形式で実施 予習：教科書P48-71を読んで調べる。 地域における防災対策及び災害時支援のための社会制度および情報網の整備 について学ぶ。 復習：災害医療に関する国の政策をまとめる。	土手
6	災害時に必要な医療・看護技術：トリアージ	災害時に必要な医療・看護技術（トリアージ）について学び、演習する。 予習：教科書p108-117を読んで調べる。 復習：トリアージについてまとめる。	勝山
7	災害看護の実際①	災害時に必要な医療・看護技術（応急処置・治療、移送・運搬等）を実際に演習する。	安田 勝山

		予習：これまでの講義の復習をしておく。 復習：応急処置・治療、移送・運搬についてまとめる。	寺口 赤澤
8	災害看護の実際②	災害看護の受傷者への援助の演習 予習：これまでの災害看護の内容を復習しておく。 復習：受傷者への援助をまとめる。	勝山 安田 寺口 赤澤

授業科目	遺伝とカウンセリング	科目ナンバリング	N-37-05-B		
授業科目（英）	Medical Genetics and Counseling				
教員名	◎近澤幸（助産師実務経験者）、間中麻衣子（助産師実務経験者）、鮫島希代子（非）（臨床遺伝専門医）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	4
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	本科目では、遺伝の基礎的知識と遺伝カウンセリングの実際を学ぶことができる。遺伝性疾患をもつ人および家族に関わる援助職の基本姿勢、カウンセリングマインド、遺伝カウンセリングの概説ができ、遺伝性疾患に関わるチーム医療の現状とあり方について考えを深めることができる。さらに、看護職としての対象者及びその家族へのアプローチの方法を学ぶことができる。				
行動目標	看護職としての倫理的判断をするための基礎的能力を習得できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	受講態度10%、討論への参加度10%、レポート40%、試験40%で総合的に判断する。フィードバック：レポート、試験後に解説を行う。				
教科書	学習資源として、その時々の講義内容に応じたハンドアウトの配布予定				
参考書等	自分を見つめるカウンセリング・マインド　ヘルスケアワークの基本と展開　五十嵐透子著　（医師薬出版） 遺伝医学への招待　新川詔夫著　（南光堂） ヘルス･コミュニケーション　これからの医療者の必須技術　ピーター・G・ノートハウス著　（九州大学出版会）基礎から学ぶ　遺伝看護学　中込さと子著（羊土社） 遺伝カウンセリングマニュアル 福嶋義光監修（南江堂）				
事前準備 受講要件等	遺伝に関する事例検討には積極的に参加する。				
オフィスアワー （曜日／時間）	毎授業終了後30分				
SDGsとの関連	3, 4				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	遺伝カウンセリングとは	遺伝カウンセリングの基本的な考え方 医師から見た遺伝相談に関わる職種の連携 予習：参考書等の関連事項をまとめる。 復習：その日の配布物に再度目を通して講義の理解を深める。	鮫島
2	臨床遺伝学の基礎知識	臨床遺伝学、遺伝形式、家系情報、染色体異常と遺伝 遺伝学的検査の種類、遺伝性疾患の特徴　家系図の書き方、遺伝情報は個人情報ではなく家族情報 予習：参考書等の関連事項をまとめる。 復習：その日の配布物に再度目を通して講義の理解を深める。	鮫島
3	遺伝の問題	家族性腫瘍 予習：１，２回終了時に配布の資料について考察する。 復習：その日の配布物に再度目を通して講義の理解を深める。	鮫島
4	臨床遺伝医のカウンセリング	クライエントの理解と遺伝カウンセリングの実際 予習：１，２回終了時に配布の資料について考察する。 復習：その日の配布物に再度目を通して講義の理解を深める。	鮫島
5	遺伝に関わる倫理的課題	多様な価値観と倫理的課題(事例の提示) 予習：１，２回終了時に配布の資料について考察する。 復習：その日の配布物に再度目を通して講義の理解を深める。	鮫島
6	遺伝に関する事例検討(1)	具体的事例の検討と看護職の関わり 予習：遺伝に関するトピックスで興味のある記事・話題について検討する。 記事は当日持参し、講義内でグループディスカッションを行う。 復習：その日の配布物に再度目を通して講義の理解を深める。	間中
7	遺伝に関する事例検討(2)	具体的事例の検討と看護職の関わり 予習：当日検討する症例の疾患について基礎情報を収集し理解する。	近澤

		復習：グループワーク内容から、看護職としての関りについて理解を深める。	
8	遺伝カウンセリングの実際	具体的事例の検討 予習：当日検討する症例の疾患について基礎情報を収集し理解する。 復習：看護職としての遺伝への関わりを総合的に検討する。	近澤

授業科目	多職種連携論3－医療倫理	科目ナンバリング	N-37-05-B		
授業科目（英）	Interprofessional Education 3 -Medical and Healthcare Ethics				
教員名	◎小林道太郎、医学・薬学・看護学教育センター教員				
単位数	1.0	時間数	15	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	医療の中で起こり得るさまざまな問題に対して、倫理的側面から考えるための基本的な考え方や留意点について、多職種連携の視点から理解する。特に後半では、全人的・包括的医療を提供するために、倫理的課題等に関して討議し、各専門職の協働のあり方について考えを深める。				
行動目標	1) 医療倫理の諸問題について、現在の諸議論を理解した上で、自分の見解を述べることができる。 2) 倫理課題に関するチームでの議論の方法を理解し、それらを実際に用いることができる。 3) 協働する各々の専門職としての役割と責任に関して理解を深める。 4) 事例を通して、医療倫理に関する判断についての専門職として考え方を明確にする。 5) 事例に応じて、他の専門職者の役割を考える。 6) 医療チームとしてそれぞれの立場を尊重できる。 7) チームメンバーの様々な考えや意見を共有し、調整できる。 8) 患者・家族によりよい医療を提供するために、チームの方針を提案できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、多職種と連携する力				
評価並びにフィードバック法	第1-4回の提出物（30%）、グループワーク参加態度（25%）、グループでのプロダクト（5%）、レポート（40%）により評価する。グループワークのプロダクト、各学部教員からのフィードバックと総評をpdf資料として3学部に共有する。				
教科書	霜田求編『テキストブック 生命倫理』法律文化社（1年「倫理学」で購入済み）				
参考書等	授業内で指示する。				
事前準備 受講要件等	後半のグループワークは別途配信される資料をよく読み、やるべきことを理解して参加すること。				
オフィスアワー（曜日／時間）	金曜16-17時（小林）				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	イントロダクション、子どもの医療	倫理的問題について話し合うことについて、子どもの医療に関する倫理課題 予習: 1年生科目「倫理学」の復習をする、教科書第6章を読んでまとめる 復習: 提示する課題について自分の考えを書く	小林
2	高齢者と地域、格差の問題	高齢者の医療・ケアに関する倫理課題、健康格差の問題 予習: 教科書第7章を読んでまとめる 復習: 提示する課題について自分の考えを書く	小林
3	脳死と移植医療	脳死の問題、移植医療に関する倫理課題 予習: 教科書第10章を読んでまとめる 復習: 提示する課題について自分の考えを書く	小林
4	医療の未来	ゲノム医療、医療ビッグデータ、AI 予習: 教科書第11章を読んでまとめる 復習: 提示する課題について自分の考えを書く	小林
5-8	グループワーク・発表	倫理事例について3学部合同のグループワークと発表 5月28日（火）10時から17時、阿生山キャンパスで実施。詳細は別途提示される事前資料を参照 予習: 事前に資料等が提示されるので各自で事前学習をしておく 復習: 事後課題レポート提出。事後フィードバックの資料が提示されるので確認する	小林、3学部教育センター教員

授業科目	異文化看護入門	科目ナンバリング	N-37-07-B		
授業科目（英）	Introduction to Intercultural Nursing				
教員名	◎飛田伊都子（看護師実務経験者）、小林道太郎、樋上容子（看護師実務経験者）、 山内彩香（看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	30	学年	3
開講期	2024年度 前期	開講曜日			（時間割どおり）
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	文化について知り、その多様性と看護の対象者はそれぞれの文化的背景を持つ存在であることを理解し、対象が文化的に満足できる援助を受けるために看護職が果たす役割について学ぶ。				
行動目標	１．文化の多様性・普遍性について理解できる。 ２．看護における異文化理解の必要性について述べることができる。 ３．日本を含めた国々の医療システムの文化背景について理解できる。 ４．多文化背景を持つ対象者への医療における看護職の役割について述べることができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	レポート（40%）、プレゼンテーション（40%），受講態度（20%） フィールドワークおよび最終プレゼンテーションは終了後フィードバックする。				
教科書	授業に必要な資料を配布する				
参考書等	講義中提示				
事前準備 受講要件等	事前課題をクリアすること				
オフィスアワー （曜日／時間）	水曜日 12:10～13:00				
SDGsとの関連	3，5，10				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	看護領域における異文化理解の必要性	本科目の狙い、目標、日程、課題等についてオリエンテーションを行う。異文化の捉え方・看護領域における異文化理解の必要性について講義する。 予習：異文化とは何かについて自分の体験や情報を用いて考えをまとめる。 復習：異文化背景を有する対象について自分の考えをまとめる。	飛田
2	文化について	１．文化とは何か、文化の中にある歴史、アイデンティティなどについて講義する。 ２．文化の中のマイノリティ、相互理解について講義する。 予習：他国の特徴的な文化について調べてくる。 復習：異文化に属する人とコミュニケーションするときの工夫や配慮について、自分ならどうするかをまとめる。	小林
3	オーストラリアの看護学教育および看護実践、スイスにおける看護に関わる研究活動について	オーストラリアにおける看護学教育および臨床現場における看護業務、スイスと日本の看護労働に関する比較研究について講義する。 予習：諸外国と日本の看護学教育および制度の違いについて調べる。 復習：授業内容をまとめ課題を見つける。	飛田
4	フィンランドや台湾の看護学教育や看護実践者・研究者の活躍について	フィンランドや台湾などの看護学教育や看護実践者・研究者の活躍について　、講義を行う。 予習：他国の看護学教育制度について調べる。 復習：授業内容をまとめ課題を見つける。	樋上
5	アメリカでの看護教育と異文化交流について	アメリカの語学学校や看護教育機関での学習体験や異なる背景を持つ人々との交流について講義を行う。 予習：アメリカでの一般的なコミュニケーションの特徴について調べておく。 復習：海外での異文化交流において重要な点を整理する。	山内
6-8	異文化背景を有する対象理解と健康課題の抽出	日本で生活する異文化背景を有する対象の健康課題を理解し、健康課題を抽出する（フィールドワーク・日本語教育センター）。 予習：在日外国人の健康課題について調べておく。	飛田

		復習：在日外国人の健康を支援するために必要な援助についてまとめる。	
9-10	異文化背景を有する対象への健康教育の内容検討	日本で生活する異文化背景を有する対象に対する健康教育について検討する。 予習：在日外国人の健康を支援するために必要な情報を調べる。 復習：在日外国人の健康を支援するためのプレゼンテーションに向けて情報を整理する。	飛田
11-13	異文化背景を有する対象への健康教育の実際	日本で生活する異文化背景を有する対象に対して、健康教育を実施する（フィールドワーク・日本語教育センター・プレゼンテーション）。 予習：これまでの講義や演習を振り返り、学びをプレゼンテーションの資料にまとめる。 復習：本日のプレゼンテーションでの他者からのコメントを振り返り、本科目の目標に沿って自己の学びを整理する。	飛田
14-15	異文化交流の実際	これまでの学びを活かしてミネソタ州立大学マンケート校および台北医科大学の学生と実際に交流する。 予習：外国の学生との交流に向けて、これまでの講義や演習の資料をまとめる。 復習：授業・演習を振り返り、自己の学びを整理する。	飛田

授業科目	国際交流演習	科目ナンバリング	N-37-08-B		
授業科目（英）	Seminar of International exchange				
教員名	◎草野恵美子、小林道太郎、樋上容子（看護師実務経験者）、山内彩香（看護師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	60	学年	1~4年(2022年度入学生以降)
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	提携校とのウェブ国際国際交流プログラム（CRISIIS）又は提携校への派遣プログラムへの参加を通して、自国と他国の健康課題、ヘルスシステム、国際看護の役割と機能を学ぶ。また、海外の人々との交流を通してグローバルな視点や多様性への理解を深めることができる。				
行動目標	１．自国と他国の健康課題、ヘルスシステム、国際看護の役割と機能について述べることができる。 ２．国際交流の過程で、自らの役割を認識し、学生間（チーム）で協力することができる。 ３．国際交流を通して、グローバルな視点や多様性について自分の考えを述べることができる。 ４．国際交流の体験を整理し、報告することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探求心、創造力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	成績評価： 事前学習レポート（15%）、実習参加内容評価票(70%)、報告書（15%） フィードバック方法：課題や報告内容に対して意見・コメントを行う。				
教科書	なし				
参考書等	教員が適宜示す				
事前準備 受講要件等	日常英会話の練習をしたうえで演習に臨む。 授業はアクティブ・ラーニングを取り入れる。				
オフィスアワー（曜日／時間）	火曜・3限				
SDGsとの関連	3，10，16，17				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1-5回	◆ウェブ国際国際交流プログラム（CRISIIS）を選択した場合 オリエンテーション・準備	◆ウェブ国際国際交流プログラム（CRISIIS）を選択した場合 1.本科目の目標、スケジュール、課題などについてオリエンテーションを行う。 2.国際交流に関する理解とディスカッション 3.CRISIISシラバス（英文）の読解 予習：CRISIISのシラバスを読んでくる。国際看護について事前学習する。 復習：オリエンテーションと講義の内容について整理する。	小林 樋上
6-10回	家族の危機についてのレポート作成	身近にある家族の危機（事故、疾患、離婚、貧困など）の中から１つ選択し、以下の項目についてレポートにまとめて提出する（課題1）。 1. Background/ Causes of the Crisis　危機の背景/原因 2. A description the Crisis　危機の説明 3. Outcome of the Crisis　危機の結果" 予習：「危機」とは何かについて、調べる。 復習：家族の「危機」について、レポートを振り返り自分の考えを整理する。	小林 樋上
11-13回	オンラインミーティング①（グループワーク）	zoomを使用してオンラインミーティングを開催する。自己紹介を行い、今後のミーティングのスケジュールと、どのようにして課題を完了するかについて学生間で計画する。ミーティングの記録のコピーを提出する（課題2）。	小林 樋上

		予習：英語で自己紹介ができるよう練習する。 復習：ミーティングの内容を振り返り、整理する。	
14-16回	オンラインミーティング②（グループワーク）	zoomを使用してオンラインミーティングを開催する（40分程度）。身近にある家族の「危機」について各学生はプレゼンテーションを行う。全学生の発表後、グループで更に調査したいトピック（問題）を１つ選択する。記録したミーティングのリンクを提出する（課題3）。 予習：PART1でまとめたレポートを発表できるように準備しておく。 復習：各学生の発表の内容を振り返り、整理する。	小林 樋上
17-19回	トピック（問題）についての調査	学生は、PART3（第12-13回）で決定したトピック（問題）に対してコミュニティ（例：国、州、都道府県など）がどのように対処しているかについて、適切な文書、情報、研究を検索し理解を深める。	小林 樋上
20-22回	オンラインミーティング③（グループワーク）	Zoomを使用してオンラインミーティングを開催する（40分程度）。PART3で選択したトピックを分析する。学生は、PART4で調べた情報源をミーティングで紹介する。記録したミーティングのリンクを提出する（課題4）。 予習：PART4で調べた内容を発表できるように準備しておく。 復習：ミーティングの内容を振り返り、整理する。	小林 樋上
23-25回	プレゼンテーションの準備と実施 （プレゼンテーション）	学生グループは、以下の項目を含む共同プレゼンテーション（約10分）を作成する。最終プレゼンテーションを提出する（課題5）。 1. Introduction of the team members　チームメンバーの紹介 2. Brief presentation of the topic they selected. 選択したトピックについての短いプレゼンテーション。 3. Discussion of how each of their communities (Country, State/Province or City) deals with the topic. どのようにそれぞれのコミュニティ（国、州/都道府県、または市）がそのトピック（問題）に取り組んでいるかについてのディスカッション 4. Your conclusion　結論	小林 樋上
26-28回	評価	プロジェクトに関する評価を記入し、提出する（課題6）。	小林 樋上
29-30回	報告	体験を整理して報告する	小林 樋上
1-3回	◆派遣プログラムを選択した場合 1.オリエンテーション 2.準備	◆派遣プログラムを選択した場合 1.本科目の目標、スケジュール、課題などについてオリエンテーションを行う。 2.海外で生活することの理解など 予習：国際看護についてと、本学の海外安全ハンドブックの内容について事前学習する。 復習：オリエンテーションと講義の内容について整理する。	草野 山内
4-28回	現地プログラムへの参加 （フィールドワーク）	実際にミネソタ州立マンケート校（MUSM）、又は台北医学大学（TMU）を訪れて派遣プログラムに参加する。現地での研修や交流を通して自国と他国の健康課題、ヘルスシステム、看護の役割と機能を学ぶ。また、海外の人々との交流を通してグローバルな視点や多様性への理解を深めることができる。 展開は、準備、事前学習、学内演習、現地実習、帰国後報告書作成、報告会の流れとなる。 ●準備：航空券、海外保険の申し込み、ESTA申請、語学学習など自主的に行う。 ●事前学習:渡航先の概要、医療保険制度、社会資源、などについて（オリエンテーションで詳細を説明する） ●学内演習：必要に応じて行う。 ●派遣プログラム： ・MSUM：3月に実施。最大2週間の予定。 ・TMU：3月に実施。2週間。 ●研修内容 ・MSUM：マンケート校看護学部での講義、演習への参加、学生との交流、外部施設（病院、クリニックなど）	草野 山内

		の見学 ・TMU：台北医学大学における講義、キャンパスツアー、 附属病院をはじめ複数の病院見学、学生との交流	
29-30 回	まとめ、報告会 （プレゼンテーション）	体験を整理し、報告する（プレゼンテーション）	草野 山内

授業科目	原著講読	科目ナンバリング	N-37-08-B		
授業科目（英）	Reading English Texts				
教員名	◎小林道太郎				
単位数	1.0	時間数	30	学年	4
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	医療に関する論文は主に英語で書かれており、情報収集のためには英語の論文を読む能力が求められる。また、日本語論文を書く場合でも、英文アブストラクトが要求されることが多い。本科目では、看護医療関係の英語文献の講読を行うことで、英語論文を読み・書くための基礎的な能力を養うことを目指す。よく用いられる語彙や慣用表現、構文について、またそれらを文章全体の流れの中で理解しながら読むことができることを目標とする。				
行動目標	看護に関する英語論文を読み、和訳を作成することができる。 論文の構成について理解できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究力				
評価並びにフィードバック法	受講態度(50%)とレポート(50%)による。 レポートは評価をつけて返却する。				
教科書	なし。テキストは授業で指示する。				
参考書等	授業で紹介する。				
事前準備 受講要件等	別途指示する論文を各自プリントアウトしてくること。				
オフィスアワー （曜日／時間）	金曜16:20～17:20				
SDGsとの関連	3				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	イントロダクション(1)	授業の進め方、英語論文を読むときのポイント 予習：論文をプリントアウトしてくること 復習：配布物の復習	小林
2	研究論文を読む1(1)	アブストラクト 予習：辞書を引いて訳を書いてくる 復習：間違っていた部分の復習	小林
3	研究論文を読む1(2)	研究の背景 予習：辞書を引いて訳を書いてくる 復習：間違っていた部分の復習	小林
4	研究論文を読む1(3)	研究の背景、目的 予習：辞書を引いて訳を書いてくる 復習：間違っていた部分の復習	小林
5	研究論文を読む1(4)	研究方法 予習：辞書を引いて訳を書いてくる 復習：間違っていた部分の復習	小林
6	研究論文を読む1(5)	結果 予習：辞書を引いて訳を書いてくる 復習：間違っていた部分の復習	小林
7	研究論文を読む1(6)	考察 予習：辞書を引いて訳を書いてくる 復習：間違っていた部分の復習	小林
8	研究論文を読む1(7)	結論 予習：辞書を引いて訳を書いてくる 復習：間違っていた部分の復習	小林
9	研究論文を読む2(1)	アブストラクト 予習：辞書を引いて訳を書いてくる 復習：間違っていた部分の復習	小林

10	研究論文を読む2(2)	研究の背景、目的 予習：辞書を引いて訳を書いてくる 復習：間違っていた部分の復習	小林
11	研究論文を読む2(3)	方法 予習：辞書を引いて訳を書いてくる 復習：間違っていた部分の復習	小林
12	研究論文を読む2(4)	結果 予習：辞書を引いて訳を書いてくる 復習：間違っていた部分の復習	小林
13	研究論文を読む2(5)	考察 予習：辞書を引いて訳を書いてくる 復習：間違っていた部分の復習	小林
14	研究論文を読む2(6)	結論 予習：辞書を引いて訳を書いてくる 復習：間違っていた部分の復習	小林
15	まとめ	まとめ 予習：これまでの訳を読んで意味が通るか確認する 復習：訳全体を見直す	小林

授業科目	看護実践と理論の統合	科目ナンバリング	N-37-10-B		
授業科目（英）	Integration with Nursing Practice and Theory				
教員名	担当教員全員（看護師実務経験者）（助産師実務経験者），看護学教育センター教員				
単位数	3.0	時間数	90	学年	3
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	（実習前） 各領域における既習の知識や技術を確認し、臨地の看護実践場面に応用できるように準備できる。 （実習後） 各自の実習経験の振り返り、再構成を行い、どのような現象を扱っていたのかを言語化し、自分が行った看護実践の意味を考え確認し、看護実践と理論（知識）を結び付けて理解することができる。				
行動目標	1．臨地実習前に、実習を具体的にイメージし、看護実践を効果的に進めることができるように既習の知識や技術を振り返り、実習の準備ができる。 2．各領域別実習実習後には、各実習で体験した看護実践と知識を統合させることができる。 3．臨床における倫理的課題を明確化し、その解決策を多職種で検討できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	演習態度・実技・ディスカッションへの参加状況より総合的に評価する。 実習前後とも、教員もディスカッションに参加し指導、修正を行う。 7領域における課題とまとめ（90%），多職種連携論—医療倫理の3学部合同ゼミ（10%）				
教科書	なし				
参考書等	各領域別実習要項				
事前準備 受講要件等	実習要項を熟読し、既習学習内容を確認するとともに領域別実習オリエンテーションで提示された課題を行っておくこと。基礎的な日常生活援助技術の復習を行っておくこと。				
オフィスアワー（曜日／時間）	当該日程の12:10～13:00				
SDGsとの関連					

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
	下記の欄に領域別に示す。	領域別看護学実習（急性期成人看護学、慢性期成人看護学、精神看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、在宅看護学）を効果的に行うために実習直前と直後に演習を実施する。 予習：看護実践を効果的に進められるように既習の知識・技術を演習を通して、準備を行う。 復習：経験した看護実践と知識を結び付けて、実際に応用できる知識となるようにまとめを行う。	-
	急性期成人看護学	＜実習前＞ 1）事前学習課題の確認 （1）実習要項に基づいて実習目標を確認する。 （2）ICU,手術室オリエンテーション （3）配属病棟に関連する疾患・看護援助についてグループワークで確認する。 ＜実習後＞ 1）グループワーク （1）各病棟の実習で学んだ内容について、グループごとにまとめる。 （2）グループ発表の準備をする。 2）発表会 グル—プ発表を行い、周手術期の対象の特徴と看護援助について学生間で学びを深める。	赤澤 寺口 勝山
	慢性期成人看護学	<実習前> 1）学習内容の達成状況の確認 （1）看護過程展開の学習 提示された事例に基づき、看護過程展開の学習を実施する。 （2）看護援助技術の確認 バイタルサインの測定、聴診（呼吸音、心音、腸蠕動音）、検査の	飛田 有田 野瀬

		援助（パルスオキシメーターなど）、療養生活上の指導（薬物、食事）体位変換などの項目について確認する。 2）慢性期成人看護学実習に臨む課題の明確化 　慢性期成人看護学実習の場で効果的に学習するため、自らの実習前の課題を明確にし、自己評価表の該当欄に記載する。 ＜実習後＞ 1）グループワーク 　実習での看護実践の体験を通じて、慢性期看護の特徴についてグループワークを行う（60～90分）。 2）報告会 　グループワーク終了後、各グループが学生と教員の前で発表し上記テーマに関してディスカッションを行う。 3）実習まとめ：文献やグループ討議を通じて、慢性期成人看護学実習の受け持ち患者への看護実践について、理解したことや学んだことをまとめる。	
	精神看護学	＜実習前＞ 1）事前学習課題の確認 （1）患者-看護師関係の諸段階について確認する。 （2）セルフケア理論を活用した看護過程の展開について確認する。 （3）精神科訪問看護について確認する。 （4）精神医療におけるリカバリーという言葉の意味について確認する。 （5）これまでの講義・演習で学習した精神疾患患者と精神障がい者への看護および症状別看護について整理する。 2）個人面接 　自らの実習目標を明確化する。 ＜実習後＞ 1）グループワーク 　2週間の実習のプロセスを振り返り、実習目的・目標の到達状況に関して、実習病棟のグループ単位で検討する。 2）個人面接 　実習目的・目標の到達状況を振り返り、実習前後の自己の変化に気づくとともに、精神看護学領域における自らの課題を明確化する。	山岡 新田 山内
	老年看護学	＜実習前＞ 1）事前学習課題の確認 2）実習施設別オリエンテーション 3）実習直前演習（車いす移乗、バイタルサイン測定等） ＜実習後＞ 1）グループワーク（90分） （1）実習で学んだ内容についてグループ内で、資料や参考文献をもとに意見交換する。 （2）グループ発表資料を作成する。 2）発表会（90分） 　グループ発表（20分）を行い、学生間で討議を行い理解を深める。 3）面談 実習目標と実習内容を振り返り、自己の実習到達状況と今後の課題を明確化する。	樋上 杣木 担当教員
	小児看護学	＜実習前＞ 1．事例に基づく技術演習 1）　事前学習課題の確認 　小児の成長発達、小児期特有の疾患・看護、その他必要な学習について事前課題を提出する。 2）　事例を用いた技術演習 方法 　（1）　事例の計画立案 　（2）　ロールプレイング 　（3）　評価 ＜実習後＞	竹村 鈴木 倉橋

		1．小児看護学実習の経験に基づくグループワーク 1） 目的 　各々が経験したことを共有し、自分が行った看護の意味を考え、知識と統合させる。 2） グループワークの進め方 　（1） 実習の中で学生が経験した事例を簡潔に紹介する。 　（2） 討論の視点に沿って話し合う。 　（3） 話し合った内容を記録し、発表を行う。 2．個別面接 　実習担当教員と、実習記録・自己評価表をもとに個人面接を 行い、実習目標の達成度を確認し、今後の課題を明確にする。 復習：実習記録にまとめを記述する。	
	母性看護学	<実習前> 実習で活用する看護技術を確認する。 １）準備（学内演習日までにしておくこと） （1）母性看護学の特性を踏まえた学習目標（各領域に共通する自己の到達課題ではなく、母性看護学領域の実習目標と母性看護学の意味を自分なりに解釈し、具体的な内容を自分の言葉で表現する。）を記載し提出する。 （2）チームメンバーのチェックを受け、技術チェックリストを提出する。 （3）アセスメントツール、妊産褥婦と新生児に必要な保健指導内容や看護技術についてまとめておく。 2）演習内容 （1）妊婦に関して、妊婦健診（レオポルド触診法、腹囲・子宮底測定、浮腫の観察）、CTG装着 （2）産婦・新生児に関して、産痛緩和ケア、分娩第4期の観察とケア、新生児バイタルサインの測定、全身の観察 （3）褥婦に関して子宮復古の観察、乳房の観察、授乳の観察とケア、抱っこ、哺乳瓶授乳、排気 （4）新生児に関して清拭、沐浴 ＜実習後＞ 1）個人でテーマレポートを提出し、発表する。 2）実習グループでディスカッションテーマを1つ決め、ディスカッションする。	近澤 間中 松枝 酒向
	在宅看護学	＜実習前＞ 1）事前学習課題に沿った知識の確認（確認テストの実施） 2）社会資源とサービスの理解 　紙上事例を読み解き、使用可能な制度やサービスについて整理する。 3）在宅基礎看護技術の演習 　訪問マナー 　バイタルサイン測定（寝たきりや関節拘縮が強度の療養者） 　胸部・腹部の聴診 　移乗（運動障害のある療養者） 　更衣（麻痺のある療養者） 予習：①ケアマネジメントの概念と過程、②介護保険制度と医療保険制度，及びサービス内容、③障害者総合支援法とサービス内容、④難病医療費助成制度、⑤訪問看護ステーションの法的枠組みと利用の流れ、⑥退院支援・退院調整の流れと看護職の役割、⑦在宅支援に関連する多職種の役割、⑧地域包括ケアシステムと地域包括支援センターの役割 ＜実習後＞ 1）実習内容の振り返りと学びの統合 　5人程度のグループで、テーマに沿って実習経験や学びについてディスカッションし、看護ケアの意味や看護の役割についてまとめ、発表と意見交換により学びを深める。 2）評価	大橋 真継 内田 原田 有吉

		個人面談を実施する。 自己評価表をもとに、実習目標の到達度と課題を明確にする。	

授業科目	看護研究法	科目ナンバリング	N-37-11-B		
授業科目（英）	Nursing Research Methods				
教員名	◎鈴木久美(看護師実務経験者），南口陽子（看護師実務経験者），土井智生(看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	3
開講期	2024年度 後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	看護における研究に取り組むために、必要な基本的知識について理解し、研究活動のための方法を身につけることができる。				
行動目標	1. 看護における研究の意義と役割について説明できる。 2. 研究過程について説明できる。 3. 文献検討の目的と方法について説明できる。 4. 文献のクリーティークの方法について説明できる。 5. 研究における倫理的配慮について説明できる。 6. 研究計画書作成の意義と方法について説明できる。 7. 研究結果のまとめ方と発表の仕方について説明できる。 8. 関心ある研究課題をあげ、課題に対する研究方法を検討できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	課題（30%）と試験（70%）で評価する。 フィードバックは、各授業での解説と課題返却により行う。				
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究　第2版，坂下玲子他，医学書院，2023				
参考書等	看護における研究　第2版，南裕子編他，日本看護協会出版会，2017				
事前準備 受講要件等	提示した予習課題をして参加すること。				
オフィスアワー （曜日／時間）	金曜日16:30～18:00				
SDGsとの関連	３，４				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	看護研究とは	看護研究とは、看護研究の意義と役割 予習：教科書の第1章（p.16～31）を熟読し、疑問点を明確にする。 復習：看護研究の意義と役割についてまとめる。	鈴木
2	研究過程の概観 研究デザイン	研究過程、リサーチクエスチョンとは、研究デザイン 予習：教科書の第2章（p.34～45）・第5章（p.110～149）を熟読し、疑問点を明確にする。 復習：研究デザインについてポイントをまとめる。	鈴木
3	研究倫理	研究倫理、研究における倫理的配慮 予習：教科書の第4章（p.86～108）を熟読し、疑問点を明確にする。 復習：研究の倫理的配慮についてまとめる。	鈴木
4	文献レビュー（検索含む）	情報と科学的根拠、文献レビューの目的、文献検索の方法 予習：教科書の第3章（p.48～68，p.74～81）を熟読し、疑問点を明確にする。 復習：関心あるテーマの文献検索を行う。	土井
5	文献レビュー	文献の入手と整理、文献の読み方、文献レビュー記述 予習：教科書の3章（p.68～73）を読む。関心のあるテーマの文献を検索し、1編持参する。 復習：文献レビューの方法についてまとめる。	土井
6	研究計画書の作成	研究計画書の意義、研究計画書の作成プロセス 予習：教科書の第8章（p.246～264）を熟読し、疑問点を明確にする。 復習：研究計画書の作成についてまとめる。	南口
7	研究計画書の作成，研究論文のまとめ方・発表の仕方	研究計画書の作成の実際（グループディスカッション） 研究成果のまとめ、研究発表の方法 予習：教科書の第9章（p.266～282）を熟読し、疑問点を明確にする。	南口

		復習：取り上げたリサーチクエスチョンの研究方法について検討する。	
8	まとめ	これまでの学びの振り返り 予習：1～７回の学習をまとめ、行動目標が達成できたかを確認する。	鈴木，南口 土井

授業科目	看護研究法	科目ナンバリング	N-37-07-B		
授業科目（英）	Nursing Research Methods				
教員名	◎鈴木久美(看護師実務経験者），南口陽子（看護師実務経験者），土井智生(看護師実務経験者）				
単位数	1.0	時間数	15	学年	4
開講期	2024年度 前期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	看護における研究に取り組むために、必要な基本的知識について理解し、研究活動のための方法を身につけることができる。				
行動目標	1. 看護における研究の意義と役割について説明できる。 2. 研究過程について説明できる。 3. 文献検討の目的と方法について説明できる。 4. 文献のクリーティークの方法について説明できる。 5. 研究における倫理的配慮について説明できる。 6. 研究計画書作成の意義と方法について説明できる。 7. 研究結果のまとめ方と発表の仕方について説明できる。 8. 関心ある研究課題をあげ、課題に対する研究方法を検討できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	課題（30%）と試験（70%）で評価する。 フィードバックは、各授業での解説と課題返却により行う。				
教科書	看護における研究、南裕子編集、日本看護協会出版会、2017.				
参考書等	なし				
事前準備 受講要件等	提示した予習課題をして参加すること。				
オフィスアワー（曜日／時間）	金曜日16:30～18:00				
SDGsとの関連	３，４				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
1	看護における研究とは	研究とは、看護における研究の意義と役割 予習：教科書の第1章（p.2～16）を熟読し、疑問点を明確にする。 復習：看護研究の意義と役割についてまとめる。	鈴木
2	研究過程の概観	研究過程、研究課題の焦点化、研究デザイン、研究方法 予習：教科書の第2章・第5章を熟読し、疑問点を明確にする。 復習：研究過程についてポイントをまとめる。	鈴木
3	研究倫理	研究倫理、研究における倫理的配慮 予習：教科書第1章（p.19～21）を熟読し、疑問点を明確にする。 復習：研究の倫理的配慮についてまとめる。	鈴木
4	文献検討（検索）	文献検討の目的、文献の読み方 予習：教科書の第3章を熟読し、疑問点を明確にする。 復習：関心あるテーマの文献検索を行う。	土井
5	文献検討（検索）	文献整理の方法、文献検討の構成と記述 予習：関心のあるテーマについての文献を検索し、1編持参する。 復習：文献検討の方法についてまとめる。	土井
6	研究計画書	※オンデマンド形式で実施 研究計画書の意義、研究計画書の作成プロセス 予習：教科書の第6章を熟読し、疑問点を明確にする。 復習：研究計画書の作成についてまとめる。	鈴木，南口
7	研究計画書の作成，研究論文のまとめ方・発表の仕方	研究計画書の作成の実際 研究結果の表現技法、論文としての構成、発表形式 予習：教科書の第9章を熟読し、疑問点を明確にする。 復習：あげた研究課題の研究方法について検討する。	南口
8	まとめ	これまでの学びの振り返り 予習：1～７回の学習をまとめ、行動目標が達成できたかを確認する。	鈴木，南口，土井

授業科目	卒業演習	科目ナンバリング	N-37-09-A		
授業科目（英）	Practice of Nursing Research & Evaluation of Competence for Nursing				
教員名	看護学部教員全員				
単位数	3.0	時間数	90	学年	4
開講期	2024年度 前期～後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	演習		
一般目標	卒業論文の作成を通して、研究の意義を理解し、研究活動に必要な基礎的能力を養うことができる。				
行動目標	1．看護研究に必要な文献を整理し、批判的に読み、適切に活用することができる。 2．関心ある研究課題を見つけて研究に取り組み、テーマを設定できる。 3．研究テーマや研究目的に適した研究計画を立案することができる。 4．研究過程を通して、論理的思考力、創造力、論文構成能力、研究における倫理的配慮を身につけることができる。 5．研究活動の成果をまとめ、適切に表現することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、創造力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	演習内容 、発表 、出席・態度・姿勢を総合的に評価する。 定期的に教員と面談を行い、研究テーマの設定や研究の全プロセスにおいて指導を受ける。				
教科書	「看護研究法」で用いた教科書及び卒業演習要項				
参考書等	なし				
事前準備 受講要件等	「看護研究法」の授業での研究プロセスを整理し、自分の問題意識と研究法を確認しておく。				
オフィスアワー （曜日／時間）	卒業演習を行う分野により異なるので、担当教員に確認する。				
SDGsとの関連	4				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
	卒業研究の実施領域のテーマについて	３年次後期にオリエンテーションを受ける。	全教員
	分野の決定	3年次後期に分野を決定後、担当分野の教員からオリエンテーションを受ける。	全教員
	研究の実施	１）研究計画を立案する。 ２）研究過程に沿って展開する。 ３）人を対象とする研究に取り組む場合には、倫理的配慮を行う。 必要時、研究の説明書、研究の同意書等を作成する。 倫理的配慮に関しては「看護研究法」の授業内容を見直す。 予習：卒業研究テーマの文献検討を行う。研究プロセスに沿って、必要な学習内容を見直す。 復習：研究プロセスに従い、これまでの内容をまとめる。	全教員
	卒業論文および要旨作成	卒業論文は要項を確認し、書式に従い作成する。	全教員
	卒業演習報告会	卒業研究の報告会は、配属の分野で開催する。自己の研究を報告するとともに、他の学生の報告を聞き、質疑応答を行う。報告会は公開とし、日時場所を掲示するので、他分野の報告会にも参加し学びを深める。	全教員

授業科目	統合看護学実習	科目ナンバリング	N-37-10-A		
授業科目（英）	Integrative Nursing Practicum				
教員名	看護学教員全員（看護師実務経験者）（保健師実務経験者）（助産師実務経験者）				
単位数	2.0	時間数	90	学年	4
開講期	2024年度 前期～後期	開講曜日	（時間割どおり）		
科目区分	必修	授業形態	実習		
一般目標	これまでの既習の知識・技術・態度を統合し、地域社会で生活する人々を全体論的に捉え、看護実践を行うことができる。看護実践場面における現象を倫理的視点から考察し、保健・医療・福祉その他の関連職種とのチームアプローチや多職種連携などを通した、良質で総合的な看護実践を展開する。さらに、看護の改善を目指し、個人・組織の視点からマネジメントの実践的展開について理解することができる。				
行動目標	1．対象（個人・家族・集団・地域）がもつ健康問題を査定できる。 2．自己の知識・技術を統合し、多職種と連携・協働しながら主体的に看護を展開できる。 3．組織マネジメントの視点をもち、よりよい看護のあり方や専門性について考察できる。 ＊具体的には、各分野の実習要項を確認すること。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、課題探究力、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	看護実践の内容、実習態度、実習レポートなどにより総合的に評価する。具体的な評価視点および配分については、各分野の実習要項を確認すること。実習終了後に個人面談を実施する。 各領域の実習は90%、多職連携論ー医療安全の3学部合同ゼミは5%の割合で総合的に評価する。				
教科書	統合看護学実習要項				
参考書等	必要に応じて、提示する。				
事前準備 受講要件等	実習開始までに各領域の担当教員から指示された事項について学習しておくこと。				
オフィスアワー（曜日／時間）	随時。事前に、各領域の担当教員にアポイントをとる。				
SDGsとの関連	３，４				

回数 講義日	学習課題	内容並びに方法/予習・復習の課題（予習復習時間　講義各90分、演習各45分目安）	担当教員
	既習した看護の知識と技術を応用し総合的かつ専門的な看護を展開する。	・学生が自己の学習課題から分野を選択する。 ・各分野の実習要項にもとづき実施する。 ・実習期間は2週間連続とは限らない。各分野の実習の特質に合わせて、長期の継続的関わりを行うこともある。 ・実習場所および指導体制は、大阪医科薬科大学病院をはじめ各分野の実習施設、介護老人保健施設、地域在宅支援センター、訪問看護ステーション、助産所、障がい児関連施設、子どもキャンプ、地域包括支援センター等で指導者と担当教員が協力して行う。 〈予習〉 実習が始まるまでに各分野の担当教員から指示された事項について学習し実習に備える。 〈復習〉 実習終了後、各分野の担当教員から指示された事項について整理しまとめる。	看護学教員全員
	多職種連携論－医療安全3学部合同ゼミ	１．目的 　全人的・包括的医療を提供するために、医療安全や倫理的判断等に関して討議し、各専門職の協働のあり方について考えを深める。 ２．目標 １）協働する各々の専門職としての役割と責任に関して理解を深める。 ２）事例を通して、医療安全や医療倫理に関する判断についての専門職として考え方を明確にする。 ３）事例に応じて、他の専門職者の役割を考える。 ４）医療チームとしてのそれぞれの立場を尊重できる。 ５）チームメンバーの様々な考えや意見を共有し、調整できる。	医薬看の教育センター教員

		６）患者・家族によりよい医療を提供するために、チームの方針を提案できる。 ３．対象学年 　医学部5年生、看護学部4年生、薬学部5・6年生 ４．実施日 　2024年7月1日（月）9:00 ～ 16:50 ＊詳細は別途資料を配付する。	

看護学部 2024年度開講科目一覧（実務経験のある教員による授業）

区分	科目名	実務経験のある教員による授業	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
基礎科目	アカデミックスキル		1			
	情報リテラシー・データサイエンス	○	1			
	キャリアマネジメント	○	1			
	心理学		1			
	人間関係論	○	1			
	倫理学		1			
	統計学	○	2			
	生物学		1			
	化学		1			
	物理学		1			
	データ処理演習			1		
	体育Ⅰ		1			
	体育Ⅱ		1			
	医工薬連環科学遠隔講座		2	2	2	
	大阪を学ぶ		1			
	くらしと文学		2			
	くらしと社会		2			
	くらしと経済		2			
	日本国憲法と法律		2			
	教育学		2			
	哲学		1			
	くらしと安全・危機管理		2			
	異文化論		1			
	英語Ⅰ（英語を聞く）		1			
	英語Ⅱ（英語で話す）		1			
	英語Ⅲ（英語で読む・書く）			1		
	英語Ⅳ（英語を豊かに）			1		
	医療英語				1	
	インタラクティブ・イングリッシュⅠ		1	1	1	1
	インタラクティブ・イングリッシュⅡ		1	1	1	1
専門基礎科目	からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		2			
	からだの仕組みと働きⅡ（発展）	○	2			
	感染と免疫		1			
	からだと栄養		2			
	こころの仕組みと働き		1			
	健康科学論	○	1			
	病気の成り立ち	○	2			
	からだとくすりの働き			2		
	病気の診断・治療Ⅰ	○		2		
	病気の診断・治療Ⅱ	○		2		
	リプロダクションと看護	○		1		
	セクシュアリティーと看護	○		1		
	リハビリテーション医学	○			1	
	医学概論	○	1			
	多職種連携論1－医療人マインド	○	1			
	多職種連携論2－医療と専門職	○		1		
	保健医療福祉概論	○	2			
	公衆衛生学	○	2			
	疫学	○		1		
	ヘルスプロモーション論	○			1	
	リスクマネジメント	○			1	
専門科目	看護学概論	○	2			
	日常生活援助技術	○	3			
	基礎看護学実習Ⅰ	○	1			
	フィジカルアセスメント	○		1		
	看護展開論	○		1		
	治療過程に伴う援助技術	○		2		
	基礎看護学実習Ⅱ	○		2		
	看護管理	○				1
	看護教育	○				1
	成人看護学概論	○	2			
	急性期成人看護学援助論	○		1		
	急性期成人看護学援助方法	○			1	
	急性期成人看護学実習	○			3	
	慢性期成人看護学援助論	○		1		
	慢性期成人看護学援助方法	○		1		
	慢性期成人看護学実習	○			3	
	精神看護学概論	○		2		
	精神看護学援助論	○		1		
	精神看護学援助方法	○			1	
	精神看護学実習	○			2	
	老年看護学概論	○		2		
	老年看護学援助論	○		1		
	老年看護学援助方法	○			1	
	老年看護学実習Ⅰ	○				
	老年看護学実習	○			3	
	母性看護学概論	○	2			
	母性看護学援助論	○		1		
	母性看護学援助方法	○			1	
	母性看護学実習	○			2	
	小児看護学概論	○		2		
	小児看護学援助論	○		1		
	小児看護学援助方法	○			1	
	小児看護学実習	○			2	
	地域・在宅看護論	○	1			
	地域・在宅ケア実習	○	1			
	在宅看護学概論	○		2		
	在宅看護学援助論	○		1		
	在宅看護学援助方法	○			1	
	在宅看護学実習	○			2	
	公衆衛生看護学概論	○		2		
	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	○		1		
	看護と生体診断法	○				1
	医療カウンセリング	○				1
	看護実践発展総合演習	○				1
	看護実践発展実習	○				2
	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	○		1		
	公衆衛生看護学活動方法	○			1	
	公衆衛生看護学管理論	○			2	
	公衆衛生看護学演習	○				1
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	○				1
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	○				4
	助産学概論	○		2		
	助産診断・技術学Ⅰ	○			1	
	助産診断・技術学Ⅱ	○				3
	助産管理	○				1
	助産学実習	○				8
	がん看護学総論	○		1		
	家族看護学	○			1	
	災害看護論	○			1	
	遺伝とカウンセリング	○				1
	多職種連携論3－医療倫理	○			1	
	異文化看護入門	○			1	
	国際交流演習	○	2	2	2	
	原著講読					1
	看護実践と理論の統合	○			3	
	看護研究法	○			1	
	看護研究法	○				1
	卒業演習	○				3
	統合看護学実習	○				2
合計単位数			65	48	45	35

実務経験のある教員による授業科目の単位数		30	39	40	32

※実務経験のある教員による授業科目の単位数＝看護学部の専門科目は専門基礎科目・専門科目とする

看護学部 2024年度開講科目 一覧（SDGsとの関連）

区分	科目名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
基礎科目	アカデミックスキル				●													
	情報リテラシー・データサイエンス			●														
	キャリアマネジメント			●	●	●			●				●					
	心理学			●													●	
	人間関係論			●													●	
	倫理学			●		●					●						●	
	統計学																	
	生物学			●											●	●		
	化学			●			●							●				
	物理学							●						●				
	データ処理演習																	
	体育Ⅰ			●	●	●					●							
	体育Ⅱ			●	●	●					●							
	医工薬連環科学遠隔講座			●	●				●	●		●	●					
	大阪を学ぶ																	
	くらしと文学				●	●						●					●	
	くらしと社会	●			●	●			●		●					●		
	くらしと経済	●		●							●							
	日本国憲法と法律				●	●					●						●	
	教育学	●			●	●					●	●					●	
	哲学			●														
	くらしと安全・危機管理																	
	異文化論			●							●							●
	英語Ⅰ（英語を聞く）			●	●	●												
	英語Ⅱ（英語で話す）			●	●	●												
	英語Ⅲ（英語で読む・書く）																	●
	英語Ⅳ（英語を豊かに）																	●
	医療英語			●	●	●												
	インタラクティブ・イングリッシュⅠ			●	●						●							
	インタラクティブ・イングリッシュⅡ			●	●						●							
専門基礎科目	からだの仕組みと働きⅠ（基礎）				●													
	からだの仕組みと働きⅡ（発展）			●														
	感染と免疫			●	●													
	からだと栄養			●														
	こころの仕組みと働き			●														
	健康科学論			●														
	病気の成り立ち			●														
	からだとくすりの働き				●													
	病気の診断・治療Ⅰ			●														
	病気の診断・治療Ⅱ			●														
	リプロダクションと看護			●														
	セクシュアリティーと看護			●														
	リハビリテーション医学			●														
	医学概論			●						●	●							
	多職種連携論1－医療人マインド				●													
	多職種連携論2－医療と専門職			●														
	保健医療福祉概論																	
	公衆衛生学			●			●		●	●		●		●				
	疫学																	
	ヘルスプロモーション論			●	●						●							
	リスクマネジメント			●														
専門科目	看護学概論			●														
	日常生活援助技術			●														
	基礎看護学実習Ⅰ			●														
	フィジカルアセスメント			●														
	看護展開論			●														
	治療過程に伴う援助技術			●														
	基礎看護学実習Ⅱ			●														
	看護管理				●	●			●									
	看護教育			●	●													
	成人看護学概論			●	●													
	急性期成人看護学援助論			●	●													
	急性期成人看護学援助方法			●	●													
	急性期成人看護学実習			●														●
	慢性期成人看護学援助論			●	●	●												
	慢性期成人看護学援助方法			●	●	●												
	慢性期成人看護学実習			●	●	●												
	精神看護学概論			●							●						●	
	精神看護学援助論			●		●											●	
	精神看護学援助方法			●													●	
	精神看護学実習			●					●								●	
	老年看護学概論			●							●	●						
	老年看護学援助論			●							●	●						
	老年看護学援助方法			●							●	●					●	
	老年看護学実習Ⅰ			●							●	●						
	老年看護学実習			●							●	●						
	母性看護学概論			●														
	母性看護学援助論			●														
	母性看護学援助方法			●														
	母性看護学実習			●														
	小児看護学概論			●														
	小児看護学援助論			●														
	小児看護学援助方法			●														
	小児看護学実習			●														
	地域・在宅看護論			●		●					●	●					●	●
	地域・在宅ケア実習	●		●	●	●			●		●	●	●				●	●
	在宅看護学概論			●							●	●					●	
	在宅看護学援助論			●							●						●	
	在宅看護学援助方法			●							●	●					●	
	在宅看護学実習			●	●	●					●	●	●				●	
	公衆衛生看護学概論			●	●						●							
	公衆衛生看護学活動論Ⅰ			●	●						●							
	看護と生体診断法			●	●													
	医療カウンセリング	●		●							●	●					●	●
	看護実践発展総合演習			●														
	看護実践発展実習			●														
	公衆衛生看護学活動論Ⅱ			●	●						●							
	公衆衛生看護学活動方法			●	●						●							
	公衆衛生看護学管理論			●	●						●							
	公衆衛生看護学演習			●	●						●							
	公衆衛生看護学実習Ⅰ			●	●						●							
	公衆衛生看護学実習Ⅱ			●	●						●							
	助産学概論			●														
	助産診断・技術学Ⅰ			●														
	助産診断・技術学Ⅱ			●														
	助産管理			●														
	助産学実習			●														
	がん看護学総論			●	●													
	家族看護学			●														
	災害看護論			●	●							●						●
	遺伝とカウンセリング			●	●													
	多職種連携論3－医療倫理			●														
	異文化看護入門			●		●					●							
	国際交流演習			●							●						●	●
	原著講読			●														
	看護実践と理論の統合																	
	看護研究法			●	●													
	看護研究法			●	●													
	卒業演習				●													
	統合看護学実習			●	●													

学校法人大阪医科薬科大学×SDGs

2015 年 9 月、国連本部で「持続可能な開発サミット」が開かれ、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（行動計画）」が採択されました。具体的には、「持続可能な開発（発展）目標（SDGs＝Sustainable Development Goals）」として 17 の目標、169 のターゲットが設定され、日本を含むすべての国々は 2030 年までにこれらの目標を達成するものとされています。本法人もこのアジェンダに共感することから、SDGs の考え方を取り入れた社会貢献活動を推進していきます。（学校法人大阪医科薬科大学　SDGs 特設サイトの「行動指針」より）

シラバスに各授業科目で関係する SDGs17 の目標を記載しました。

皆さんの学修成果が SDGs 達成にどのように寄与するか、理解を深める一助になれば幸いです。